新富町文化財調査報告書　第18集

県営農村基盤総合整備パイロット事業（尾鈴Ⅱ期地区
北原牧・溜水工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

北原牧地区遺跡

UE ZONO

上薗遺跡Ｆ地区

溜水地区遺跡

TAMARI MIZU

溜水第２遺跡

1995.3

宮崎県新富町教育委員会

序

新富町教育委員会は、宮崎県の委託を受けて、県営農村基盤総合パイロット事業地内に所在する遺跡の発掘調査を昭和62～平成元年度に北原牧地区を平成３年度には溜水工区について実施しました。本報告書はその一部を刊行するものです。

北原牧地区遺跡の調査では、古墳時代後期を中心とした大集落である上薗遺跡をはじめ、県指定史跡の「富田村古墳」の内、字北原牧に所在する円墳の周囲から群を構成する滅失古墳（円形・方形の周堀）１５基が確認された北原牧遺跡、蔵園遺跡や縄文時代早期の集石遺構を中心とした東牧遺跡等数々のを遺構・遺物が検出され、調査の終了後、その出土遺物・遺構の整理を進めてきました。整理の都合上、今回は上薗遺跡の一部であるＦ地区の調査報告に止まりますが次年度以降も「上薗遺跡」の報告を進める予定です。また、溜水地区遺跡の調査は、本町でも初めての旧石器時代の調査となりました。

今回の成果は日向では類例の少ない古墳時代の大集落の在り方にひとつの方向を呈示するものでした。願わくは、この成果が学校教育及び生涯教育の場で幅広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査に際しましては、宮崎県一ツ瀬土地改良事務所および一ッ瀬川土地改良区、地元各地区土地改良組合、また、関係地権者を初めとする地元町民の皆様の御理解とご協力を頂きました。あわせて公務多忙のなか本報告を執筆頂きました宮崎県教育庁文化課の谷口 武範・吉本 正典の両氏にここに心から御礼申しあげます。

平成７年３月

新富町教育委員会
教育長　清　郁雄

例　言

1. 本書は、北原牧地区のほかの県営農村基盤総合パイロット事業に伴い、事業地内に所在する遺跡の発掘調査を昭和62～平成元年度に北原牧地区、平成３年度には溜水工区について実施した北原牧地区の上薗遺跡Ｆ地区及び溜水地区の溜水遺跡の調査報告書である。

2. 調査組織は次のとおりである。

（調　査：昭和６２年度）

新富町教育委員会

教育長		小田　幸一	
社会教育課	課長	比江島武志	
〃	課長補佐	井下　吉盛	
〃	主査	松原富美彦	（事務担当）
〃	主事	有田　辰美	（調査担当）
県文化課	主任主事	長津　宗重	〃派遣
	主事	谷口　武範	〃
	主事	吉本　正典	（平成3年調査員派遣）

調査指導・協力

宮崎県教育庁文化課

（報告書作成：平成６年度）

教育長		清　郁雄	
社会教育課	課長	水間　亮	
〃	課長補佐	斉藤　久明	
〃	係長	〃	
〃	主査	有田　辰美	（事務担当）

（執筆）

宮崎県教育庁文化課 埋蔵文化財第１係	主査	谷口　武範
宮崎県教育庁文化課 埋蔵文化財第２係	主任主事	吉本　正典

3. 本書の執筆・編集は第１・２章を有田が行い、第３章上薗遺跡Ｆ地区は県文化課主査谷口武範氏に、第４章溜水第２遺跡は同主任主事吉本正典氏にお願いした。

本 文 目 次

第１章　新富町の位置と地勢 …… 1

第２章　北原牧地区遺跡について …… 1
　第１節　上薗遺跡の整理について …… 1
　第２節　上薗遺跡発掘調査概要 …… 4

第３章　上薗遺跡Ｆ地区 …… 6
　第１節　遺跡の環境 …… 6
　第２節　検出された遺構・遺物 …… 6
　　1.　遺構・遺物の概要 …… 6
　　2.　住 居 址 …… 6
　　1.2号住居 …… 9　　4.5号住居 …… 17
　　6.23.9.10号住居 …… 31　　11号住居 …… 38
　　12.13.14号住居 …… 49　　15.16号住居 …… 53
　　18号住居 …… 58　　19.20.21号住居 …… 67
　　3.　土　坑 …… 67
　　4.　溝状遺構 …… 67
　　11.12.13.14号溝状遺構 …… 71　　15.16.18.19号溝状遺構 …… 72
　　21.22.23.24.25号溝状遺構 …… 75　　26.27号溝状遺構 …… 86
　　5.　掘立柱建物跡 …… 86
　　１～３号掘立柱建物跡 …… 86　　４～７号掘立柱建物跡 …… 87
　　9.10号掘立柱建物跡 …… 88
　第３節　ま と め …… 92

第４章　溜水第２遺跡 …… 132
　第１節　発掘調査の概要 …… 132
　　1.　調査に至る経緯 …… 132
　　2.　立地と環境 …… 132
　　3.　調査の概要 …… 136
　第２節　遺構と遺物 …… 138
　　1.　旧石器時代の遺構 …… 138
　　2.　旧石器時代の遺物 …… 139
　第３節　ま と め …… 142

挿　図　目　次

第１図　新富町位置図 …… 2
第２図　上薗遺跡周辺遺跡分布図 …… 3
第３図　上薗遺跡調査区 …… 5
第４図　Ｆ地区遺構分布図 …… 7 ～ 8
第５図　１・22号住居址出土遺構実測図 …… 11
第６図　１号住居址出土遺物実測図(1) …… 12
第７図　１号住居址出土遺物実測図(2) …… 13
第８図　１号住居址出土遺物実測図(3) …… 14
第９図　２・23号住居址遺構実測図 …… 15
第10図　４・６号住居址遺構実測図 …… 16
第11図　５号住居址出土遺構実測図 …… 18
第12図　４・５・６号住居址遺物出土状況図 …… 19～20
第13図　４・５号住居址出土遺物実測図 …… 21
第14図　５号住居址出土遺物実測図(2) …… 22
第15図　５号住居址出土遺物実測図(3) …… 23
第16図　５号住居址出土遺物実測図(4) …… 24
第17図　５号住居址出土遺物実測図(5) …… 25
第18図　５号住居址出土遺物実測図(6) …… 26
第19図　５号住居址出土遺物実測図(7) …… 27
第20図　５号住居址出土遺物実測図(8) …… 28
第21図　５号住居址出土遺物実測図(9) …… 29
第22図　５号住居址出土遺物実測図(10) …… 30
第23図　６・９号住居址出土遺物実測図(1) …… 32
第24図　９・21号住居址遺構実測図 …… 33
第25図　９号住居址出土遺物実測図(2) …… 34
第26図　９号住居址出土遺物実測図(3) …… 35
第27図　10号住居址・土坑出土遺構実測図 …… 36
第28図　10号住居址遺物出土状況図 …… 37
第29図　10号住居址出土遺物実測図(1) …… 39
第30図　10号住居址出土遺物実測図(2) …… 40
第31図　10号住居址出土遺物実測図(3) …… 41
第32図　10号住居址出土遺物実測図(4) …… 42
第33図　10号住居址出土遺物実測図(5) …… 43
第34図　10号住居址出土遺物実測図(6) …… 44
第35図　10・11号住居址出土遺物実測図 …… 45

第36図　11号住居址遺構実測図 ……46
第37図　12・13号住居址遺構実測図 ……47～48
第38図　12号住居址出土遺物実測図 ……50
第39図　12・13号住居址出土遺物実測図 ……51
第40図　13・14号住居址出土遺物実測図 ……52
第41図　14･15号住居址出土遺構実測図 ……54
第42図　14･15号住居址出土遺物実測図 ……55
第43図　15・17号住居址出土遺物実測図 ……56
第44図　17･20号住居址遺構実測図 ……57
第45図　18号住居址遺構実測図 ……59
第46図　17号住居址出土遺物実測図(1) ……60
第47図　17号住居址出土遺物実測図(2) ……61
第48図　17号住居址出土遺物実測図(3) ……62
第49図　18号住居址出土遺物実測図(1) ……63
第50図　18号住居址出土遺物実測図(2) ……64
第51図　18号住居址出土遺物実測図(3) ……65
第52図　18･19号住居址遺物実測図 ……66
第53図　19号住居址遺構実測図 ……68
第54図　19号住居址出土遺物実測図 ……69
第55図　土坑・溝状遺構出土遺物実測図 ……70
第56図　溝状遺構(SE11～15･18･19･25)実測図 ……73～74
第57図　溝状遺構土層断面図(1) ……76
第58図　溝状遺構土層断面図(2) ……77
第59図　溝状遺構出土遺物実測図(1) ……78
第60図　溝状遺構出土遺物実測図(2) ……79
第61図　溝状遺構出土遺物実測図(3) ……80
第62図　溝状遺構出土遺物実測図(4) ……81
第63図　掘立柱建物・住居址・溝状遺構出土遺物実測図 ……82
第64図　F地区出土石製品実測図(1) ……83
第65図　F地区出土石製品実測図(2) ……84
第66図　F地区出土鉄製品実測図 ……85
第67図　掘立柱建物遺構実測図1(S=1／100) ……89
第68図　掘立柱建物遺構実測図2(S=1／100) ……90
第69図　掘立柱建物遺構実測図3(S=1／100) ……91

表　目　次

第１表　上薗遺跡Ｆ地区住居址一覧表 ……10
第２表　上薗遺跡Ｆ地区出土土器編年表 ……95～96
第３～32表　上薗遺跡Ｆ地区出土土器観察表 ……100～130
第33表　上薗遺跡Ｆ地区出土石器観察表 ……131

第１章　　新富町の位置と地勢

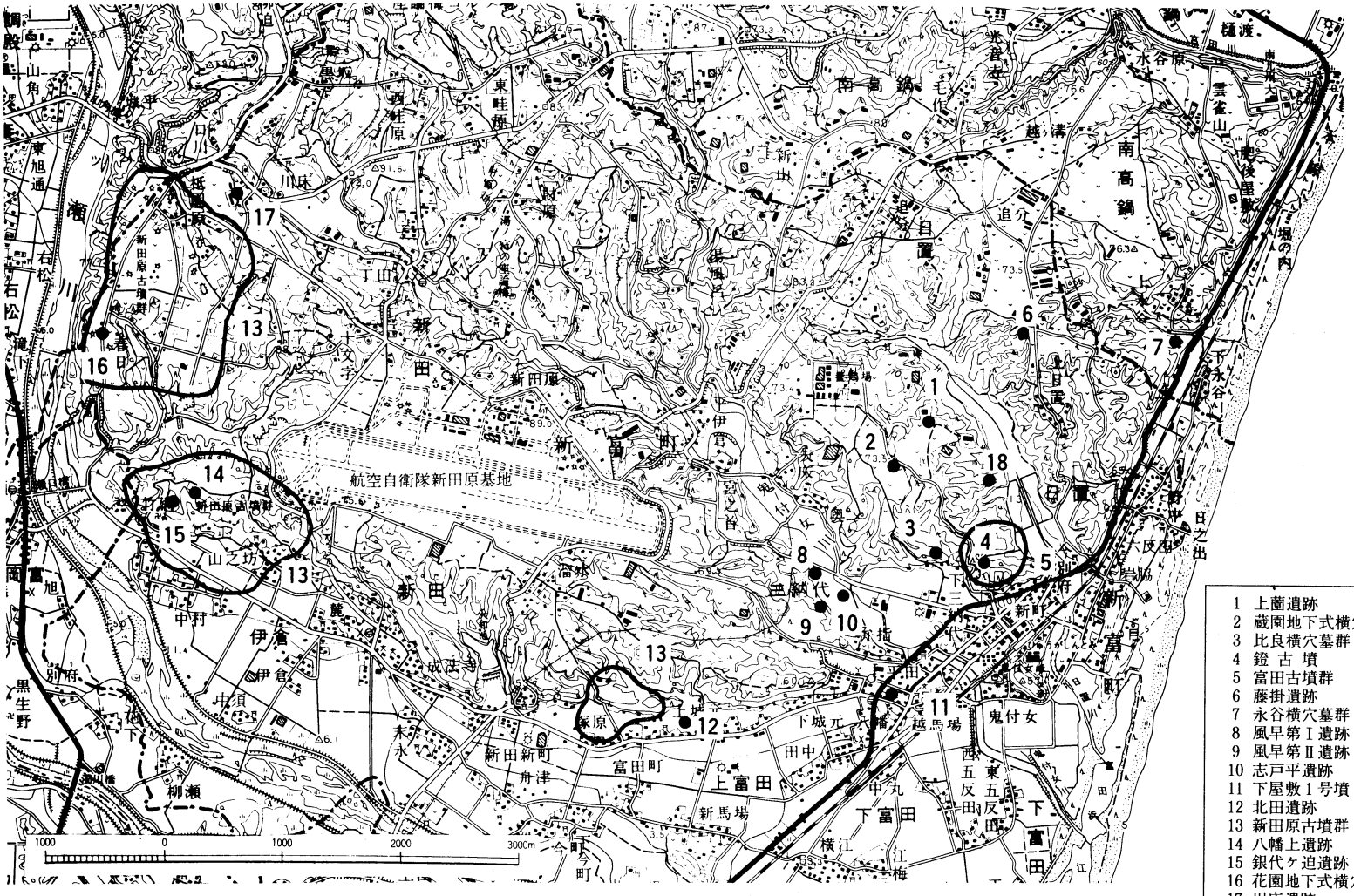
新富(しんとみ)町は、宮崎県の中央部宮崎平野の北側一角を占める児湯郡に属し、西に西都市、北に高鍋町、南に一ッ瀬川を界し、宮崎郡佐土原町に接し、東側を日向灘に臨む。県都宮崎市より主要交通動脈となっている国道10号線・地方幹線鉄道ＪＲ日豊本線を北に約20ｍと比較的交通の便に恵まれ、気候は、温暖である。町域は一ッ瀬川左岸の主に水田やハウス園芸に利用される沖積平野と畑作に利用される洪積台地に占められる。この洪積台地は広く宮崎平野に広がる平坦地の顕著な段丘地形となっており、地形区分でいう茶臼原面（海抜約120ｍ）、三財原面（海抜約90ｍ）、新田原面（海抜約70ｍ）の三つに分けられている。この町域のほとんどを占める洪積台地を大きく東西に開析して、鬼付女(きづくめ)川がほぼ東流している。この鬼付女谷の洪積台地裾部と一ッ瀬川左岸の新田原台地の裾部には数段の河岸段丘が発達し、河川との間には自然堤防が発達し旧河道と考えられる低地など沖積平野が広がっている。また、鬼付女谷の出口を含む日向灘に臨む東部海岸平野には、宮崎平野と同様、数列の砂丘が発達している。近年、これらの沖積地においては、下田島面等さらに細分化されつつあり、今回報告の両遺跡に関係する鬼付女谷の堆積層にアカホヤ層起源の厚い水性シラスも確認されている。

＊長岡　信治ほか「第４紀研究」第30巻第２号『宮崎平野の完新世地形発達史』1991

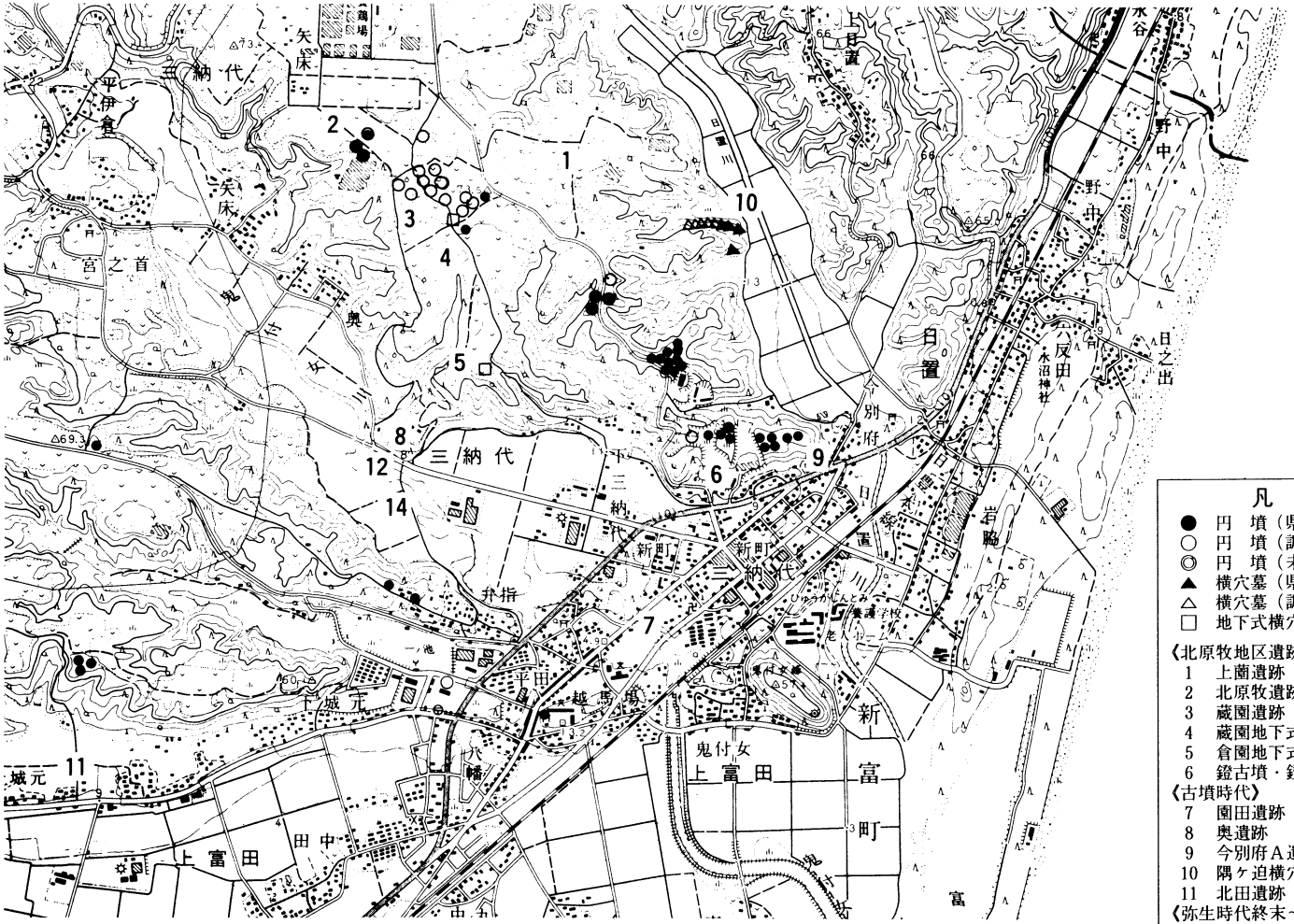
第２章　北原牧地区遺跡

第１節　上薗遺跡の整理について

昭和６１年度から実施した北原牧地区遺跡の調査は、平成元年３月をもって現地調査を終了した。しかし出土した遺構数、遺物数はこれまで県内で調査された遺跡に比し、膨大な量であったため、また、次年度以降もほ場整備事業関連の埋蔵文化財発掘調査が連続して続き、あわせてその他の発掘調査との関係もあり、遺物の整理は平成元年度から着手して継続しながら進めてきた。平成３年度には、北原牧地区遺跡群のうち、北原牧遺跡及び蔵園遺跡の滅失古墳群を中心に整理し報告することとなり、また平成６年から平成８年にかけて３ヶ年計画をもって上薗遺跡を整理し、報告することとなった。まず初年度は上薗遺跡のうち、Ｆ地区を中心に報告書作成の運びとなった。


1 上薗遺跡
2 蔵園地下式横穴墓群
3 比良横穴墓群
4 鐙古墳
5 富田古墳群
6 藤掛遺跡
7 永谷横穴墓群
8 風早第Ⅰ遺跡
9 風早第Ⅱ遺跡
10 志戸平遺跡
11 下屋敷1号墳
12 北田遺跡
13 新田原古墳群
14 八幡上遺跡
15 銀代ヶ迫遺跡
16 花園地下式横穴墓群
17 川床遺跡
18 隅ヶ迫横穴墓群
航空自衛隊新田原基地
新田原古墳群
1000 0 1000 2000 3000m

第1図　新富町位置図



凡　例

- ● 円　墳（県指定富田村古墳）
- ○ 円　墳（調査・滅失）
- ◎ 円　墳（未指定・現存）
- ▲ 横穴墓（県指定富田村古墳）
- △ 横穴墓（調査・滅失）
- □ 地下式横穴墓（調査・滅失）

《北原牧地区遺跡群：古墳時代》

1 上薗遺跡
2 北原牧遺跡
3 蔵園遺跡
4 蔵園地下式１号
5 倉園地下式１号
6 鐙古墳・鐙遺跡

《古墳時代》

7 園田遺跡
8 奥遺跡
9 今別府Ａ遺跡
10 隅ヶ迫横穴墓群
11 北田遺跡

《弥生時代終末～古墳初頭》

12 奥崎遺跡
13 風早遺跡
14 志戸平遺跡

第２図　上薗遺跡周辺遺跡分布図

第２節　上薗遺跡調査概要

＜調査に至る経緯＞

昭和61年度、新富町内大字日置・三納代にまたがる通称北原牧地区約80haにおいて宮崎県一ッ瀬土地改良事務所が事業主体となってほ場整備事業の計画がなされた。同事務所から計画地内の埋蔵文化財について県教育庁文化課に照会があり、文化課および新富町教育委員会では、事業予定地内に所在する遺跡については昭和56年度、新富町教育委員会発行の『新富町遺跡詳細分布調査報告書』に集約されていた遺跡を中心について分布調査を実施し遺跡の規模等の把握に努めた。計画地内には、上薗遺跡・古薗遺跡・木戸遺跡・西牧遺跡等があり、また県指定史跡富田村古墳（富田古墳群）の一部、二基が残されていた。特にこの富田古墳群については、過去、100を越す古墳の存在が伝えられており相当数の削平された古墳の存在が予想されていた。

字上薗・古薗においては、前年の昭和61年度試掘を兼ねて発掘調査を実施したＡ・Ｂ・Ｃ地区に古墳時代の集落遺跡が確認されており、あわせて行なった分布調査による遺物（土器）の散布からさらに大幅な遺跡の拡がりが予想されていた。

これを受けて県教育庁文化課、県一ッ瀬土地改良事務所、一ッ瀬土地改良区、新富町教育委員会、町耕地課と事業予定地内に所在する埋蔵文化財について協議した結果、現地調査は７月後半から実施した。

その他の調査は、計画実施段階で表土の削平・移動が比較的浅く、少ないことから埋蔵遺構に影響を与えないことも考えられ、排水溝の掘削・表土剥ぎの工事を中心に立ち会い、一部面的に表土を剥いで確認することとなった。

調査については新富町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会文化課から長津・谷口の両氏の派遣を頂き、町教委の有田の３名の調査員で工事と同時進行する形で調査を進めることとなった。

＜立地と環境＞

この上薗遺跡の所在する三納代谷周辺は、新富町の地形において優勢な洪積台地を西から東に大きく開析して流れる鬼付女川の流れも比較的緩やかな下流域に属し、台地の裾部には、河岸段丘や小さいながらも扇状地形が発達している。また、鬼付女川の流路は、東側下流域を砂丘列により流れを止められ、新田原台地より派生した丘陵列と鬼付女峰（標高約50ｍ）の間に流路をもとめている。この為か昭和58年９月には、豪雨のため町の中心街を形成する平田地区に大水害をもたらしている。

周辺の遺跡としては、上薗遺跡（古墳時代後期主体の住居跡約280軒が確認された）の主要部分や15基の古墳の周溝が確認された蔵薗古墳群（県指定富田村古墳の一角を形成する）や地下式横穴墓１基と弥生時代終末期に土壙墓７基、縄文時代後期の住居跡１軒が確認された倉園遺跡があり、さらに奥遺跡（弥生～古墳時代：遺物散布地）、奥崎遺跡（弥生時代終末期：遺物散布地）がある。鬼付女川が南に流れを変える三納代谷の開口部には弥生終末～古墳時代前期にかかる風早第一、第二遺跡（堰の検出・木製農具の鋤・鍬が出土）があり、三納代谷を間に西側約500ｍには、年神遺

跡（弥生～古墳時代：遺物散布地）があり、南の台地上には、県指定富田村古墳７・８号墳や弁指平遺跡（弥生～古墳時代：遺物散布地）がある。また、南東側には、下屋敷１号墳（古墳時代）や鬼付女西遺跡（弥生～古墳時代：住居跡ほか）園田遺跡（弥生～古墳時代：住居跡ほか）があり、東側に約 500mは、鐙遺跡（弥生中期・古墳時代：住居跡ほか、円墳）や今別府遺跡（弥生前期：遺物散布地－板付Ⅱ式土器出土）などがあり、この流域は新富町における弥生～古墳時代の遺跡の密集地帯となっている。

第３図　上薗遺跡調査区

第３章　上薗遺跡Ｆ地区

第１節　遺跡の環境（第２図）

上薗遺跡の立地する台地は標高約70mの新田原面にあたり、南を鬼付女川、北を日置川に開析され、大きくみれば南東に延びた舌状の様相を呈し、さらにその台地には細かな谷が入り込み複雑な地形を作りだしている。

この舌状の台地において古墳時代遺跡の立地をみると、集落は中期から後期にかけて南北の二つの谷に区切られた約80,000㎡の中に形成され、200軒を超す住居が調査され、全体で数百軒の住居が存在していたと推定される。墓地は対称的な二つの地形、丘陵の突端部および丘陵の中央部（上薗遺跡の西側）の台地上に古墳（円墳）や地下式横穴墓がつくられる。前者は幅の狭い丘陵上に鐙古墳を代表とする富田古墳群が密集して造られ、弥生時代前期の集落ものる。後者は台地上に数基のまとまりで、円墳、二重周溝の円墳、方墳のほか地下式横穴墓もみられる蔵園古墳群が造られている。

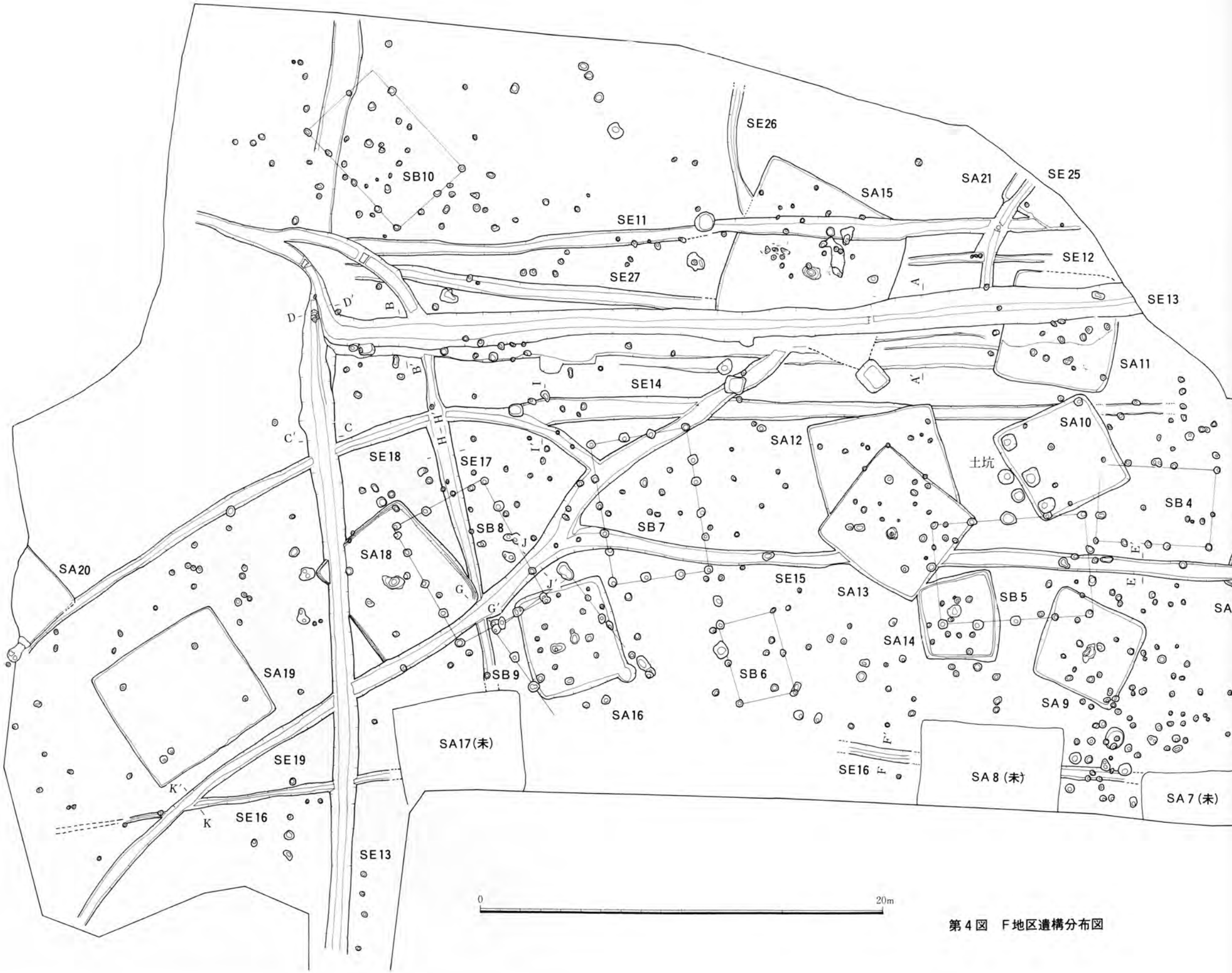
第２節　検出された遺構・遺物

１　遺構・遺物の概要（第４図）

Ｆ地区は西側の谷で切られる台地の縁辺部すなわち集落の西端にあたり、それを示すかのように多くの溝が巡らされ、住居も他地区のように数多くの重複した分布状況ではない。こうしたことから集落の中心は台地の中央部（Ｄ、Ｅ地区）にあると想定される。当地区で検出された遺構は、住居址23軒（４軒は未掘）、土坑１基、溝状遺構16条、掘立柱建物跡10棟のほか多数のピットがある。土坑は古墳時代、住居址は古墳時代17軒、カマドの状況から奈良あるいは平安時代１軒、溝状遺構は古墳時代としては２条、可能性のあるものが２条、ほかは時期を確定できない。掘立柱建物跡は時期は不明だが、遺構の重複関係や規模から１棟は古墳時代の可能性があり、ほかは13～14世紀代と考えられる。遺物は弥生時代から13～14世紀まであるが、主体は古墳時代の遺物で古墳時代では土師器・須恵器、石器（磨石・砥石・敲石）、鉄器（鏃・刀子・鎌・穂摘み鎌・鉄滓・鉄片）、土製品、フイゴの羽口などが出土している。ほかに弥生土器、ヘラ切り・糸切り底の土師器坏・小皿、東播系こね鉢、玉縁口縁の白磁などがある。

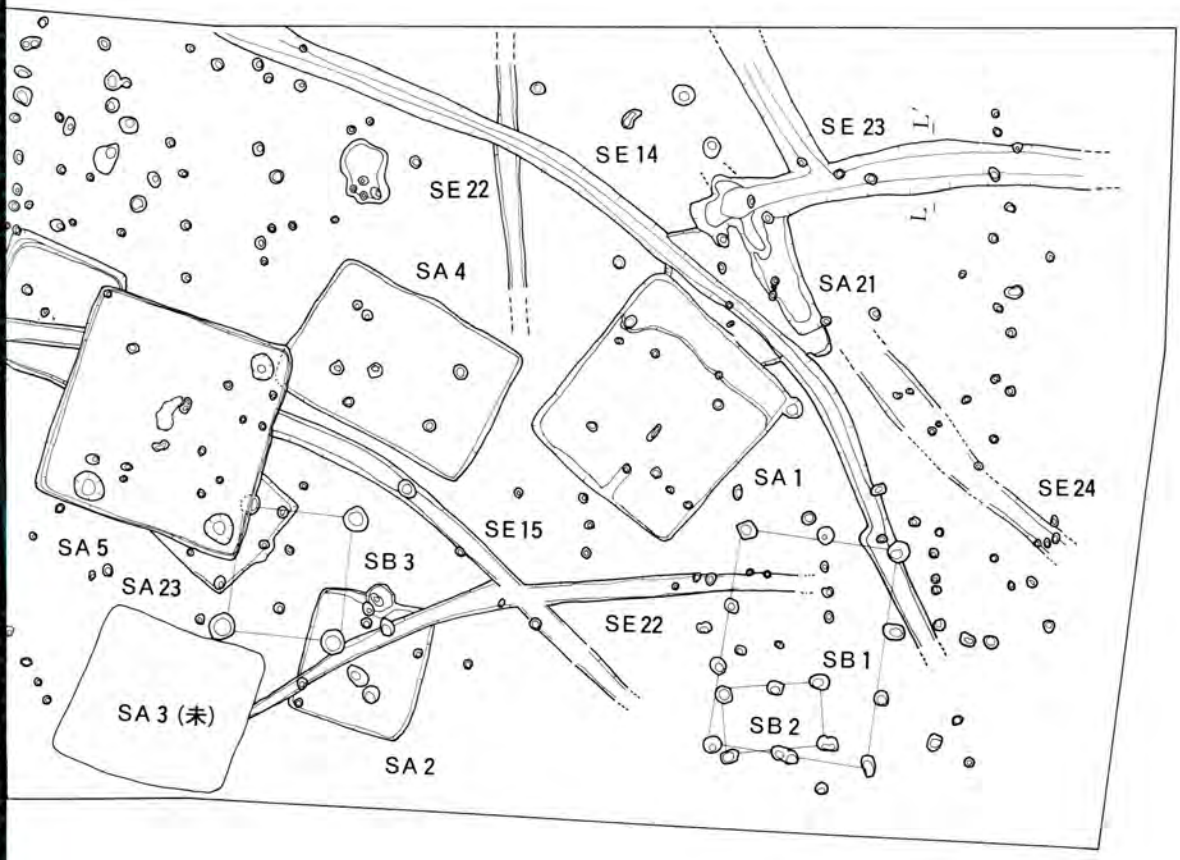
２　住居址

住居址は重複関係からみれば少なくとも３時期あるいは４時期に分かれ、古墳時代中期後半から後期が中心で、一部奈良あるいは平安時代のものもある。住居の平面形は方形が主体で長方形や不正方形のものがあり、規模は９㎡（６号住）から約53㎡（15号住）と格差がみられる。柱穴は２本あるいは４本で不明なものもいくつか存在する。住居内部の施設としては、土坑が設けられるものは５号・10号と古い段階の住居にみられ、住居の中央には焼土面があり、それは焼土面・浅い掘り込みを有す焼土・埋甕という変遷が追える。さらに壁帯溝を有する住居は少ないが、埋甕の時期ま



第4図　F地区遺構分布図

SA：住居址
SB：掘立柱建物
SE：溝状遺構



で設けられる。遺物は、大部分は床面や埋土中から出土するが、5号・10号住居については住居廃絶後、一括廃棄された状況で検出された。なお、3号・7号・8号・17号住居については、現状保存されることになり未調査である。

1号住居址（第5図）

調査区の北端に位置し22号住居を切る。床面北側部分が約1mの幅で10cm程度一段掘り下げられる。柱穴の深さは約38～42cm。柱穴間の距離は（p1-p2 2.7m／p2-p3 2.20m／p3-p4 2.65m／p4-p1 2.4m）を測る。北側隅に円形で径約55cmの土坑が接するが、切り合い関係は認められず住居付設されたものと考えられる。14号住居も同様なものがみられる。

出土遺物（第1～8図1～38）

遺物は中央よりやや南部分と南壁近くに出土している。また、一段下がった箇所では壺や長さ約15cmの細長い河原石がまとまって検出された。そのほか炭化材もいくつかみられる。

甕は口縁部が頸部に稜をもたず、長く外反してのびる。底部は丸底、厚手の丸底がある。ほとんどはススが付着する。18は口縁部が外方に長く伸びる。椀は口縁部が内湾するが、19・21は口縁端部が面取りされる。20はヘラミガキ。須恵器は甕片のみで口縁部には櫛描波状文が施される。胴部は外面が平行タタキや格子目タタキ（一部その後ナデ）、内面はナデ。鉄器は穂摘み鎌が出土している。外面には一部木質部が見られ、長さ7.7cm、幅1.6cm、厚さ2.5mm。

22号住居址（第5図）

調査区の最北端に位置し、1号住居や14号・23号溝等に切られる。住居の規模は、一辺が約3.7mの方形の住居と推定される。柱穴については不明である。

出土遺物（第54図617～619）

出土遺物の量は少なく、床面からタタキのある甕形土器や鉢、小型丸底壺と考えられる底部が検出された。そのほか鉄片数点がある。

2号住居址（第9図）

1号住居の南西約6mに位置する。22号溝に切られる。3号掘立柱建物については前後関係は不明であるが、2号住居が新しい可能性がある。柱穴は不明。

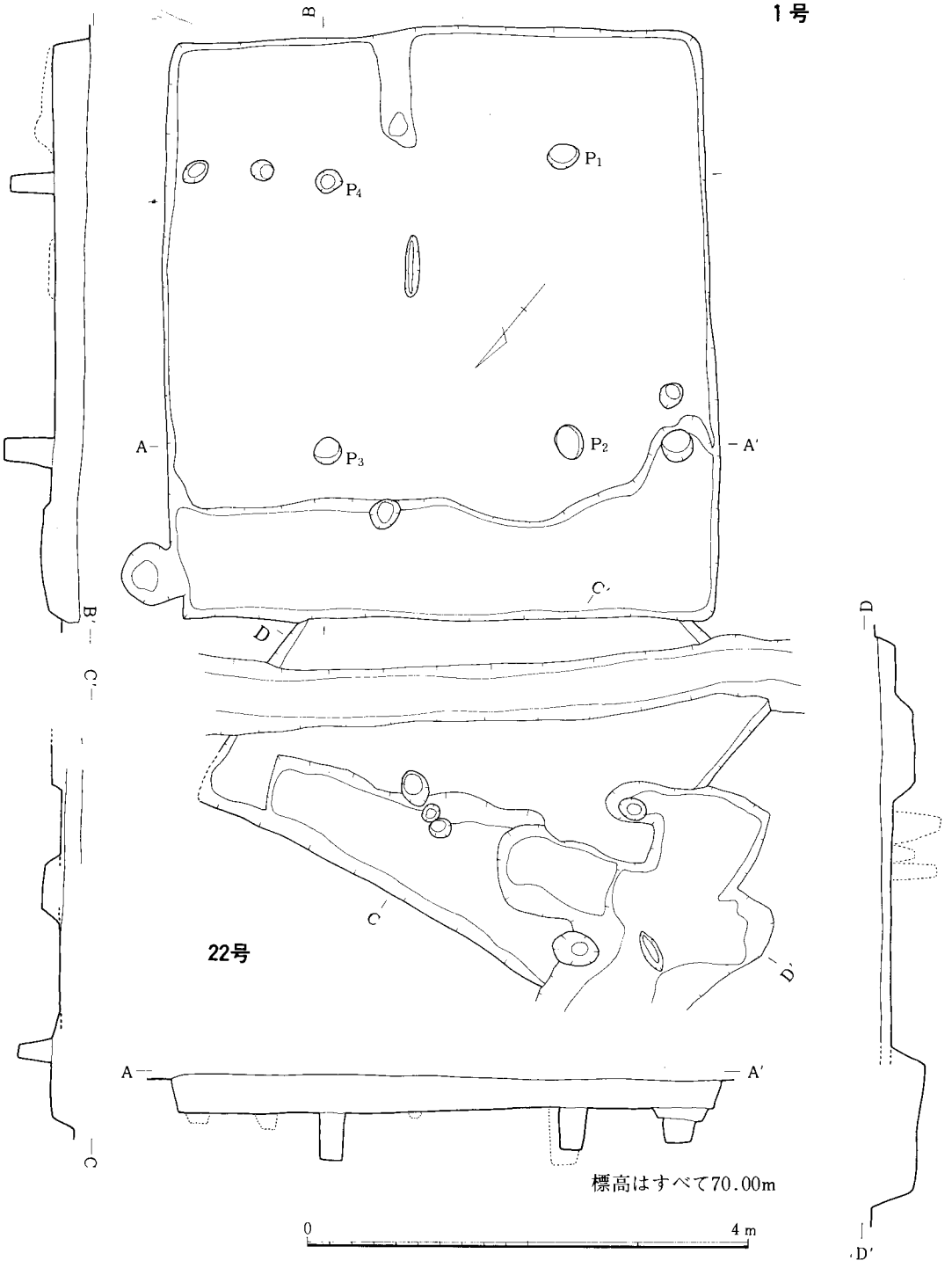
西壁の中央にカマドが付設される。約40cmほど外側へ張り出し、半円形を呈す。カマドに付帯する施設は残っていないが、火床と思われる箇所に約40cmの範囲に焼土が認められたほか、煙出部や焚口部の周辺に粘質土がみられた。

出土遺物（第8図39～54）

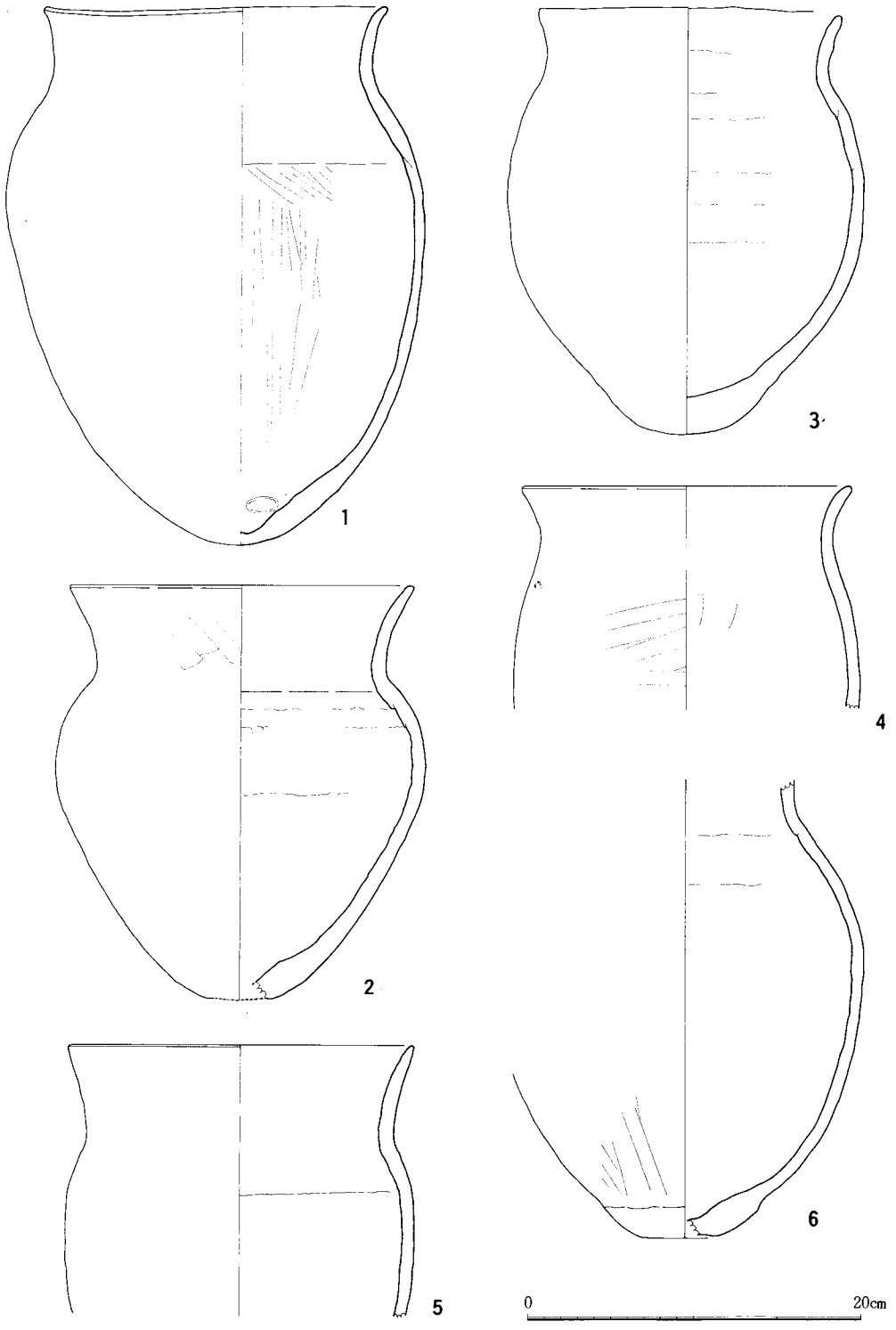
遺物は小破片が多く、甕、椀、須恵器坏身・蓋、磨石などあるが床面から浮いて出土している。

上薗遺跡F地区住居一覧

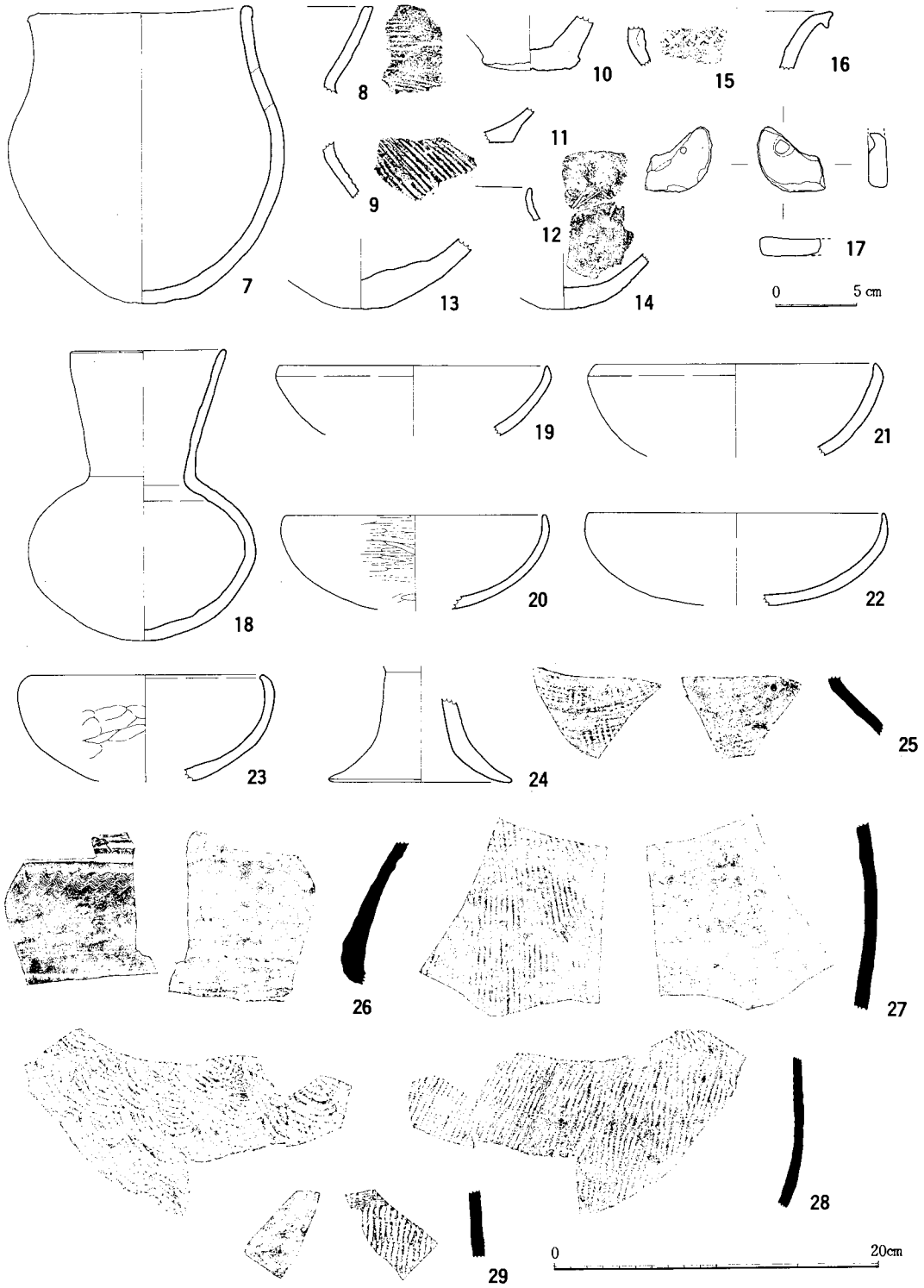
住居番号	規模						内部施設				出土遺物				備考
	長軸	短軸	深さ(m)	面積(m²)	平面形	主軸	主柱	炉	土坑	壁帯	石器	鉄器	時期	その他	
1	4.71	5.22	0.32	24.78	方形	N-46.5-W	4	焼土			縦長の河原石	穂摘み鎌	Ⅲ		
2	3.52	3.44	0.17	10.59	方形	N-69.5-W	不明	南西壁面中央にカマド付設　煙道なし			磨石				高師小僧
4	5.32	3.92	0.25	20.85	長方形	N-60-W	4	埋甕					Ⅴ		
5	5.62	5.90	0.52	29.64	方形	N-70-W	4	焼土	○	周囲	敲石　磨石　砥石	鉄鏃 鉄滓 鉄製品?	Ⅱ	須恵器（樽型） フイゴの羽口	
6	3.54	3.20	0.24	9.14	方形	N-65-W	2 ?			周囲			Ⅰ		
9	4.74	4.44	0.32	19.71	方形	N-64-W	4	焼土（浅い掘り込み）		周囲	細長河原石　砥石 石斧　磨石		Ⅲ		
10	5.00	4.92	0.40	21.92	方形	N-29.5-W	4 ?	焼土	○		磨石　砥石	鉄鏃　刀子　鉄片	Ⅰ	タタキある甕・壺	
11	5.72	5.70	0.42	29.62	不明	N-78.5-W	不明	不明				鉄滓	Ⅰ ?		
12	6.45	6.2 ?	0.41	34.25	方形	N-12-W	4 ?	不明					Ⅲ		
13	5.84	5.32	0.36	29.97	方形	N-52-W	4	埋甕				鉄鏃　刀子 ?	Ⅴ		
14	4.50	3.50	0.34	12.35	方形	N-2.5-W	2	焼土（浅い掘り込み）		周囲		鉄鏃　鉄鎌	Ⅲ ?		
15	8.1	7.1	0.08	52.86	不正方形	N-67.5-W		埋甕			砥石	鉄鏃	Ⅴ	須恵器（提瓶）	
16	4.67	5.21	0.38	19.84	方形	N-12.5-W		焼土2箇所（掘り込み）		周囲	敲石　磨石	刀子	Ⅱ	須恵器（瓶）	
18	6.35	5.80	0.25	32.4	方形	N-37-W	4	埋甕		周囲	敲石　磨石	鉄鏃	Ⅴ	土師器（丹塗り）	
19	7.14	6.52	0.16	43.46	方形	N-32-W	4	貼床				鉄片	Ⅴ ?	土師器（丹塗り）	
20	不明				方形 ?		不明					鉄片			1/5残存
21	2.7 ?		0.25		方形 ?	N-54-W	不明								1/2残存
22	3.8	3.5 ?	0.10	12.54	方形 ?	N-15-W	不明					鉄片			
23	3.1		0.06		方形	N-49-W	不明								



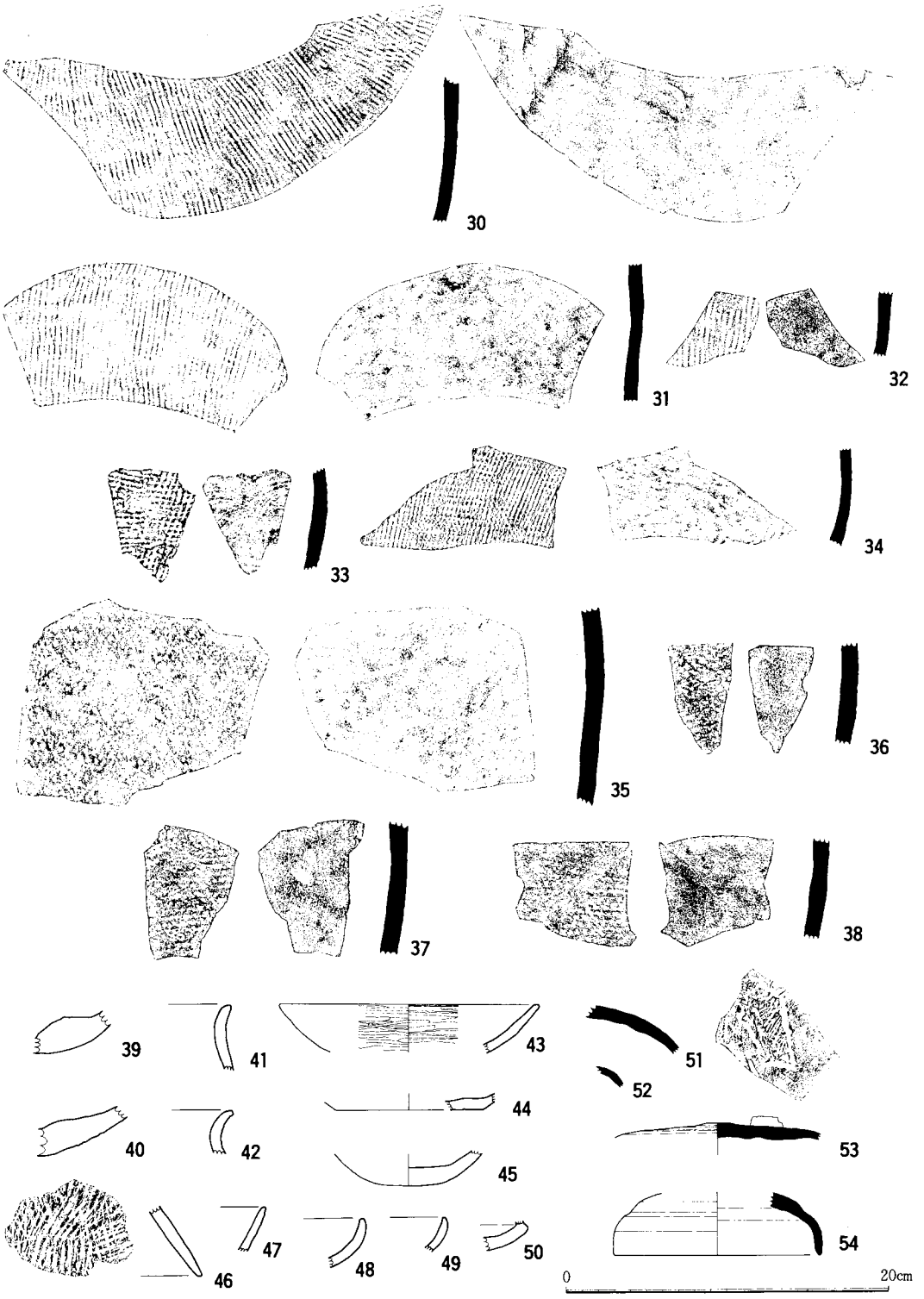
第5図　1・22号住居址遺構実測図



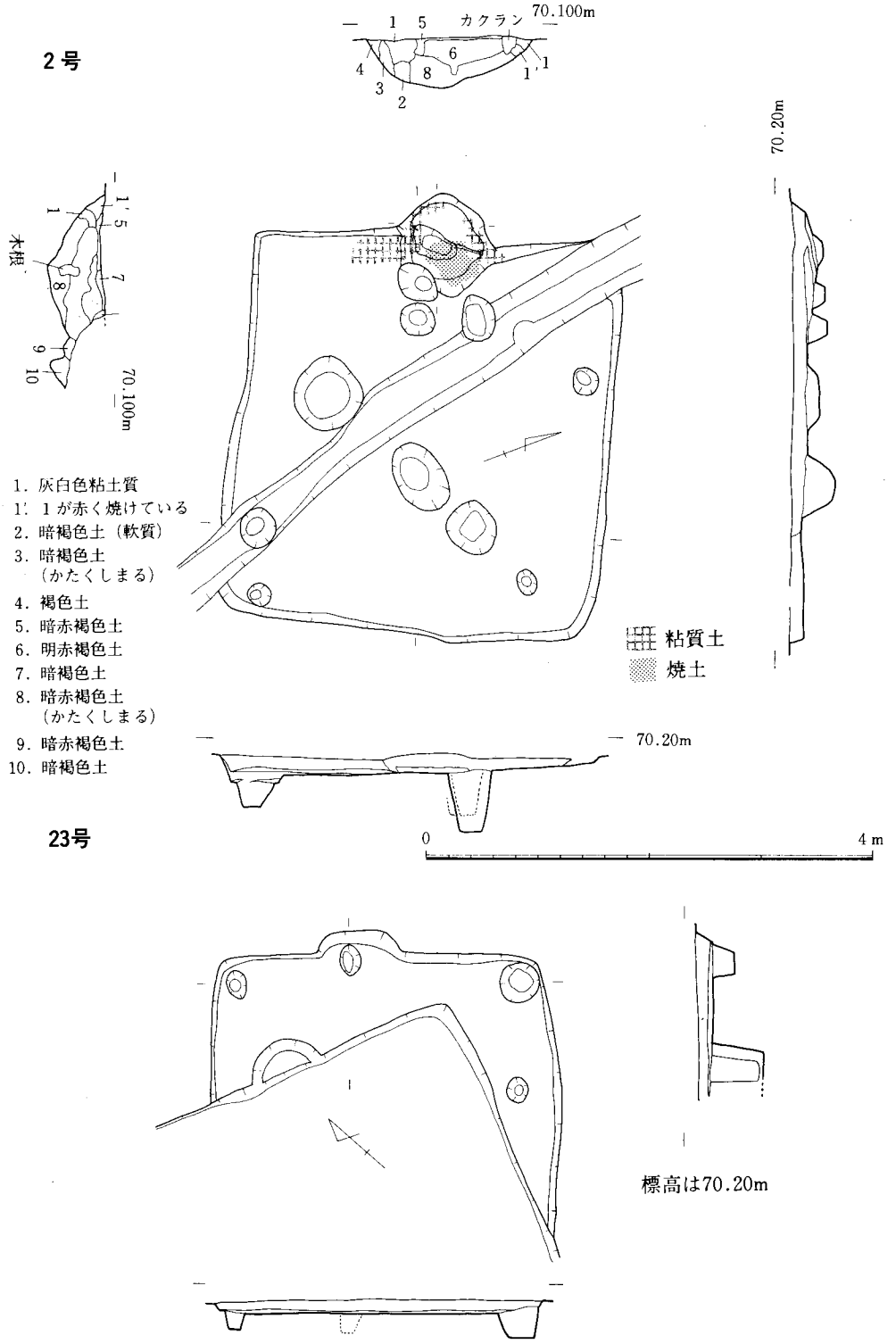
第6図　1号住居址出土遺物実測図（1）



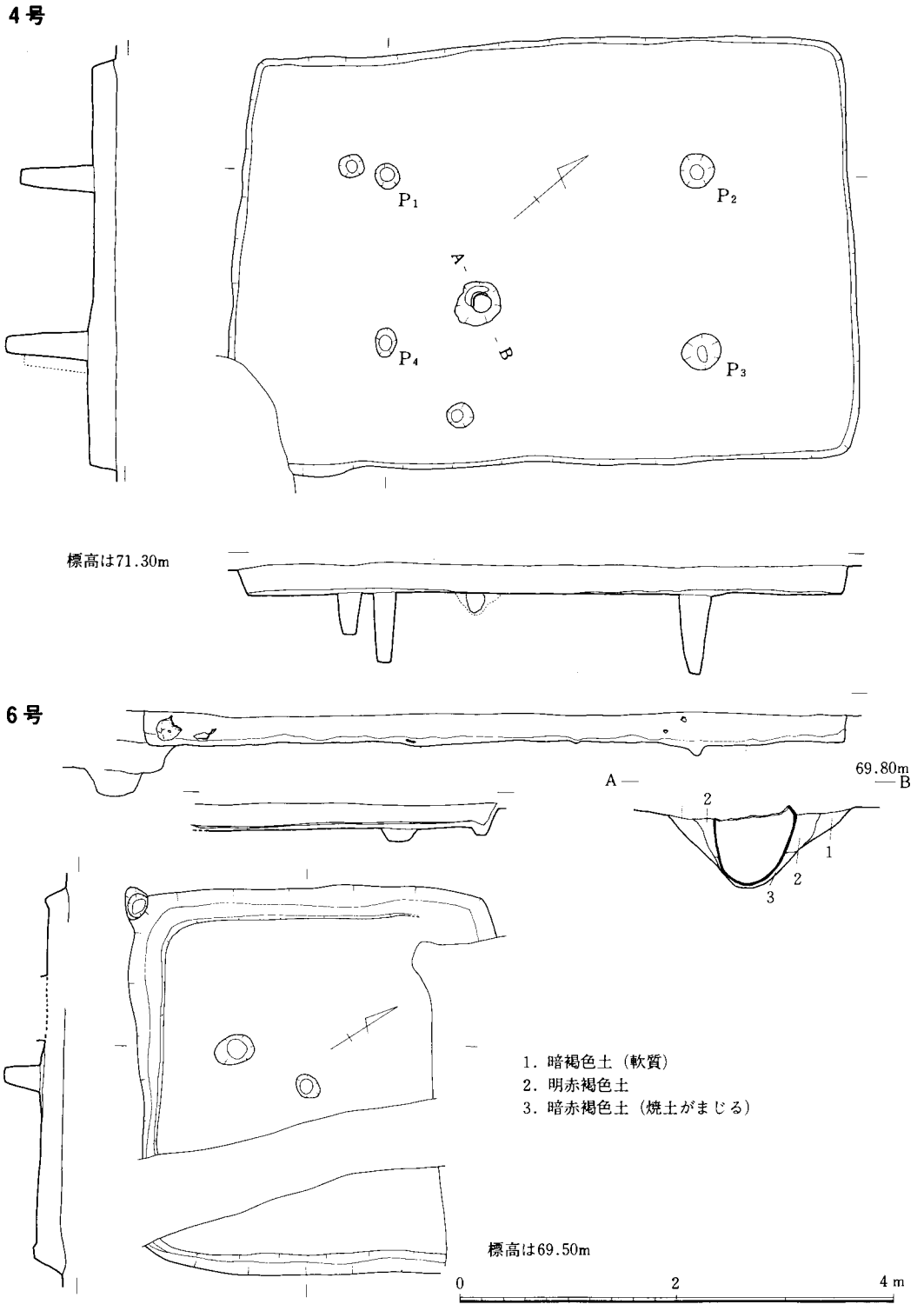
第７図　１号住居址出土遺物実測図（2）



第8図　1号住居址出土遺物実測図 (3)



第9図　2・23号住居址遺構実測図（4）



第10図　4・6号住居址遺構実測図

4号住居址（第10図）

1号住居の南に隣接する。5号住居を切り、21号溝に切られる。柱穴の深さは約62～72cm。柱穴間の距離は(p1-p2 2.85m／p2-p3 1.65m／p3-p4 2.9m／p4-p1 1.6m)を測る。床面中央やや南よりに埋甕が付設される。径約40cm、深さ約18cmの掘り込み中央に甕が置かれる。甕の外面にそって埋土が赤変している。甕内部の土は軟質の黒褐色土でアカホヤの粒子が少量含まれる。

出土遺物（第13図55～67）

出土遺物は少なく、埋甕と床面から約5cm前後浮いて南側隅で検出された甕(55)、北側壁沿いの甑(56)が主で、あとは小破片が埋土中よりわずかに出土している。55は口縁部が外反し、胴部中位が張り、底部は丸底。甑は僅かに外反し、胴部下半から急に締まる。器高に比べ胴部径が大きく、底部は単孔である。須恵器模倣形態の坏身が出土している。

5号住居址（第11図）

他の住居址に比べ、検出面よりの残りが良好である。4号住居、15号溝、3号掘立柱建物に切られ、6号住居、23住居を切る。壁に接して深さ10cm前後の壁帯溝が全周に巡る。柱穴の深さは約40～56cm。柱穴間の距離は(p1-p2 2.75m／p2-p3 3.05m／p3-p4 3.1m／p4-p1 3.15m)を測る。床面中央に焼土がみられ、1.15×0.3m・深さ数cmの不定形の浅い掘り込みが確認された。また、住居の隅三箇所に径約80cm、深さ約20cmの土坑が配される。

出土遺物（第13～22図68～199）

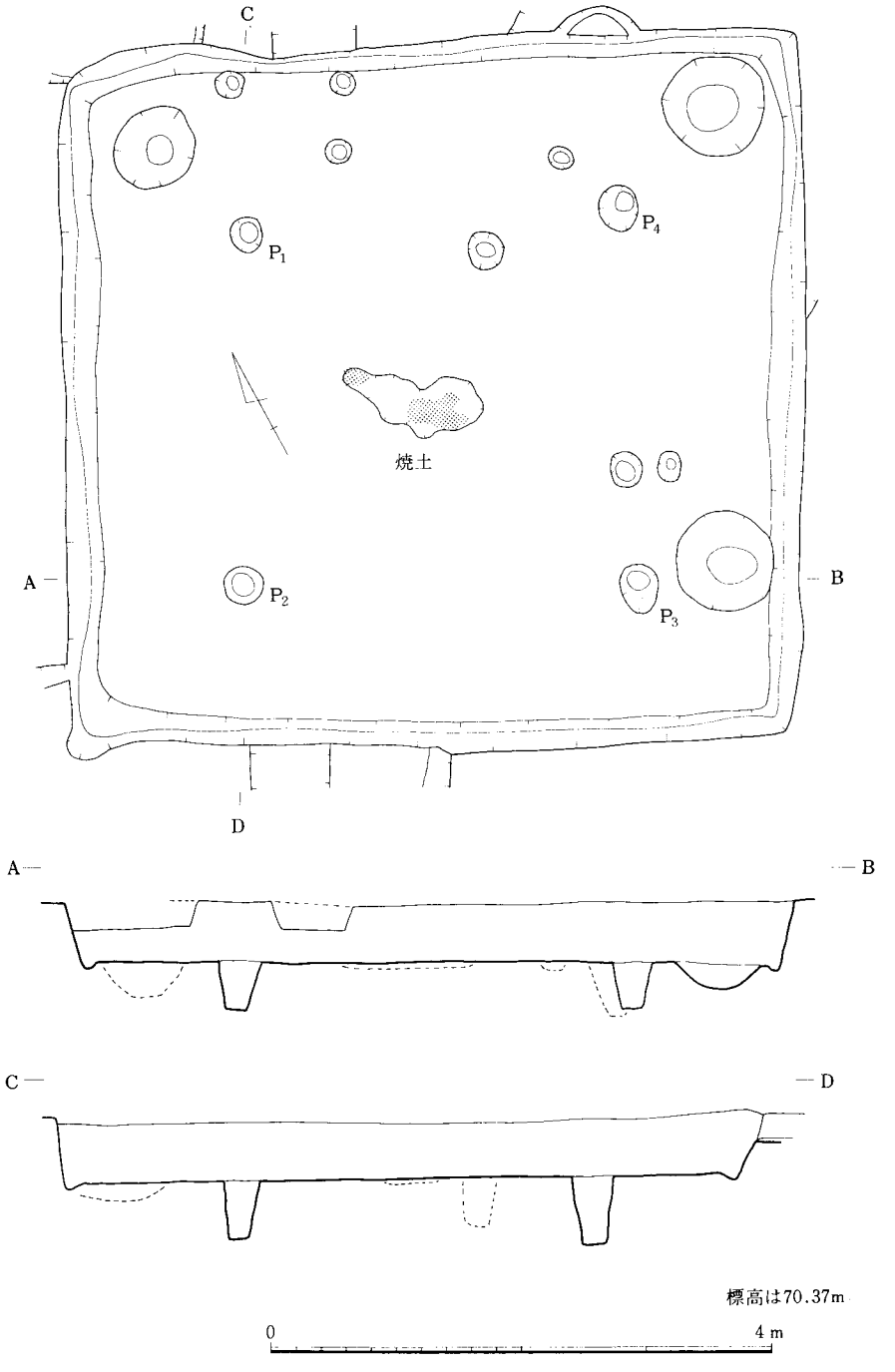
遺物は、10号住居址と同様多量の土器が出土している。土器の堆積状況は、レンズ状を呈し、住居廃絶後に一括廃棄されたものと考えられるが、偶然か三箇所の土坑周辺にかたまっている。

（第12図）

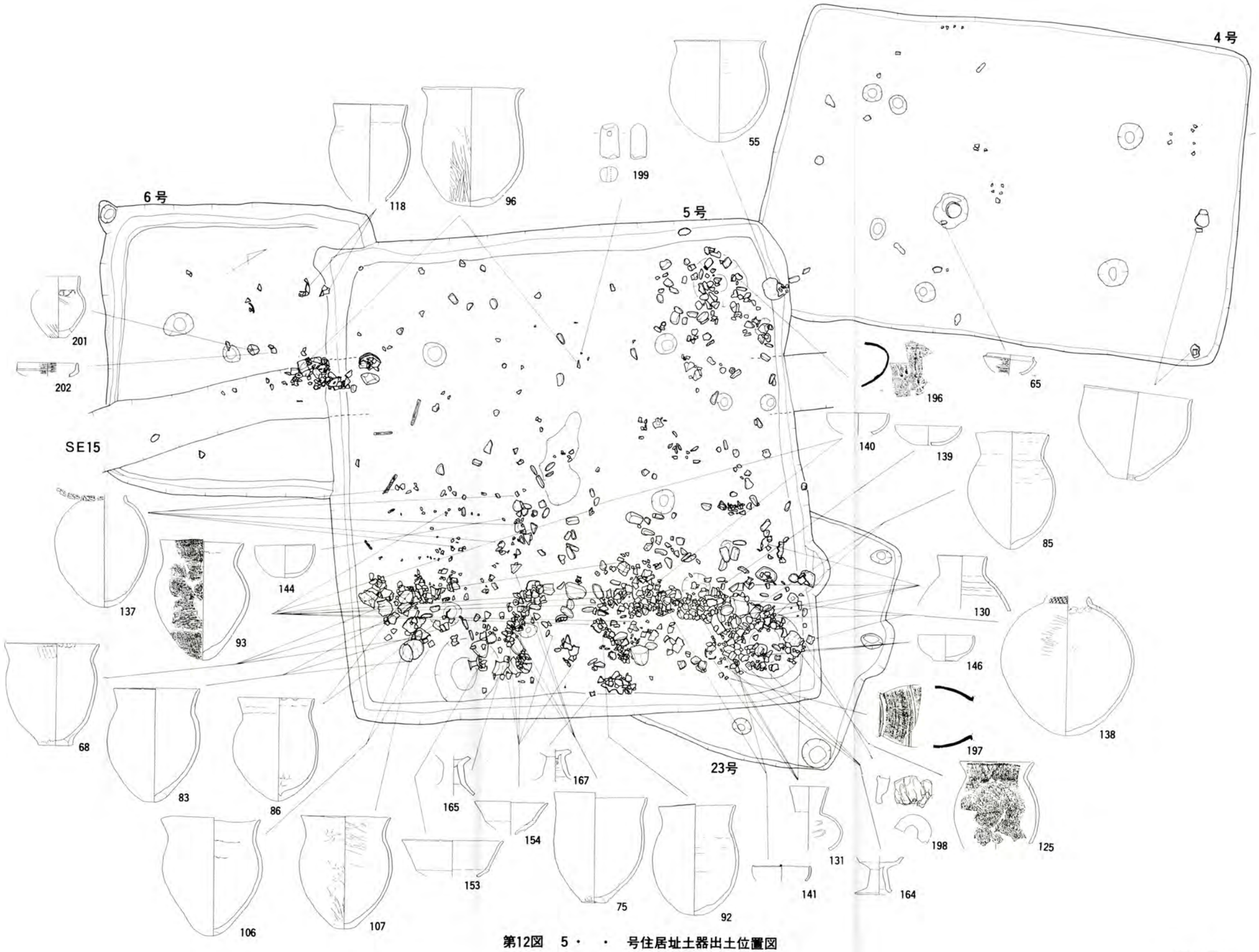
土師器の器種は甕がもっとも多く、高坏、壺、鉢の順となる。

甕は内外面に指オサエ痕や粘土結ぎ目を明瞭に残している。口縁部は頸部に稜をなさず長く外反、あるいは上方に延びる。底部には尖底気味の丸底あるいは小さな平底、平底がある。木の葉底もみられる。125・126は外面に格子目タタキが施される。壺は卵状あるいは球形に近い胴の張るものがあり、頸部に幅広の突帯を付し、刻み目が施される。そのほかに長頸壺がみられる。高坏は坏部に4形態、脚部が6形態ある。坏部は、坏部が深く口縁部が大きく開き口径25cmを超えるもの（153,154,155,170)、坏部は浅く屈折部の稜が明瞭（158,164)、坏部が浅く口縁部は外反する(156)、椀状をなす(172)がある。脚部は裾部が不明瞭な稜をなし開く(163,164,165,169)、脚部が短く裾部が開く(162,163,179)、エンタシス状を呈しやや広がる(111)、エンタシス状（170,171,172)、厚手のもの(175,177,176,180)、脚部が低いもの(178)がある。椀は口縁部が内湾する。鉢は丸底と平底のものがみられる。須恵器は少ないが、口縁部が長く立ち上がると思われる坏身（190,191）や樽型(197)や平行タタキが残る壺(196)がある。甕は外面が格子目あるいは平行タタキ、内面はナデ調整となる。そのほか鉄分が融着したフイゴの羽口(198)や先端部に穿孔のある土錘(199)なども出土している。96・122は15号溝に伴うと考えられる。石器は敲石、磨石、砥石が、鉄器は、鏃、鉄滓、

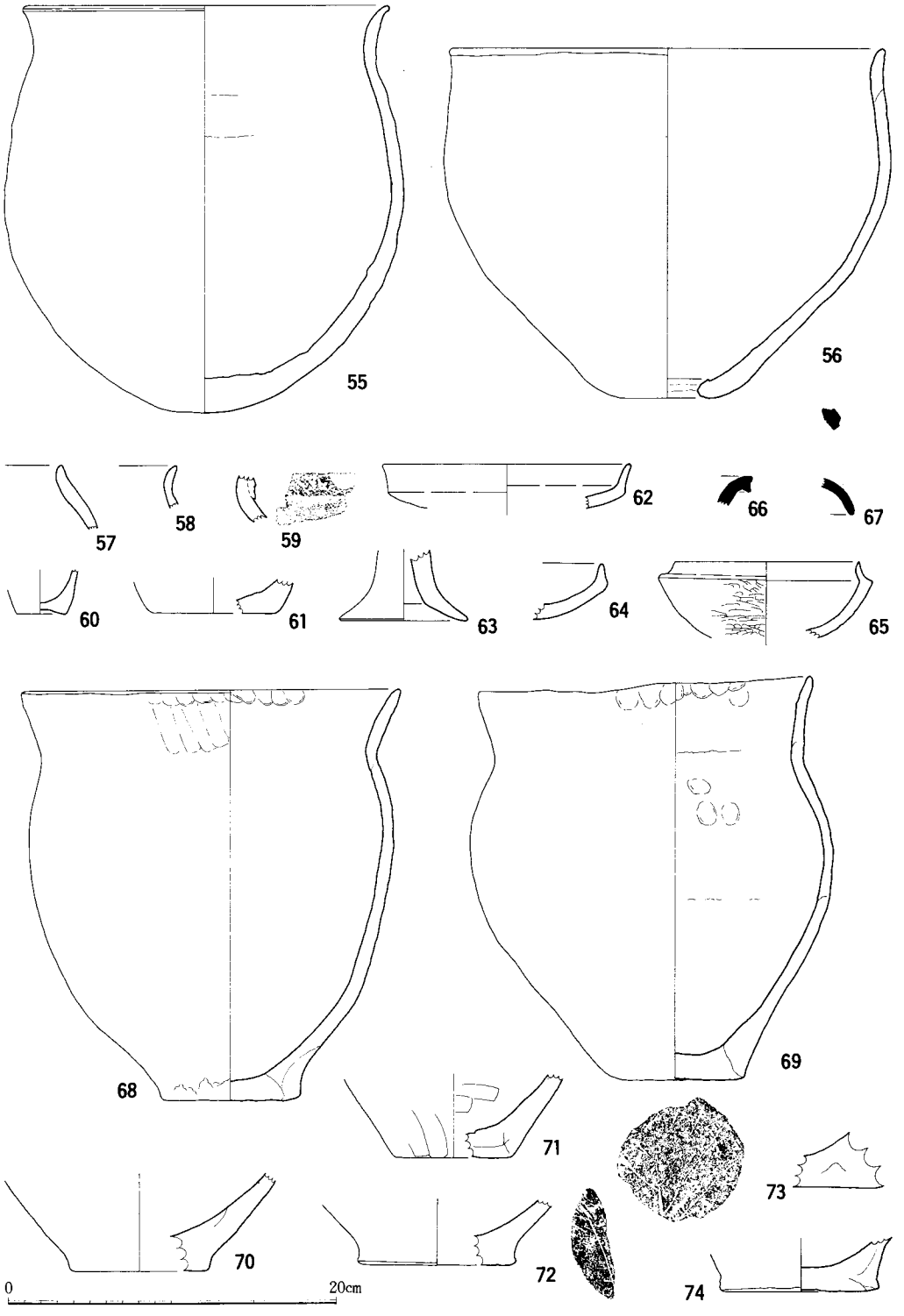
5号



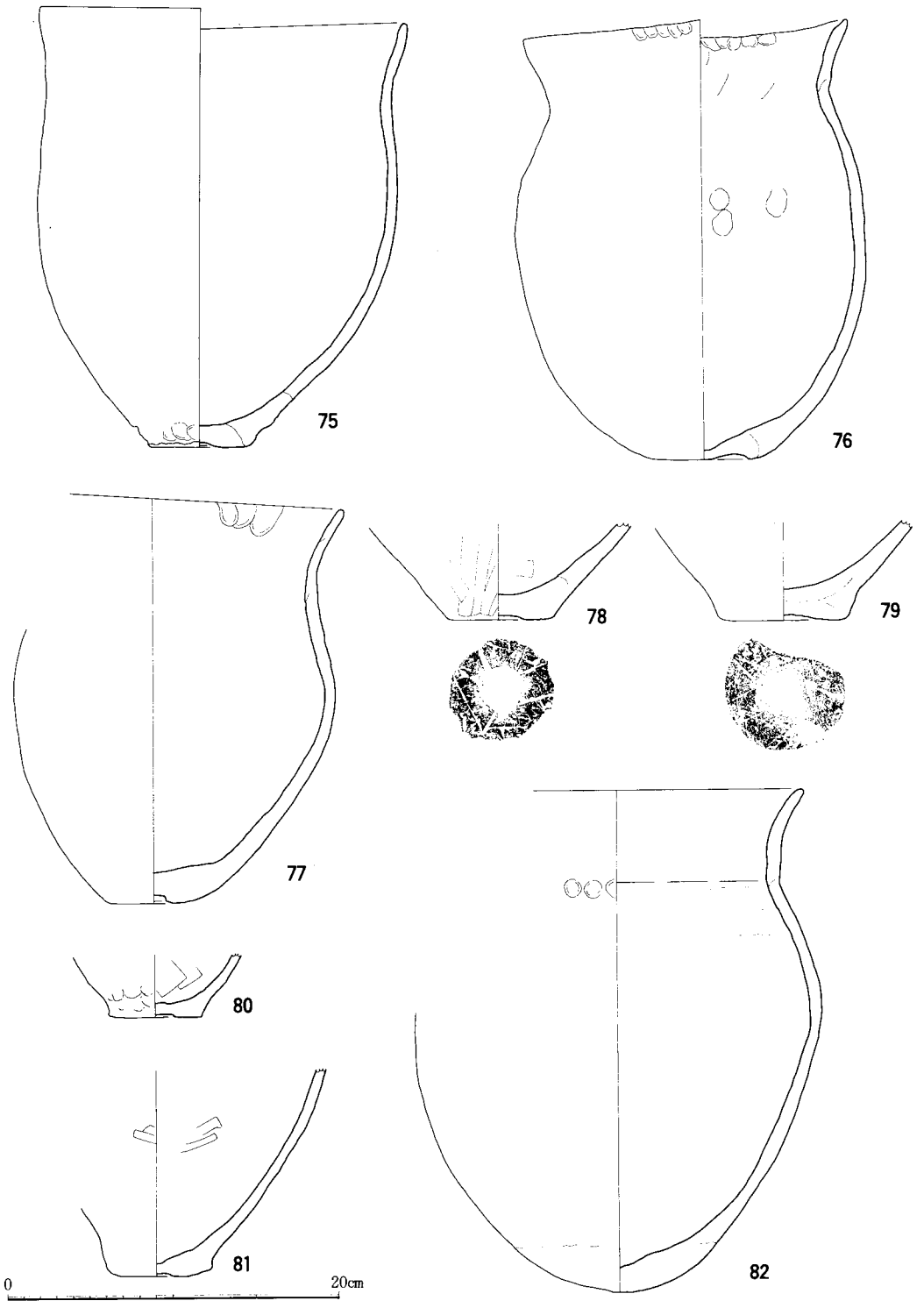
第11図　5号住居址遺構実測図



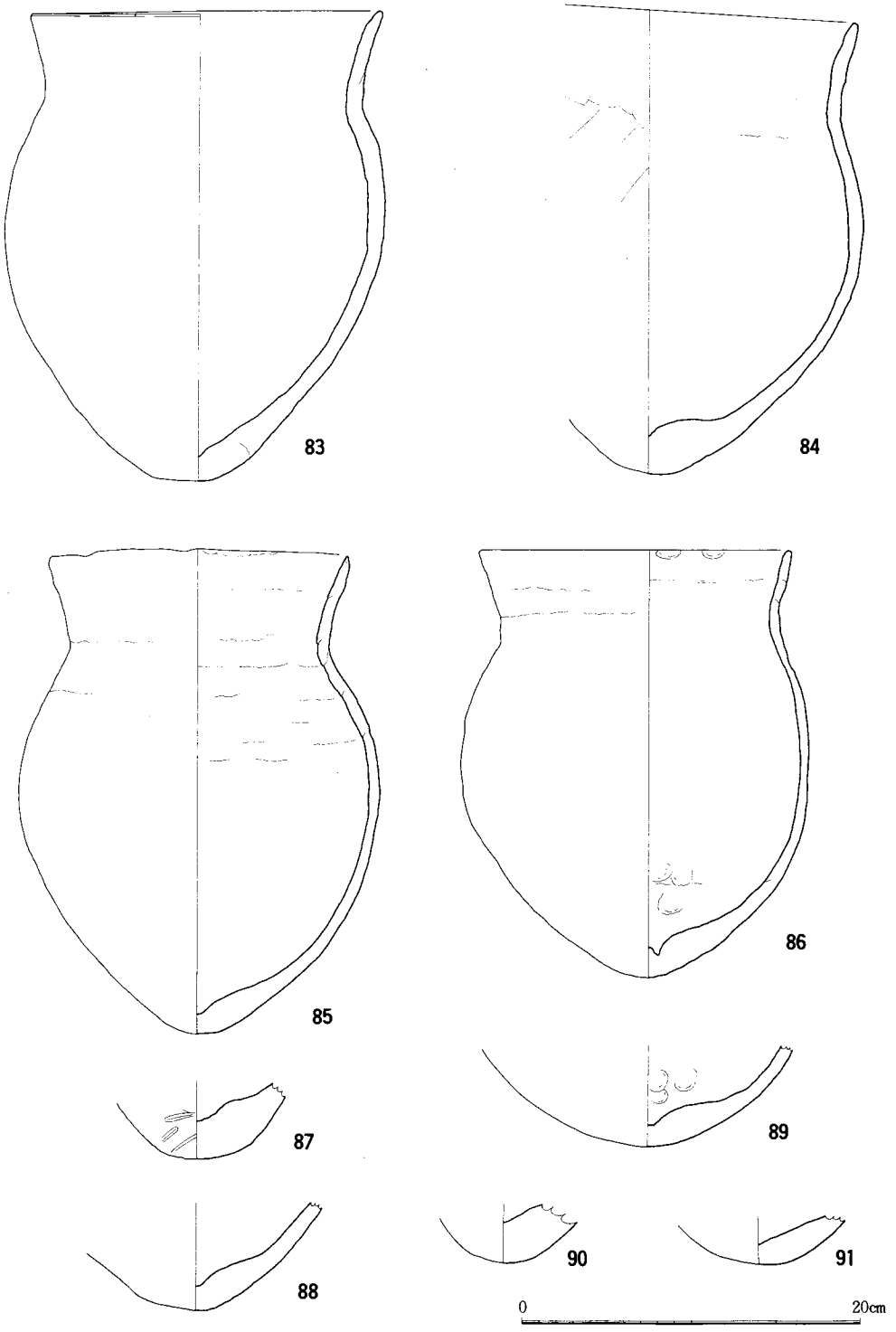
第12図　5・　・　号住居址土器出土位置図



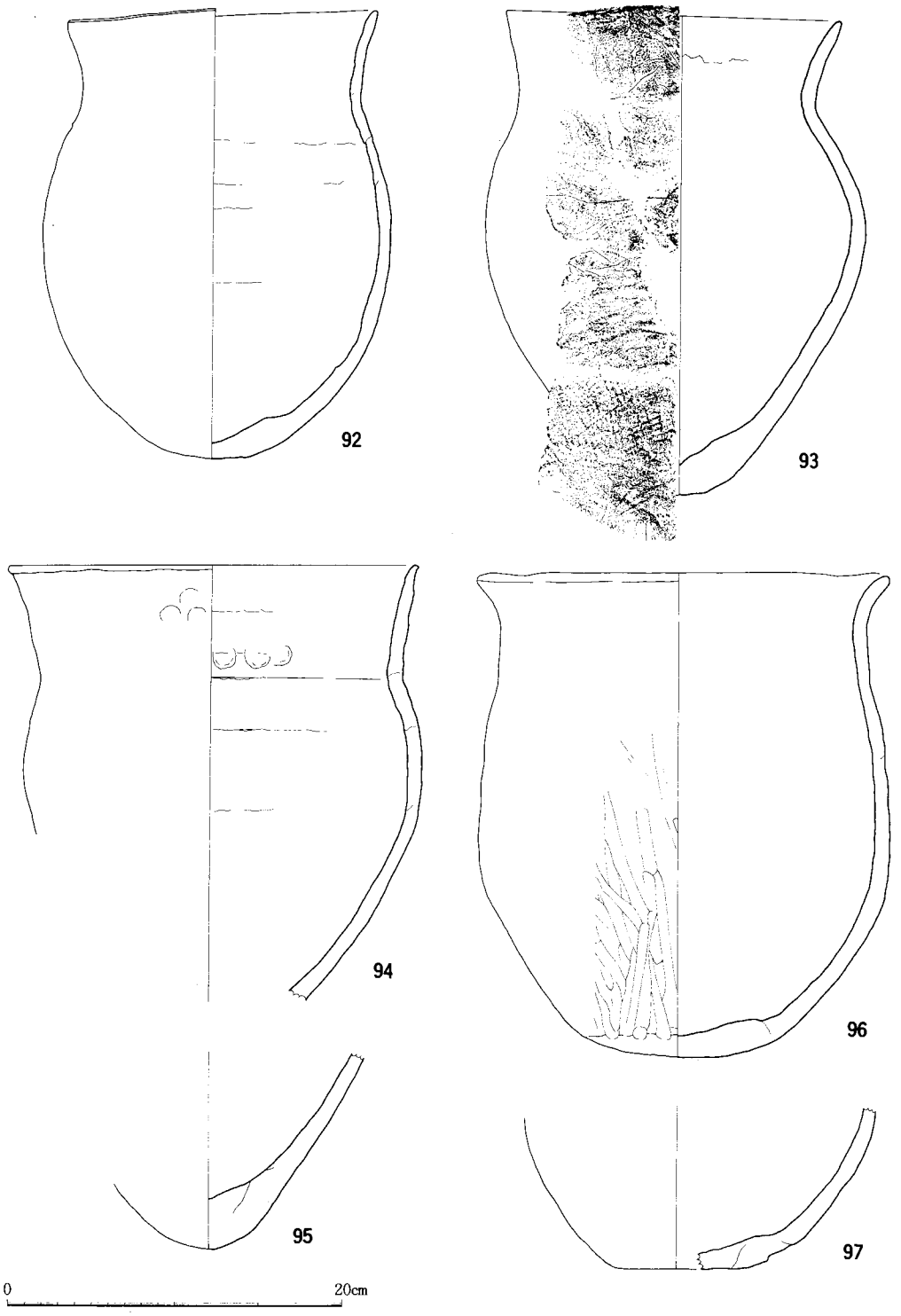
第13図　4・5号住居址出土遺物実測図



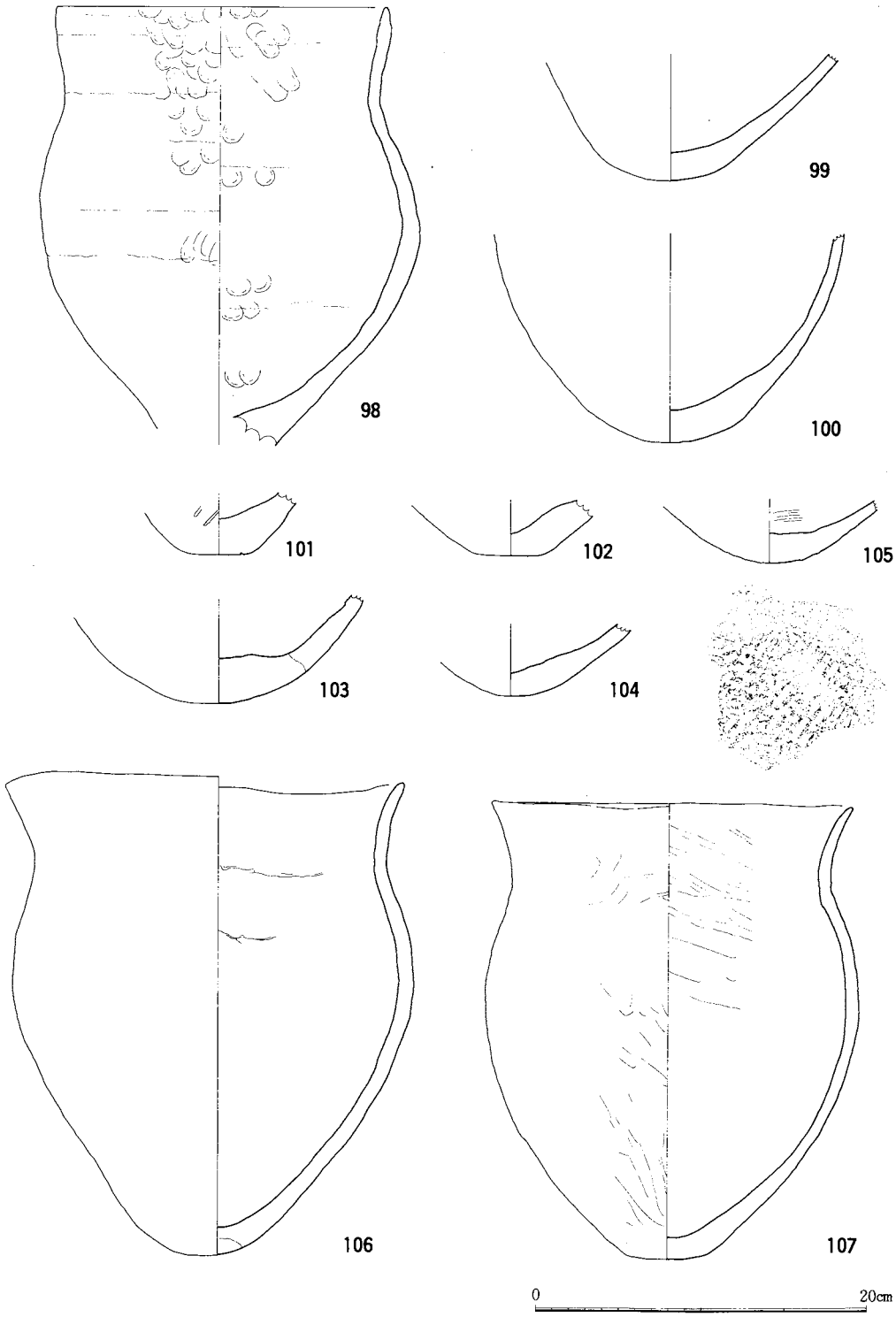
第14図　5号住居址出土遺物実測図 (2)



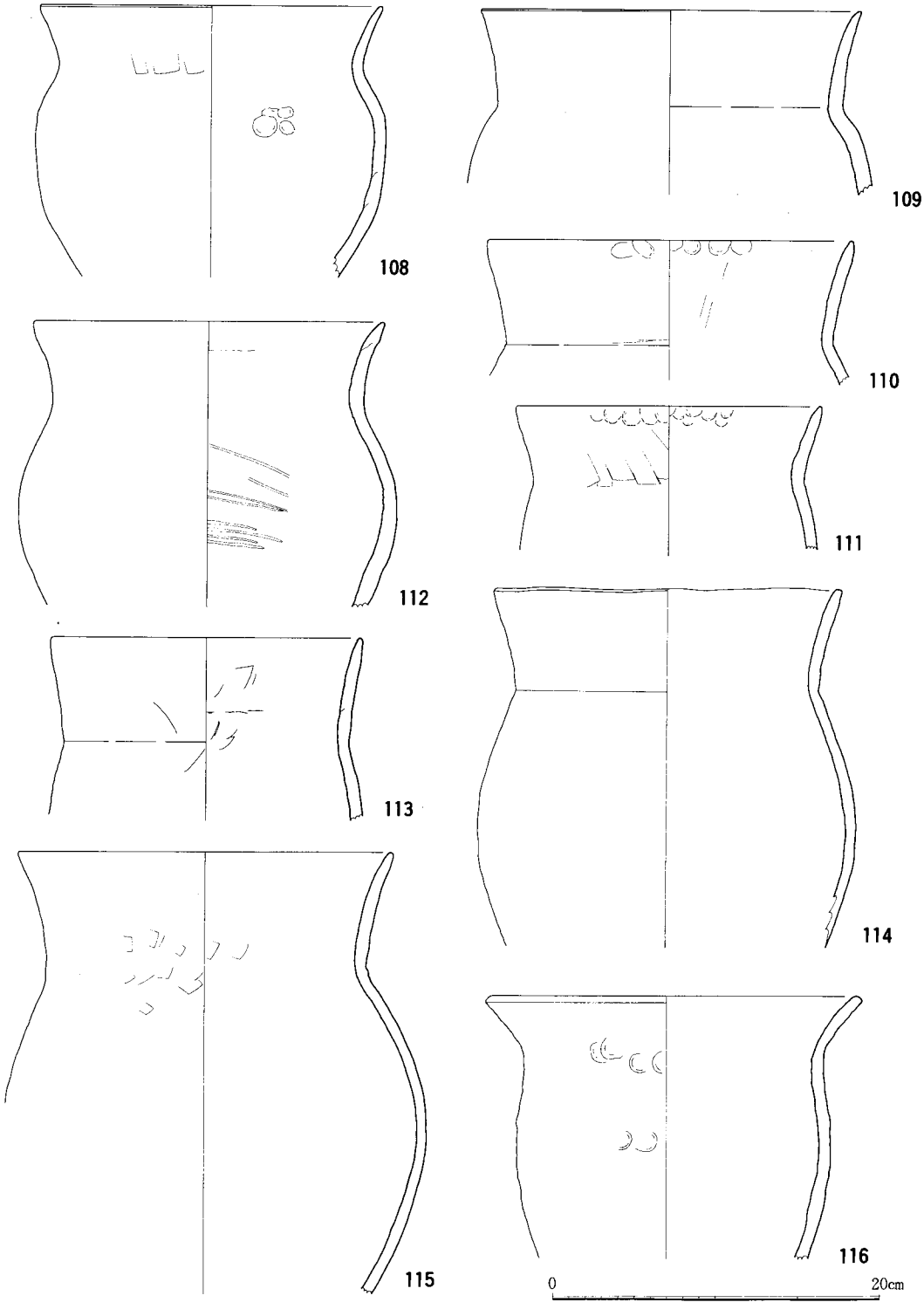
第15図　5号住居址出土遺物実測図（3）



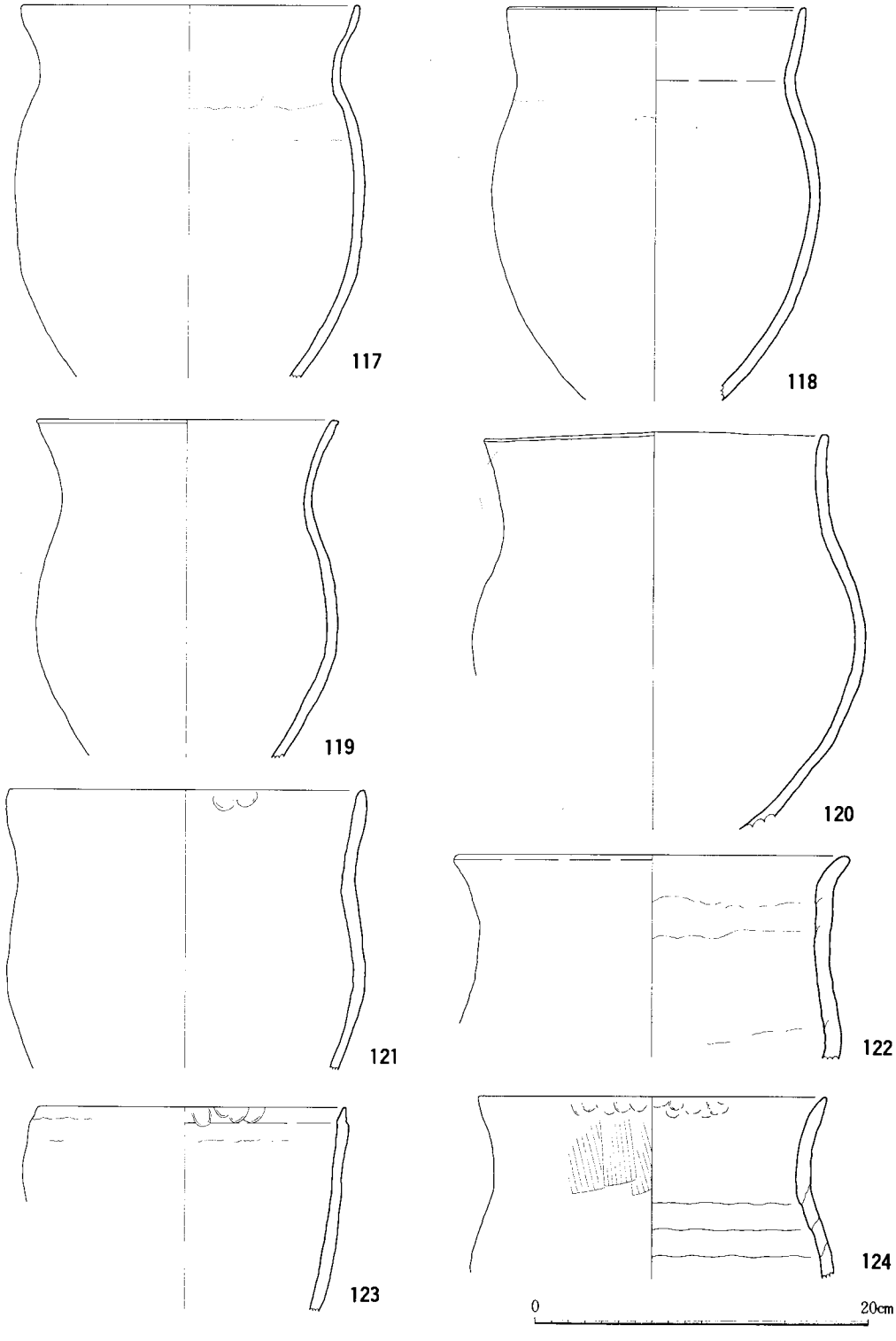
第16図　5号住居址出土遺物実測図 (4)



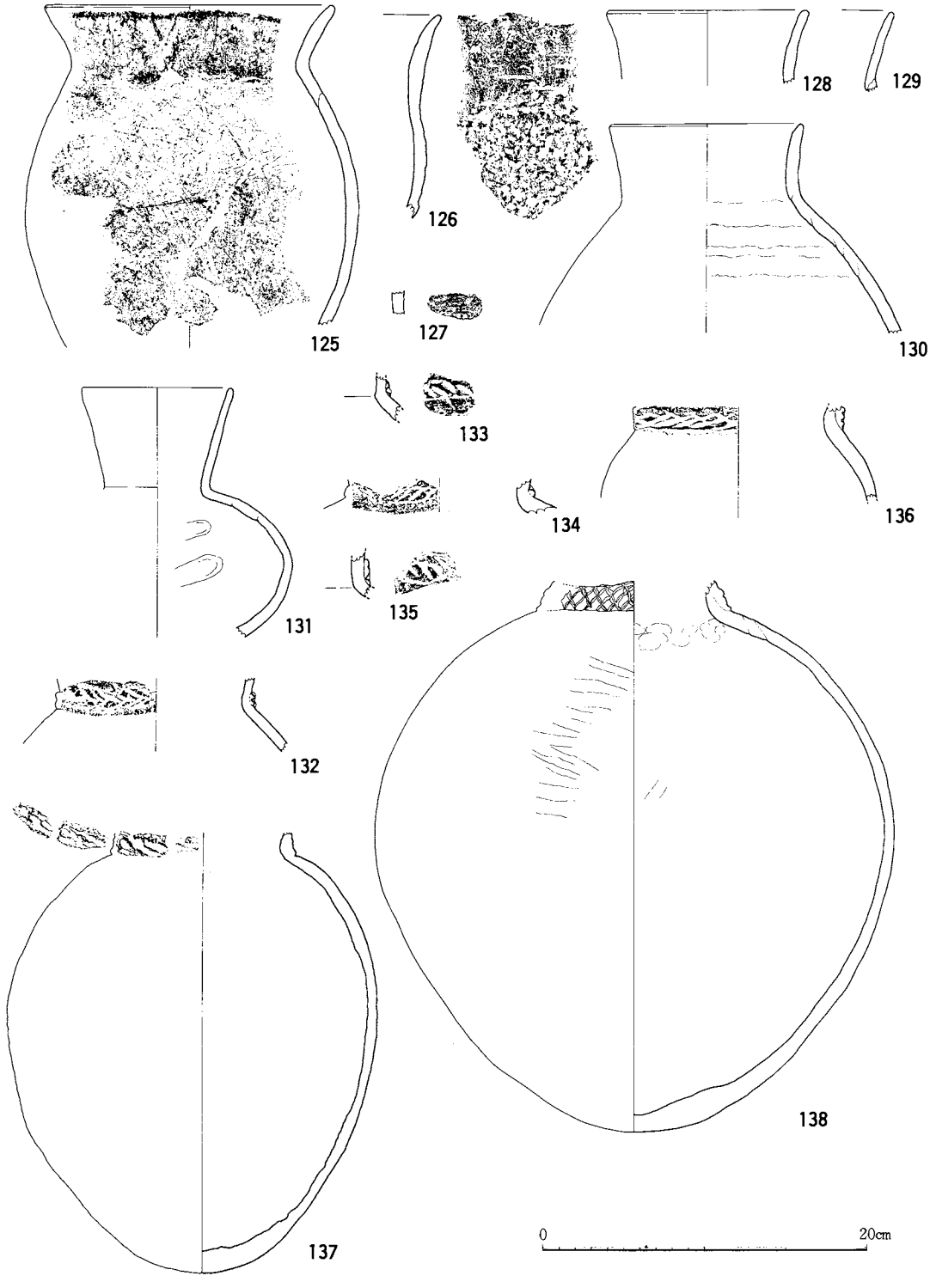
第17図　5号住居址出土遺物実測図 (5)



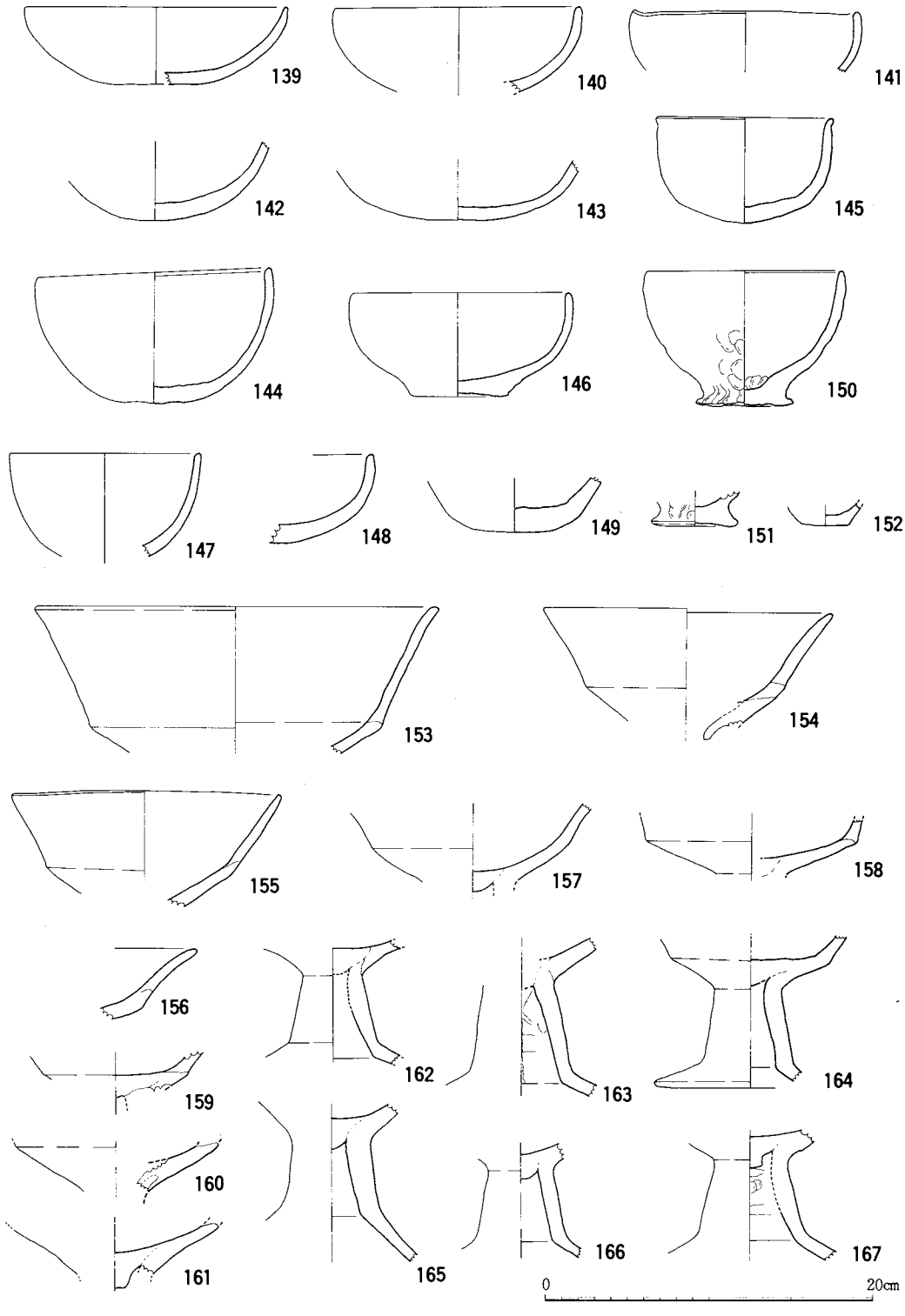
第18図　5号住居址出土遺物実測図（6）



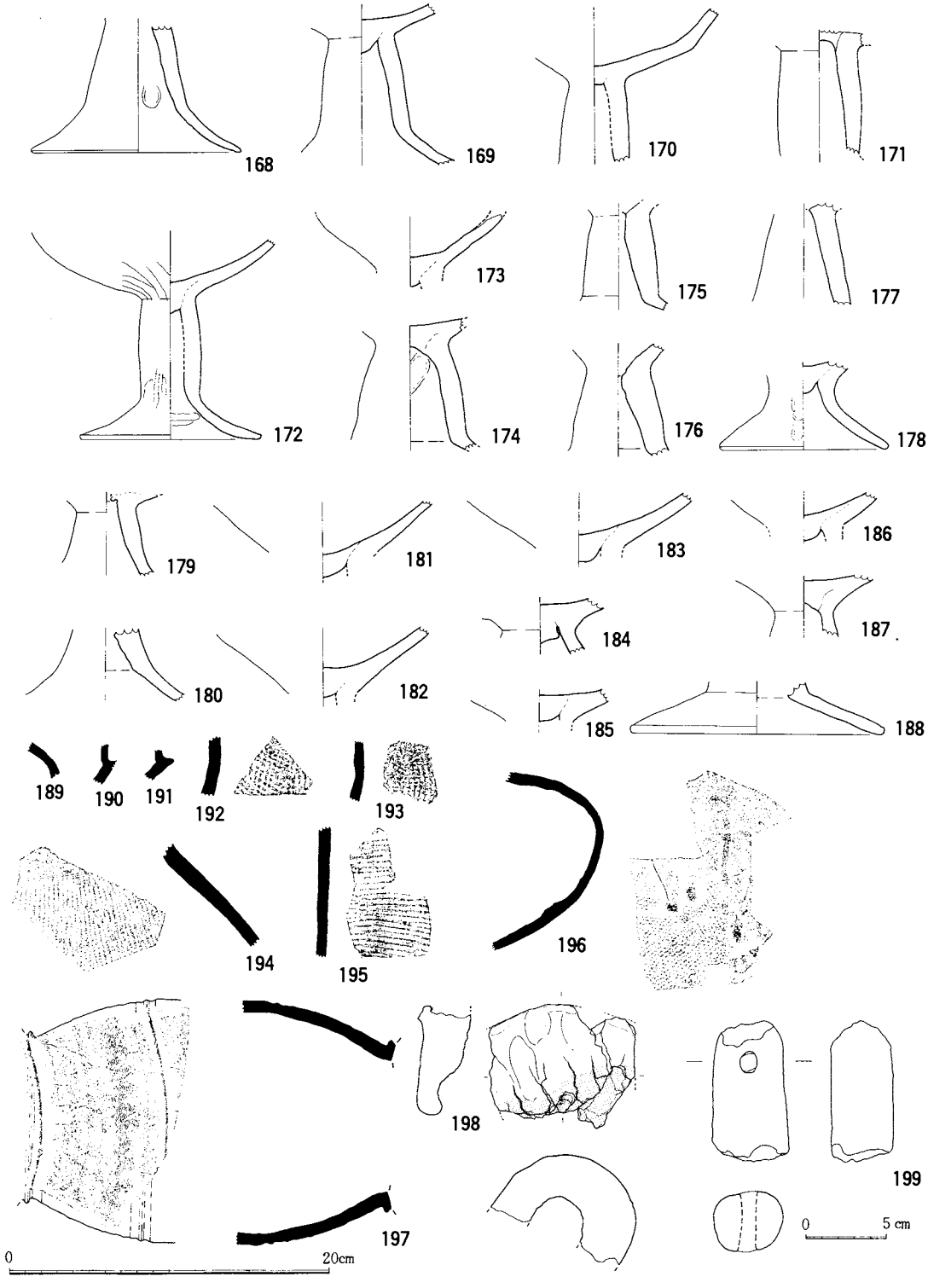
第19図　5号住居址出土遺物実測図 (7)



第20図　5号住居址出土遺物実測図 (8)



第21図　5号住居址出土遺物実測図 (9)



第22図　5号住居址出土遺物実測図 (10)

鉄片などが出土している。3は長頸鏃の鏃身部で現存長約3.5cmを測る。2は器形・用途不明の鉄製品で現存長約4.0cm、断面形は径3mmの円形をなす。

6号住居址（第10図）

5号住居、15号溝に切られる。柱穴は確定はできないが1あるいは2本の可能性がある。壁に接して深さ8cm前後の壁帯溝が全周に巡ると推定される。焼土等については検出されなかった。

出土遺物（第23図200～210）

出土遺物は少ない。201は小型の甕で口縁部が上方に伸びる。高坏は、坏部が浅く口縁部は強く外反する。

23号住居址（第9図）

5号住居、3号掘立柱建物に切られる。出土遺物もなく住居址かどうかも不明。北壁中央が外側に幅約75cm、長さ約20cmほど張り出している。

9号住居址（第24図）

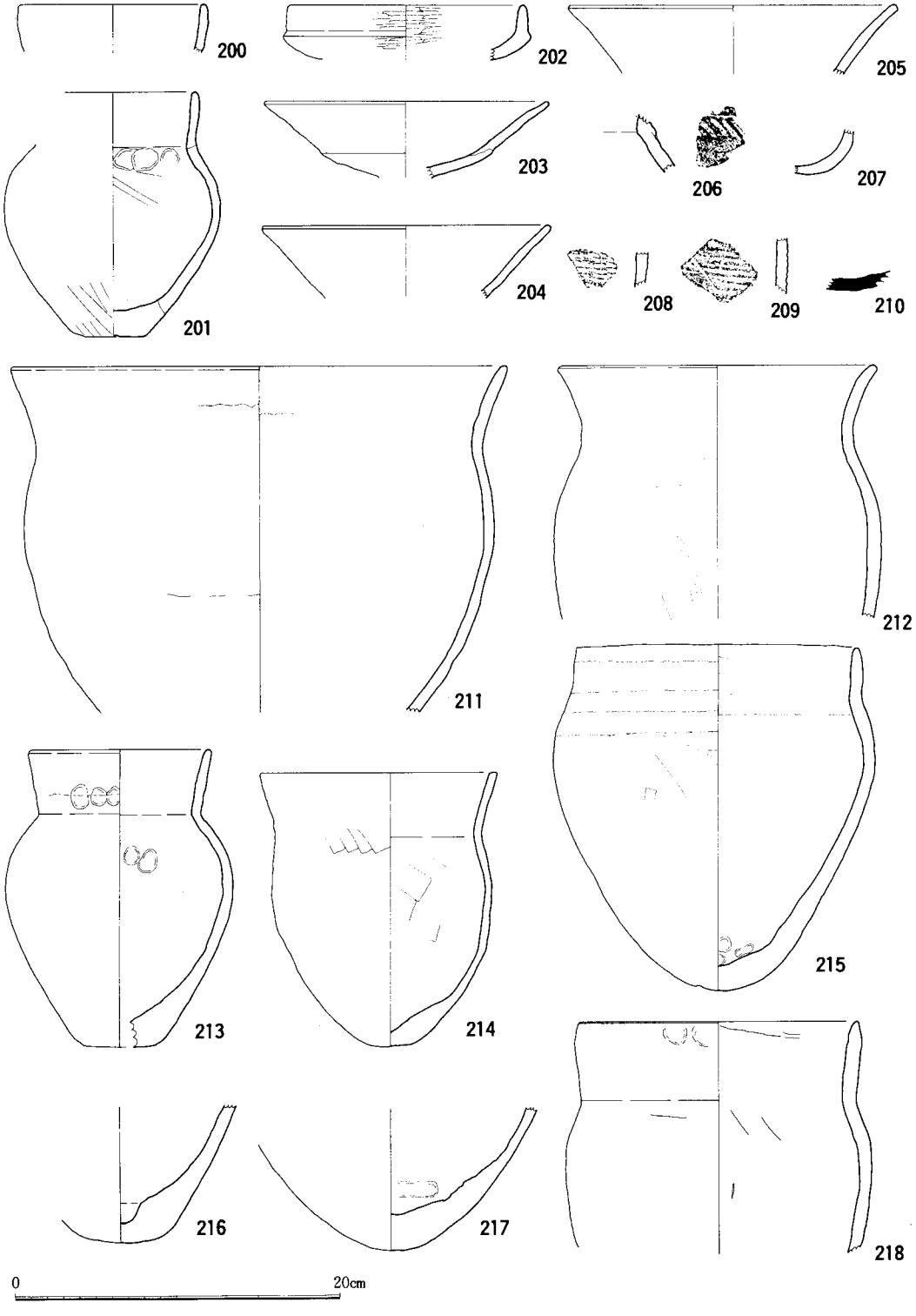
6号住居の南約5mに位置する。5号掘立柱建物に切られる。北西壁が南東壁の4.0mに比べ4.65mと長く、平面形は方形に近い台形を呈する。柱穴の深さは約51～59cm。柱穴間の距離は(p1-p2 2.25m／p2-p3 1.95m／p3-p4 2.05m／p4-p1 1.95m)を測る。床面中央に26～17cmの範囲に焼土がみられ、1.09×0.55m・深さ約12cmの皿状に掘り込まれた不定形の土坑が確認された。焼土および周辺の埋土はかたく締まるが炭化物等は認められなかった。

出土遺物（第23～26図211～253）

遺物の多くは床面および数cmういた状態で出土し、大半は原位置に近いものと思われる。甕が中央付近に、高坏や壺、小型の甕などが壁近くに位置している。そのほか南東壁中央付近に長さ約15～20cmの細長い河原石が16点まとまって検出された。これらの河原石は砂岩製で、敲打痕や磨痕などは認められず、用途については不明である。容器としては甕、高坏、壺の順に多い。口縁部は頸部に稜をなさず長く外反、あるいは上方に延びる。長胴を呈するものがあり、底部は尖底気味の丸底あるいは小さな平底がある。壺は直口壺で胴部はやや偏平となる。高坏は、坏部が深く口縁部がやや外反する。脚部は短く内面に不明瞭な稜を有する。須恵器の坏身は、立上がりが内傾し口縁端部は丸く仕上げられる。口径11.8cmを測り、回転ヘラケズリは体部下半に施される。石器としては砥石、石斧、磨石が出土している。

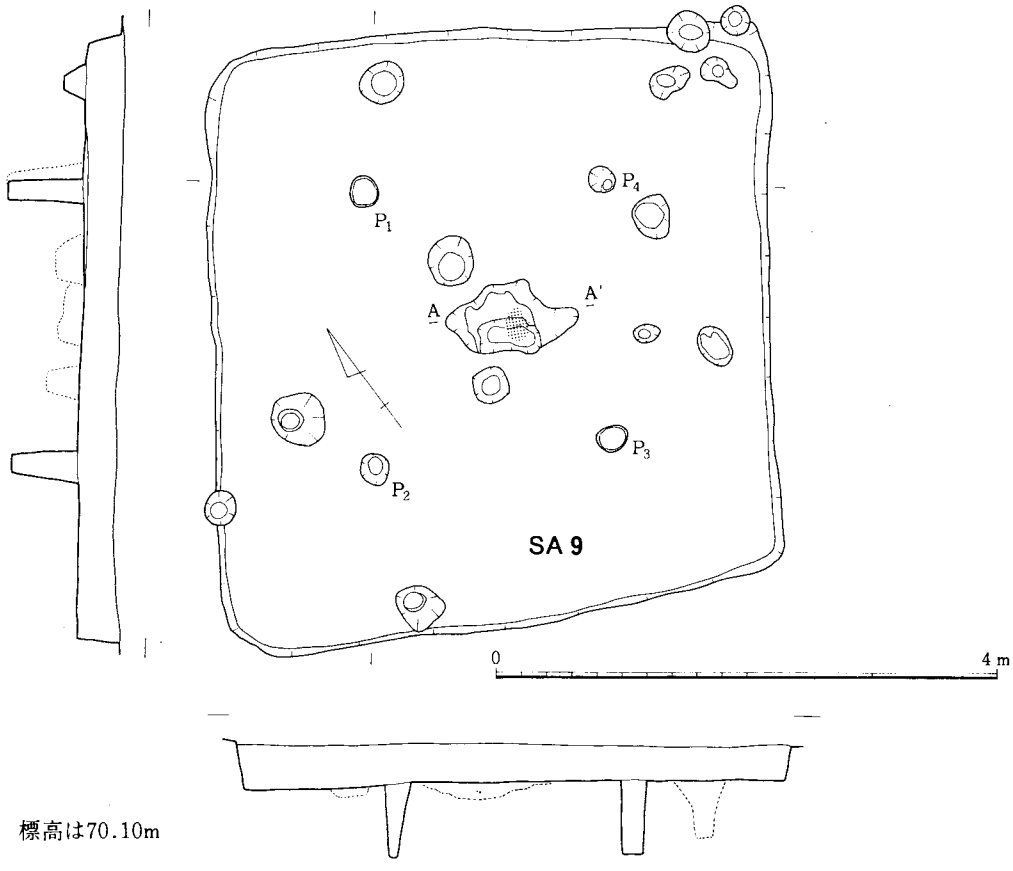
10号住居址（第27図）

9号住居の南約4mに位置し、11号住居の東に隣接する。4号掘立柱建物に切られる。住居は南壁の西隅近くが約2m幅で、20cmほど外側に張り出している。その東端に接するように竪穴外に長径0.8m、短径0.7mの土壙が設けられる。この土壙は住居との位置関係や出土遺物から住居に関連



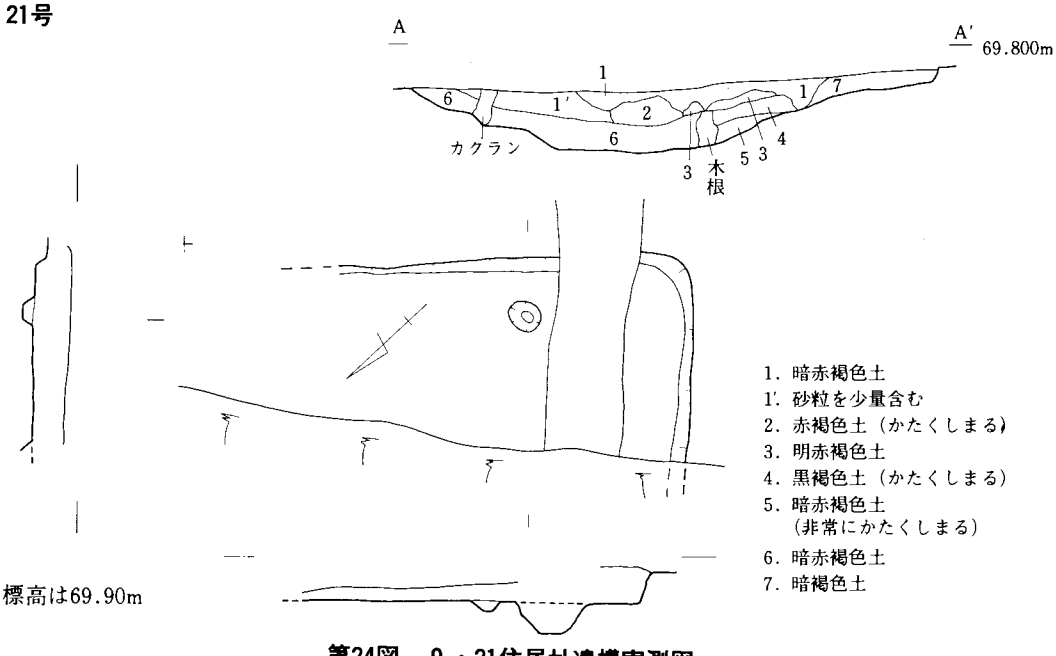
第23図　6・9号住居址出土遺物実測図（1）

9号



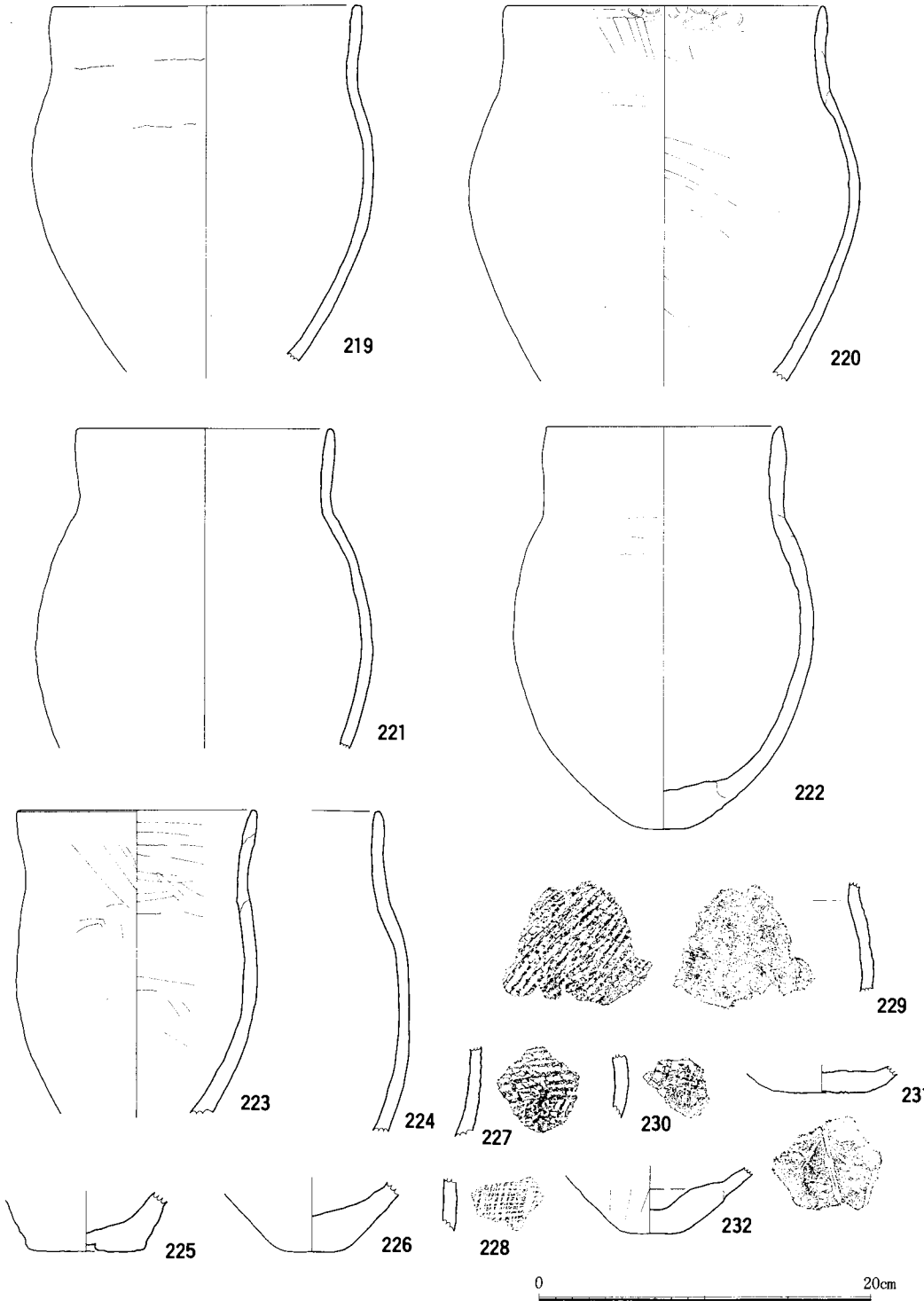
標高は70.10m

21号

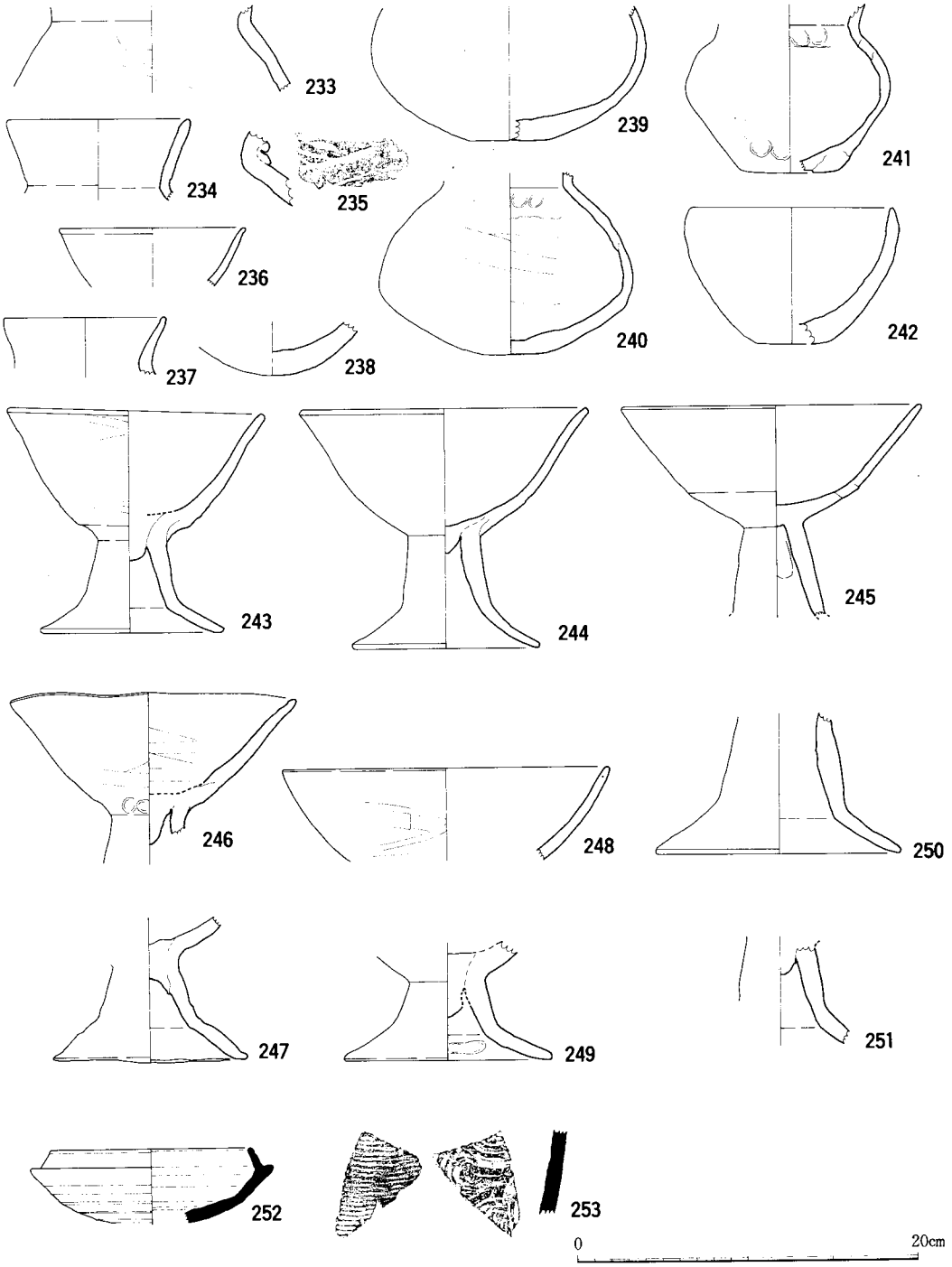


標高は69.90m

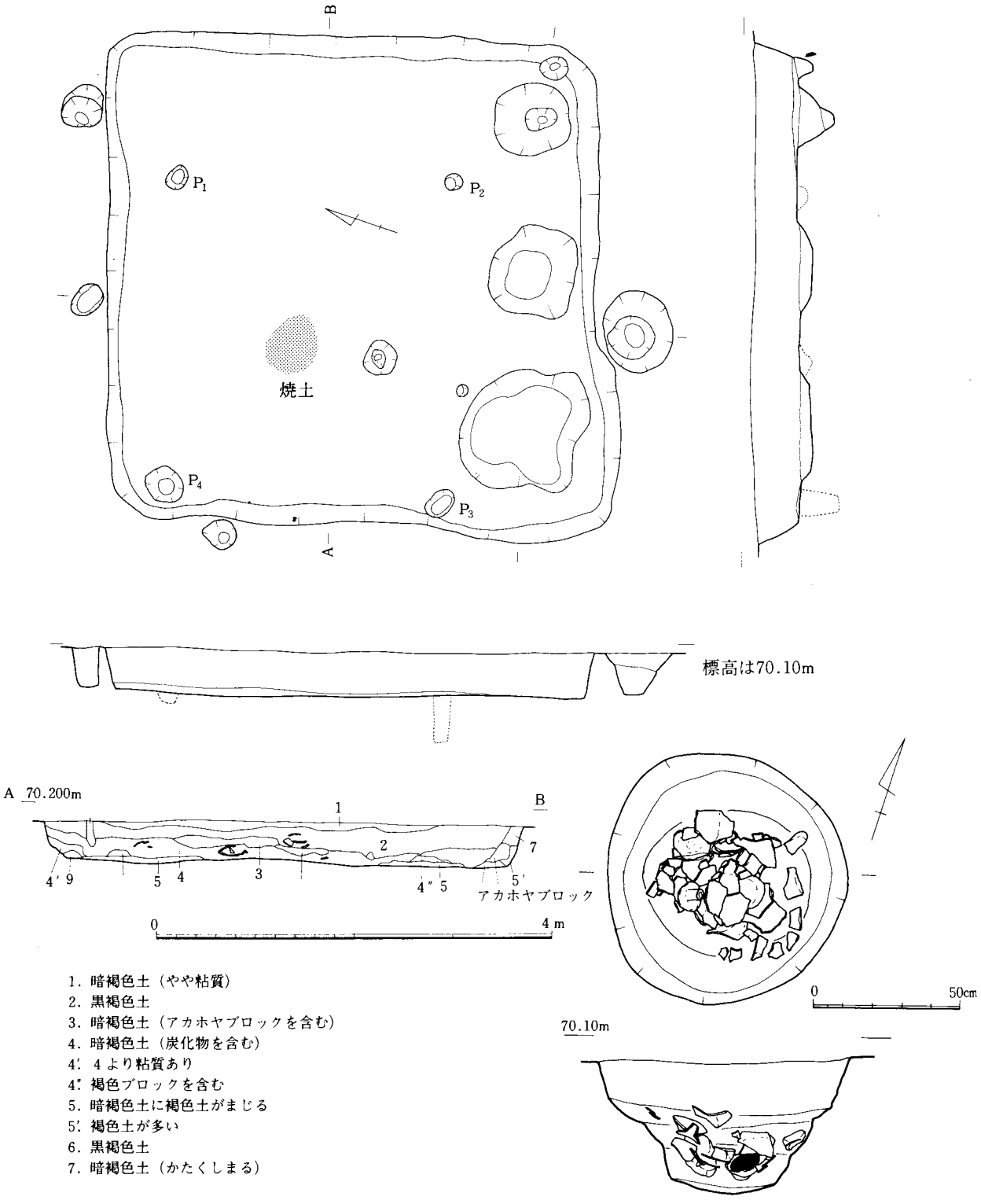
第24図　9・21住居址遺構実測図



第25図　9号住居址出土遺物実測図（2）

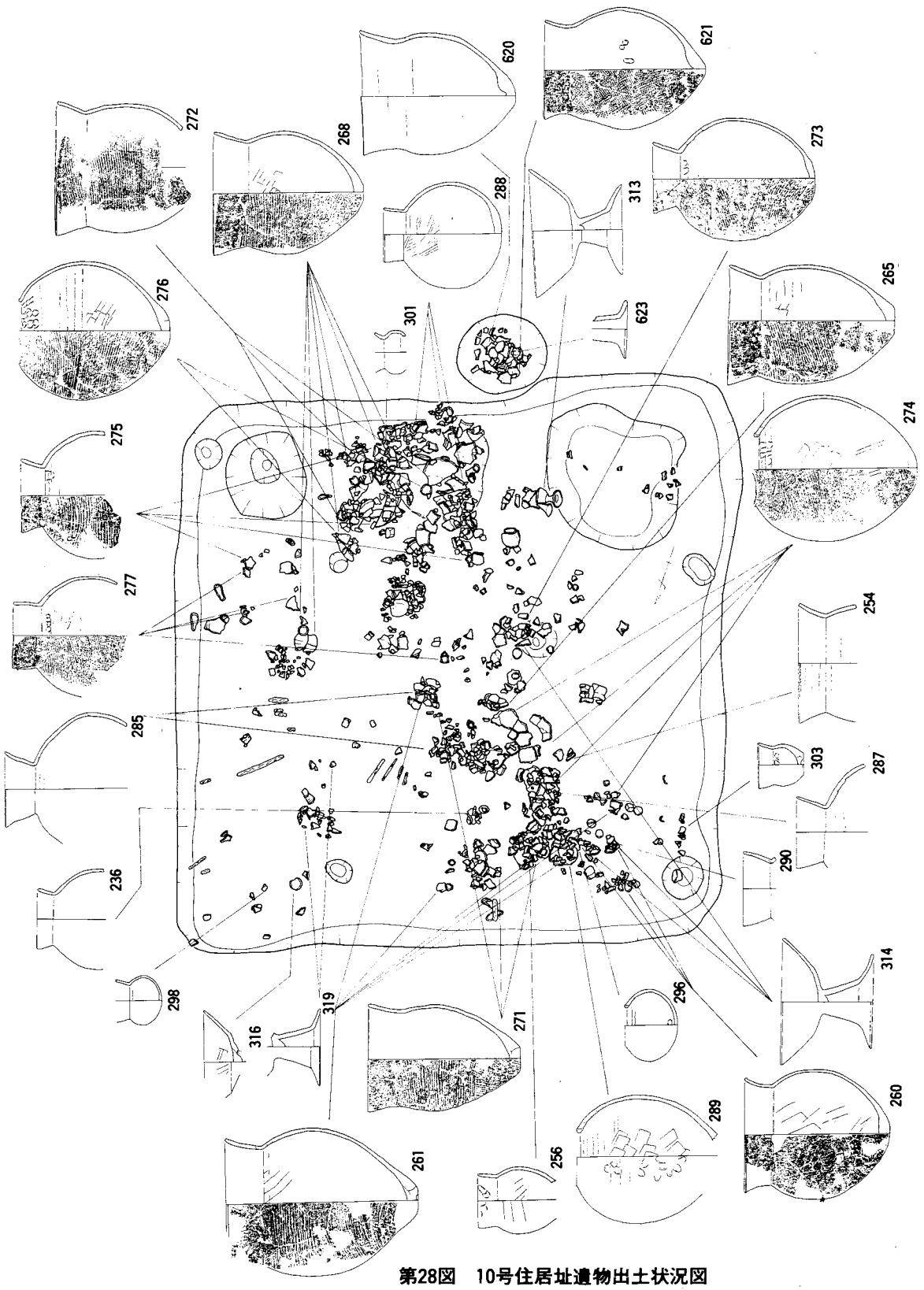


第26図　9号住居址出土遺物実測図（3）

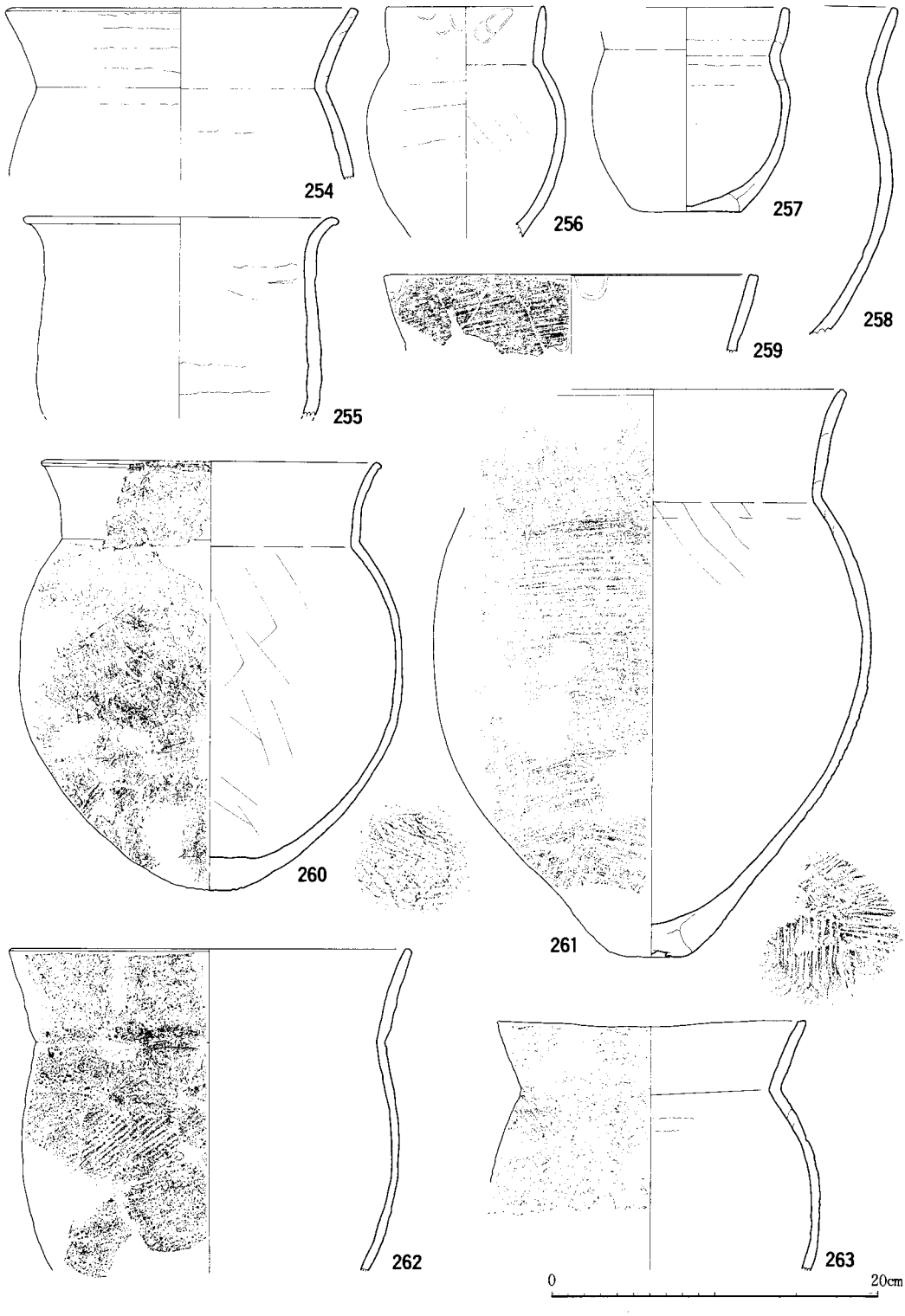


1. 暗褐色土（やや粘質）
2. 黒褐色土
3. 暗褐色土（アカホヤブロックを含む）
4. 暗褐色土（炭化物を含む）
4′ 4より粘質あり
4″ 褐色ブロックを含む
5. 暗褐色土に褐色土がまじる
5′ 褐色土が多い
6. 黒褐色土
7. 暗褐色土（かたくしまる）

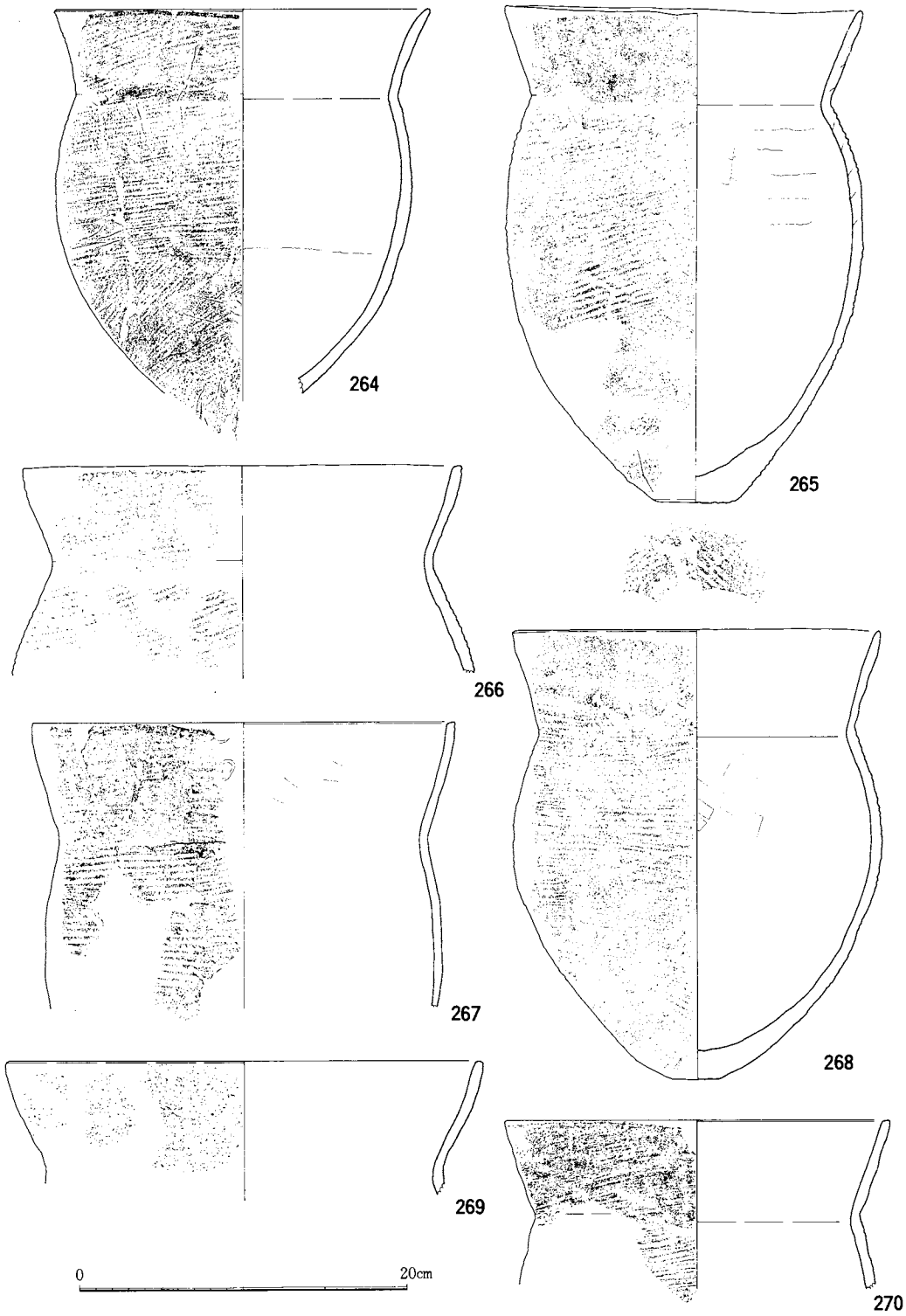
第27図　10号住居址・土坑遺構実測図



第28図　10号住居址遺物出土状況図

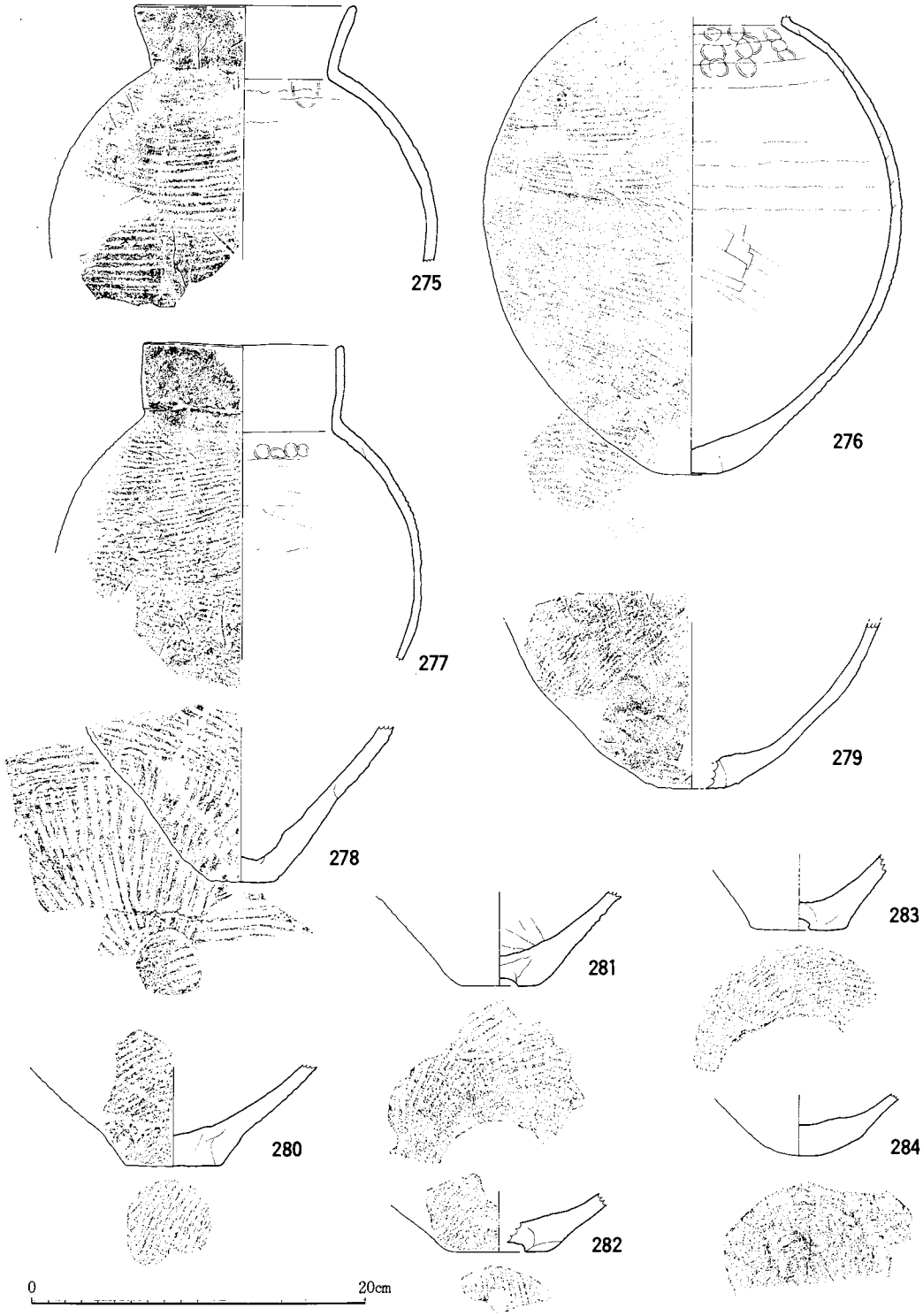


第29図　10号住居址出土遺物実測図（1）

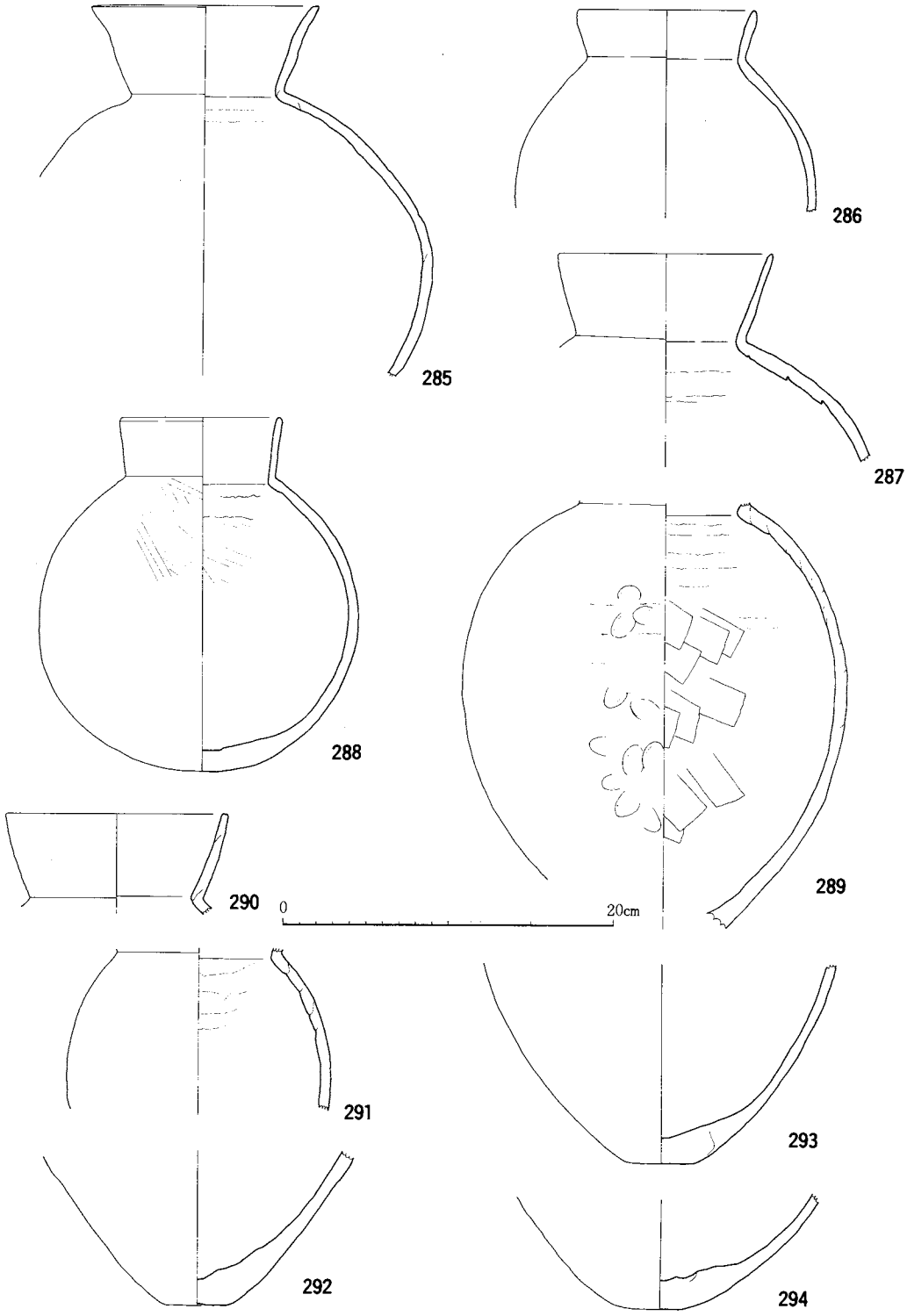


第30図　10号住居址出土遺物実測図（2）

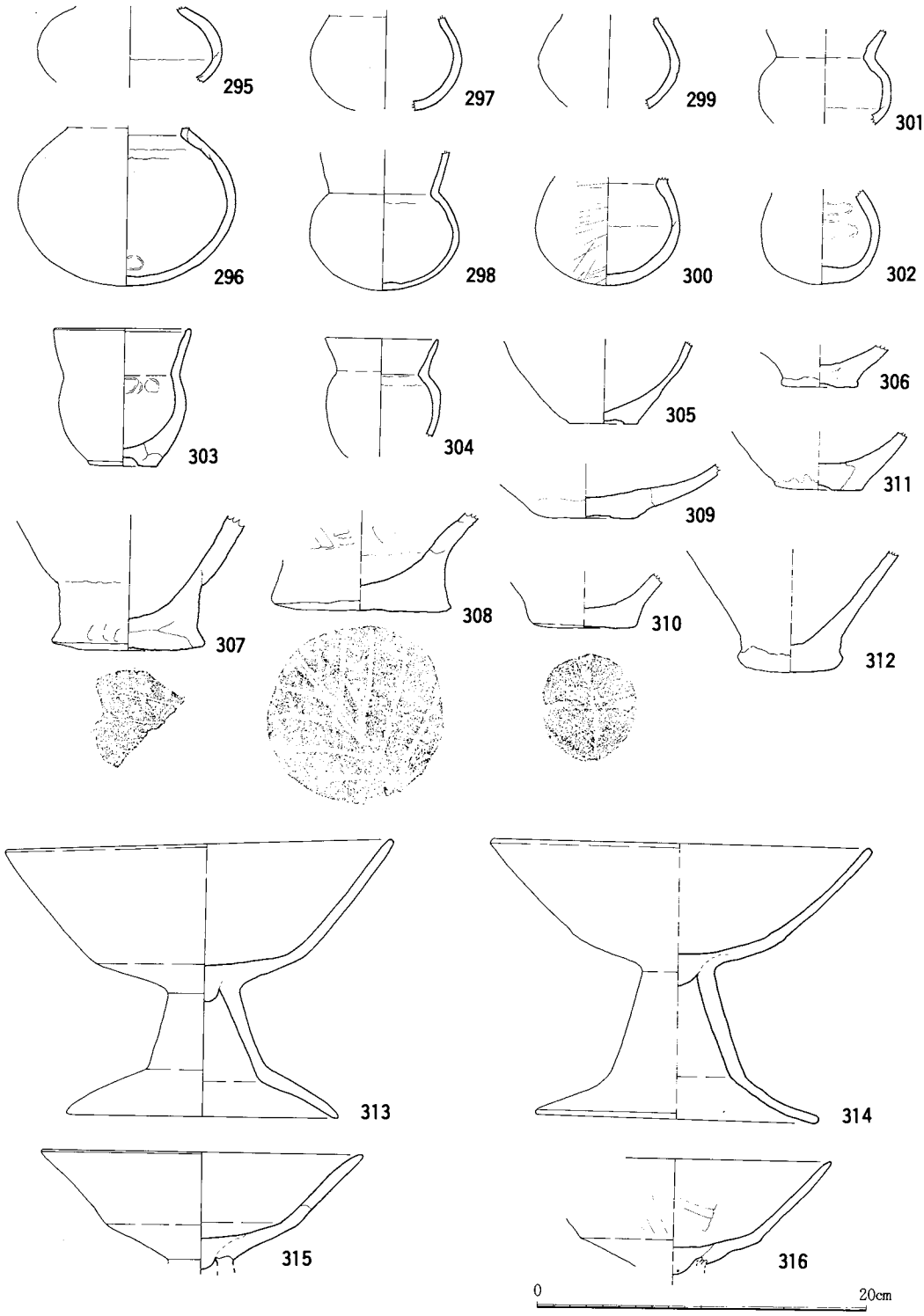
第31図　10号住居址出土遺物実測図 (3)



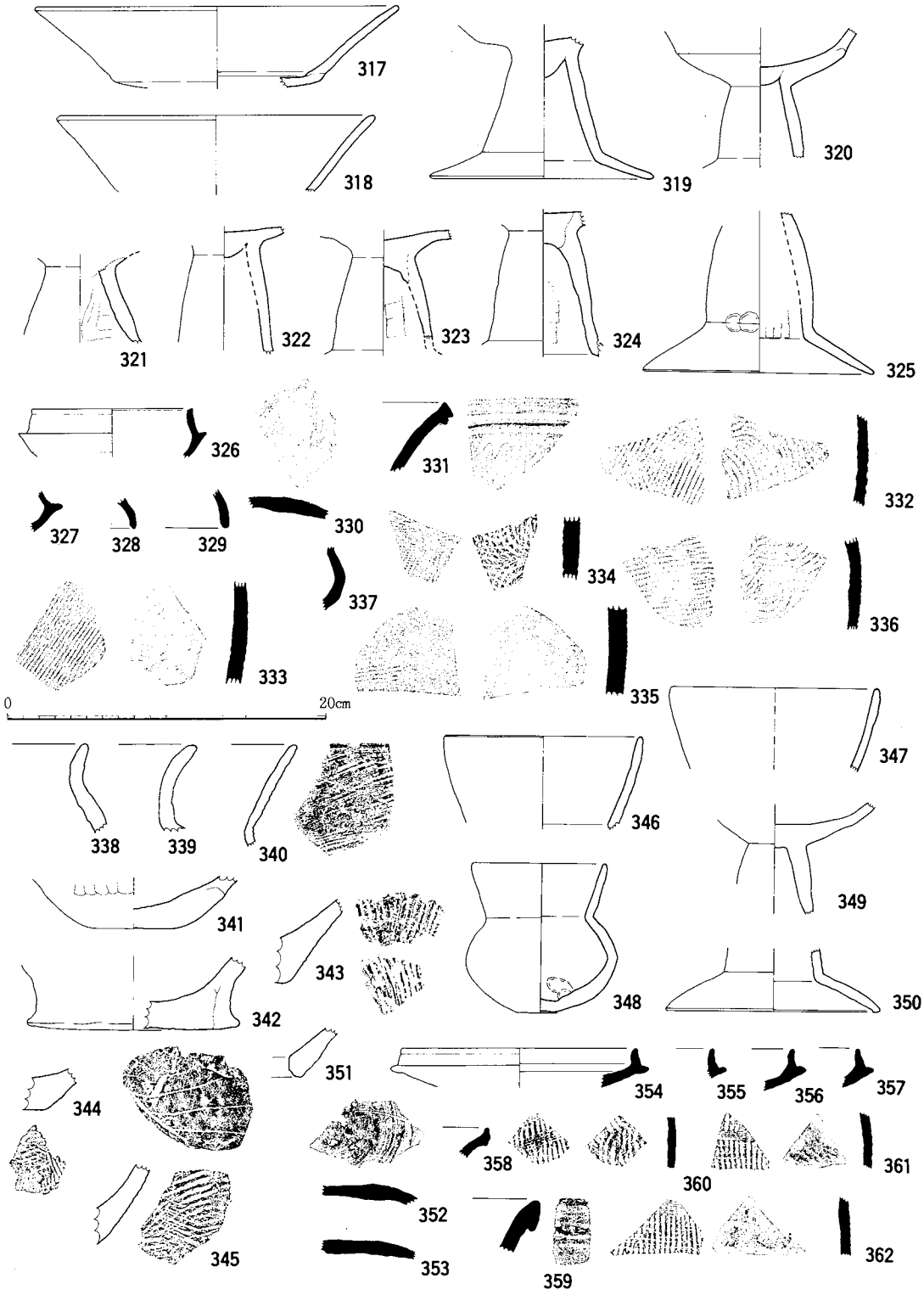
第32図　10号住居址出土遺物実測図 (4)



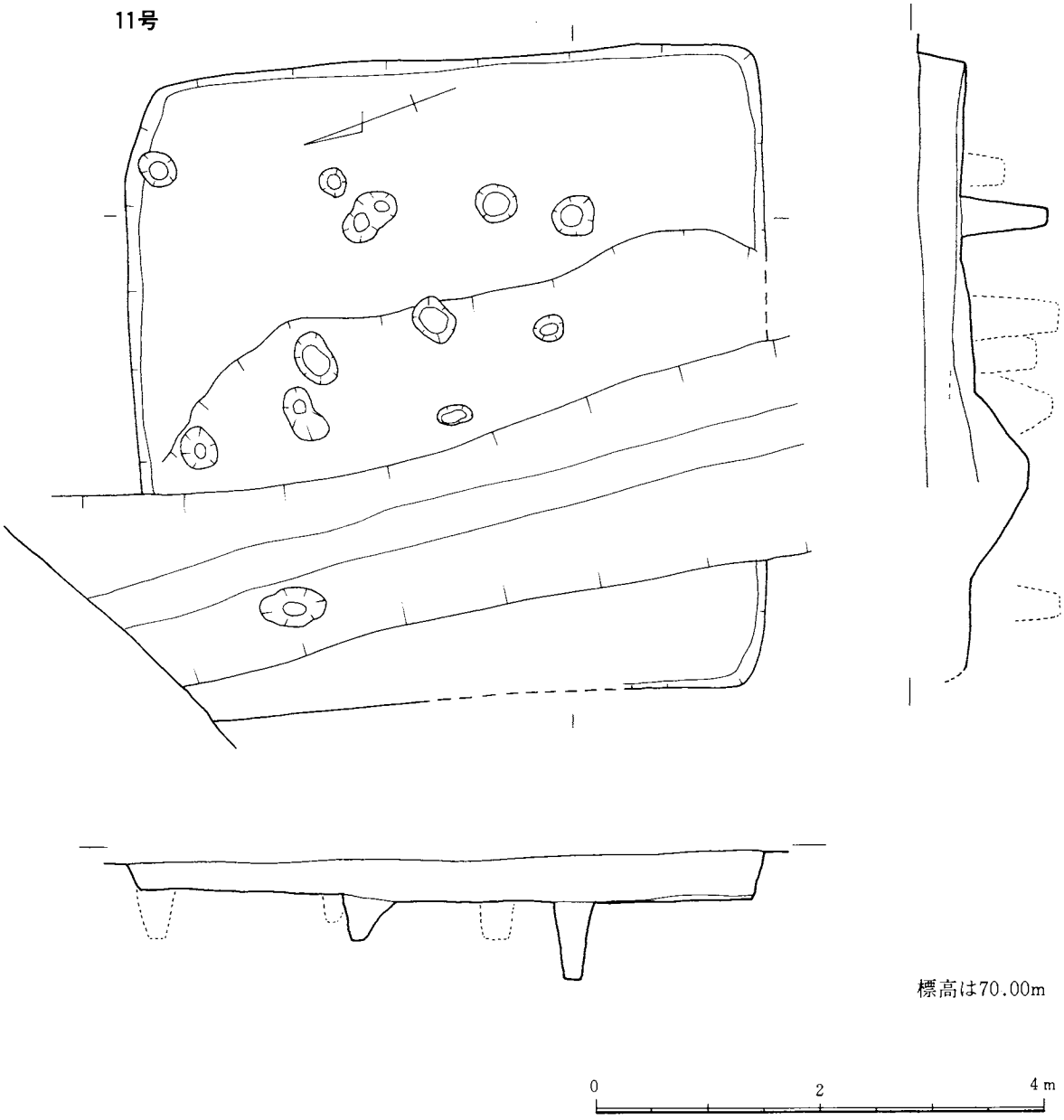
第33図　10号住居址出土遺物実測図 (5)



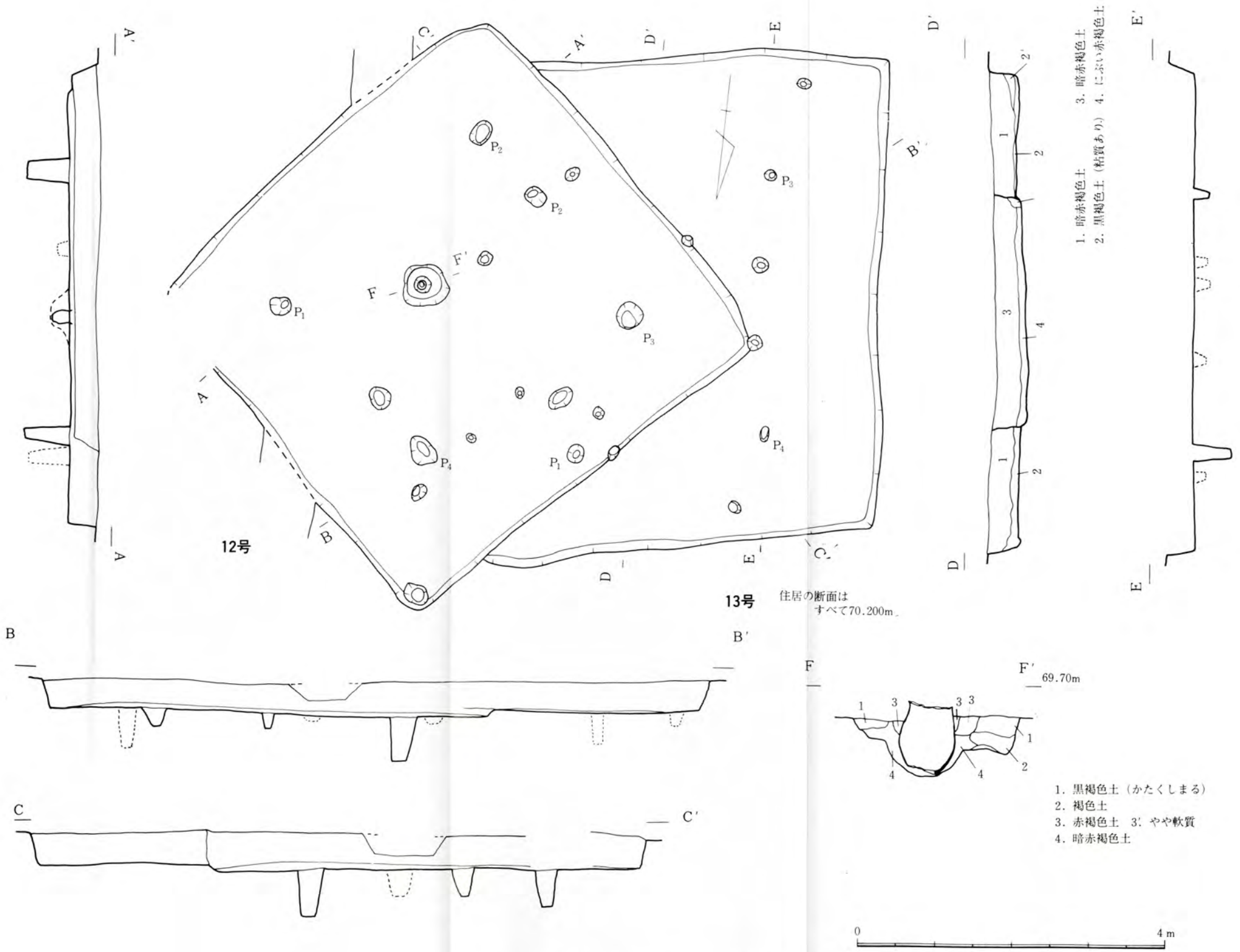
第34図　10号住居址出土遺物実測図 (6)



第35図　10・11号住居址出土遺物実測図



第36図　11号住居址遺構実測図



第37図　12・13号住居址遺構実測図

12号住居址（第37図）

10号住居の南約３ｍに位置し、13号住居、14号溝に切られる。柱穴の深さは約50㎝。柱穴間の距離は(p1-p2 3.4m／p2-p3 2.45m／p3-p4 3.25m／p4-p1 2.6m)を測る。焼土等については不明。

出土遺物（第38～39図363～403）

遺物の出土量は少ないが器種としては椀が目につく。西側壁沿いに長さ約15～20㎝の細長い河原石が６点検出された。これらの河原石は１号住居、９号住居のものと同様に砂岩製で、敲打痕や磨痕などは認められない。

甕は口縁部が長く伸びるタイプで、363は格子目タタキが施される。364は口縁部が直立し長胴の壺で内外面にナデ、指オサエを残す。その他須恵器模倣坏や内湾する口縁部の椀がある。椀には薄手と厚手がある。403は内外面に丹塗りされる。高坏脚部は柱状、外方に広がる、脚部が短いタイプがある。385は須恵器坏蓋で天井部と体部の境に明瞭な段をもち、口縁部はやや外傾し端部は段をつくっている。口径12.6㎝、器高4.2㎝、386・387は天井部と体部の境が不明瞭になり、天井部の回転ヘラケズリは１／２未満である。そのほか器形不明の鉄片などもみられる。

13号住居址（第37図）

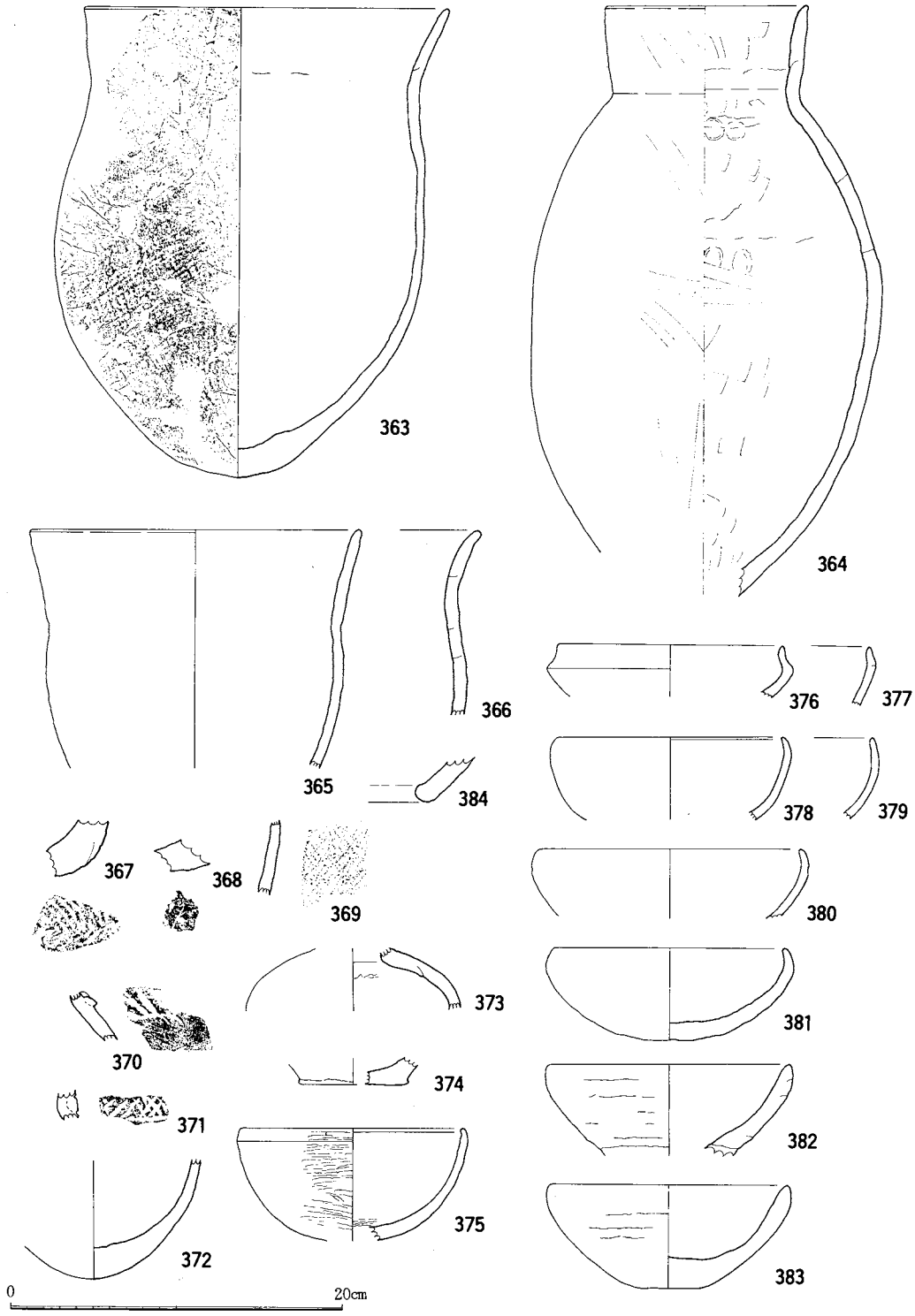
10号住居の南約３ｍ、９号住居の南西約5.5mに位置する。13号住居を切り、15号溝に切られ、さらに東側にある14号住居と接しているが前後関係は不明。柱穴の深さは48～61㎝。柱穴間の距離は(p1-p2 3.45m／p2-p3 3.05m／p3-p4 3.35m／p4-p1 2.50m)を測る。住居中央やや南東に径約50㎝の土坑が掘られ、埋甕が設置される。甕の口縁部と底部は欠損している。土坑は二段掘りされ、二段目は甕の胴部下半がちょうど収まるように掘られている。埋土は甕の周囲の土だけが赤化しており、それ以外は硬くしまった褐色土が堆積している。炭化物もそれほど認められない。

出土遺物（第39～40図404～431）

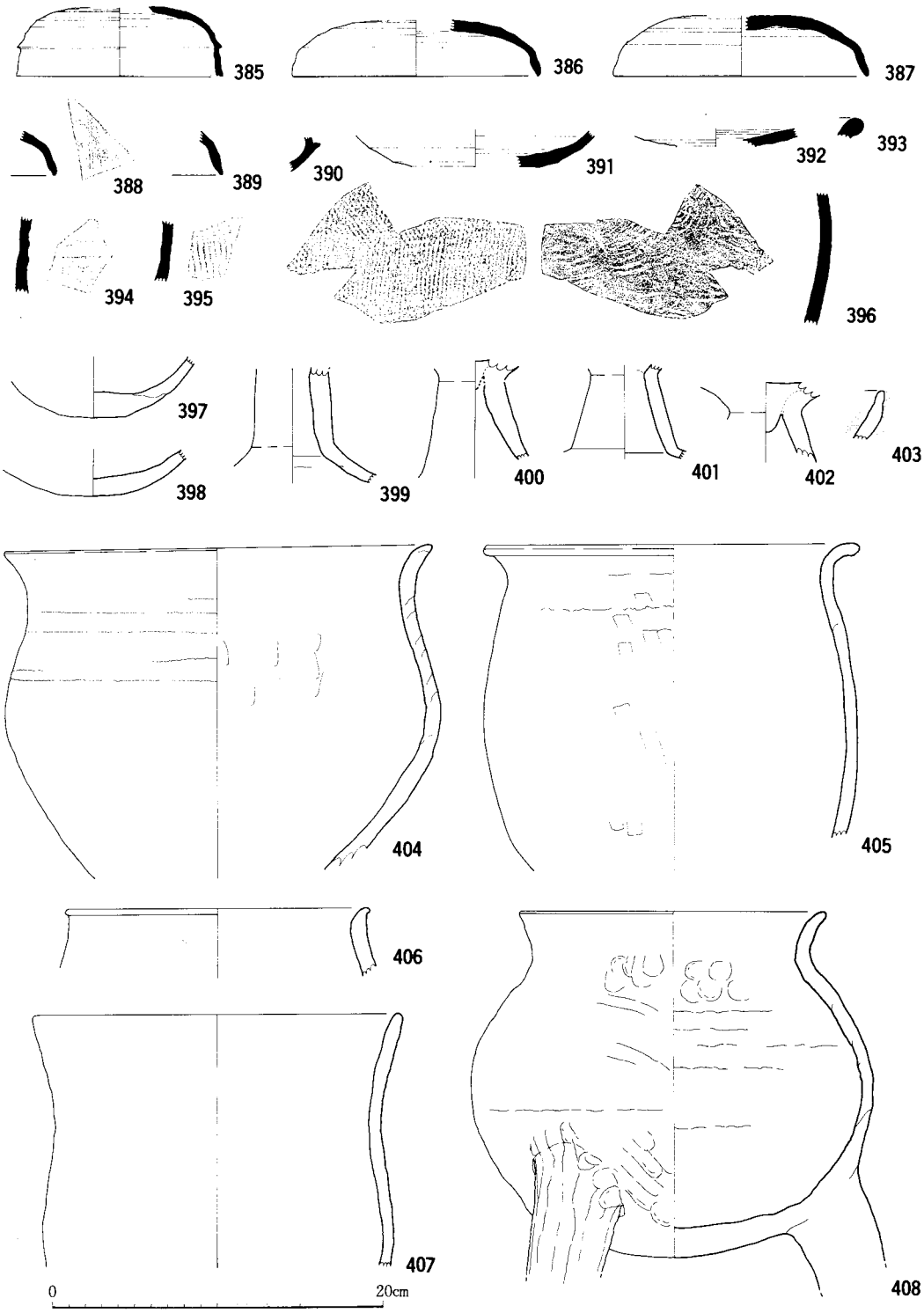
甕には口縁部は頸部に稜をなさず外反(404)、外方に延びる(407)、頸部がなく口縁部が強く外反する(405)形態がある。408は丸底の壺に三本の脚が付くと考えられる。スス等は付着していない。421は高坏の脚部で外面は丹塗りされる。須恵器の坏蓋は、422は天井部と体部の境に明瞭な段をもち、口縁部はやや外傾し端部は段を有す。423・429は天井部と体部の境が不明瞭となる。428は高坏で坏部下半に刻み目が施される。甕は外面が平行タタキ一部その後カキ目、内面は同心円文タタキのあとナデを施す。鉄器は破片で出土している。14は鉄鏃の茎で現存長6.0㎝、幅約８㎜、厚さ３㎜。

14号住居址（第41図）

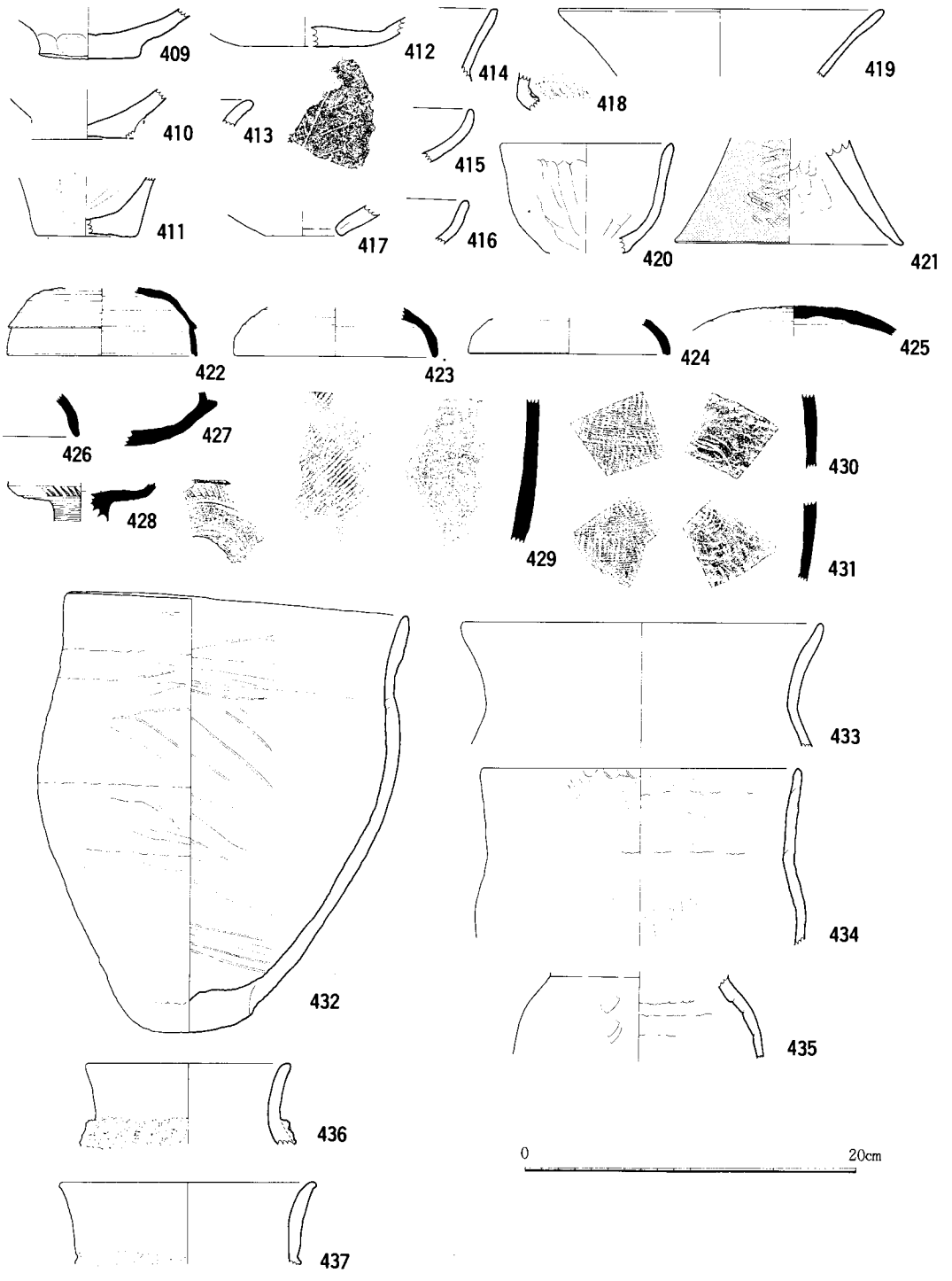
９号住居の南約２ｍに位置する。13号住居と接し、５号掘立柱建物に切られる。北壁が南壁の推定約3.4mに比べ4.5mと長く、平面形は台形を呈する。また、全周に壁帯溝が巡る。柱穴の深さは36～46㎝。柱穴間の距離は(p1-p2 1.3m／p2-p3 1.75m／p3-p4 1.25m／p4-p1 1.55m)を測る。床面中央に42～38㎝の範囲に焼土がみられ、長さ0.75×0.67m・深さ約12㎝の皿状に掘り込まれた不



第38図　12号住居址出土遺物実測図



第39図　12・13号住居址出土遺物実測図



第40図　13・14号住居址出土遺物実測図

定形の土坑が確認された。土坑の埋土は全体に暗赤褐色を呈し、硬くしまる。

出土遺物（第40～42図432～448）

甕は頸部が締まらず口縁部が長くのびる。壺は長胴になる形態で、436は頸部に幅広の突帯を付し「x」状の刻み目が、437は頸部に刻み目が施される。443は坏部が深く、脚部が短く裾部が長く広がる。坏部と脚部とは充填法ではなく接合法と推定される。444は脚部が柱状を呈し、坏部と脚部の接合部は厚くなる。鉄器は鉄鎌が2点出土し同一個体と考えられるが接合はできなかった。曲刃鎌で身はやや内反りし、基部はわずかに折り返し木柄装着部をつくっている。長さは12cm前後と推定される。

15号住居址（第41図）

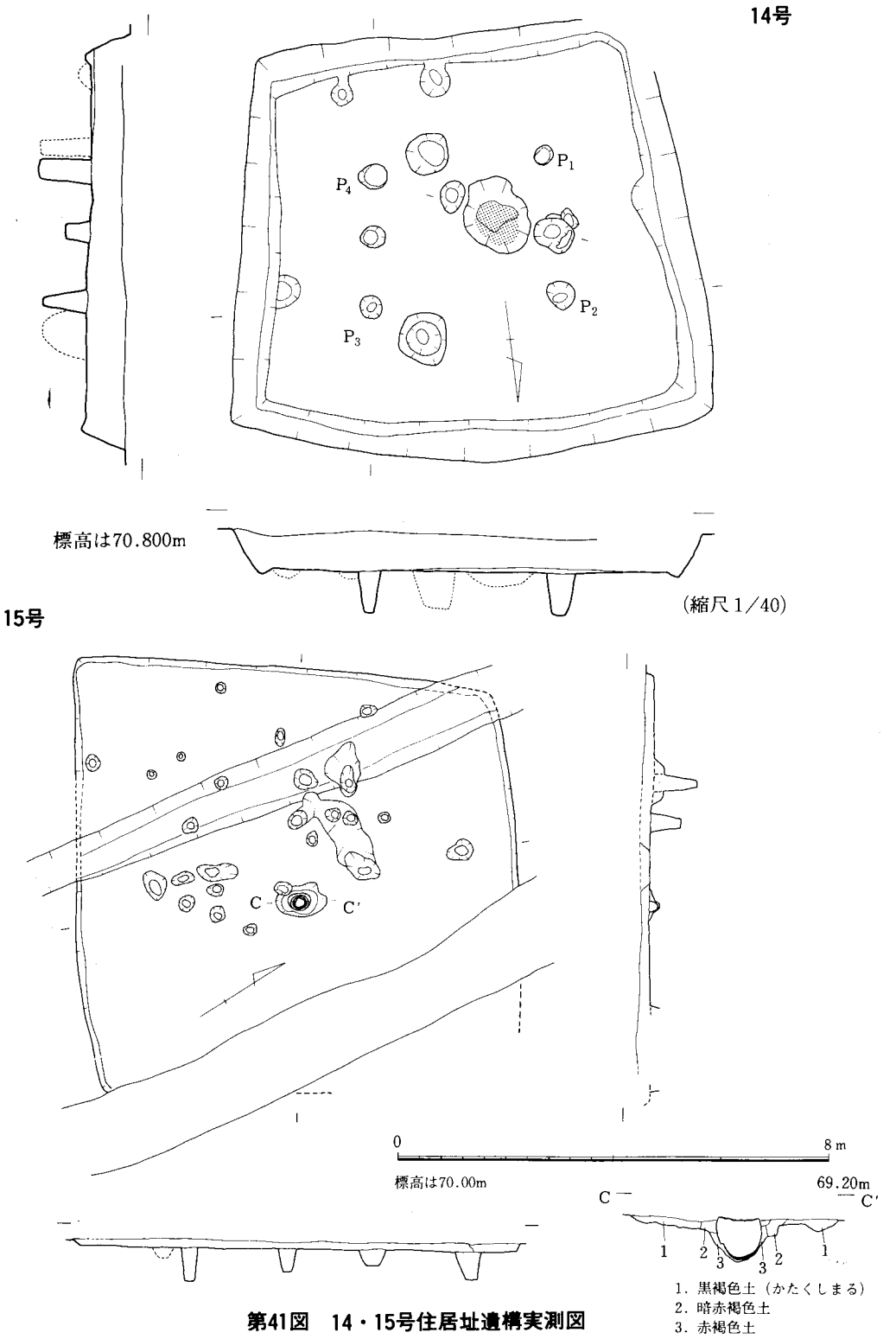
12号住居の西約2mに位置するF地区最大規模の住居址である。13・11号溝に切られる。19・12号溝との関係は不明。東側は13号溝によって遺構が不明瞭で、西側は傾斜地となり、アカホヤ層が削平され壁の立上がりもわずかに認められるだけで、遺構としては良好な残りとはいえない。住居の平面形は北壁に比べ南壁が長く台形状（菱形に近い）を呈する。床面に十数個の柱穴は検出され、深さ70～80cmの柱穴もみられるが主柱穴は確定できなかった。住居中央やや南東よりに約90×60cmの土坑が掘られ、埋甕が設置される。甕の口縁部は欠損している。土坑は二段掘りされ、一段目は深さ約4cmと浅く、二段目は甕の胴部下半がちょうど収まるように径30cmほど掘られる。埋土は甕の周囲の土だけが赤化しており、それ以外は硬くしまった褐色土が堆積している。

出土遺物（第42～43図449～480）

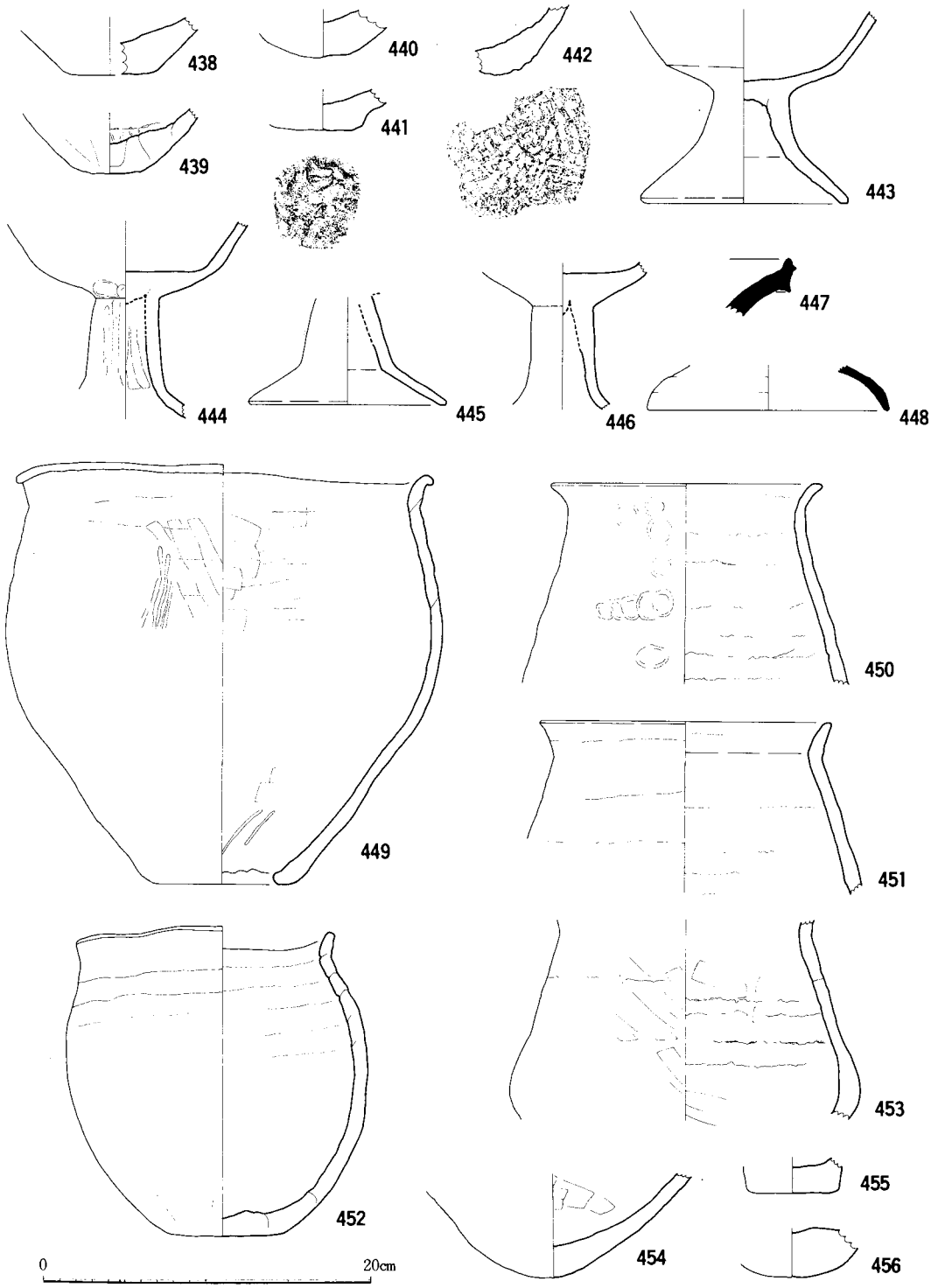
遺物は、遺構の状況が良好でなかったが、土師器は甕・甑、丹塗りの高坏、須恵器では坏蓋・坏身・提瓶・甕が出土している。土師器では甕は口縁部が強く外反し、胴部下に最大径がくる。内外面は粘土接合面が未調整で残される。甑(449)は最大径となる胴部中位から急にしまる。底部は単孔である。高坏(457)は坏部が椀状をなし、内外面丹塗りされる。脚部の接合部は、厚く粘土充填後、脚部内部から再度粘土が充填されている。須恵器坏身は、立上がりが内傾し、口径も11.2～15.3cmと大きい。提瓶(469)は把手が退化しカギ形を呈し、頸部にはヘラ記号がつけられる。外面調整は正面はカキ目だが、側面では平行タタキが観察できる。甕は外面には平行タタキ、平行タタキの後カキ目、擬格子目タタキなどが用いられ、内面は同心円文タタキが施される。鉄器は、8が長頸鏃と推定されるが、鏃身部は錆が著しく明瞭ではない。現存長約12.7cm、鏃身長約2.5cm、身幅1.0cm。石器としては砥石が1点出土している。

16号住居址（第44図）

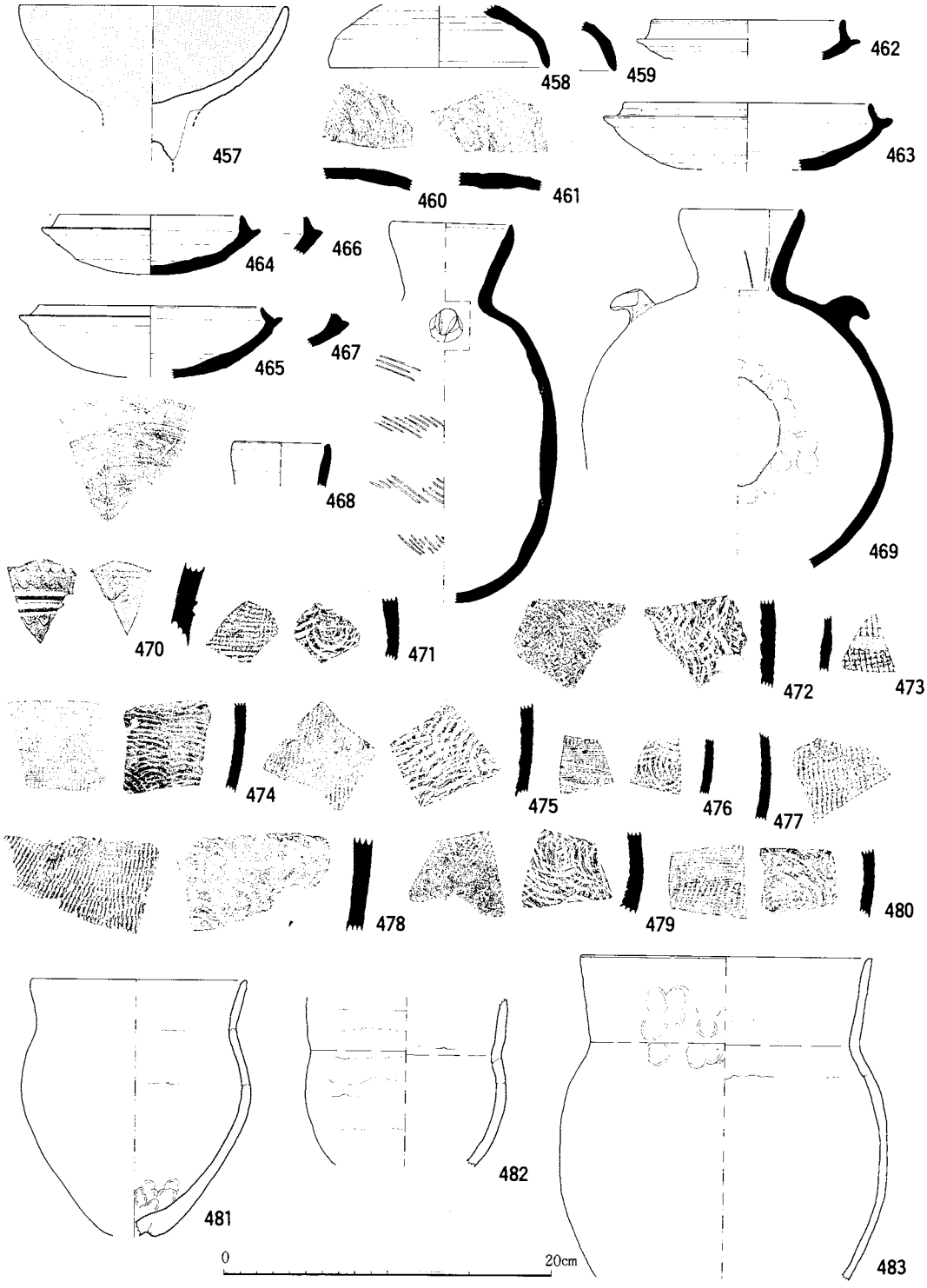
13号住居の南約13mに位置し、8号・9号掘立柱建物に切られる。北東隅に径約90cmの円形の張り出しを有するが、土層では土壙との切り合い関係かどうかは確認できなかった。柱穴の深さは38～45cm。柱穴間の距離は(p1-p2 2.05m／p2-p3 2.25m／p3-p4 2.05m／p4-p1 2.0m)を測る。その他にも床面から柱穴が検出されているが、深さが15～20cmと主柱穴には浅いと考えられる。床面中



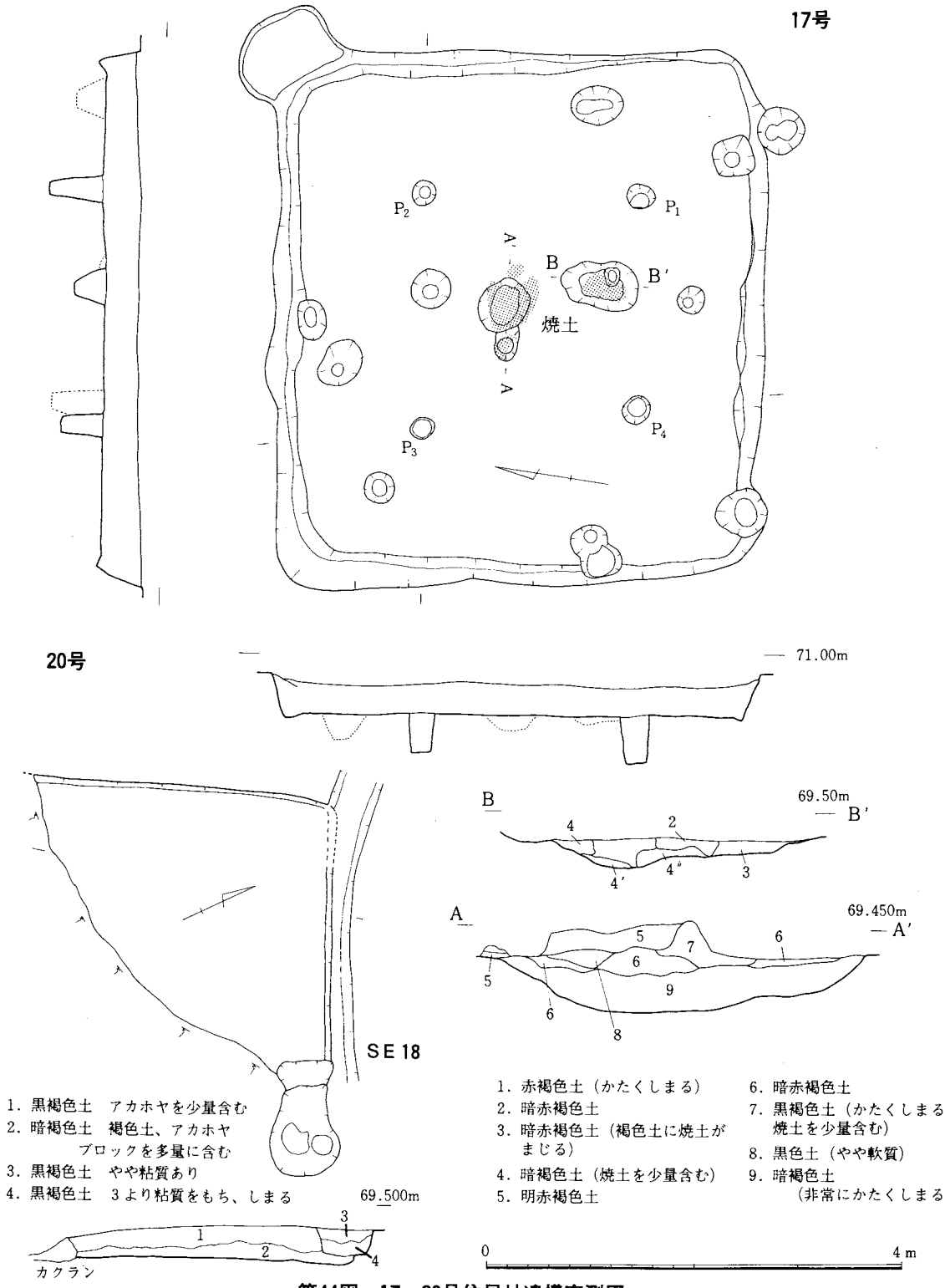
第41図　14・15号住居址遺構実測図



第42図　14・15号住居址出土遺物実測図



第43図　15・17号住居址出土遺物実測図



第44図　17・20号住居址遺構実測図

央二箇所に焼土が検出され、北側が42～26cm、南側が62～42cmの範囲に広がり、それぞれ浅い皿状に掘り込まれた不定形の土坑が設けられる。土坑の埋土は全体に暗赤褐色を呈し、硬くしまる。

出土遺物（第43～48図481～537）

遺物は床面からや10～15cmういた状態で検出され、484や493の甕は床面より約10cmういて、532は床面より出土している。

甕は口縁部は頸部に稜をなさず外反し、底部は尖底あるいは厚手の丸底を呈す。493は頸部に幅広の刻み目突帯がつき、外面にススが付着する。486は平行タタキの後ナデ調整が施される。壺は長胴で平底をなすものや直口壺で胴部があまり張らない形態がある。高坏は515のように坏部が深く、脚部が直線的に広がり、裾部が屈折して開くタイプのほか、脚部が内湾するもの(509)がある。須恵器坏身531は立上がりは高いが内傾し、端部の段はみられない。532は瓶で床面より出土。口径8.8cm、器高11.5cm。口唇部はわずかにくぼみ、口頸部の稜は鋭く、胴部は肩が強く張る。内外面ともナデ調整で外面には櫛描波状文はみられない。甕は外面平行タタキ、内面同心円文タタキの後ナデ調整。石器は敲石、磨石が、鉄器としては刀子が二本出土した。9は両関で、身部には一部布が付着している。現存長5.1cm、身幅1.6cmを測る。10は茎部に把木が遺存している。関は片関と想定される。目釘孔はみられない。現存長3.2cm、茎長約1.8cm。13は鉄鏃の茎部で現存長推定で5.2cm、厚さ0.3cm、先端部には薄い刃先状の鉄片が付着している。

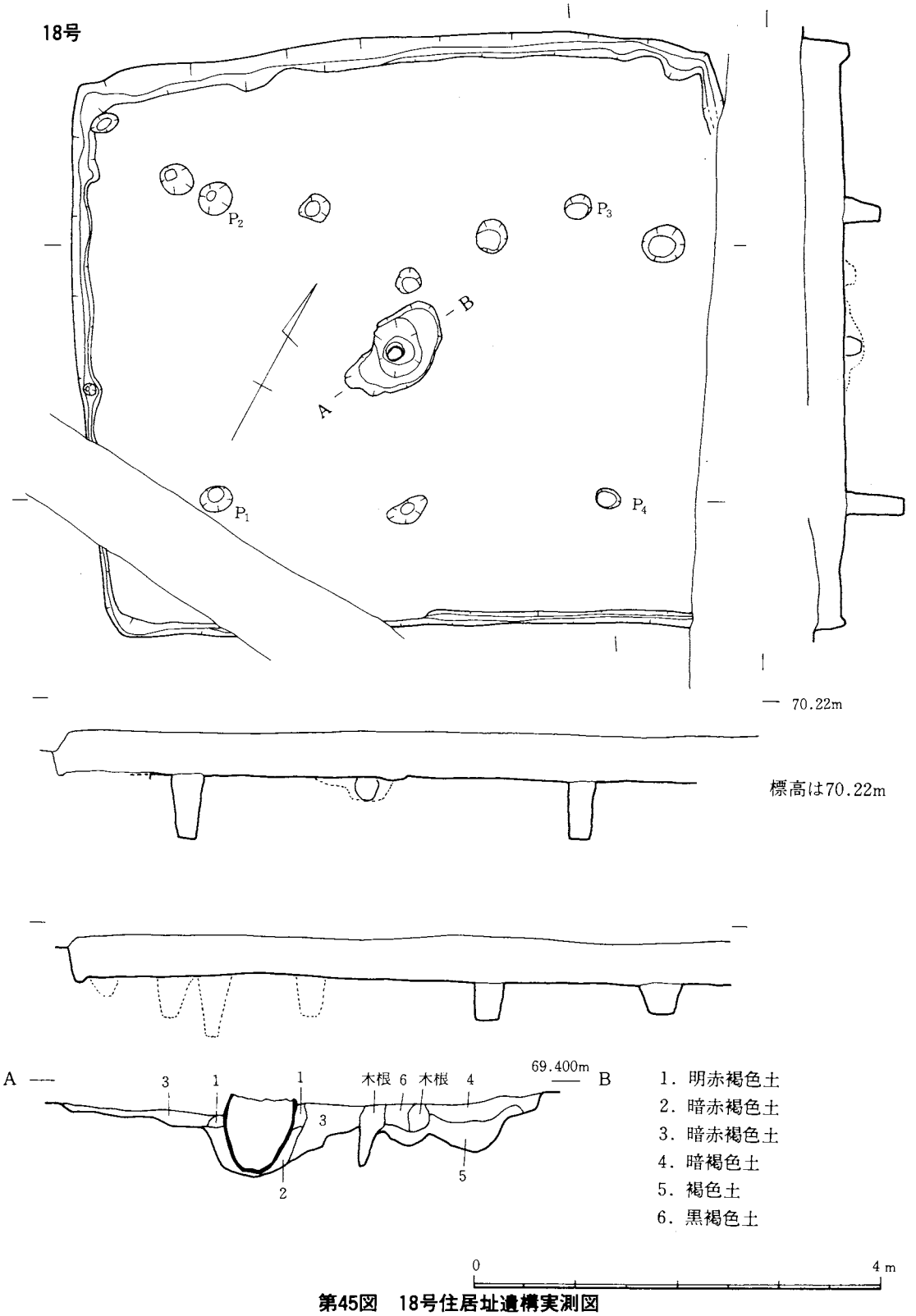
18号住居址（第45図）

16号住居の南西約2mに位置する。13・17・19号溝、　号掘立柱建物に切られる。全周に壁帯溝が巡ると思われる。柱穴の深さは33～59cm。柱穴間の距離は(p1-p2 2.95m／p2-p3 3.6m／p3-p4 2.85m／p4-p1 3.8m)を測る。主柱穴は5本の可能性もあるがp5は深さ24cmと浅く、p4－p5は1.95m、p5－p1は1.85mを測る。住居中央に約1.15×0.68mの土坑が掘られ、埋甕が設置される。甕の口縁部は欠損している。土坑は二段掘りされ、一段目は深さ約5cmと浅く、二段目は甕の胴部下半がちょうど収まるように掘られる。埋土は甕の周囲の土だけは赤化し、特に胴部上半部に接する埋土はそれが著しく、明赤褐色を呈している。

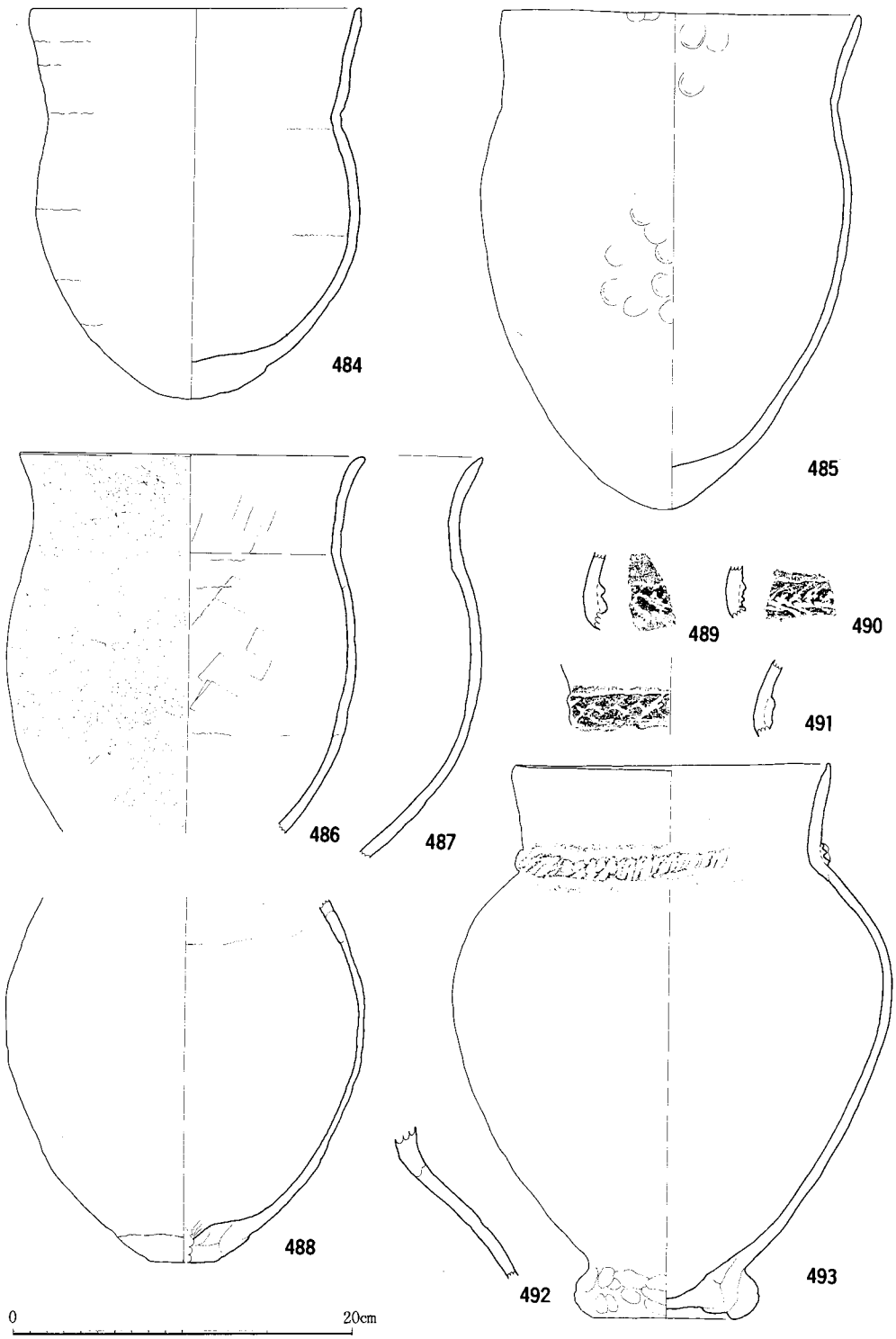
出土遺物（第49～52図538～598）

土器の種類は、土師器では甕・壺・坏・甑、丹塗りでは鉢・脚付き坏・高坏が、須恵器では坏蓋・坏・甕・高坏など豊富に出土している。出土位置をみると大部分は中央から東半分で検出され、その中で北側から東にかけては土師器の甕が、南側では丹塗りがまとまる傾向がみられる。

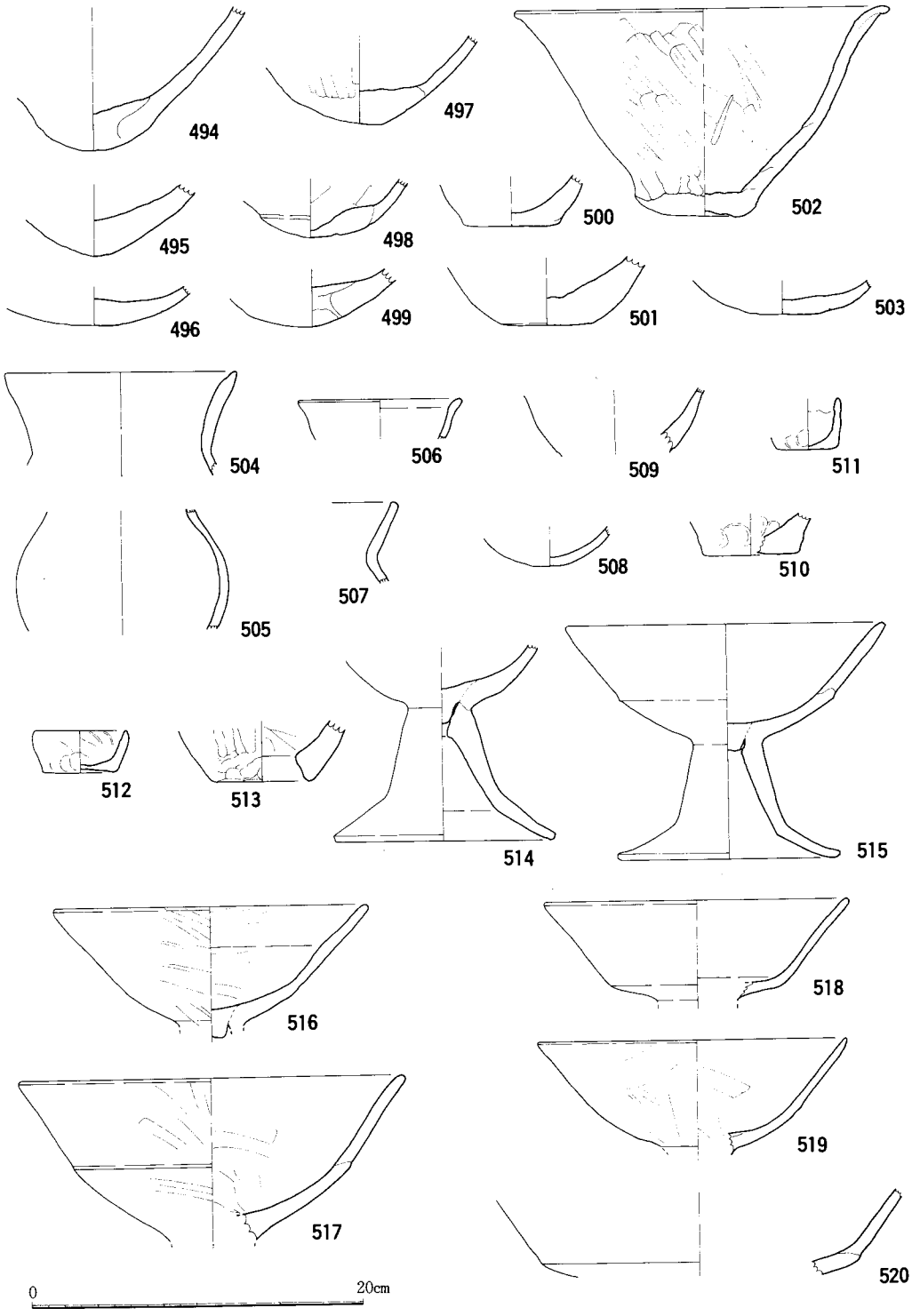
甕は胴部中位が張るタイプと長胴のものがあり、底部に木の葉底ものものが見られる。558は球形の胴部で厚手の丸底の壺である。口縁部は上方に伸びわずかに外反する。鉢559は口縁部が内傾し、底部は平底。口径17.2cm、器高12.3cmを測る。563は須恵器模倣坏身でヘラミガキされる。570～577は丹塗り土器で、570・571は口縁部が外反する椀で後者は脚付きである。572・575～576は高坏で脚部は厚手で外方に開く。578は片口土器で顕著な片口をつくり出している。内外面ともナデ調整。579は甑で器高が27.5cmと高い。須恵器坏蓋(564～586)は天井部と体部の境が不明瞭で、口



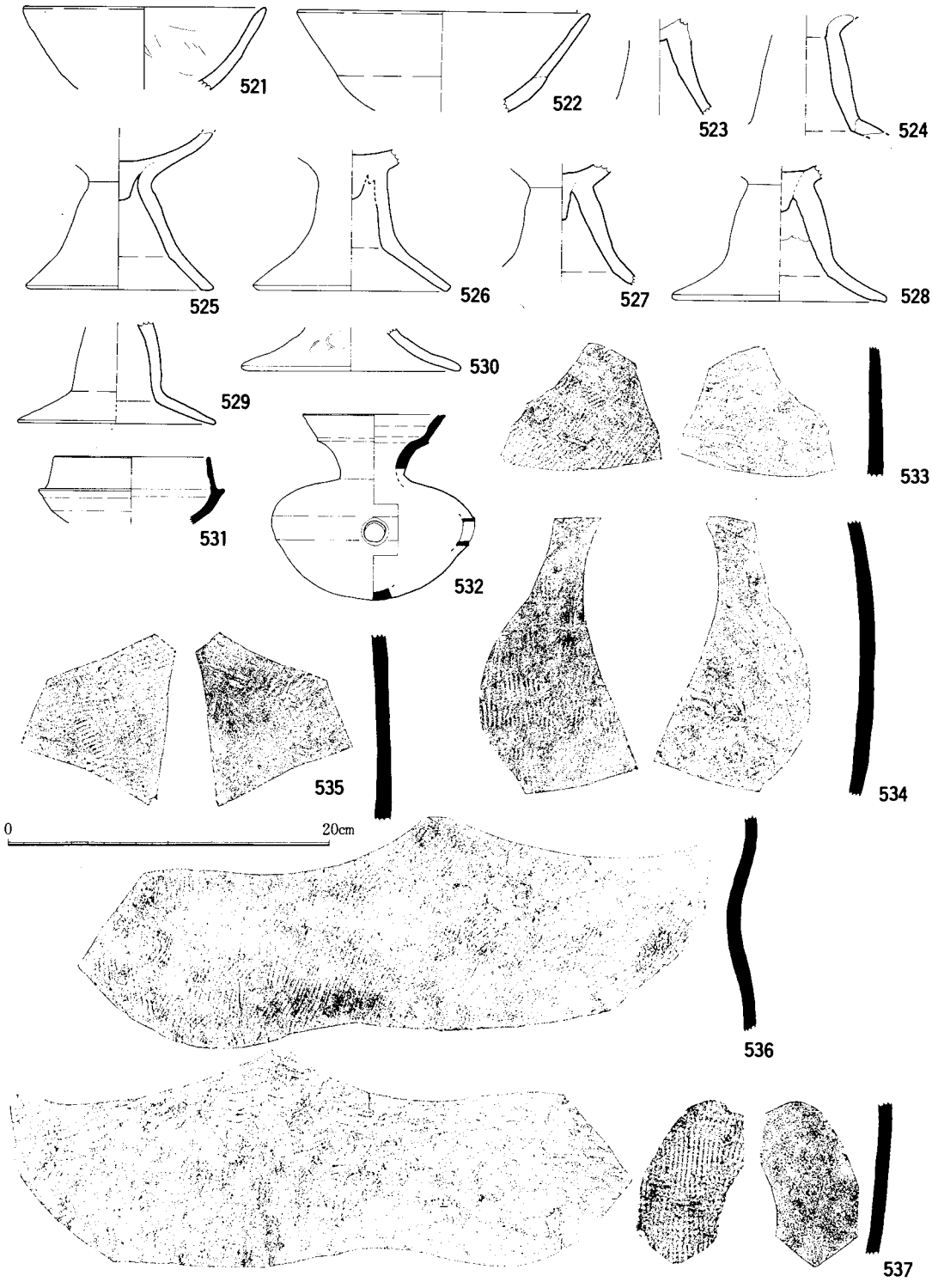
第45図　18号住居址遺構実測図



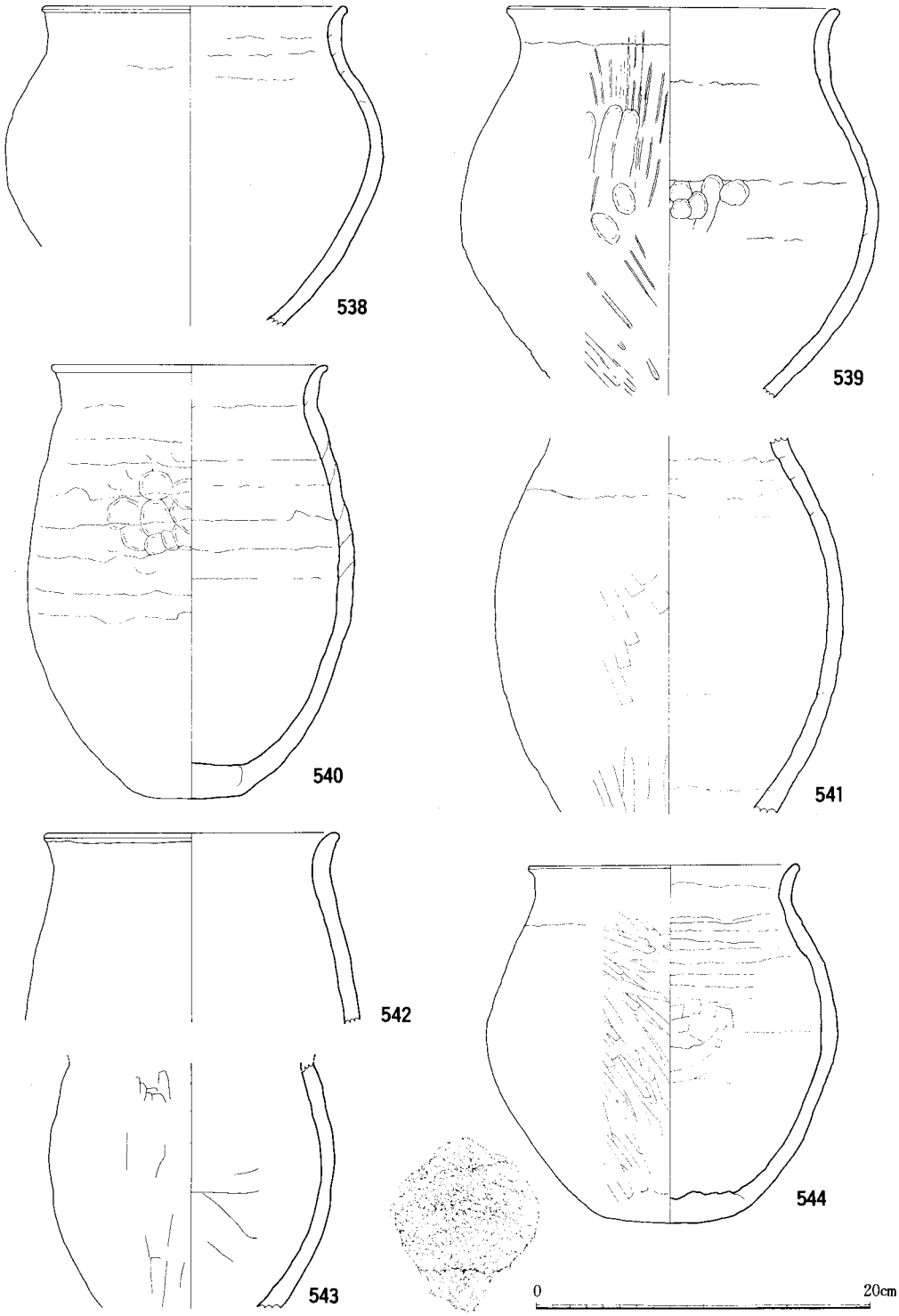
第46図　17号住居址出土遺物実測図（1）



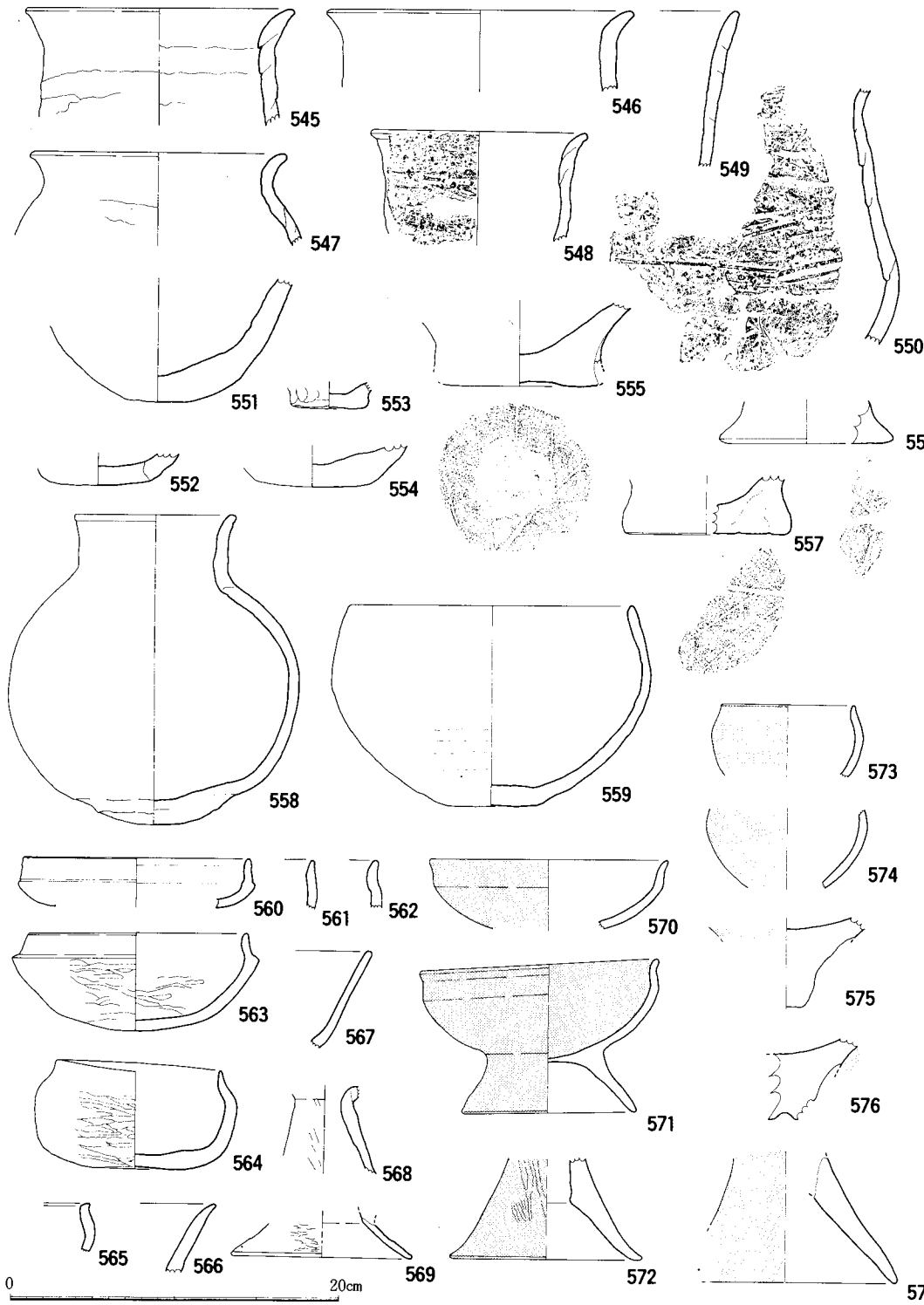
第47図　17号住居址出土遺物実測図（2）



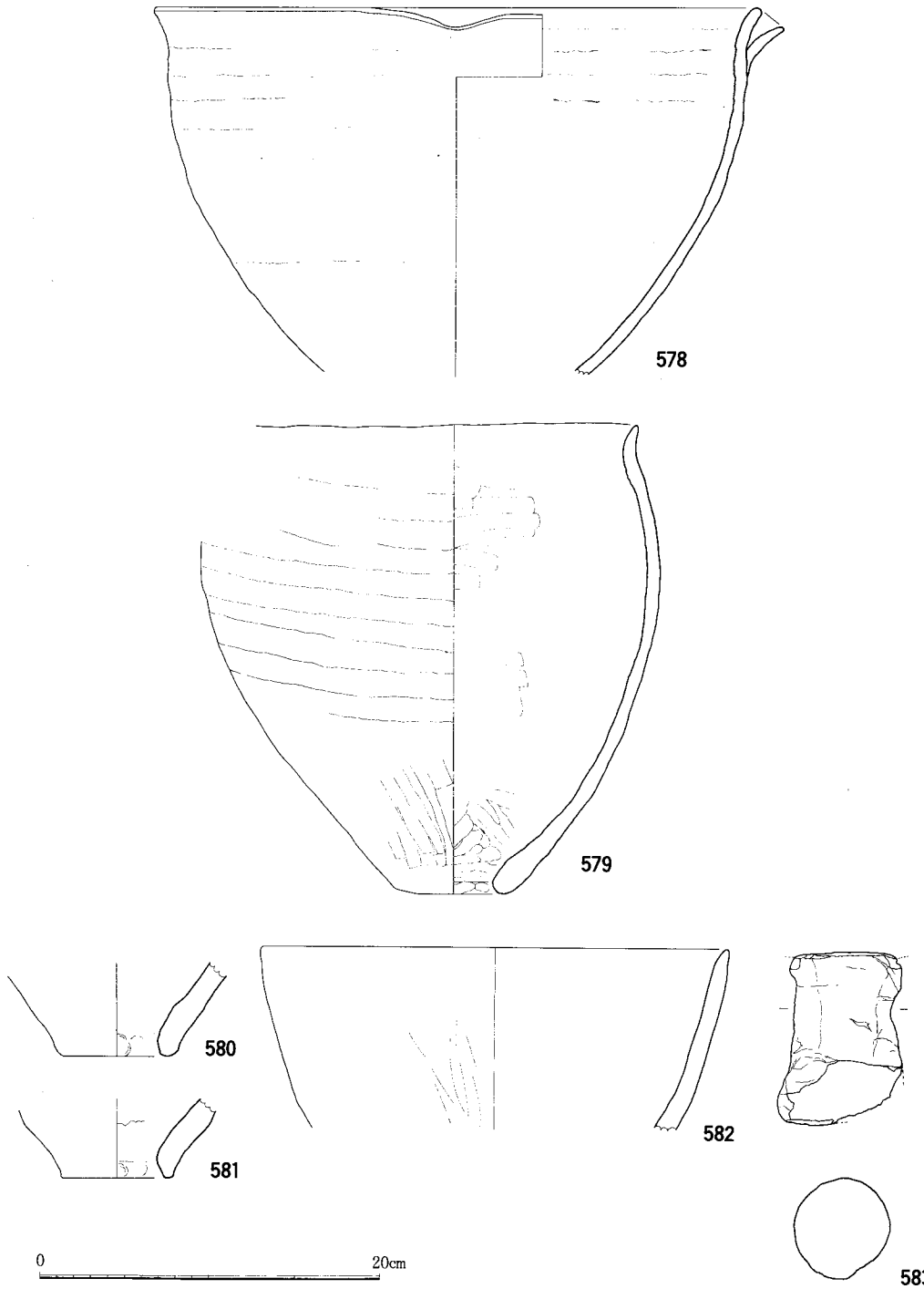
第48図　17号住居址出土遺物実測図 (3)



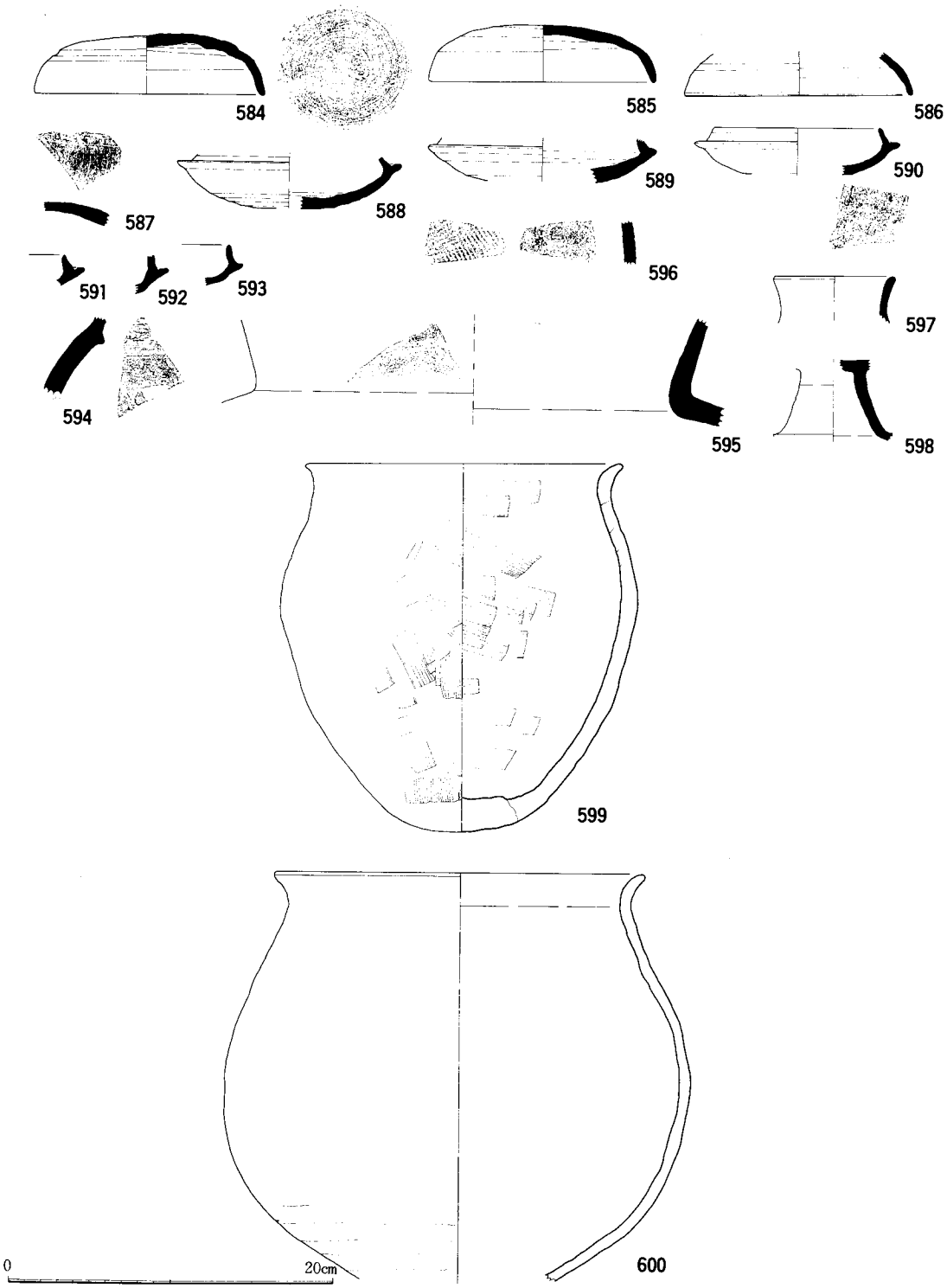
第49図　18号住居址出土遺物実測図（1）



第50図　18号住居址出土遺物実測図（2）



第51図　18号住居址出土遺物実測図（3）



第52図　18・19号住居址出土遺物実測図

径13.8～14.2cm。坏身は、立上がりが内傾し、回転ヘラケズリは体部下半にのみみられる。そのほか甕や高坏(598)も出土している。石器には砥石や磨石が、鉄器としては鉄鏃が2点ある。11・12は長三角形式で直角関を呈する。11は現存長9.3cm、鏃身長5.1cm、12は関がやや外に広がり、現存長7.6cm、鏃身長5.5cmを測る。茎部については不明。

19号住居址（第53図）

18号住居の南約5.5mに位置し、15号住居に次ぐ大きさである。柱穴の深さは24～44cm。柱穴間の距離は(p1-p2 4.1m／p2-p3 3.65m／p3-p4 4.5m／p4-p1 4.05m)を測る。住居の残りが良好でなく検出面からの深さも約10cmと浅い。それに伴い遺物の残存状況も良くなく、遺物量も少ない。床面は暗褐色土とアカホヤブロックとが混じった土で貼床が施される。

出土遺物（第52～54図599～615）

土師器では甕は口縁部が強く外反し、胴部があまり張らないものと球形になる形態がある。602は壺で丸底を呈し、外面の調整はヘラミガキが施される。603は平底をなす鉢で外面はヘラミガキ。丹塗りとしては609・612の高坏、611の椀が出土している。そのほか鉄片数点がみられる。

20号住居址（第44図）

19号住居の南西約3m、F地区の最南端に位置し、17号溝に切られる。また、南側半分がすでに削平されていた。柱穴、焼土等については不明。須恵器甕の破片、そのほか鉄片がが出土している。

21号住居址（第24図）

11号住居の西約2mに位置し、11・25号溝に切られる。さらに削平によって西側1／2以上が消失している。そのため住居の規模・柱穴等は不明だが、北側の壁がSE11の北に延びていないことから一辺約2.6mの大きさが想定される。遺物は出土していない。

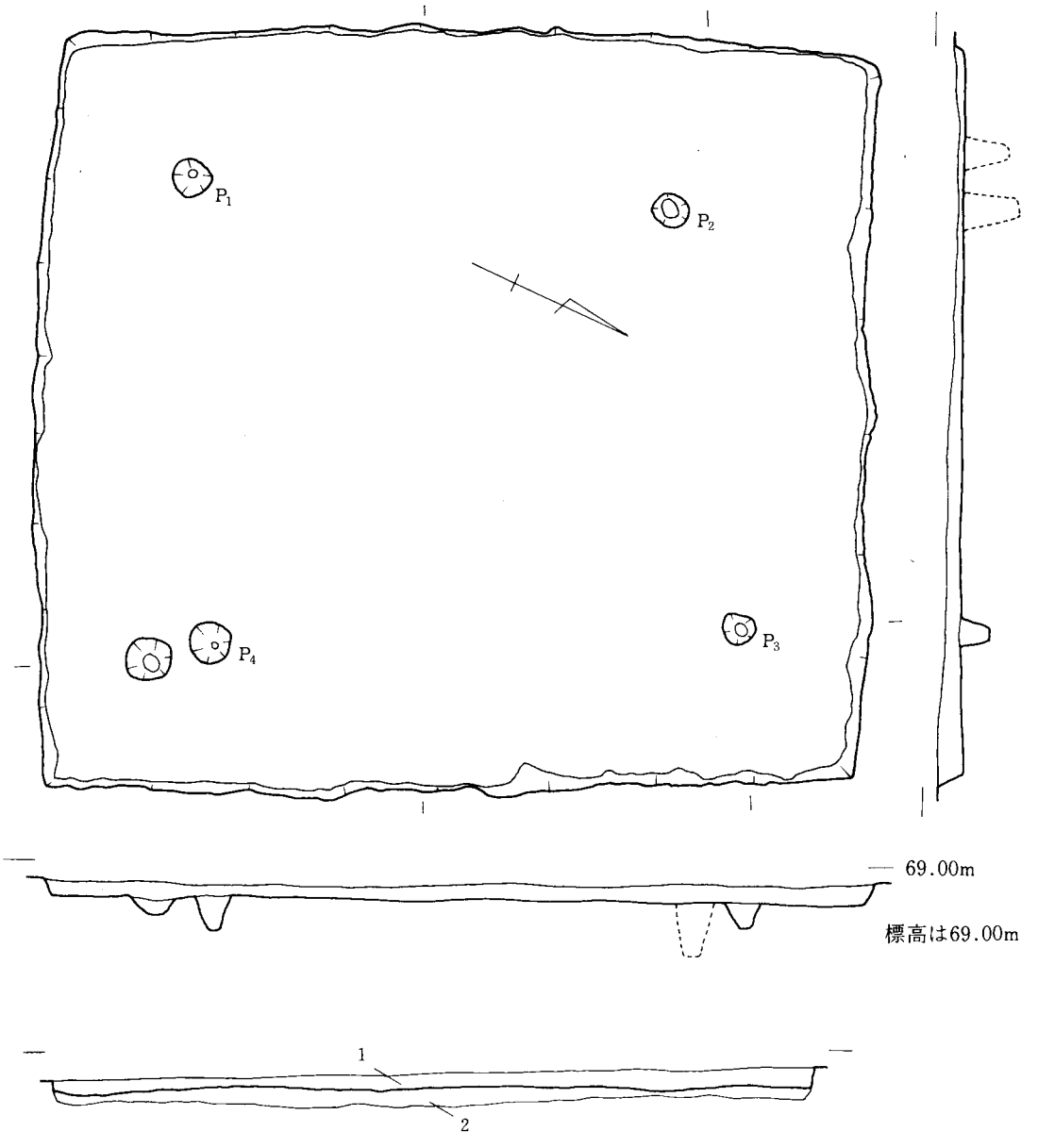
3 土坑（第27図）

10号住居址の南に近接して作られ、住居に伴う可能性がある。径0.88m、深さ0.58mで遺構は二段掘りされる。遺物は床面近くに一括に廃棄されるが、完全に復元できる遺物はなかった。土師器甕は頸部が長く伸び、底部が小さな平底か尖底気味の平底となる。620は口縁部が最大径となり、621は胴部中位よりやや上が最大径となる。後者は外面に格子目タタキを施す。623の高坏脚部は裾部が屈曲して開く。

4 溝状遺構

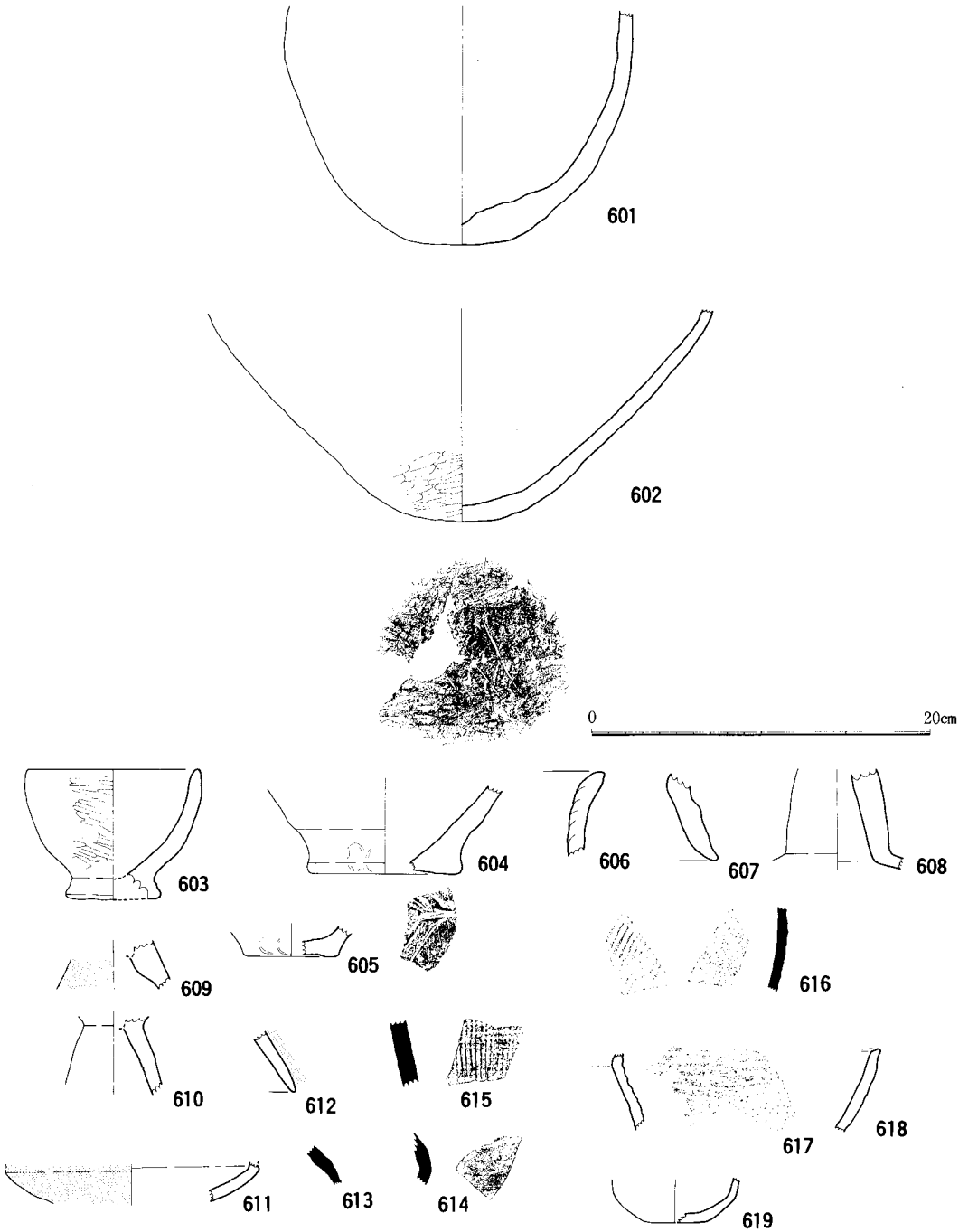
溝は15条を確認した。F地区は地形からみても集落の西端と考えられ、他地区より多くの溝が検出された。溝は、大きさ、長さなど異なり、時期差および機能差が想定される。一つは13号溝のように幅、深さなど比較的大きな溝である。これは東西・南北に走る。二番目に幅35～90cm、深さ15

19号

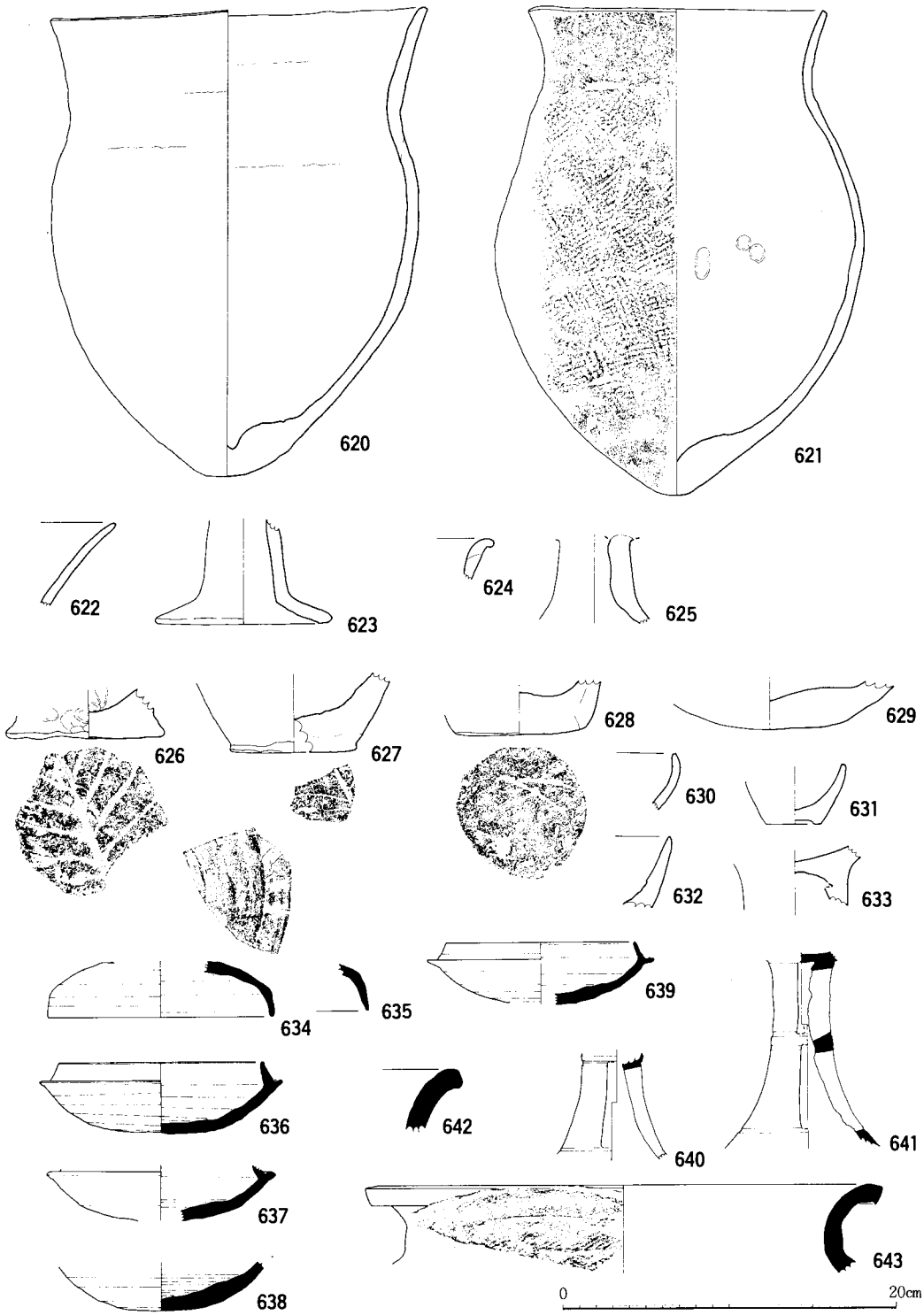


1. 黒褐色土　粘質あり
2. 暗褐色土とアカホヤブロックのまじり
貼床部分

第53図　19号住居址遺構実測図



第54図　19号住居址出土遺物実測図



第55図　土坑・溝状遺構出土遺物実測図

～40cmの小規模な溝である。これは13号溝に平行に伸びている。三つ目に19号溝から派生する15号や18号溝で断面台形をなす。この溝は、E地区を囲むように二重に周溝を巡らしている。出土遺物は多くは埋土中から出土しており、土師器、須恵器、石器、鉄器などがある。なお、断面図の位置は、第４図にアルファベットが付してありますので、それで確認下さい。

11号溝状遺構

13号溝と平行して走り、15号住居址、25号溝を切る。17号溝と交わる直前で基底部があがり消滅している。検出面からの深さ５～10cm、幅約70cm、断面は台形を呈す。埋土中から土師器甕の小片が少量出土する。

12号溝状遺構

11号溝と13号溝との間に検出され、11号・13号溝と平行に走る。検出面からの深さが15cmと浅く、幅約35cm、長さ約７mほどしか確認できなかった。土師器甕や高坏脚部の破片が少量出土している。

13号溝状遺構

E地区から東西にのびる溝aと南北にのびる溝bがあり、調査区の南西隅で交わる。溝の断面は、箇所によってU字、V字に近いU字をなす。土層では溝aが新しいようにとらえられ、遺構の状況では交点で両溝とも狭くなり、溝aが切れ溝bのみが続くようにみえ、重複関係は確定できなかった。同時期の可能性もある。溝は交点部で西側に鍵形に折れSE17と交わりさらに南に伸びる。

溝aは、東に伸びE地区に入ったところで終わる。検出面での幅1.0m～1.5m、深さ35cm～62cmを測る。基底部は西に向かってなだらかに下っている。16・18・19号溝を切る。溝bは、調査区の西側に位置しほぼ真北に走る。溝の東側は10cm内外の段差で二段あるいは三段を呈しているが、これは後世の掘り込みと考えられる。幅1.2m～1.5m、深さ40cm～90cmを測り、南端から北端に向けて約45cmの比高差で低くなる。また、基底部は15号住居址付近で約15cmの段差が、11号溝と重複したところでは約25cm幅で10cm程度高くなっている。溝は西に屈曲してからは幅約0.5m、深さ約0.1mとかなり小さくなる。11・15号住居址、17・19・25号溝を切る。

遺物（第55・63図629～643・739～741）はすべて埋土中から破片で出土し、土師器甕・椀・鉢・高坏、須恵器は坏身・坏蓋・二段透しの長脚高坏や13～14世紀の土師質坏や玉縁口縁の白磁などがある。溝aは出土遺物は少なく637・640・643 などで溝bは土器類のほかに10～30cmの円礫や鉄滓、鉄片なども検出されている。15は鉄鏃の茎部で、現在長６cm、幅約６mm、厚さ３mm。

14号溝状遺構

調査当初、同一の溝状遺構と考えていたが、調査区の北側では弧を描きながら走る溝aと、途中欠失し調査区の中央付近から13号溝と平行に伸び、18号溝と交わったところで浅くなって終結している溝bとに分けた。溝aは22号住居址を切り、１号掘立柱建物に切られる。幅0.8m、深さ30cm～

45cmを測る。溝bは10号・12号住居址、18号溝を切る。幅0.7m、深さ約10cmを測り、北に向かってやや低くなる。

遺物（第59図644～648）はすべて埋土中からで破片である。644はタタキのある土師器甕の口縁部、645はやや上げ底で木の葉底である。646は丹塗り高坏で坏部は内外面に施される。6486・647は須恵器甕の破片で、前者は外面に平行タタキが各方向から施され、内面はナデ調整、後者は平行タタキのあと一部カキ目、内面は同心円文タタキ。

15号溝状遺構

14号溝と平行に弧を描きながら走り19号溝と接して終結している。接点部では基底部が19号から15号のほうに約20cmほどなだらかに高くなっている。19号と前後関係は確定できなかったが同時期のものと推定される。5・6・13住居址を切り、5号・7号掘立柱建物と重複している。幅0.75m～1.15m、深さ約34cmを測る。断面は台形を呈す。

遺物（第59図649～659）は6号・13号住居址間および19号溝との接点近くの埋土中から出土し、650・652は後者からで652は格子目タタキが施される。653は平底気味の丸底で木の葉底となる。659は椀で内外面丹塗りされる。16は鉄鏃の茎部で、現在長6.6cm、幅約7㎜、厚さ3㎜。

16号溝状遺構

調査区の東端を南北に走るが、北および南端は消失しており不明。13号・19号溝に切られる。検出面からの幅0.6m、深さ約35cmを測る。断面は台形状を呈す。出土遺物には土師器甕や須恵器坏身などの小片がみられる。

17号溝状遺構

N－80°－Eに方位をとり、13号溝と交差したところから南西に弧を描きながら続き、再び13号溝と交わる。18号住居址を切り、18・19号溝に切られる。幅0.5m～0.9m、深さ30～20cmを測る。断面は台形を呈す。出土遺物は少なく、口縁部が強く外反する甕片や須恵器坏蓋が出土している。

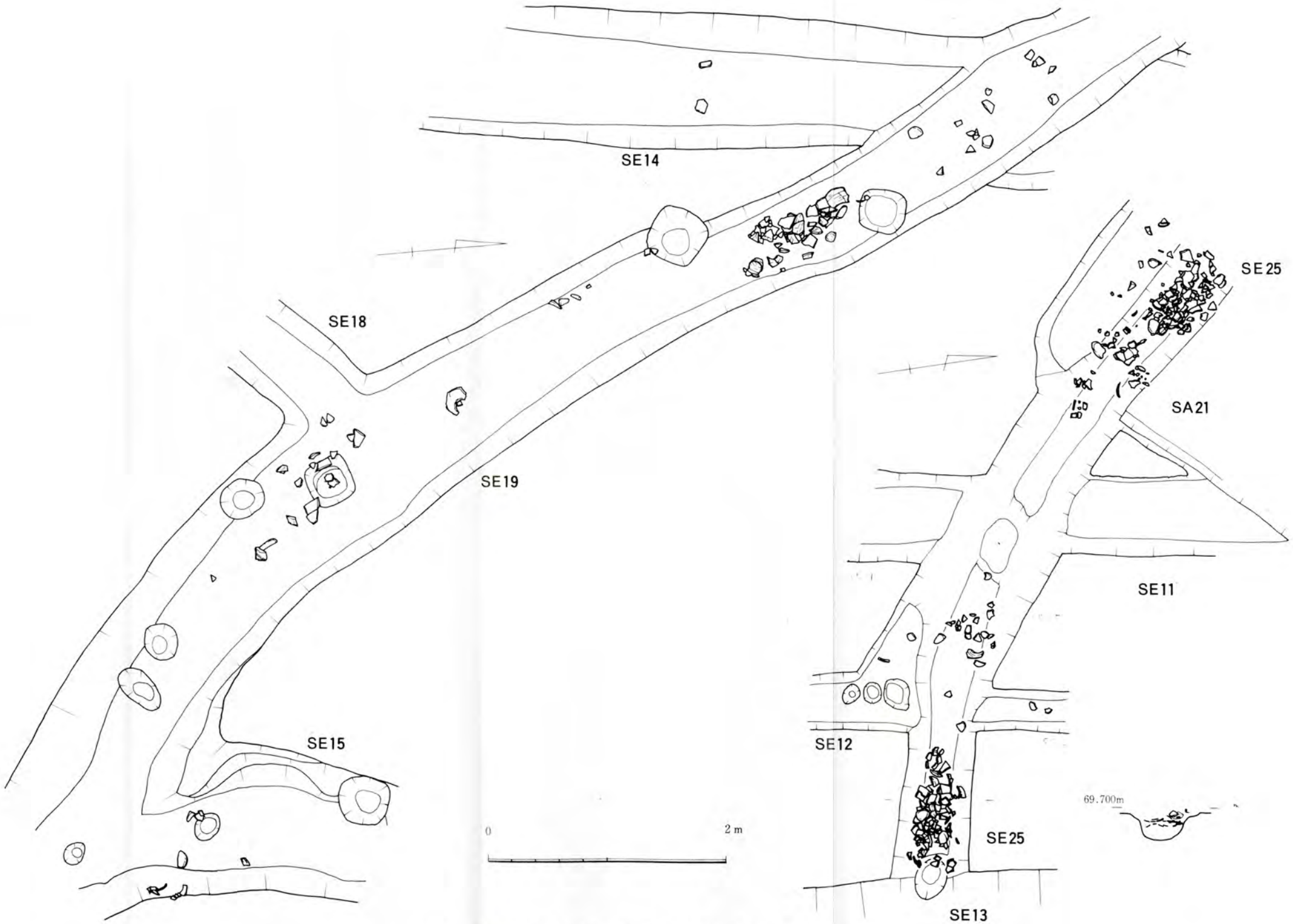
18号溝状遺構

19号溝から派生し、N－21°－Wに方位を取り19号溝とほぼ平行に伸びる。20号住居址・17号溝を切り、14号・13号溝に切られる。19号とほぼ同時期に併存していたと考えられる。幅0.6m～0.8m、深さ30～20cmを測り、基底部は北端に比べ南端が約30cmほど低い。断面は台形を呈す。

遺物（第59図664～667）には土師器甕の破片が多く、665は甕あるいは壺の胴部片で外面に数本の縦・横・弧状に線刻が施される。

19号溝状遺構

調査区の南東から僅かに弧を描きながら北西に伸びるが、15号・18号溝が派生するところでやや蛇行し、13号溝bと交わり消失している。幅0.7m、深さ20～30cmを測り、基底部は南東端に比べ北



第56図　溝状遺構（ＳＥ 11～15およびＳＥ 18-19-25）実測図

西端が約50cmほど低い。断面は台形を呈す。

遺物（第59～60・62図668～688・716）は14号溝の東、交点手前にまとまって廃棄された状態で検出された。668・669・671・673・684～688 である。669は口縁部が強く外反し、胴部下半に最大径がくる甕で粗いナデ調整や粘土結ぎ目を観察できる。外面にスス付着。671は甑で胴部下半がわずかに張り、底部は単孔となる。外面にスス付着。684～688は須恵器坏身で立上がりは内傾する。口径12.4～14.2cmを測る。そのほか18号溝状遺構との接点部で検出された。672の甑がそうで、口径と器高がほぼ同じで、口径が最大径となる。底部は単孔である。鉄器には鉄鏃や鉄滓、器形不明の鉄片がある。17は長頸鏃で銹化が著しく鏃身の形態は不明瞭であるが長さ約2.5cm。現在長12.6cm、茎部幅約８mm、厚さ５mm。18は刀子の茎部で、関は銹のため不明だが片関と推定され、現在長6.7cm。

21～24号溝状遺構

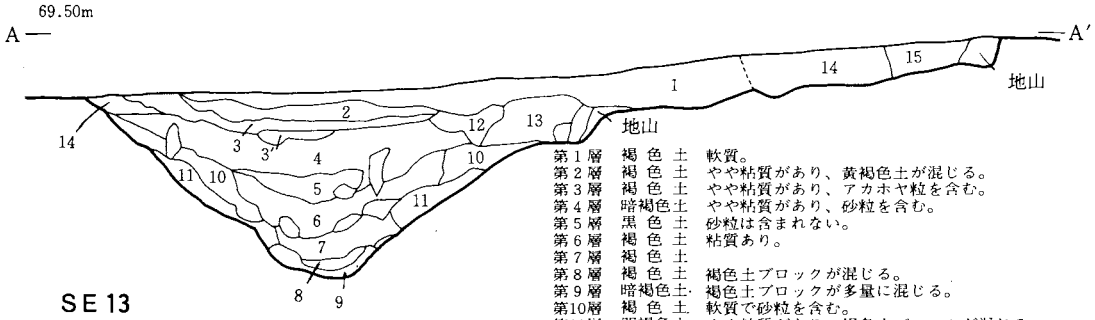
調査区の北側に位置する。21号は東西に伸び、検出面からの深さが10cmと非常に浅く、長さ約６mほどしか確認できなかった。基底面は西側に向かい低くなっている。22号は弧を描きながら南東に伸び、北側は途中で消滅している。２号住居址を切る。15号溝と１号・３号掘立柱建物と重複関係にあるが前後関係は不明。深さ約10cm、幅約50cm。土師器片が少量出土。23号は22号住居址を切り、15号溝の手前で終わる。途中南西に伸びる溝が派生している。幅1.0m～1.2m、深さ30～40cmを測る。断面はU字形を呈す。

遺物（第61・63図698～715・757）には土師器のほか鉄片が少量ある。692はタタキのある土師器甕の底部付近、694は単孔の甑底部である。695は、須恵器坏身で立上がりは内傾し、端部は丸く仕上げられる。697は、土製品で、長さ3.1cm、厚さ0.4cmを測り、中央付近に径６mmの円形の凹みがある。そのほか10世紀前後の須恵器坏も出土している。24号は非常に浅い溝で僅かに検出された。

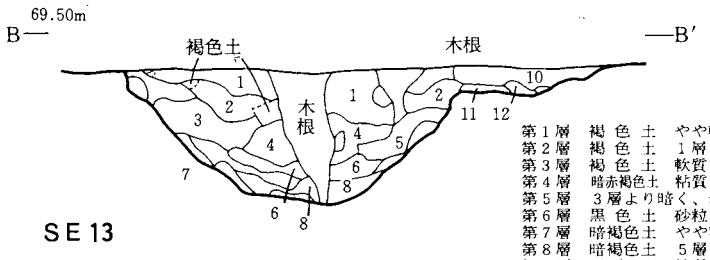
25号溝状遺構

調査区の西、11号・15号住居址の間に検出され、21号住居址を切り、11号溝に切られる。13号溝との関係は不明。幅約0.6m、深さ約30cmを測る。断面は台形を呈す。

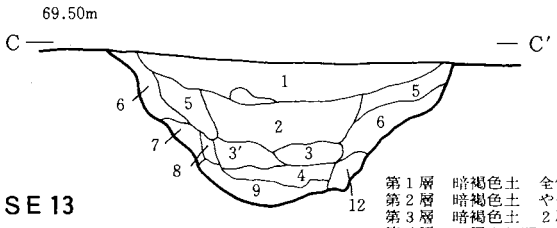
遺物（第61～63図698～714･757）は三か所にまとまって出土している。一つは13号溝との接点近くで、溝埋没中に床面から20cm程度浮いて一括廃棄された状況で703・706・708～710が、11号・12号溝の間で699・707が、もう一か所は11号住居と重複した部分に一括廃棄されたもので698・700～702・704・705・711・714がそれぞれある。土師器甕は長胴になるタイプ(698・701)、口縁部が強く外反するタイプ(699・700)、頸部がなく胴部下半が最大径となるもの(704)がある。壺は胴部が偏平になるもの(707)、外面がヘラミガキされ口縁部が短く外反する形態(707)、口縁部が上方に伸び、胴部上半が最大径になるもの(709)がある。そのほか甑や須恵器模倣の坏蓋(710)がある。710は天井部と体部との境に不明瞭な稜をもち口縁部は外方に開く。712は須恵器短頸壺で、口縁部は短く内傾し、胴部にカキ目を施す。724は瓶の胴部で最大径はやや上位にあり頸部は細く締まる。



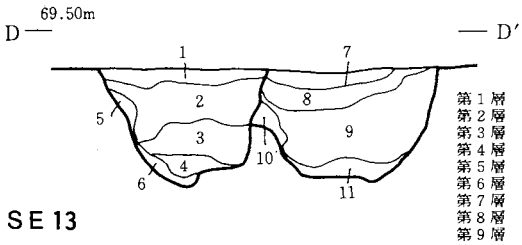
第1層　褐色土　軟質。
第2層　褐色土　やや粘質があり、黄褐色土が混じる。
第3層　褐色土　やや粘質があり、アカホヤ粒を含む。
第4層　暗褐色土　やや粘質があり、砂粒を含む。
第5層　黒色土　砂粒は含まれない。
第6層　褐色土　粘質あり。
第7層　褐色土
第8層　褐色土　褐色土ブロックが混じる。
第9層　暗褐色土　褐色土ブロックが多量に混じる。
第10層　褐色土　軟質で砂粒を含む。
第11層　明褐色土　やや粘質があり、褐色土ブロックが混じる。
第12層　褐色土とにぶい褐色土との混じり。
第13層　暗褐色土　軟質。
第14層　明褐色土　軟質。
第15層　褐色土　固くしまる。砂粒を含む。
第16層　暗褐色土　軟質。



第1層　褐色土　やや軟質で、アカホヤ粒やガラス粒を含む。
第2層　褐色土　1層より暗く、粘質あり。
第3層　褐色土　軟質でパサパサしている。
第4層　暗赤褐色土　粘質をもち砂粒を少量含む。
第5層　3層より暗く、赤みがない。
第6層　黒色土　砂粒は含まない。
第7層　暗褐色土　やや粘質があり、砂粒はほとんど含まれない。
第8層　暗褐色土　5層より赤みがあり、やや軟質。
第9層　褐色土　軟質で砂粒を多く含む。
第10層　褐色土　固くしまり、アカホヤブロックを含む。
第11層　暗褐色土　10層より固くしまる。
第12層　アカホヤブロック



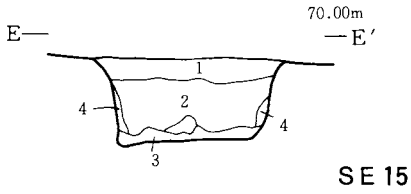
第1層　暗褐色土　全体には軟質だが、部分的にしまる。砂粒を多く含む。
第2層　暗褐色土　やや粘質あり。砂粒は含まれず、アカホヤ粒が多くみられる。
第3層　暗褐色土　2層に類似し、アカホヤ粒のほか褐色土ブロックが含まれる。
第3′層　3層より明るくアカホヤ粒や褐色土ブロックを多く含む。
第4層　褐色土　砂粒を多く含む。
第5層　黒褐色土　やや軟質でアカホヤ粒を少量含む。
第6層　黒褐色土　軟質、アカホヤ粒や褐色土ブロックなどは含まれない。
第7層　暗褐色土　褐色土ブロックを多く含む。
第8層　黒褐色土　やや粘質あり。
第9層　暗褐色土　固くしまる。



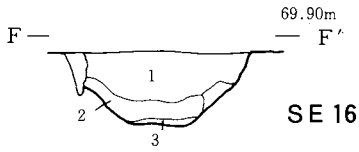
第1層　暗褐色土　やや粘質あり、砂粒を含む。
第2層　黒褐色土　アカホヤ粒や褐色土ブロックを少量含む。
第3層　暗褐色土　やや粘質があり、褐色土ブロックを多く含む。
第4層　褐色土と褐色土ブロックの混じり。軟質。
第5層　2層に褐色土が混じる。
第6層　褐色土　軟質、砂粒を少量含む。
第7層　暗褐色土　軟質、アカホヤ粒や砂粒は含まれない。
第8層　褐色土　やや固くしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを含む。
第9層　暗褐色土　やや粘質あり。
第10層　暗褐色土　軟質、パサパサしている。
第11層　褐色土ブロックを多く含む。

0　2 m

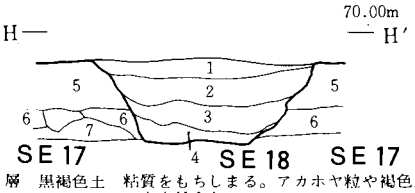
第57図　溝状遺構土層断面図 (1)



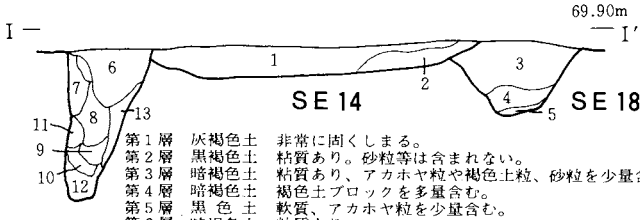
第１層　黒褐色土　粘質をもちしまる。
第２層　黒褐色土　アカホヤ粒や褐色土粒を少量含む。
第３層　暗褐色土　ややしまる。褐色土ブロックを含む。
第４層　褐色土に暗褐色土が混じる。



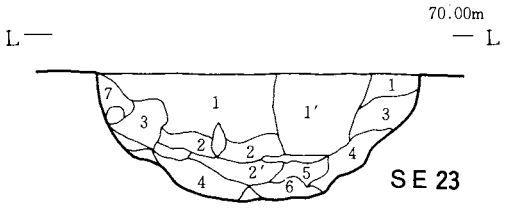
第１層　黒褐色土　粘質をもちしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを少量含む。
第２層　暗褐色土　固くしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを多量含む。
第３層　黒褐色土　やや粘質があり、アカホヤ粒を含む。



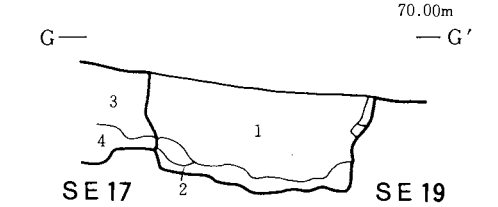
第１層　黒褐色土　粘質をもちしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを少量含む。
第２層　暗褐色土　固くしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを多量含む。
第３層　褐色土　やや軟質。
第４層　暗褐色土　アカホヤブロックが混じる。



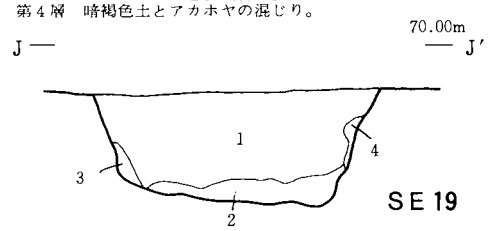
第１層　灰褐色土　非常に固くしまる。
第２層　黒褐色土　粘質あり。砂粒等は含まれない。
第３層　暗褐色土　粘質あり、アカホヤ粒や褐色土粒、砂粒を少量含む。
第４層　暗褐色土　褐色土ブロックを多量含む。
第５層　黒色土　軟質、アカホヤ粒を少量含む。
第６層　暗褐色土　粘質あり。
第７層　２層に類似し、褐色土が混じる。



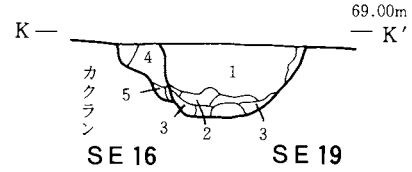
第１層　暗褐色土　粘質をもちしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを少量含む。
第1′層　暗褐色土　１層に類似するが、それより柔らかい。
第２層　褐色土　１層よりアカホヤ粒や褐色土ブロックを多く含む。
第2′層　２層より暗く、固くしまる。
第３層　褐色土　軟質。
第４層　暗褐色土　軟質で、褐色土ブロックを多く含む。
第５層　暗褐色土　やや粘質あり。
第６層　褐色土に多くの暗褐色土ブロックが混じる。
第７層　褐色土　やや粘質あり。アカホヤ粒や褐色土ブロックを少量含む。



第１層　黒褐色土　粘質をもちしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを多量含む。
第２層　黒褐色土　やや粘質があり、アカホヤ粒を含む。
第３層　黒褐色土　粘質をもちしまる。アカホヤ粒や褐色土ブロックを多量含む。
第４層　暗褐色土とアカホヤの混じり。



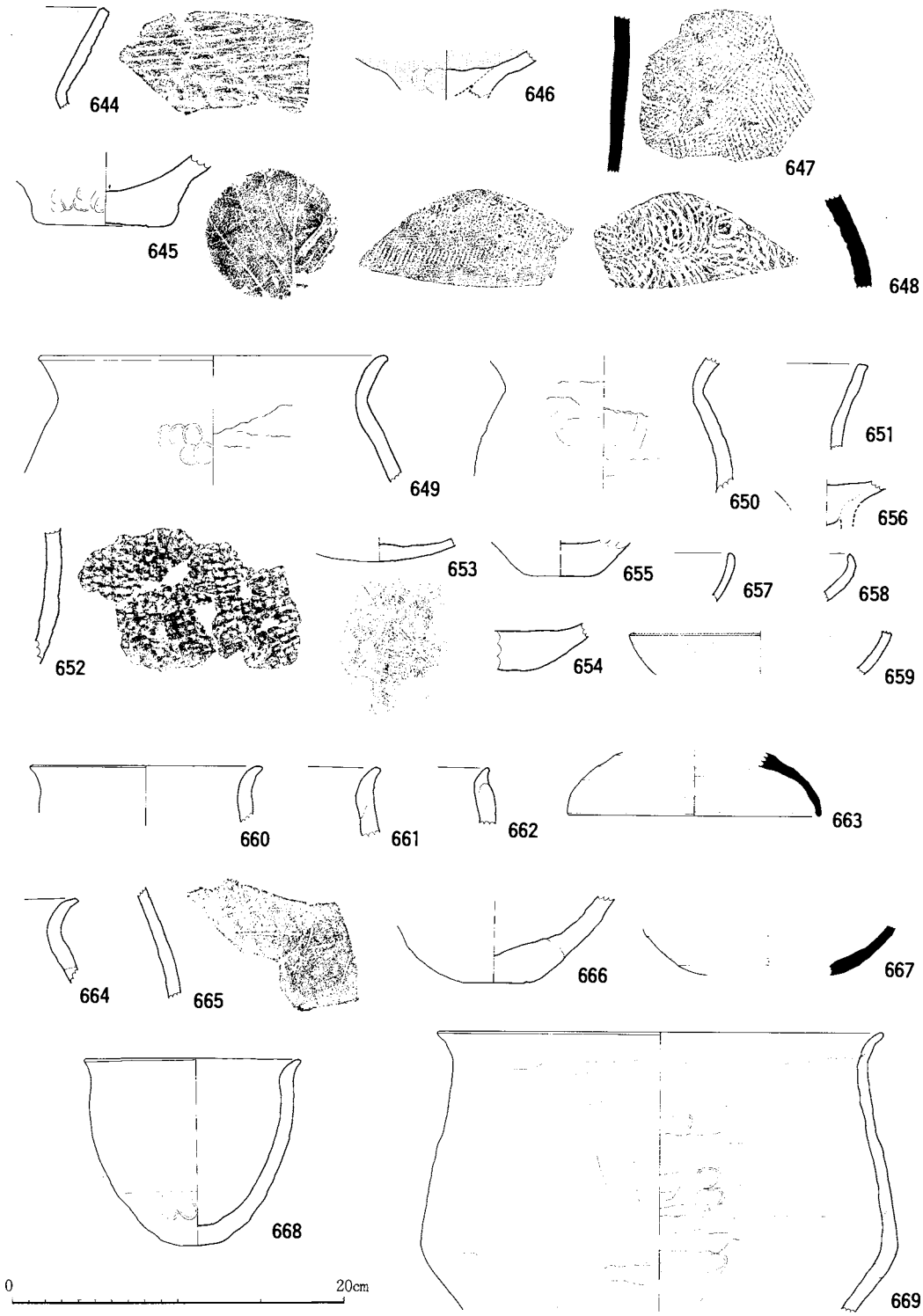
第１層　黒褐色土　柔らかく、アカホヤ粒を少量含む。
第２層　黒褐色土　粘質をもつ。
第３層　暗褐色土　アカホヤブロックを多量に含む。
第４層　黒褐色土　１層より固くしまる。
第５層　黒褐色土　４層よりやや柔らかい。



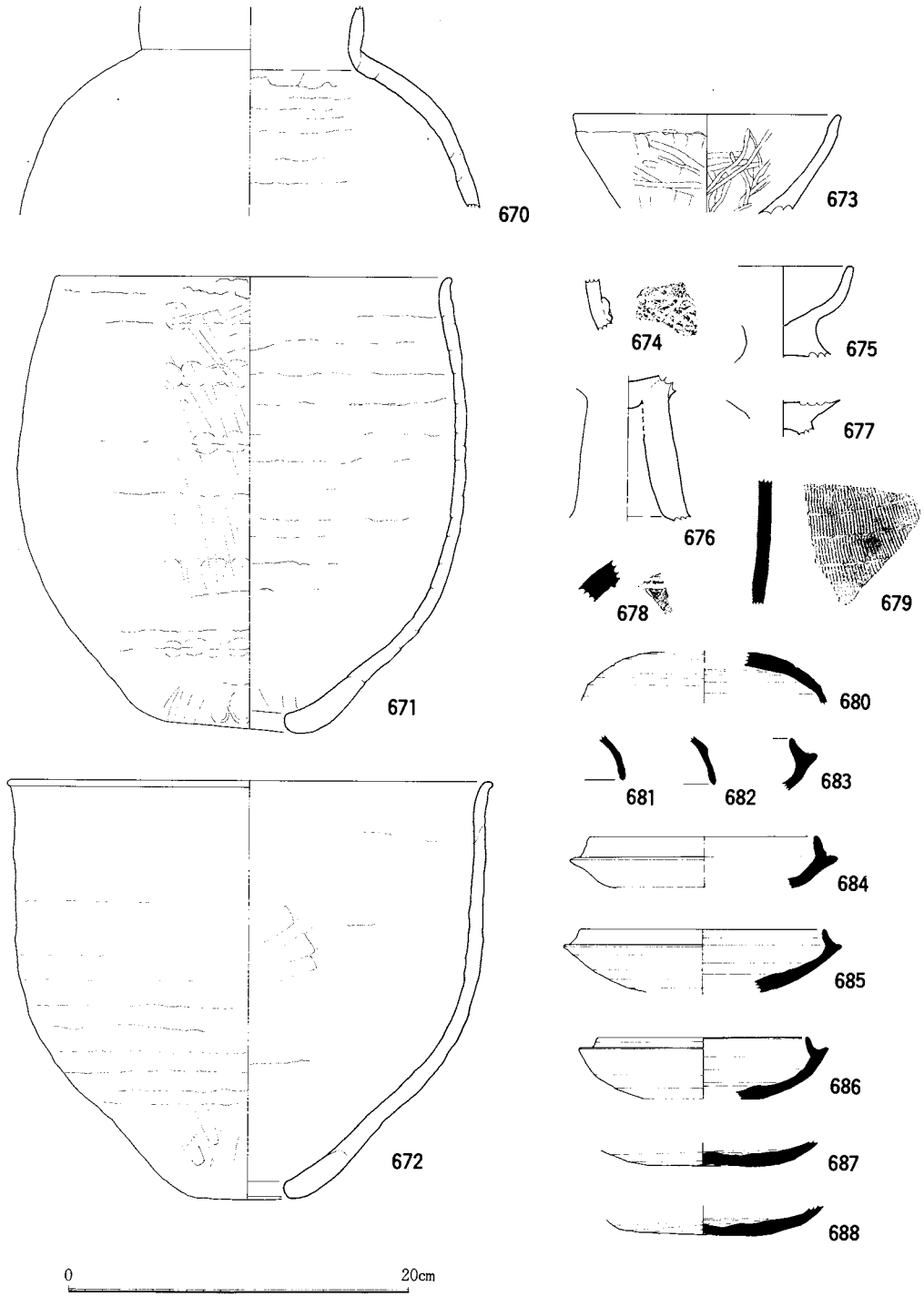
第１層　黒色土　軟質、アカホヤ粒を少量含む。
第２層　１層に似るが、軟質である。
第３層　黒褐色土　粘質あり。砂粒等は含まれない。
第４層　暗褐色土　粘質あり、アカホヤ粒や褐色土粒、砂粒を少量含む。
第５層　暗褐色土　褐色土ブロックを多量含む。
第６層　黒色土　軟質。
第７層　黒色土　アカホヤ粒を少量含む。
第８層　褐色土　軟質。
第９層　暗褐色土と褐色土ブロックの混じり。
第10層　明褐色土　軟質。
第11層　褐色土
第12層　暗褐色土と褐色土ブロックの混じり。
第13層　暗褐色土　やや粘質あり。アカホヤ粒を少量含む。

0　2 m

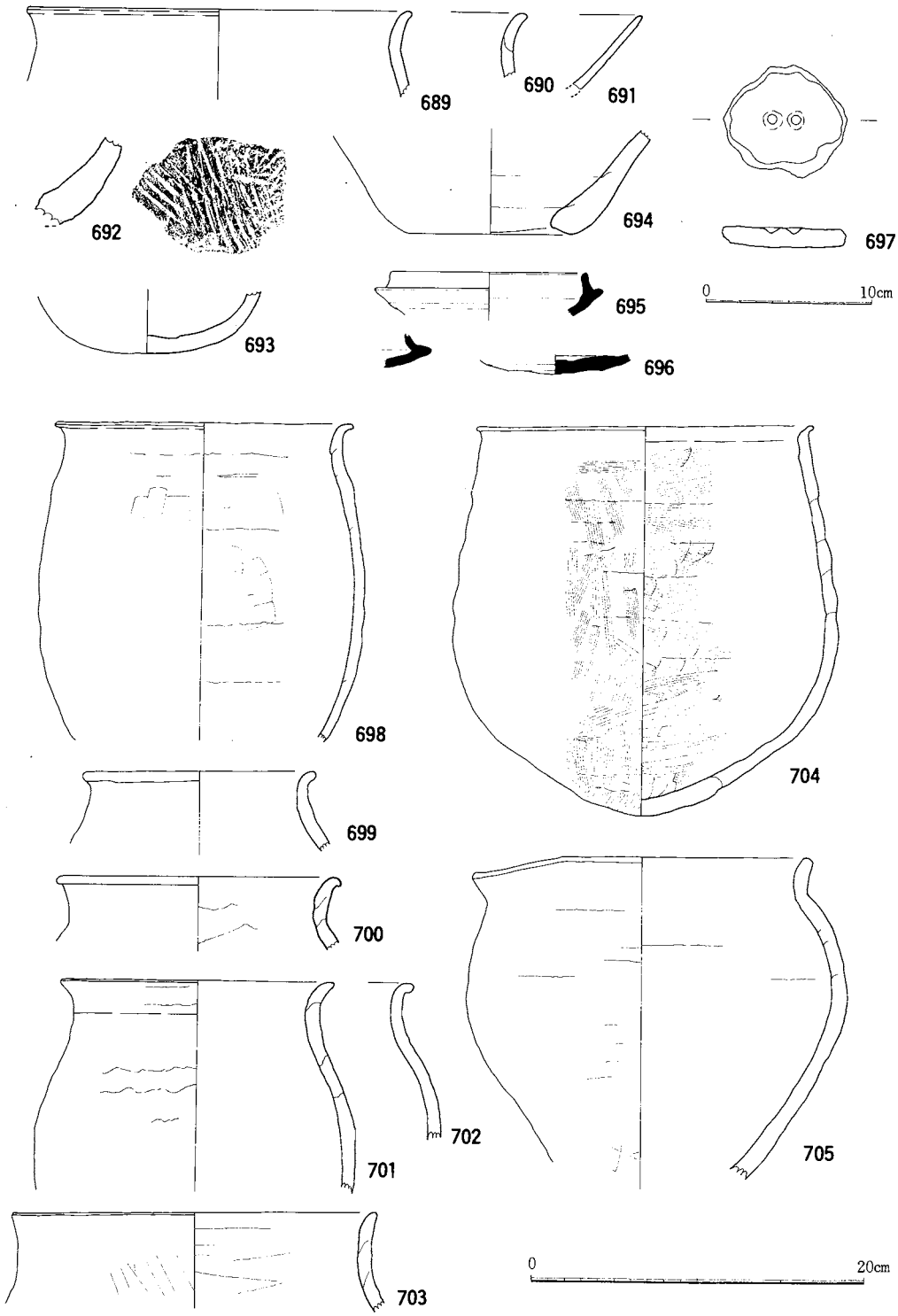
第58図　溝状遺構土層断面図 (2)



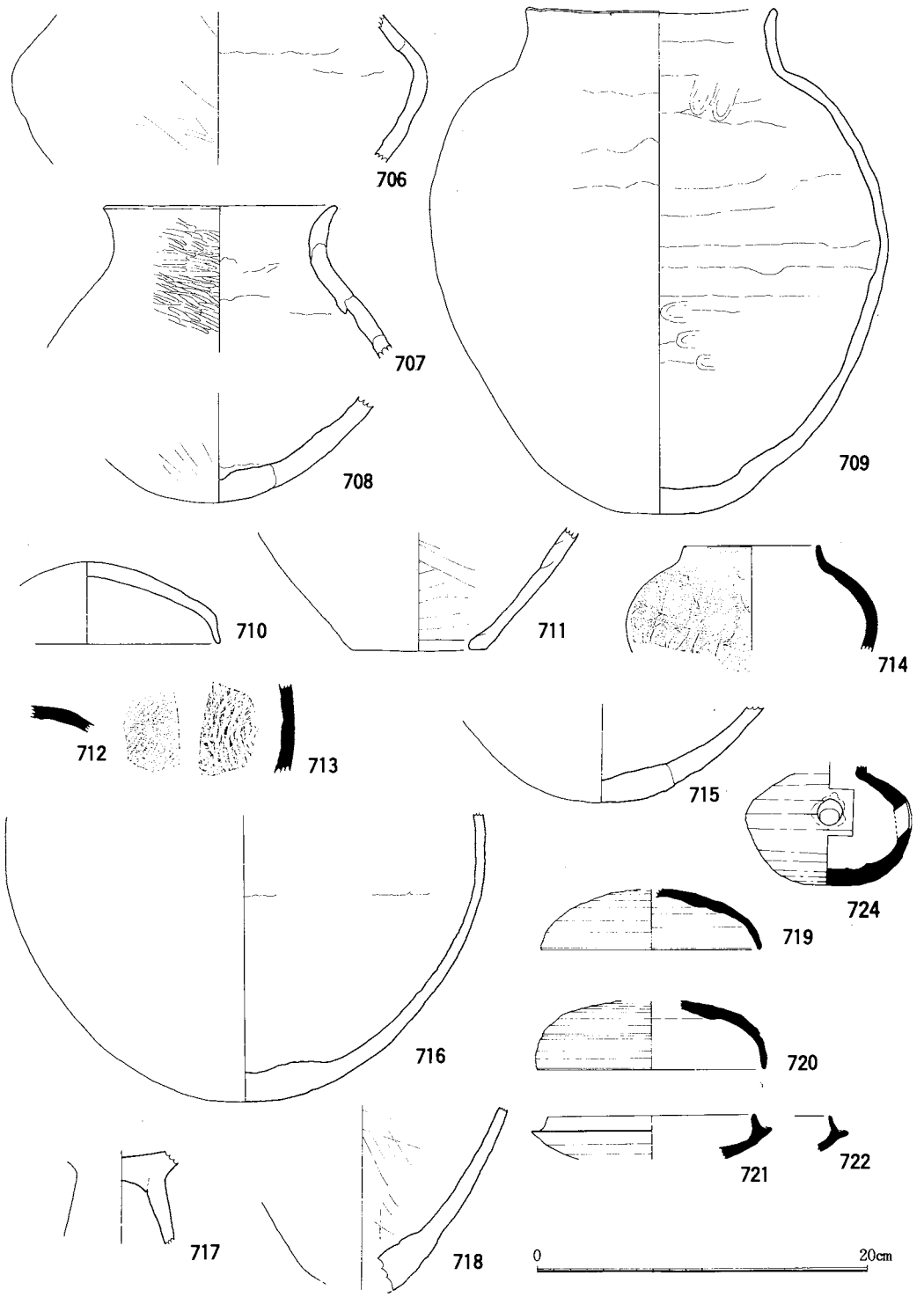
第59図　溝状遺構出土遺物実測図（1）



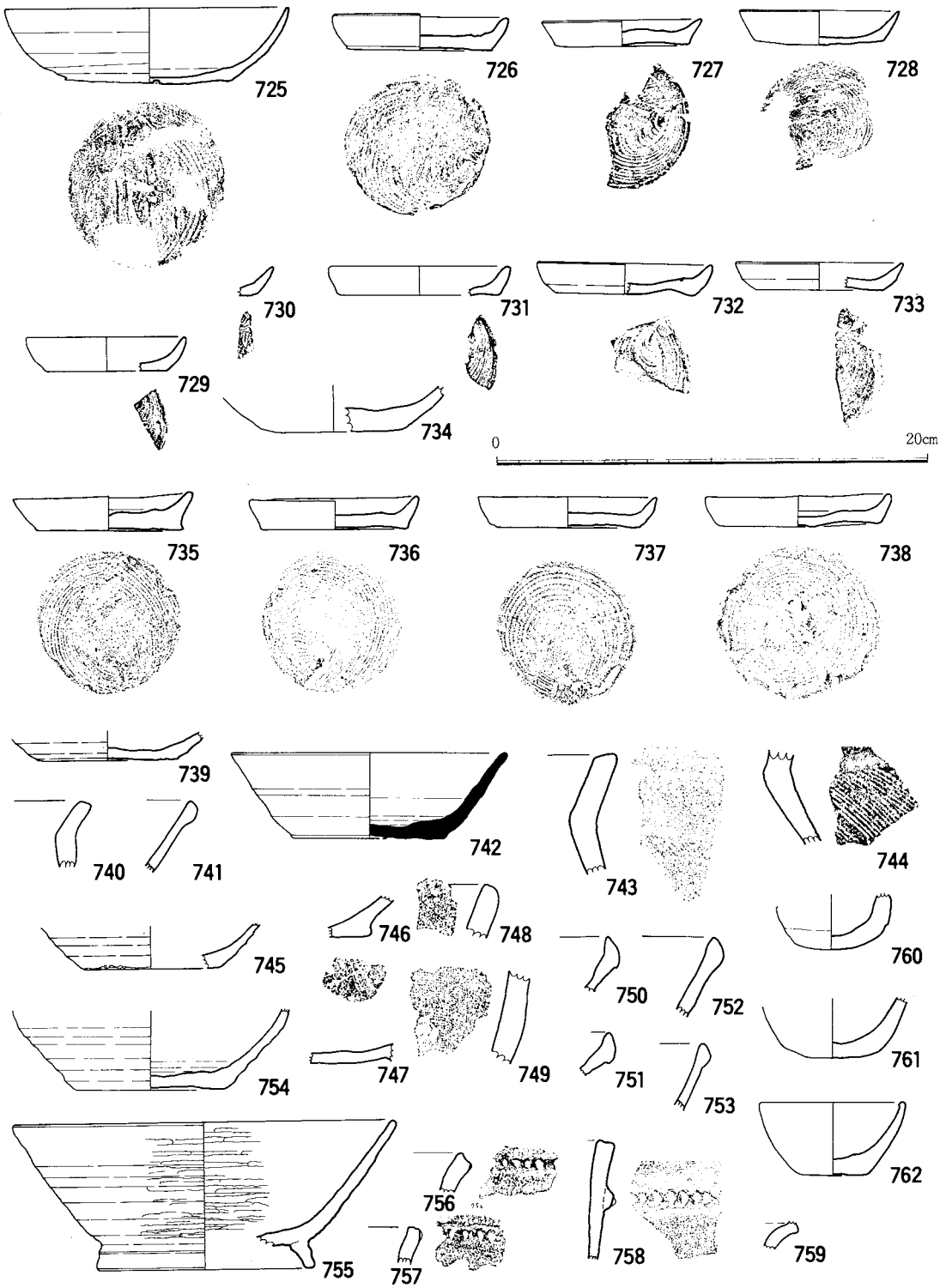
第60図　溝状遺構出土遺物実測図（2）



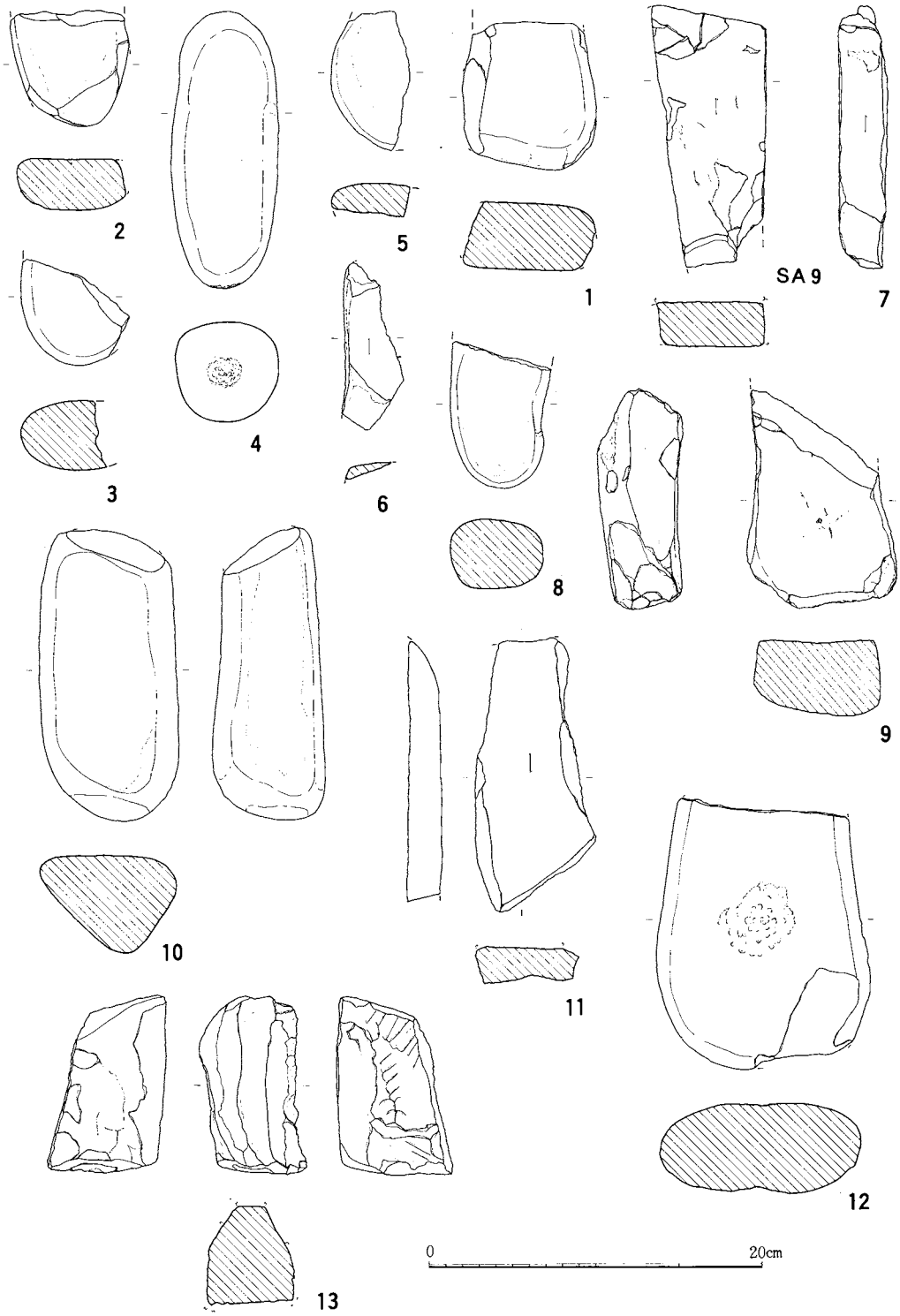
第61図　溝状遺構出土遺物実測図（3）



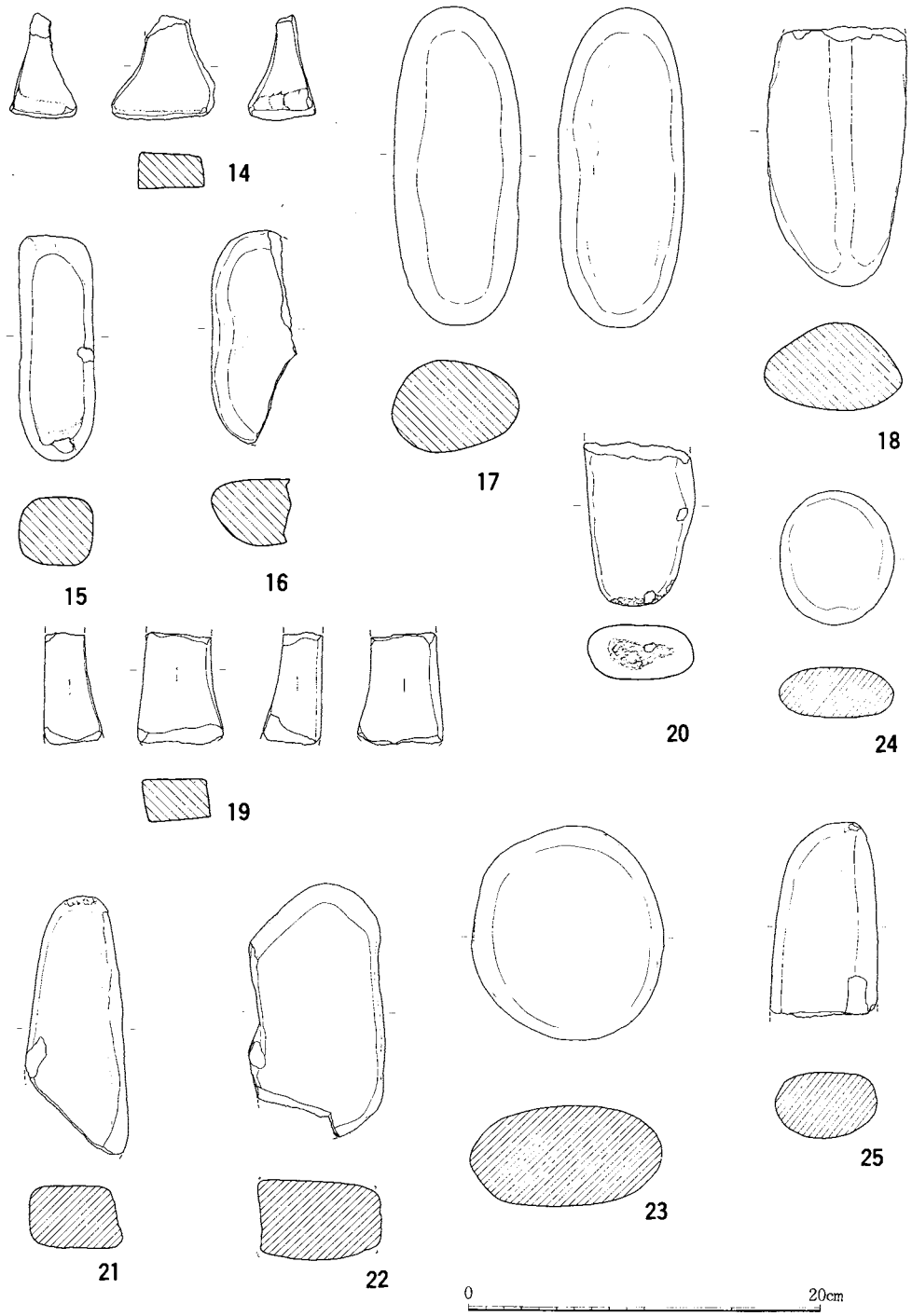
第62図　溝状遺構出土遺物実測図（4）



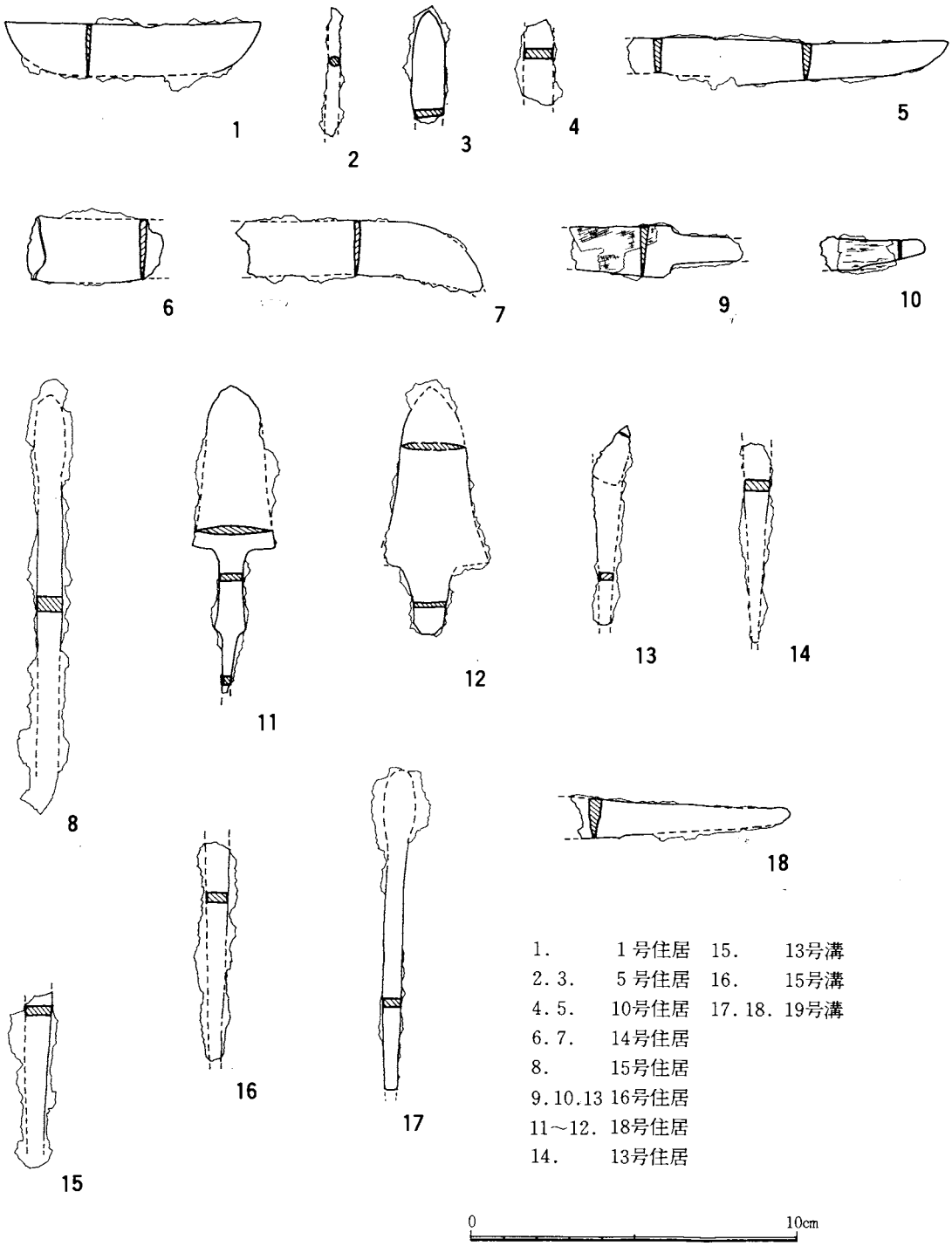
第63図　掘立柱建物・住居址・溝状遺構出土遺物



第64図　F地区出土石製品実測図（1）



第65図　F地区出土石製品実測図（2）



第66図　F地区出土鉄製品実測図

そのほか器形不明の鉄片が出土している。

26号溝状遺構

15号住居址に接して西に伸びるが途中で消失する。溝の基底部は西に向かって低くなっている。幅約0.3m、深さ約5㎝を測る。

27号溝状遺構

13号溝と11号溝との間に検出され、途中で消失する。13号・17号溝および15号住居址と重複するが前後関係は不明。幅0.6m、深さ約5㎝を測る。断面は浅い皿状をなす。

5 掘立柱建物跡

掘立柱建物は10棟想定したがその分布は三つに分かれる。一つは調査区北側に位置する。1～3号、中央部付近にある4号・5号、南側に分布する6～10号である。建物の形態は1間×1間から3間×5間と多様で、床面積も4.6㎡～36.3㎡と格差が認められる。5号が最大の建物であるが、全体には南側に分布する建物群が大きい傾向にある。主軸方向では東西方向が7棟と主体的で南北方向は3棟と少ない。ピットは調査区全体で確認されたが、住居址内から白磁や糸切り底の土師質の皿(735～759) などが検出されていることからもわかるように、当然のことながら住居埋土中に掘られたピットが存在する。しかし、調査期間やその確認のために有する時間の問題から今回はとりあげず住居の調査にあてた。建物の時期は出土遺物から10～14世紀のものと考えられるが、建物を想定できなかった多数のピットから古墳時代の土師器や須恵器の破片（第62図717～722）が出土し、古墳時代の建物も存在していたと想定され、2号掘立柱建物が可能性がある。

1号掘立柱建物（第67図）

調査区の北側に位置し、2号掘立柱建物、14号溝状遺構と重複する。東西棟建物で、主軸をN－72°－Wにとる。身舎は桁行3間(6.0m)、梁行2間（4.3m)である。各柱穴の掘り方は円形あるいは楕円形で40～60㎝、深さ40～60㎝。床面積は25.8㎡を測る。柱穴からは土師器甕・椀の破片が出土している。

2号掘立柱建物（第67図）

調査区の北側に位置し、1号掘立柱建物と重複する。南北棟建物で、床面積4.6㎡と最小の規模である。主軸をN－2°－Eにとり、身舎は桁行2間(2.7m)、梁行1間（1.7m)で、柱間寸法はほぼ一定している。各柱穴の掘り方は40～50㎝の楕円形で、深さ30～50㎝。

3号掘立柱建物（第67図）

1号掘立柱建物の南約10mにあり、2号・5号住居址、22号溝状遺構と重複する。1間×1間の東西棟建物で、床面積10.2㎡。主軸をN－80°－Wにとる。身舎は桁行1間(3.4m)、梁行1間（3.0m)である。各柱穴の掘り方は円形で70㎝と検出された建物の中では最も大きい。深さ60～65㎝、

柱痕は確認できなかった。また、束柱と思われる小さな柱穴２本が棟筋に見られる。

４号掘立柱建物（第67図）

６号掘立柱建物の南にあり、10号住居址を切る。３間×２間の南北棟建物で、平面形はやや不整な長方形をなすと想定されるが、南西隅の柱穴は10号住居埋土中にあり確認できていない。桁行5.6m、梁行3.9m。梁行方向の柱穴間寸法は130～220と一定でない。床面積27.9㎡を測る。主軸はN－11°－Eにとる。各柱穴の掘り方は30～40cmの円形で、深さ25～55cm。柱穴から糸切りの土師質の小皿(726～730・732～734)が出土している（第63図)。口径7.7～8.3cm、器高1.25～1.7cm、底径5.6～6.8cmを測る。口縁部は内湾しながら伸びる。726・728～730・733はP－１，727・732 はP－２、734はP－３出土である。そのほか土師器甕・高坏口縁部などの破片が出土している。

５号掘立柱建物（第67図）

４号掘立柱建物の南に接して、12号・14号住居址を切り、15号溝と重複する建物で掘立柱建物中で最大の床面積(36.3㎡）をもつ。南北棟建物で、主軸をN－５°－Eにとる。身舎は桁行４間(7.4m)、梁行１間（4.9m)である。桁行方向の柱穴間寸法は170～200cmを測り、梁行方向の柱穴はやや外側に開き気味で、柱間寸法の様々で、南側の１本は確認できなかった。各柱穴の掘り方は円形で45～60cm、深さ50～65cm、柱痕は確認できなかった。柱穴から土師器甕・高坏口縁部などの破片が出土している。

６号掘立柱建物（第68図）

調査区の中央やや南寄り、14号住居址と16号住居址のほぼ中央に位置する。東西棟建物で、床面積11.2㎡と２号掘立柱建物に次ぐ小規模の建物である。主軸をN－86°－Eにとり、身舎は桁行２間(4.1m)、梁行１間（2.7m)である。桁行の柱間寸法は190～220cm、梁行方向は270cmになる。各柱穴の掘り方は20～40cmの円形あるいは楕円形で、深さ30～40cmを測る。土師器甕の小片がわずかに出土している。

７号掘立柱建物（第68図）

８号掘立柱建物の南西に位置し、16号住居址、９号掘立柱建物と重複する。東西棟建物で、主軸をN－90°－Eにとる４間あるいは５間×３間の建物と推定されるが西側部分のみ調査し、東半分は保存箇所に伸び未調査である。桁行の柱間寸法は140～180cm、梁行方向は140～180cmになる。各柱穴の掘り方は35～40cmの円形で、深さ50～70cm。柱穴からは土師器甕の小片が少量出土した。

８号掘立柱建物（第69図）

６号掘立柱建物の西、16号住居址の北に接し、15号・18・19号溝を切る建物で、５号掘立柱建物に次ぐ大きな床面積(32.9㎡)をもつ。東西棟建物で、主軸をN－90°－E にとる。身舎は桁行５間(7.0m)、梁行３間（4.8m)である。桁行の柱間寸法は90～180cmとばらつきがあり、梁行方向は140

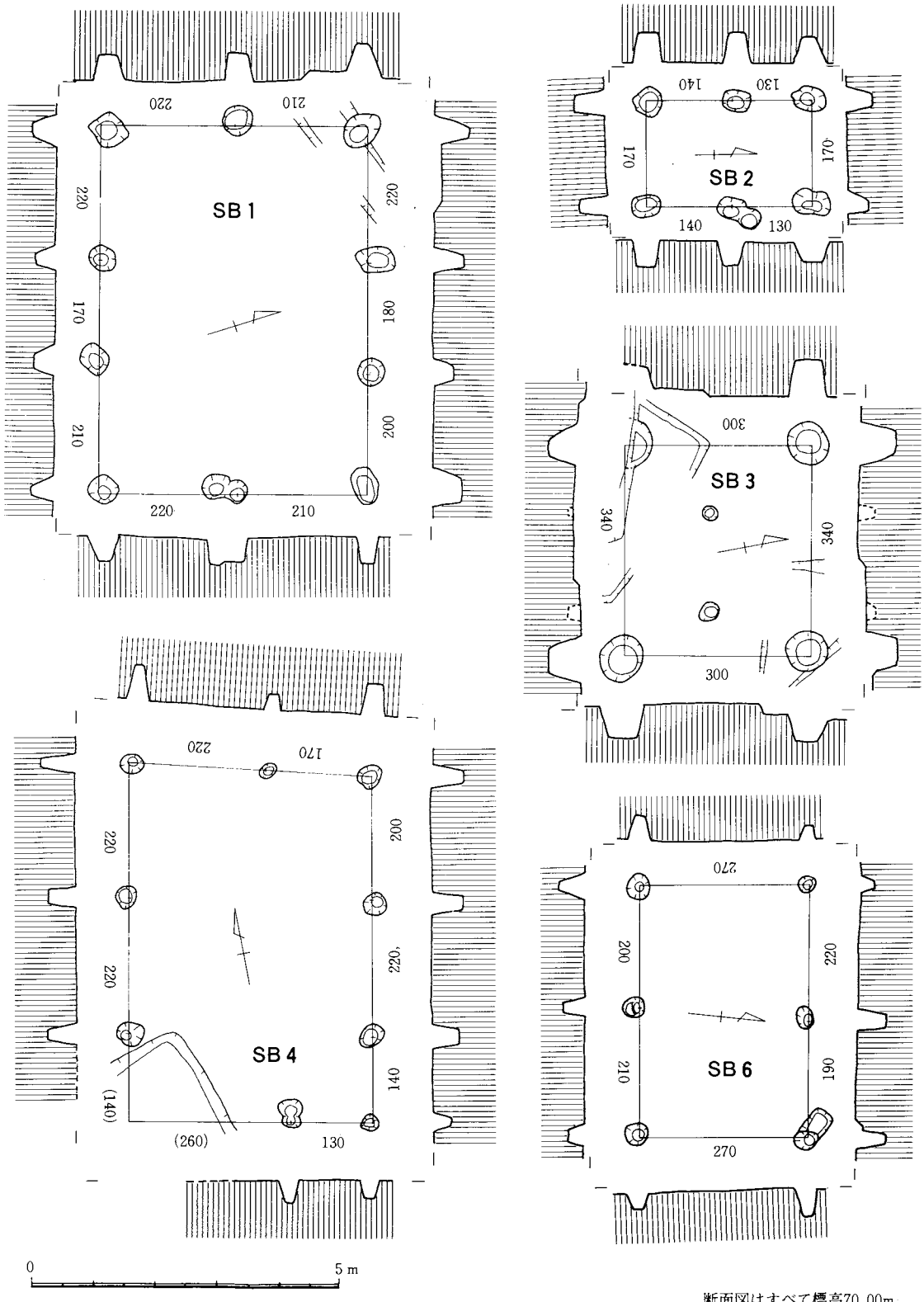
cmと170cmになる。各柱穴の掘り方は40～50cmの円形で、深さ70～80cmを測る。柱痕は確認できなかった。柱穴から出土した遺物には土師器甕や甑、木の葉底の底部などがある。

9号掘立柱建物（第69図）

8号掘立柱建物の南に位置し、16号・18号住居址を切り、19号溝、7号掘立柱建物と重複する。床面積は32.5m²で8号掘立柱建物とほぼ同規模の建物である。東西棟建物で、主軸をN－73°－Eにとる。身舎は桁行4間(6.6m)、梁行3間（4.8m,5.0m)で、平面形はやや不整な長方形をなす。桁行方向の柱穴間寸法は140～180cmを測り、梁行方向の柱間寸法は130～200cmと様々である。各柱穴の掘り方は円形あるいは楕円形で30～60cm、深さ60～80cm、柱痕は確認できなかった。

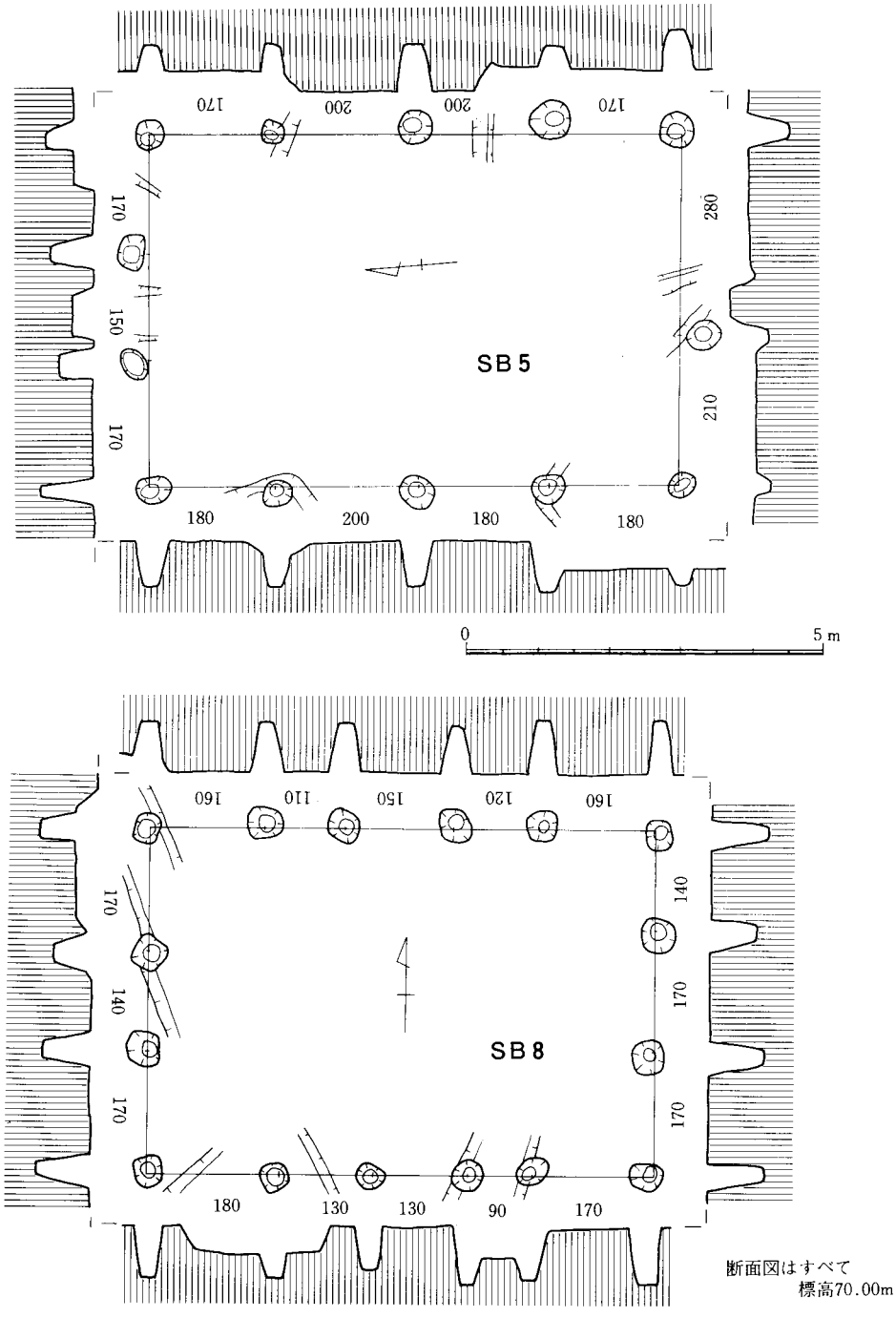
10号掘立柱建物（第69図）

調査区の南西端に位置する。主軸をN－55°－Eにとる4間×3間の建物と想定されるが、北側桁行および西側梁行の柱は2本しか確認できていない。身舎は桁行6.5m、梁行4.4mである。桁行方向の柱穴間寸法は140,180,190cm、梁行方向は120,140,180cmを測る。各柱穴の掘り方は楕円形で30～45cm、深さ30～55cm、床面積は推定で27.9m²。

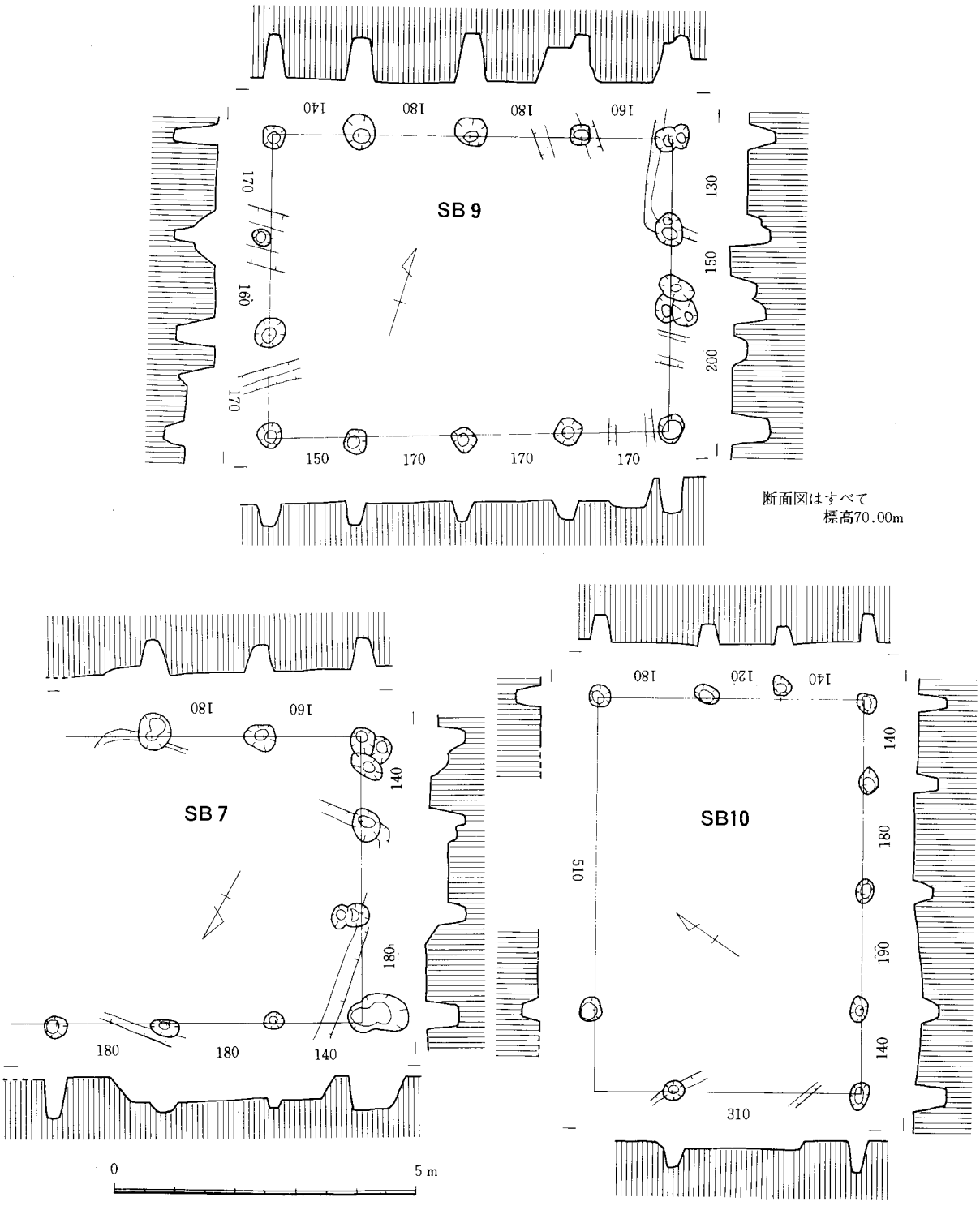


第67図　掘立柱建物遺構実測図（1）（S＝1/100）

断面図はすべて標高70.00m
数字は柱間寸法、単位cm



第68図　掘立柱建物遺構実測図 (2) (S＝1/100)



第69図　掘立柱建物遺構実測図 (3) (S＝1/100)

第3節　まとめ

上薗遺跡における二百数十軒にもおよぶ住居址群、さらに周辺における高塚古墳群や地下式横穴墓の調査は期間等の問題など困難を極めたが、土器編年、石器および鉄器など農工具の様相、集落構成、集落と古墳群との関わりなど古墳時代研究に非常に有効な資料を供した。今回の報告は、検出された集落の一割にも満たない住居址群の報告であるため、上薗遺跡全体を網羅しているわけではなく、あくまでＦ地区における状況を示し、前述した課題については全体の報告をまってその責を果さなければならない。

古墳時代遺物について

ここでは、これまでほとんど住居出土の資料として知られていなかった古墳時代中期から後期にかけての土器群について、土師器を中心とした編年的見通しを叩き台として提示しておきたい。なお、時期決定については須恵器との供伴関係から求め、時期区分には田辺昭三氏の『須恵器大成』[1] を使用した。

Ⅰ期

10号住居址出土の粗いタタキを主体とする資料があげられる。甕は最大径が口径から胴部上半へ移行し、球形のものもあるが全体に長胴の傾向にある。調整は粗いタタキ技法[2]が主で、一部、布留系の甕が高千穂町宮ノ前第２遺跡[3]や門川町枝遺跡[4]、田野町天神河内第１遺跡[5]などで検出されたが、出土量は１～２点とその数は微量でヘラケズリ技法は在地系土器にはほとんど定着していない。ただ、器壁を薄く仕上げるものがいくつかみられる。壺は球形あるいはやや扁球状、および倒卵形、胴部が強く張り出すものがあり、底部は丸底、あるいは丸底に近い不明瞭な平底。頸部に突帯を有する壺は細い突帯から１㎝を超えた幅広の突帯に変化しⅢ期まで続く。甕・壺には口縁部が内湾するものもある。高坏は、坏部体部と口縁部の境がやや不明瞭となり、口縁部が大きく外方に開くが、遺構・遺物の項で述べたように坏部は４つの型式（a～d）にわかれる。aについては短い脚部に内湾した裾部が、bには長めの脚部に外反する裾部がそれぞれつく。それ以外の全体形については不明である。脚部においては脚部が短いという新相と、エンタシス状の脚部や裾部が内湾するなど古い様相がみられⅡ期まで続く。接合は円板充填法であるが、脚部内面を円盤充填後再度調整を行うことにより滑らかに仕上げる技法も古相として指摘できる。小型丸底坩系譜の小型の壺はやや扁球化していねいなナデ調整が施され、口径が最大径となり、平底をなすものがある。小型の壺は次のⅡ期にはみられないが宮崎市浄土江遺跡202号住居や204号住居[6]ではTK47あるいはMT15段階まで出土しており、Ⅲ期までは存続していると推定される。このようにⅠ期は、佐土原町から川南町の地域に分布するタタキを主体とする土器群である。これまでこの時期に属する遺跡は非常に少なく、新富町八幡上遺跡３号住居[7]があげられるが、複合口縁壺や布留式の影響と考えられる比較的薄く仕上げられ球形化した壺の存在など上薗遺跡より古い様相が感知される。Ⅰ期の時期を、川床遺跡[8]や新立遺跡[9]などでみられた大型で口径の大きい高坏が姿を消し、上ノ原遺跡SE２

出土高坏[10]からの系譜をもつものが主体を占め、その高坏が六野原地下式横穴墓群出土のものに形態が非常に類似すること、典型的な小型丸底坩がすでに消滅していることなどから布留式でも最も新しい段階に位置すると考えられ、すでに初期須恵器が出現している可能性もある。

Ⅱ期

5号・16号住居址出土の土器がある。Ⅱ期は、中期後半から後期をつなぐ土器群で甕・壺が大きく変化する。Ⅰ期にみられたタタキ技法がほとんど姿を消し、ナデが主たる調整となり、表面にナデや指オサエ、粘土紐の痕跡を残すなど整形が粗雑になる。甕は頸部の稜があいまいになり、最大径が胴部上位あるいは中位にくる。底部は尖底気味の小さな平底や厚手の丸底となるが、しっかりした平底も存在している。壺はⅠ期に比べ出土量が減少する。長胴や球形に近い胴部があり、ほかに扁球化した胴部の長頸壺がみられる。高坏は全体的にⅠ期に比べ小型化するが、坏部は深くなる。脚柱部では新旧の様相が入り混り、長い・短い・エンタシス状・厚手で幅が狭いもの・柱状のものなど、裾部についても境が不明瞭・明瞭・内湾気味に開くものなど各種ある。椀は口縁が内湾気味に立ち上がる形態と器高が高いものがあり、さらにそれぞれの形態に平底あるいは上げ底の底部がつくものも存在する。須恵器は外面に平行タタキを残したままの壺（あるいは甕）や樽型甕、やや内傾し長く伸びた坏身などTK208段階に併行するものと推定され、甕や高坏の形態などからⅠ期から連続する土器群として考えられるが、甕のタタキの消滅、高坏の小型化、須恵器の出現などⅠ期とⅡ期の間に大きな変化が認められ、ⅠとⅡの間にもう1段階入る可能性もあり、ほぼ同時期と考えられる甕を出土した上薗遺跡H地区2号住居[11]、国富町西下本庄遺跡12号住居[12]、高田原1号地下式横穴墓[13]の供伴遺物を検討して判断していきたい。

Ⅲ期

1号・9号・12号住居址の土器群が相当する。甕はⅡ期までの形態のほかに、口縁部が外反せず直口し、胴部上半が最大径となるものがみられる。壺は長胴の比較的大型のものはほとんど姿を消し、扁球気味の中型の壺が主体となり、底部は平底を呈す。突帯のある壺はこの時期一部みられる。また、長頸壺も存在し、永山古墳出土例[14]からⅤ期まで続き、Ⅴ期では口縁部が外反する。高坏は体部と口縁部の境の稜がなくなり、口縁部が長くなるため坏部がさらに深くなる。脚部は全体的に短くなり、裾部が不明瞭になっている。椀はⅡ期に比べ口縁部先端の内湾が強く、器高も高くなる。ほかに厚手のものもみられる。また須恵器模倣の坏身が現れる。須恵器は良好な資料はないが、12号住居出土の坏蓋からTK23～47段階に併行すると考えられる。

Ⅳ期

当期にあたる遺構はF地区では確認されていないが、Ⅲ期とⅤ期の間に入ると思われる須恵器坏蓋が溝状遺構や包含層から出土していることから当期を設定した。[15] 坏蓋は口径13.8cm、天井部と口縁部との境に明瞭な凹線が施されるものや凹線が不明瞭になるものがある。TK10段階からやや

遅れる時期が想定される。

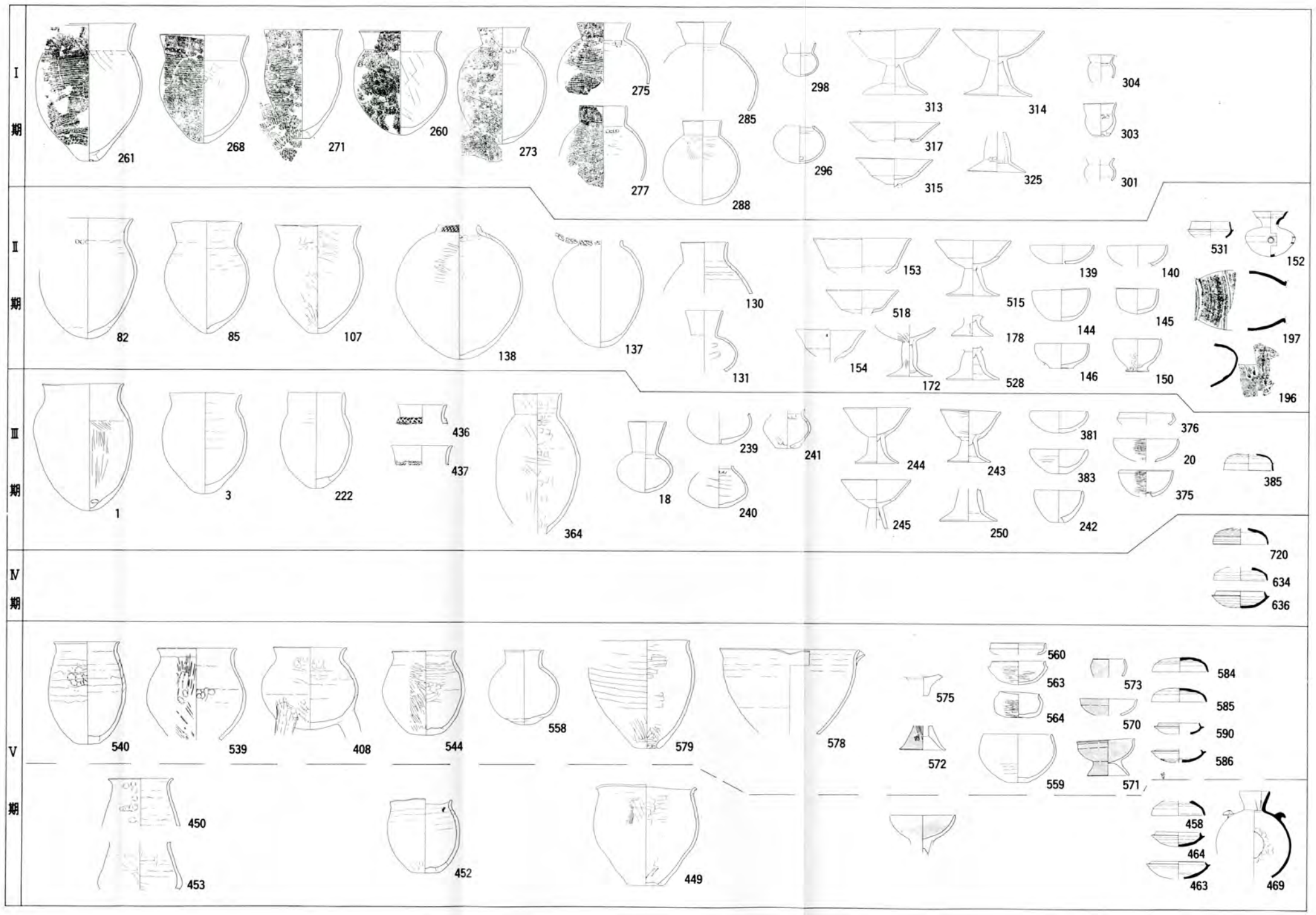
V期

4号・13号・15号・18号住居址出土の遺物があげられるが、土師器甕の形態等から二時期（古：4号・13号・18号、新：15号）に分けられ、それぞれをV、Ⅵ期としてもよいかもしれない。器種としては土師器は甕・壺・甑・片口鉢・高坏・鉢・脚付き椀、須恵器は坏身・坏蓋・甕・提瓶・高坏がある。土師器甕、壺の判別がしにくくなる。土師器甕の口縁部は短く外反し、口唇部は先細りとなる。胴部は中位が張る形態とあまり張らず長胴になるものが存在する。新しくなると胴部下半が強く張り出す。調整は内外面とも指オサエや粘土紐の痕跡が残した状態である。壺は球形の胴部を呈し、底部は厚手の平底となる。甑は[16]、口縁部が短く外反し、胴部上半部が最大径となる。新段階では古段階のものの胴部が張らなくなり、ほかに胴下半が僅かに張る形態のものもみられる。底部はいずれも単孔。高坏はこれまでの形態から大きく変化する。坏部は椀状のものにかわると推定され、Ⅲ期までの高坏はみられない。脚部は厚手で外方に広がり屈曲した裾部は消滅している。接合も円盤充填後にさらに脚内部から粘土を充填し充実した脚部を作り出している。須恵器模倣の坏身は前段階と大きな変化は見られない。そのほか新しい器種として、器高の高い鉢や脚付き椀が現れる。須恵器は坏蓋の天井部と口縁部の境の段が消失し、ヘラケズリは天井部の1／2あるいはそれ以下に施される。古段階では坏蓋口径14cm前後、新段階では口径13cm前後となる。坏身も古段階では口径13cm前後、新段階ではヘラケズリが施されないものがあり、口径12cm前後と小さくなる。新段階で15cm前後のものもみられるが、15号住居の残存状況が良好でないことから一括資料として扱うかどうかは疑問が残る。提瓶は口縁部は上方に拡張され、胴部取手はカギ状をなす。このようにV期はⅢ期までの土器の形態から大きく変化し、同時期の新富町藤掛遺跡[17]や高鍋町上別府遺跡[18]、宮崎市浄土江遺跡[19]の例からもみても形態に共通性が認められる。当期は須恵器の形態からTK43段階併行からやや下る時期があてられる。

このように上薗遺跡では古墳時代中期後半から後期までの良好な資料を得、特に甕においてⅠ期とⅡ期、Ⅲ期とⅣ期（あるいはⅣ期とV期）の間に大きな土器の変化を見出だすことができた。前者は須恵器の導入に、後者が埋甕の出現、つまり炊飯あるいは煮沸形態の大きな変化に関連が求められる。以上、F地区出土の土器をみてきたが、時間的制約から各器種ごとの細かな考察（形態分類や調整・整形技法の観察等）や出土状況の検討を行わず住居址出土土器を一括資料として編年を行ったため土器群を横割りそれぞれの土器のもつ時間幅を無視した結果となった。今回は、前述したように古墳時代土師器編年の叩き台とし、今後、上薗遺跡全体の報告を待って詳細な検討を加えていきたい。

土器以外の遺物では、鉄器および石器がある。鉄器は、鉄鏃・刀子・鎌・穂摘み鎌などが出土した。E地区も含め鉄器を出土する住居址は多数見られるが、数量としては少なく、弥生時代後半から古墳時代初頭の川床遺跡[20]に副葬された豊富な鉄器の状況とは大きな開きが認められる。所有形態に起因するものであろうか。

第２表　上薗遺跡Ｆ地区出土土器編年表



遺構について

検出された遺構のうち古墳時代と考えられるものは、住居址18軒、土坑1基、溝状遺構3条である。住居址ではⅠ期として10号住居のほか可能性があるのが6号住居、Ⅱ期は5号・11号・16号住居、Ⅲ期は1号・9号・12号住居のほか14号住居があげられる。Ⅳ期は不明。Ⅴ期は4号・13号・15号・18号があり、19号住居も可能性が高い。住居の面積は約9㎡（6号）から53㎡（15号）と幅があり、約10㎡、20㎡前後、30㎡代、40㎡超の四段階にわかれる。時期別にみると新しいほど大型の住居が多い傾向を示すが、奈良や平安期の住居は逆に10㎡前後と小さく、どの時点かで小型の方向に移行するようである。柱穴は2本あるいは4本が主体を占めるがE地区の例をみると40㎡を超える住居址では6本あるいは8本となるようである。内部施設として、Ⅴ期に出現する埋甕は北は五ケ瀬町から南は都城市までほぼ宮崎県全域[21]から検出されている。その出現の時期は、TK10段階併行の源藤遺跡2号住居ではまだ埋甕は採用されておらず、一般的にはおおよそ6世紀後半代に出現するものと考えられる。消滅の時期については一時期カマドと共存が知られるようになってきているがはっきりしていない[23]。また、壁帯溝は全時期を通じてみられる。床面に設けられた浅めの土坑は、Ⅱ期まで存続し、Ⅲ期には消える。これに符号するかのように住居廃絶後、遺物を多量に廃棄する行為もこの時期まで続いている。溝状遺構は遺構内に一括廃棄された遺物から、19号・25号溝がⅤ期以前の遺構として考えられる。また、19号溝状遺構に切られた16号溝も古墳時代の遺構と推定される。掘立柱建物は時期は確定できないが、2号掘立柱建物が主軸方向や柱穴間距離が他と違いから古墳時代に属する可能性がある。[25]

県内の古墳時代中期および後期の集落を例にとると、高千穂町宮ノ前第2遺跡[25]や北方町早日渡遺跡[26]、延岡市地蔵ケ森遺跡[27]、高鍋町大戸ノ口第2遺跡[28]、同上別府遺跡[29]、新富町北田遺跡[30]、宮崎市浄土江遺跡[31]、国富町西下本庄遺跡[32]、都城市妙見原第2遺跡[33]、同倉内遺跡[34]、えびの市妙見遺跡[35]などがあるが、何れも短時間あるいは断続的で中期から後期まで継続してるものは上薗遺跡のみで、対照的な状況を示す。このように上薗遺跡は、おおまかには10号住居址に代表されるⅠ期から開始され、Ⅳ期あるいはⅤ期に住居の数が大幅に増加し、それ以後は急速に集落の規模は縮小するものの、1世紀以上継続した集落である。また、蔵園地区および富田地区に古墳の造営が始まるのもこの時期（Ⅳ期あるいはⅤ期）と符号するものとと推定され、6世紀代には集落が拡大し、各小地域の有力層が独自に円墳を造営していく状況が想定される。これら数年におよぶ調査によって得られた記録は、遺物、集落の様相や集落と墓地の関わりなど明確にとらえられる好資料で、それは数多くの研究テーマを提供し、前方後円墳・円墳・地下式横穴墓で構成される祇園原地区の古墳群のありかたとの比較も今後の興味ある課題の一つである。

註

(1) 田辺昭三　『須恵器大成』(角川書店) 1981

(2) タタキ技法について詳細は述べないが、大半は胴部に右上がりの粗いタタキがみられ、口縁部まで及ぶものもある。胴下半には右下がり・縦方向のタタキ、あるいはナデなどあり、平底の底部にもタタキが認められる。例外として、263は口縁部が右上がりタタキのあと、胴部に右下がりのタタキが施される。前者は土器を横位に持ち施文する方法で、後者は土器を立ててあるいは逆さにして行われると想定され、胴部下半に右下がりのタタキが認められることからすれば、整形後、胴部下半から頸部まで一括してタタキ調査が行われたと考えられる。

(3) 長津宗重ほか「吾平原第2遺跡・宮ノ前第2遺跡・城ノ平遺跡」『国道218号線高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書』　宮崎県教育委員会　1993

(4) 平成6年度、県道改良事業により宮崎県教育委員会によって調査。

(5) 菅付和樹・谷口武範『天神河内第2遺跡』　宮崎県教育委員会　1991

(6) 野間重孝「浄土江遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第6集　宮崎市教育委員会1981

(7) 近藤協「八幡上遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集　新富町教育委員会　1986

(8) 有田辰美「川床遺跡」『新富町文化財調査報告書』第5集　新富町教育委員会　1986

(9) 蓑方政幾「新立遺跡」『西都市埋蔵文化財調査報告書』第18集　西都市教育委員会

(10) 永友良典「上ノ原遺跡」『川南町文化財調査報告』第4集　川南町教育委員会　1986

(14) 長津宗重ほか「永山古墳・山塚原古墳群」『木城町文化財調査報告書』　第2集　木城町教育委員会　1990

(15) 他の調査区でＭＴ１５段階の遺構が確認される可能性があり、そうなった場合さらにもう一時期設定する必要がある。

(16) Ｅ区2号住居址で、Ⅰ期あるいはⅡ期の段階で多孔の甑が出土している。
有田辰美他「北原牧地区遺跡」『新富町文化財調査報告書』第7集　新富町教育委員会 1986

(17) 岩永哲夫ほか「藤掛遺跡・鐙遺跡」『新富町文化財調査報告書』第2集　新富町教育委員会 1983

(18) 永友良典ほか「上別府遺跡」『お染ケ岡地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告』　宮崎県教育委員会　1979

(19) 註(6)文献。

(20) 註(8)文献。

(21) 五ケ瀬町広木野遺跡。平成4年度、学校建設に伴い宮崎県教育委員会が調査。住居址3軒を検出。
都城市妙見原第2遺跡。平成　年度、県道改良工事に伴い宮崎県教育委員会が調査。住居址6軒を検出。

(22) 伊東　但「源藤遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』　宮崎市教育委員会　1987

(23) 新富町北田地区遺跡。平成6年度、県営ほ場整備事業に伴い新富町教育委員会が調査。TK

43段階でカマドと埋甕の共存が確認され、TK217段階まで一部共存している。有馬義人氏の御教示による。

(24) 地区では古墳時代後期の住居址を切る掘立柱建物建物が確認されている。

(25) 註(3)文献。

(26) 小野信彦「速日峰地区遺跡」『北方町文化財調査報告書』第2・3・7集　北方町教育委員会　1991・1992・1995

(27) 谷口武範「地蔵ケ森遺跡」『宮崎県史』資料編　考古2　宮崎県　1994

(28) 戸高眞知子「大戸ノ口第2遺跡」『高鍋町文化財調査報告書』第5集　高鍋町教育委員会　1991

(29) 註(18)文献。

(30) 註(23)。

(31) 註(6)文献。

(32) 平成5・6年度、学校建設に伴い宮崎県教育委員会が調査。

(33) 註(21)。

(34) 平成　年度、県道改良工事に伴い宮崎県教育委員会が調査。住居址　軒を検出。

(35) 「野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡」『九州縦貫道（人吉～えびの間）建設工事にともなう埋蔵文化財調査報告書』第2集　1994

(36) 集落としては、14世紀頃まで断続的に営まれている。

(37) 有田辰美「富田古墳群」・「鐙　古墳」・「蔵園地下式横穴墓群」『宮崎県史』資料編　考古2　宮崎県　1993　「鐙　古墳」については、註(17)文献。

参考文献

佐々木隆彦「2　松木遺跡群出土土器の展開」『松木遺跡Ⅰ（下巻）　那珂川町文化財調査報告書』第11集　那珂川町教育委員会　1984

佐藤浩司「古墳時代後半期の土師器編年試案」『長野A遺跡2　北九州市埋蔵文化財調査報告書』第54集　北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室　1987

玉永光洋「大溝出土土器群の時期幅について」『安国寺遺跡　大分県・国東町文化財調査報告書』第4集　国東町教育委員会　1989

「上ノ原遺跡Ⅱ・Ⅲ」『熊本県文化財調査報告』第64集　熊本県教育委員会　1984

「上ノ原遺跡Ⅲ」『熊本県文化財調査報告』第73集　熊本県教育委員会　1985

寺沢　薫「畿内古式土師器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』　橿原考古学研究所　1986

第2～32表　上薗遺跡F地区出土土器観察表

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
1号住居	1	土師器	甕	20.6　32.4	㊥浅黄橙・橙 ㊦黄橙・にぶい黄橙	良好	1～3	口縁部　ナデ、ヨコナデ 胴部　ナデ　タテ方向のナデ	口縁部　ヨコナデ、斜のナデ 胴部　タテ方向のナデ、斜のナデ、指押え	外面　スス付着
	2	土師器	甕	(20.5)　(24.8)	㊥橙 ㊦橙・浅黄	良好	0.5～4.5 6　少量	口縁部　ヨコナデ、斜のナデ 胴部　タテ・ヨコ・斜のナデ、タテ方向のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、斜のナデ、タテ・斜のナデ	内面　炭化物付着
	3	土師器	甕	18.0　25.5	橙	良好	0.5～4 6、7、9　少量	口縁部　ヨコナデ、タテ方向のナデ 胴部　ヨコナデ、斜のナデ、タテ方向のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ、タテ・斜のナデ	内面　炭化物付着 外面　スス付着
	4	土師器	甕	(19.5)	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～3 多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ、斜のナデ	胴部　ヨコナデ	内面　黒変 外面　スス付着
	5	土師器	甕	(20.3)	㊥橙・灰黄褐 ㊦黄橙	良好	0.5～4 6　少量	口縁部　ヨコナデ、ナデ 胴部　斜のナデ	口縁部　ヨコナデ、ナデ 胴部　タテ、斜のナデ	内面　黒変
	6	土師器	甕	3.95	にぶい黄橙	良好	0.5～3　多量 5　少量	頸部　ヨコナデ 胴部　タテ方向のナデ、斜のナデ、ナデ	頸部　ヨコナデ 胴部　ナデ、斜のナデ	内面　赤変 外面　黒変、赤変
	7	土師器	甕	13.7　18.0	㊥明赤褐・黄灰 ㊦橙・赤	良好	3～6　少量	口縁部　斜のナデ 胴部　指押さえ、ナデ	口縁部　斜のナデ、指ナデ 胴部　斜のナデ	内外面　黒変
	8	土師器	口縁		㊥浅黄橙 ㊦淡赤橙	良好	0.5～2	ヨコの平行タタキ後ナデ	ヨコナデ、ナデ	外面　スス付着
	9	土師器	頸部～胴部		㊥浅黄 ㊦浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコナデ 斜の平行タタキ	ナデ	
	10	土師器	底部	5.8	橙	良好	0.5～2	ナデ	ナデ	外面　黒変
	11	土師器	底部		橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	内外面　黒変
	12	須恵器	口縁		黄灰	堅緻	細砂粒　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	13	土師器	底部		㊥黄橙 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～3　多量	ナデ	ナデ	外面　スス付着
	14	土師器	底部		橙	良好	0.5～5	ヨコ・斜のナデ、ナデ	斜のナデ、沈線	
	15	土師器	壺		橙	良好	0.5～2.5	刻み目突帯 ナデ	ナデ	
	16	須恵器	口縁		淡黄	堅緻	0.5～2　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面　自然釉
	17	土製品	円盤		橙	良好	0.5～1.5	ナデ	ナデ	面取り 未貫通穿孔
	18	土師器	長頸壺	(9.4)　18.0	㊥浅黄橙・褐灰 ㊦黄橙・黒褐	良好	微砂粒	ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ	内外面　黒塗り？
	19	土師器	椀	(16.5)	㊥にぶい黄橙 ㊦橙	良好	0.5～3　少量 微砂粒　少量	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	外面　黒変
	20	土師器	椀	(16.0)	橙	良好	0.5～1　少量	ヨコ・斜のミガキ	ミガキ（風化）	外面　黒変
	21	土師器	椀	(17.3)	浅黄橙	良好	0.5～3 微砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ 斜のナデ	内面　黒変
	22	土師器	椀	(18.2)	橙	良好	0.5～1 細砂粒	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	
	23	土師器	椀	(14.4)	橙	良好	細砂粒　少量	ナデ、ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ	
	24	土師器	高杯		橙	良好	0.5～2　少量	ナデ	ナデ	
	25	須恵器	甕		㊥黄灰 ㊦浅黄	堅緻	0.5～3　少量	ヨコナデ 平行タタキ後ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
1号住居	26	須恵器	甕		黄灰	堅緻	0.5～2　少量	ヨコナデ ヨコナデ後櫛描波状文	ヨコナデ 指押さえ	外面　自然釉
	27	須恵器	甕		㊥黄灰 ㊦灰白	堅緻	0.5～1　少量	擬格子目タタキ	タタキの後ヨコナデ	
	28	須恵器	甕		㊥褐灰 ㊦灰・黒・明黄褐	堅緻	0.5～2　少量	平行タタキ後カキメ	同心円タタキ	外面　自然釉
	29	須恵器	甕		褐灰	堅緻	0.5～1　少量	タテ方向に平行タタキ後カキメ	同心円タタキ後ナデ	
	30	須恵器	甕		㊥灰白 ㊦灰黄	堅緻	0.5～1 細砂粒	平行タタキ後ナデ	ナデ	外面　自然釉
	31	須恵器	甕		黄灰	堅緻	0.5～2	擬格子目タタキ	同心円タタキ後ヨコナデ	
	32	須恵器	甕		㊥灰 ㊦灰白	堅緻	微砂粒	平行タタキ	斜のナデ	外面　自然釉
	33	須恵器	甕		㊥灰 ㊦灰黄	堅緻	0.5～2	平行タタキ タタキ後ナデ	同心円タタキ	
	34	須恵器	甕		㊥灰白 ㊦黄灰	堅緻	0.5～2 細砂粒	平行タタキ ナデ	同心円タタキ後ナデ	外面　自然釉
	35	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～4	格子目タタキ	同心円タタキ後ナデ	
	36	須恵器	甕		灰	堅緻	微砂粒	格子目タタキ	斜のナデ	
	37	須恵器	甕		灰	堅緻	微砂粒	格子目タタキ後ナデ	ナデ	
	38	須恵器	甕		灰	堅緻	微細粒	格子目タタキ後ナデ	ナデ	
2号住居	39	土師器	底部		にぶい黄橙	良好	0.5～5	ナデ	指ナデ	内面　炭化物
	40	土師器	底部		㊥褐灰 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～5　多量	平行タタキ 平行タタキ後ナデ	ナデ 斜のナデ	
	41	土師器	口縁		㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～3.5　多量	ヨコナデ	ヨコナテ	
	42	土師器	口縁		橙	良好	0.5～4　多量 細砂粒　少量	ヨコナデ	ヨコナデ 斜のナデ	
	43	土師器	皿	(15.7)	橙	良好	0.5～2	ヨコのヘラミガキ	ヨコのヘラミガキ	
	44	土師器	皿	(9.15)	橙	良好	0.5～4	ヨコナデ ナデ	ナデ	
	45	土師器	底部	(3.8)	㊥にぶい橙・黒 ㊦橙	良好	細砂粒	ナデ	ナデ	
	46	土師器	裾部		褐灰・橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	内外面　黒変
	47	土師器	椀		㊥浅黄橙 ㊦橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	48	土師器	椀		橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	49	土師器	椀		橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	50	土師器	杯		㊥にぶい橙 ㊦淡赤橙	良好	細砂粒	ミガキ	ミガキ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
2号住居	51	須恵器	杯蓋		灰色	堅緻	0.5～3.5	ヘラケズリ	ヨコナデ、仕上げナデ	ロクロ回転 時計回り
	52	須恵器	杯蓋		灰黄	堅緻	細砂粒	タテ方向のナデ	タテ方向のナデ	
	53	須恵器	杯蓋		灰黄	堅緻	0.5～1.5	ヘラケズリ 平行タタキ ヨコナデ	ヨコナデ 仕上げナデ	外面　自然釉　他の土器付着　ロクロ回転時計回り
	54	須恵器	杯蓋	(12.65)	㊥褐灰 ㊦灰赤	堅緻	0.5～4	ヘラケズリ、ヨコナデ ヘラ刻み	ヨコナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り
4号住居	55	土師器	甕	22.3　24.8	㊥橙・にぶい橙 ㊦橙・灰褐	良好	0.5～4　多量	口縁部　ヨコナデ後指ナデ 胴部　タテ・斜のナデ　底部ナデ	ヨコナデ ナデ	外面　スス付着
	56	土師器	甑	(26.2)　21.3	㊥橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～3　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、タテ方向のナデ	斜のナデ	外面　スス付着
	57	土師器	口縁		㊥にぶい黄橙 ㊦黄橙	良好	0.5～1.5	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	58	土師器	口縁		㊥橙 ㊦黄橙	良好	細砂粒 微砂粒	ヨコナデ	斜のナデ ヨコナデ	
	59	土師器	壺		㊥浅黄橙 ㊦橙	良好	0.5～1.5　多量	刻み目突帯 ヨコナデ	ナデ	
	60	土師器	胴部～底部	3.0	橙	良好	0.5～3.5	ナデ	ナデ	あげ底
	61	土師器	底部	(7.8)	橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	外面　スス付着
	62	土師器	杯	(15.0)	黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	外面　黒変
	63	土師器	脚部	(7.8)	橙	良好	0.5～1 細砂粒　多量	ヨコナデ	タテ方向のナデ ヨコナデ	
	64	土師器	杯		㊥橙 ㊦灰褐	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のヘラミガキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ミガキ	
	65	土師器	杯	11.2	㊥浅黄橙 ㊦黄橙・橙	良好	0.5～4 細砂粒	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコのヘラミガキ	ミガキ	
	66	須恵器	杯蓋		暗赤灰	堅緻	0.5～3	ナデ	ナデ	内面　自然釉
	67	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	
5号住居	68	土師器	甕	23.0　25.0　8.3	橙・浅黄橙	良好	0.3～4　多量	口縁部　指押さえ、斜の指ナデ 胴部　タテ・ヨコ・斜の指ナデ	口縁部　指押さえ、ヨコナデ 胴部　ナデ後指ナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　黒斑 木の葉底
	69	土師器	甕	20.2　24.15　7.8	㊥橙・浅黄橙 ㊦橙・黄橙	良好	1～4	口縁部　指押さえ、斜のナデ 胴部　指ナデ、斜のナデ	口縁部　指押さえ、斜のナデ 胴部　ヨコナデ、タテ方向のナデ、指押さえ　底部　ナデ	外面　スス付着、黒斑 内面　黒斑 木の葉底
	70	土師器	底部	(8.4)	㊥橙 ㊦橙・にぶい橙	良好	0.5～3　多量	斜のナデ ナデ	斜のナデ	外面　スス付着
	71	土師器	底部	(7.1)	㊥橙・黒褐 ㊦橙・灰褐	良好	0.5～5　多量	タテ方向のナデ	ナデ	内面　炭化物付着
	72	土師器	底部	(19.6)	㊥橙・にぶい褐 ㊦橙	良好	0.5～2	タテ・ヨコ・斜のナデ	ナデ	木の葉底
	73	土師器	底部		㊥褐灰 ㊦にぶい黄褐	良好	2～6	ナデ	ナデ	内面　黒変
	74	土師器	底部	9.6	㊥にぶい橙 ㊦橙	良好	0.5～3　多量	ナデ 斜のナデ	ナデ	外面　もみ痕
	75	土師器	甕	22.3　26.7　5.7	橙	良好	1～4　多量	口縁部　ナデ　底部　ナデ、指押さえ 胴部　タテ方向のナデ、ヨコナデ、ナデ	ナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着 あげ底

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径	器高	底径(cm)	色調	焼成	含有砂粒(mm)	調整 外面	調整 内面	備考
5号住居	76	土師器	甕	19.7	26.9	5.5	㊥橙 ㊦橙・明黄褐	良好	0.5～5	口縁部　指押さえ、斜のナデ 胴部　斜・ヨコ・タテのナデ、ナデ	口縁部　指押さえ、ヨコ・斜のナデ 胴部　ナデ、斜のナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	77	土師器	甕		24.7		㊥黄橙 ㊦橙	良好	0.5～5　多量	口縁部　ナデ 胴部　ナデ、斜のナデ、タテ方向のナデ	口縁部　指押さえ、ナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ	外面　スス付着 あげ底
	78	土師器	底部			6.3	橙	良好	0.5～6	ナデ	ナデ	外面　黒変 内面　黒斑 木の葉底、あげ底
	79	土師器	底部			7.7	㊥黄橙 ㊦黄橙・橙	良好	細砂粒　少量	ヨコナデ タテ方向のナデ	ナデ	木の葉底 あげ底
	80	土師器	底部			5.6	㊥浅黄橙・褐灰 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～3	ナデ 指ナデ	斜のナデ	外面　スス付着 あげ底
	81	土師器	胴部～底部			6.0	橙	良好	0.5～6	ナデ 斜のナデ	ヨコナデ、ヨコ・斜のナデ、ナデ	あげ底
	82	土師器	甕		30.65		㊥黄橙・橙 ㊦橙	良好	0.5～4	口縁部　ヨコナデ、斜のナデ　頸部　指押さえ 胴部　ナデ、斜のナデ	口縁部　ヨコナデ、斜のナデ 胴部　タテ方向のナデ、ナデ	外面　スス付着
	83	土師器	甕	26.6	27.75	5.0	㊥橙・褐灰 ㊦橙	良好	0.5～5	口縁部　ナデ、ヨコナデ 胴部　斜のナデ、タテ・ヨコナデ	口縁部　ヨコナデ、斜のナデ 胴部　ナデ、斜のナデ	外面　スス付着
	84	土師器	甕	24.0	27.3	2.0	橙	良好	1～5 6少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、斜のナデ、タテ方向のナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	85	土師器	甕	17.3	28.65		㊥明褐・橙 ㊦明褐	良好	0.5～3　多量	口縁部　斜のナデ 胴部　ナデ、タテ・ヨコ・斜のナデ	口縁部　斜のナデ 胴部　ナデ、タテ・ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 黒変
	86	土師器	甕	17.9	25.3		橙	良好	0.5～4　多量	口縁部　斜のナデ、ヨコナデ、指ナデ 胴部　斜のナデ、ナデ	口唇部　指押さえ口縁部　ナデ 胴部　ナデ、ヨコナデ、斜のナデ、指押さえ	外面スス付着・赤変
	87	土師器	底部				㊥橙・褐灰 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～5	ナデ、タテ方向のナデ	タテ方向のナデ	内面　黒変
	88	土師器	底部				橙	良好	0.5～4	タテ・斜のナデ後ナデ	ナデ 斜・ヨコナデ	外面　スス付着
	89	土師器	底部				㊥浅黄橙 ㊦黄橙	良好	0.5～4　多量 0.5～3　少量	ナデ 斜のナデ	ナデ、斜のナデ 指押さえ	内面　黒変
	90	土師器	底部				㊥にぶい橙 ㊦橙	良好	0.5～3	ナデ	ナデ	外面　黒変
	91	土師器	底部				㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5	ナデ、斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着
	92	土師器	甕	(19.2)	27.1		橙	良好	0.5～3	口縁部　タテ方向のナデ 胴部　タテ方向のナデ、ナデ、ヨコ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、ヨコナデ、斜のナデ	外面　スス付着
	93	土師器	甕	20.0	29.1	6.0	橙	良好	0.5～5.5 6.5　少量	口縁部　タテ・ヨコナデ、指押さえ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ、格子目タタキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、タテ方向のナデ	外面　スス付着
	94	土師器	甕	24.2			浅黄橙	良好	0.5～5　多量	口縁部　ヨコナデ、指押さえ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ、指押さえ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ	外面　スス付着、赤変 内面　炭化物付着、赤変
	95	土師器	胴部～底部				㊥褐灰・黒褐 ㊦浅黄橙	良好	0.5～4	ナデ、タテ方向のナデ	ナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	96	土師器	甕	(24.15)	29.2	7.0	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜・タテ方向のナデ、ナデ	口縁部　ナデ 胴部　ヨコナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	97	土師器	胴部～底部			6.5	橙・にぶい黄橙	良好	0.5～5　多量	ナデ	ナデ	
	98	土師器	甕	19.8			にぶい黄橙	良好	0.5～4　多量 5～7　少量	ナデ、指押さえ	口縁部　ヨコナデ、指押さえ 胴部　ナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　黒変
	99	土師器	胴部～底部				㊥灰褐・褐灰 ㊦橙・褐灰	良好	0.5～3.8　多量	斜・タテ方向のナデ後指ナデ	ナデ	内面　黒変
	100	土師器	胴部～底部				㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～4　多量	ナデ	ナデ 斜のナデ、タテ方向のナデ	外面　スス付着 内面　黒変

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
5号住居	101	土師器	底部	3.8	㊥にぶい橙・褐灰 ㊦浅黄橙・褐灰	良好	0.5～4	タテ方向のナデ、ナデ	ヨコナデ	
	102	土師器	底部	3.85	㊥橙・にぶい赤褐 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～4	格子目タタキ後ナデ	ナデ、斜方向のナデ	
	103	土師器	底部		㊥にぶい橙・褐灰 ㊦にぶい黄橙・褐灰	良好	0.5～6	タテ方向のナデ、ナデ	ナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　黒変
	104	土師器	底部		㊥橙・にぶい橙 ㊦橙	良好	0.5～4　多量	ヨコ・タテ方向のナデ	ナデ ヨコナデ	
	105	土師器	底部		㊥淡黄・黒 ㊦淡黄・灰黄褐	良好	0.5～3	格子目タタキ後ナデ	斜のナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	106	土師器	甕	23.7　28.2　2.8	㊥にぶい黄褐　黄橙 ㊦橙・明黄橙	良好	2～5　多量	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　タテ方向のナデ	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　斜のナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	107	土師器	甕	21.4　27.6　4.7	橙・にぶい黄橙	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜の指ナデ	口縁部　斜のナデ 胴部　斜の指ナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	108	土師器	甕	(20.8)	橙	良好	0.5～3	口縁部　斜のナデ 胴部　ヨコ・斜・タテ方向のナデ	口縁部　ナデ、ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、指押さえ	外面　スス付着
	109	土師器	甕	(23)	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	
	110	土師器	甕	(22.2)	橙	良好	0.5～5	口唇部　指押さえ、ナデ　口縁部　ナデ・ヨコナデ 胴部　ヨコナデ	口縁部　指押さえ、ナデ 口縁部～頸部　ヨコナデ・ナデ	外面　スス付着
	111	土師器	甕	(18.2)	㊥橙 ㊦橙・にぶい橙	良好	0.5～5 6～7　少量	口縁部　指押さえ、斜のナデ 口縁部～胴部　斜のナデ、ヨコナデ	口縁部　指押さえ、ヨコナデ 胴部　ヨコナデ	外面　スス付着・黒変 内面　炭化物付着
	112	土師器	甕	(21.2)	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5	口縁部　斜のナデ 胴部　ヨコ・タテ・斜のナデ	ヨコナデ	外面　スス付着、黒斑 内面　炭化物、黒斑
	113	土師器	甕	(18.7)	橙	良好	0.5～4	ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ、ナデ、斜のナデ	
	114	土師器	甕	(21)	橙	良好	0.5～4	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	外面　スス付着
	115	土師器	甕	22.45	橙	良好	1～4	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ後ナデ	ヨコ・斜のナデ後ナデ、タテ方向のナデ後ナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	116	土師器	甕	(21.2)	㊥浅黄橙 ㊦黄橙	良好	0.5～4	口縁部　ヨコナデ、指押さえ 胴部　ヨコ・斜のナデ、指押さえ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	外面　スス付着 内面　黒変 高師小僧
	117	土師器	甕	(20.05)	㊥明黄褐・暗灰黄 ㊦橙	良好	1～4	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜・タテ方向のナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	118	土師器	甕	(17)　(23.6)	㊥浅黄橙・褐灰 ㊦浅黄橙・灰褐	良好	0.5～2　多量	口縁部　ヨコナデ・指押さえ 胴部　ヨコ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	119	土師器	甕	(18.2)	橙	良好	0.5～5 6～7　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・タテ方向のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	
	120	土師器	甕	20.45	㊥橙・黒褐 ㊦橙	良好	0.5～3　多量	ナデ	ナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	121	土師器	甕	(21.4)	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～3　多量	斜のナデ	口縁部　斜のナデ・指押さえ 胴部　ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着
	122	土師器	甕	23.6	橙	良好	0.5～5　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	
	123	土師器	甕	19.4	㊥橙・黄橙 ㊦橙	良好	1～5	ヨコ・タテ・斜のナデ	ヨコ・タテ・斜のナデ	外面　黒斑
	124	土師器	甕	(20.8)	橙	良好	3～5	口縁部　斜のナデ後指押さえ、斜のナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	口縁部　指押さえ、ヨコナデ 胴部　斜のナデ	外面　スス付着、黒変
	125	土師器	甕	18.2	橙	良好	0.5～5 6～7　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ、ナデ、格子目タタキ後ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、斜のナデ	外面　スス付着

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
5号住居	126	土師器	甕		橙	良好	0.5～3.5 多量 0.5～1.5 少量	口縁部 ヨコナデ 胴部 格子目タタキ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜・ヨコナデ	
	127	土師器	胴部		にぶい橙	良好	0.5～2 多量	格子目タタキ後ナデ	ヨコナデ	
	128	土師器	壺	(12.5)	内橙 外橙・明黄褐	良好	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	
	129	土師器	壺		橙	良好	0.5～1 細砂粒	ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ、斜のナデ	
	130	土師器	壺	11.65	橙	良好	0.5～2	口縁部 ヨコナデ後ナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜・ヨコナデ	
	131	土師器	壺	9.2	内黄橙・にぶい橙 外橙・にぶい橙	良好	0.5～1	ナデ	口縁部 ヨコ・斜のナデ 胴部 ナデ、斜の指ナデ	
	132	土師器	壺		橙	良好	0.5～2.5	刻み目突帯、ヨコナデ、ナデ	ナデ	
	133	土師器	壺		内褐灰 外浅黄橙	良好	0.5～3.5 多量	刻み目突帯、ナデ	ナデ、斜のナデ	
	134	土師器	壺		淡黄	良好	0.5～2.5	刻み目突帯、ナデ	ナデ	
	135	土師器	壺		内にぶい橙 外にぶい黄橙	良好	0.5～2.5	刻み目突帯、ヨコナデ	ナデ	
	136	土師器	壺		橙	良好	0.5～2.5	刻み目突帯、ヨコナデ	ヨコナデ	
	137	土師器	壺		橙	良好	2～5 多量 6～7 少量	刻み目突帯、ナデ、ヨコナデ	斜のナデ、ナデ	外面 スス付着
	138	土師器	壺		内にぶい黄橙 外橙	良好	0.5～1 少量	刻み目突帯、ナデ	ヨコナデ、斜のナデ、指押さえ	外面 スス付着、赤変、黒斑 内面 黒変
	139	土師器	椀	(16) (4.7) (5)	内黄橙・明黄褐 外橙・黒褐	良好	0.5～2 多量	ナデ	ナデ	外面 黒斑
	140	土師器	椀	(18) (5.3)	内橙・にぶい黄橙 外橙・灰黄褐	良好	0.5～1	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ・ミガキ	口縁部 ナデ 胴部 ナデ、ミガキ	
	141	土師器	椀	(13.55)	橙	良好	1.5～2 少量	ヨコナデ、ナデ	斜のナデ	内面 黒変
	142	土師器	椀		内明黄褐 外明黄褐・褐灰	良好	0.5～2	タテ方向のナデ	ナデ	外面 黒斑
	143	土師器	椀		内黄橙 外黄橙・褐灰	良好	0.5～4	ナデ	ヨコナデ	外面 スス付着
	144	土師器	椀	14.1 8.4 3.6	内橙 外橙・浅黄橙	良好	0.5～4 多量	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜のナデ 底部 ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜のナデ	
	145	土師器	椀	(10.8) (6.4)	橙	良好	細砂粒	ヨコナデ 底部 ナデ	ヨコナデ 底部 ナデ	
	146	土師器	椀	(13.1) 6.35 (5.7)	橙	良好	1～2 少量	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ、指押さえ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	木の葉底
	147	土師器	椀	(11.8)	内橙 外橙・赤灰	良好	0.5～3	ナデ	ナデ	外面 黒変
	148	土師器	椀		浅黄橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	
	149	土師器	胴部～底部		内浅黄橙 外橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ、指押さえ	
	150	土師器	椀	(11.7) 8.35 (6)	橙	良好	0.5～3	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ、指押さえ 底部 ナデ、指押さえ	ヨコナデ底部 指押さえ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
5号住居	151	土師器	底部	5.3	㊥浅黄 ㊦浅黄橙	良好	0.5～3	胴部　指押さえ、ナデ 底部　ヨコナデ、ナデ	ナデ	内面　黒変
	152	土師器	底部	3	㊥浅黄橙 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～2	ナデ	ナデ、指押さえ	外面　黒変
	153	土師器	高杯	(24.5)	橙・にぶい橙	良好	0.5～1	ヨコ・斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	154	土師器	高杯	(18)	にぶい橙	良好	微砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	155	土師器	高杯	(16.5)	橙	良好	細砂粒	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	内面　黒斑
	156	土師器	高杯		橙	良好	0.5～2　少量	ヨコ・タテ方向のナデ、ナデ	ナデ	
	157	土師器	高杯		橙・赤灰	良好	0.5～2	ナデ	ナデ	内外面　黒変・赤変
	158	土師器	高杯		㊥橙・黄橙 ㊦橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	159	土師器	高杯		㊥にぶい橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ナデ	内外面　黒斑
	160	土師器	高杯		㊥浅黄橙・灰黄 ㊦浅黄橙	良好	細砂粒	ヨコ・斜のナデ	斜のナデ	
	161	土師器	高杯		橙	良好	細砂粒	ナデ	ナデ	
	162	土師器	高杯		浅黄橙	良好	0.5～1	ナデ	杯部　ナデ 脚部　ナデ、タテ方向に指ナデ	
	163	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	杯部　タテ方向のナデ 脚部　ヨコ・斜のナデ　裾部　ヨコナデ	内外面　黒斑
	164	土師器	高杯		㊥褐灰 ㊦橙	良好	細砂粒 0.5～1	杯部　ヨコナデ 脚部　ナデ	杯部　ナデ　脚部　ヨコナデ 裾部　ナデ	内面　黒斑
	165	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1.5	ナデ	杯部　ヨコ・斜のナデ 脚部　ナデ	
	166	土師器	高杯		㊥黄橙 ㊦橙	良好	細砂粒	ナデ	杯部　ナデ 脚部　ナデ	外面　スス付着
	167	土師器	高杯		㊥淡黄 ㊦浅黄橙	良好	微砂粒 0.5～2.5　少量	ヨコナデ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ、指押さえ	内面　黒変
	168	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1.5	ヨコナデ	ヨコナデ後指ナデ、ヨコナデ	
	169	土師器	高杯		橙	良好	細砂粒 0.5～1	ナデ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ、指ナデ、ナデ	
	170	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1 細砂粒	ナデ	杯部　ナデ 脚部　ナデ、指ナデ	
	171	土師器	高杯		橙	良好	微砂粒	ナデ	ヨコナデ、ナデ	
	172	土師器	高杯	11.4	橙	良好	0.5～1.5 細砂粒	杯部　タテ方向の指ナデ後ヨコナデ 脚部　ヨコナデ　裾部　指ナデ、ヨコ・斜のナデ	杯部　ナデ 脚部　指ナデ、ヨコナデ　裾部　ミガキ	外面　スス付着
	173	土師器	高杯		㊥灰・黄橙 ㊦橙	良好	0.5～2	タテ方向の指ナデ後ヨコナデ	ヨコナデ、指ナデ	内面　炭化物付着
	174	土師器	高杯		淡黄	良好	0.5～2	ナデ	杯部　ナデ 脚部　指押さえ、タテ方向のナデ	
	175	土師器	高杯		橙	良好	細砂粒　多量	ナデ	ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
5号住居	176	土師器	高杯		黄橙	良好	0.5～1 細砂粒	ナデ	ナデ	
	177	土師器	高杯		㊥にぶい褐 ㊦にぶい黄橙・にぶい橙	良好	0.5～1 細砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
	178	土師器	脚付椀		橙	良好	微砂粒	ヨコナデ、斜・タテ方向のナデ 指押さえ	ナデ・ヨコナデ	内外面　黒変
	179	土師器	高杯		淡黄	良好	0.5～1 細砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
	180	土師器	高杯		㊥橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1.5	ナデ	ナデ	
	181	土師器	高杯		橙	良好	細砂粒　少量	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	内面　黒変
	182	土師器	高杯		浅黄橙	良好	細砂粒	ナデ	ナデ	
	183	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1 細砂粒	ナデ、ヨコ方向の指ナデ	ナデ	
	184	土師器	高杯		㊥浅黄 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1	脚部　ナデ	杯部　ナデ 脚部　斜のナデ	
	185	土師器	高杯		橙	良好	0.5～2	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	
	186	土師器	高杯		橙	良好	0.5～4 微砂粒	ヨコナデ	ナデ	外面　黒変
	187	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1.5 細砂粒	ナデ	杯部　ナデ 脚部　指押さえ、タテ方向の指ナデ	
	188	土師器	高杯	(15)	にぶい橙	良好	微砂粒	ヨコ・斜のナデ	ヨコナデ	内外面　スス付着
	189	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	190	須恵器	杯		灰白	堅緻	精砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
	191	須恵器	杯		灰白	堅緻	精砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
	192	須恵器	甕		㊥灰 ㊦灰・灰白	堅緻	0.5～1	格子目タタキ	同心円タタキ	
	193	須恵器	甕		灰	堅緻	精砂粒	格子目タタキ	ナデ	
	194	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～5	平行タタキ後カキ目	ヨコ・斜のナデ	
	195	須恵器	甕		㊥灰 ㊦灰白	堅緻	0.5～1	平行タタキ	ナデ	
	196	須恵器	壺		㊥暗灰 ㊦灰・暗灰	堅緻	0.5～1.5	ヨコナデ、下半格子目タタキ	ヨコナデ、指ナデ	内外面　自然釉
	197	須恵器	樽型瓶		灰	堅緻	0.5～4	ヨコナデ、櫛描波状文	ヨコナデ	外面　自然釉
	198	土師器	フイゴの羽口	長さ6.8　幅8.9	㊥橙 ㊦浅黄橙・淡黄	良好	0.5～2.5　少量	ナデ	ナデ	外面　スス付着・先端に鉄滓付着
	199	土師器	土錘	長さ4.5　厚さ1.9	浅黄橙	良好	0.5～3	ナデ	ナデ	穿孔
6号住居	200	土師器	口縁部	(11.4)	㊥浅橙 ㊦浅黄橙・浅橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　スス付着

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
6号住居	201	土師器	甕	(15.0) 4.4	㊥浅黄橙 ㊦にぶい橙・浅黄橙	良好	0.5～6	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ、斜のハケ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ、ヨコナデ後指押さえ	外面 黒斑 内面 黒色物
	202	土師器	杯	(14.65) (3.35)	橙	良好	0.5～3 多量	ヨコのヘラミガキ、風化気味	ヨコのヘラミガキ	
	203	土師器	高杯	(17.3)	浅黄橙	良好	0.5～1 少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	204	土師器	高杯	(17.5)	浅黄橙	良好	0.5～2 多量	風化	ヨコナデ・ナデ	外面 黒斑
	205	土師器	高杯	(20.0)	浅黄橙	良好	微砂粒	ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ	
	206	土師器	壺		㊥褐灰 ㊦浅黄	良好	0.5～4	刻み目突帯（布痕）	斜のナデ	
	207	土師器	底部		㊥にぶい黄橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～1	ナデ	タテ・斜の指ナデ	内面 黒変
	208	土師器	胴部		㊥淡黄 ㊦にぶい褐色	良好	0.5～4 多量	平行タタキ	斜のナデ	
	209	土師器	胴部		浅黄橙	良好	0.5～3 多量	平行タタキ	ナデ	
	210	須恵器	底部		灰	堅緻	0.5～3	ヘラケズリ	ヨコナデ	
9号住居	211	土師器	甕	(30.2)	㊥浅黄橙・淡橙 ㊦にぶい橙・浅黄橙	良好	0.5～6	ヨコナデ	ヨコナデ	外面 スス付着 内面 黒変
	212	土師器	甕	(19.45)	橙	良好	0.5～5.5	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ、タテ方向のナデ、ヨコナデ	ナデ	外面 スス付着 内面 炭化物付着
	213	土師器	甕	(10.8) (18.2) (4.4)	㊥浅黄橙・灰黄褐 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5 6～10 少量	口縁部 ヨコナデ、指押さえ 胴部 ヨコ・斜・タテ方向のナデ	口縁部 ヨコ・斜のナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ、指押さえ	外面 黒変
	214	土師器	甕	(14.5) 16.8 2.9	赤橙・橙	良好	0.5～5 多量	口縁部 ヨコ・斜のナデ 胴部 ナデ、タテ方向のナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ、指押さえ	内外面 黒変
	215	土師器	甕	17.2 21.2	㊥黄橙 ㊦橙	良好	0.5～5 多量 6～7 少量	ナデ	口縁部 斜のナデ 胴部 斜のナデ、ナデ、指ナデ、ヨコナデ	
	216	土師器	胴部～底部		㊥褐灰・橙 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～5 多量	ナデ	斜、タテ方向のナデ	外面 スス付着
	217	土師器	胴部～底部		㊥褐灰・橙 ㊦橙・明黄褐	良好	0.5～6 多量	ナデ 斜・タテ方向のナデ、風化気味	ナデ、指ナデ	内面 黒変
	218	土師器	甕	(16.8)	橙・にぶい橙	良好	0.5～6	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜のナデ、ナデ	外面 スス付着
	219	土師器	甕	(19.5)	浅黄橙・橙	良好	0.5～5	口縁部 ヨコ・斜のナデ、ヨコの指ナデ 胴部 斜のナデ	口縁部 斜のナデ 胴部 ヨコ・斜のナデ	外面 スス付着 内面 炭化物付着
	220	土師器	甕	(18.7)	橙	良好	0.5～5	口縁部 ナデ、ヨコ・タテ方向のナデ 胴部 ヨコナデ、ナデ	口縁部 ヨコ・斜のナデ、指押さえ 胴部 ヨコ・斜のナデ	外面 スス付着 内面 黒変
	221	土師器	甕	(14.8)	㊥黒褐・橙 ㊦橙	良好	0.5～5.5 多量	口縁部 ヨコナデ、ナデ 胴部 斜のナデ、ナデ後斜のハケ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜のナデ	内面 黒変
	222	土師器	甕	(14.0) 24.3	橙	良好	1～4 多量 5～6 少量	口縁部 ヨコ・斜のナデ 胴部 ナデ、ヨコ・斜のナデ	口縁部 ヨコ・斜のナデ 胴部 ナデ	外面 スス付着 内面 炭化物付着
	223	土師器	甕	(14.3)	㊥橙・灰黄褐 ㊦橙	良好	0.5～5 多量 7～11 少量	ナデ、風化気味	口縁部 ヨコナデ、ヨコ・斜のナデ 胴部 ヨコナデ、ヨコ・斜のナデ、ナデ	外面 スス付着
	224	土師器	甕		橙	良好	0.5～3 4～7 少量	口縁部 ヨコナデ、ナデ 胴部 ナデ、ナデ・斜のナデ	口縁部 ヨコ・斜のナデ、斜のナデ 胴部 ナデ	外面 スス付着
	225	土師器	底部	(6.9)	㊥褐灰 ㊦浅黄橙	良好	0.5～5 多量	ヨコナデ、ナデ	斜の指ナデ、ナデ	あげ底 木の葉底

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
9号住居	226	土師器	底部	(4.4)	㊥灰褐 ㊦にぶい橙	良好	0.5～6	ナデ	斜のナデ	
	227	土師器	甕		浅黄橙	良好	0.5～5　多量	擬格子目タタキ	斜のナデ	内面　黒斑
	228	土師器	甕		橙	良好	0.5～2	格子目タタキ	ナデ	
	229	土師器	甕		㊥にぶい橙 ㊦灰黄褐	良好	0.5～4　多量	擬格子目タタキ	ヨコナデ、斜・タテ方向ナデ後ヨコナデ	外面　スス付着
	230	土師器	甕		淡黄	良好	0.5～2.5	格子目タタキ	斜のナデ	
	231	土師器	底部	(5.9)	㊥浅黄橙・灰黄褐 ㊦にぶい橙	良好	微砂粒	ナデ	ナデ、風化著しい	木の葉底
	232	土師器	底部	4	橙	良好	0.5～2	ナデ	ナデ	
	233	土師器	頸部～胴部		浅黄橙	良好	1～3	ヨコナデ、ヨコ・斜のナデ	斜のナデ	
	234	土師器	壺	(10.6)	㊥橙 ㊦浅黄橙	良好	微砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	235	土師器	壺		㊥灰白・浅黄 ㊦淡黄	良好	1～4	刻み目突帯 ナデ	ナデ	
	236	土師器	鉢	(11.0)	橙	良好	微砂粒	ナデ	ヨコナデ、ナデ	外面　黒変
	237	土師器	壺	9.6	橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、風化気味	
	238	土師器	底部		浅黄橙	良好	0.5～3	タテ・斜のナデ、指押さえ	ヨコ・斜のナデ	
	239	土師器	胴部～底部	(4.9)	㊥橙 ㊦にぶい橙・橙	良好	0.5～1　少量	ヨコ・斜のナデ、ナデ	ヨコ・斜のナデ、ナデ、ヨコナデ	外面　黒変
	240	土師器	壺		㊥橙・褐灰 ㊦橙	良好	0.5～3	ヨコナデ、ナデ、風化気味	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	内面　黒変
	241	土師器	壺	(5.6)	橙	良好	細砂粒　少量	ヨコ、斜のナデ、ナデ	ヨコナデ	
	242	土師器	椀	(11.6)　8.05　(4)	㊥橙・にぶい橙 ㊦橙	良好	0.5～3	タテ方向のナデ	ヨコナデ	外面　黒変
	243	土師器	高杯	(14.8)　13.2　9.8	浅黄橙	良好	微砂粒	杯部　ヨコナテ、ヨコナデ後タテ方向にナデ 脚部　ヨコナデ	杯部　ヨコナデ 脚部　タテのナデ後ヨコテデ、ヨコナデ	
	244	土師器	高杯	(16.6)　14.15　(10.6)	浅黄橙	良好	0.5～2　少量	杯部　ヨコナデ 脚部　タテのナデ後ヨコテデ、ヨコナデ	杯部　ヨコナデ 脚部　タテ方向のナデ後ヨコテデ	
	245	土師器	高杯	17.65	浅黄橙	良好	0.5～1	杯部　ヨコナデ、ナデ 脚部　ナデ	杯部　ナデ 脚部　タテ方向のナデ、指押さえ	
	246	土師器	高杯	(16.8)	㊥にぶい橙・褐灰 ㊦橙	良好	0.5～2	杯部　ヨコ・斜のナデ、指ナデ	杯部　斜のナデ、風化著しい ヨコナデ	内面　黒変
	247	土師器	高杯	11.35	浅黄橙	良好	0.5～1	ナデ、指押さえ	脚部　ヨコナデ	
	248	土師器	高杯	(19.2)	浅黄橙	良好	微砂粒	ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ	外面　黒変
	249	土師器	高杯	12.2	㊥橙 ㊦にぶい黄橙・橙	良好	0.5～1	杯部　ナデ 脚部　ナデ、ヨコナデ	指ナデ、ナデ	
	250	土師器	高杯	14.4	橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	指押さえ、ヨコナデ、タテ方向の指ナデ	内外面　スス付着

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
9号住居	251	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1　少量	ヨコナデ	タテのナデ後ヨコナデ、ヨコナデ	
	252	須恵器	杯	(11.8)　(4.3)	灰	堅緻	0.5～2	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	ロクロ回転時計回り
	253	須恵器	甕		㊥灰黄 ㊧灰	堅緻	微砂粒	平行タタキ	同心円タタキ	
10号住居	254	土師器	甕	(21.7)	黄橙	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ後斜のナデ	口縁部　ヨコナデ後斜のナデ 胴部　ヨコナデ後斜のナデ、ヨコナデ	外面　黒変
	255	土師器	甕	(19.4)	㊥浅黄橙 ㊧浅黄橙・にぶい橙	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、斜のナデ、指押さえ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	
	256	土師器	甕	(9.8)	黄橙	良好	0.5～6	口縁部　ナデ、ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　斜のナデ、ヨコナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	257	土師器	甕	12.6　6.6	㊥にぶい黄橙・橙 ㊧明黄褐・黒褐	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　タテ方向のナデ、ナデ	外面　煮こぼれ痕 黒変
	258	土師器	甕		㊥淡黄色 ㊧浅黄橙	良好	0.5～6　多量	口縁部　ヨコナデ後ナデ、ナデ 胴部　ナデ・斜のナデ	口縁部　ナデ、斜のナデ 胴部　ナデ、ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	259	土師器	甕	(22.1)	橙	良好	1～3　少量	ヨコの平行タタキ後ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	外面　スス付着
	260	土師器	甕	(20.3)　27.5　(5.0)	㊥橙 ㊧浅黄橙・にぶい橙	良好	0.5～3　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、斜の平行タタキ後タテ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ後ヨコナデ、斜のナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	261	土師器	甕	35　(4.2)	橙	良好	0.5～3　多量	口縁部　ヨコナデ、ナデ 胴部　ナデ・斜のナデ、ヨコの平行タタキ、斜の平行タタキ	口縁部　ヨコナデ、斜のナデ 胴部　斜のナデ	外面　スス付着
	262	土師器	甕	24	浅黄橙	良好	0.5～6	口縁部　ナデ 胴部　斜の平行タタキ、ナデ	ナデ	
	263	土師器	甕	(18.8)	橙	良好	0.5～5	口縁部　斜・ヨコの平行タタキ・ナデ、指押さえ 胴部　斜の平行タタキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ後ナデ、ナデ	外面　スス付着
	264	土師器	甕	(22.7)	㊥浅黄橙・黄灰 ㊧浅黄橙・褐灰	良好	1～6	口縁部　斜の平行タタキ 胴部　ヨコの平行タタキ、斜の平行タタキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜・タテ方向のナデ	内外面　黒変
	265	土師器	甕	22.8　33.5　4.2	黄橙	良好	0.5～4　多量	口縁部　ヨコナデ、ヨコナデ後指ナデ 胴部　横あるいは右下りのタタキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	266	土師器	甕	(26.7)	橙	良好	0.5～4	口縁部～胴部　右上がりのタタキ	ヨコナデ、ナデ、風化気味	外面　スス付着
	267	土師器	甕	(25.5)	浅黄橙	良好	0.5～3.5	口縁部　ヨコの平行タタキ後ナデ、指押さえ 胴部　斜の平行タタキ、指押さえ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	外面　スス付着
	268	土師器	甕	22.2　27.5　2.9	㊥浅黄橙 ㊧淡黄	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ、指押さえ 胴部　ヨコ・斜の平行タタキ、ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、ナデ	内外面　黒変
	269	土師器	甕	(28.6)	㊥浅黄橙 ㊧橙	良好	0.5～3　多量	斜の平行タタキ	ヨコナデ、風化気味	外面　スス付着
	270	土師器	甕	(23.0)	㊥にぶい黄橙 ㊧橙	良好	0.5～4　少量	ヨコの平行タタキ後ナデ、指押さえ	ヨコナデ、斜のナデ	外面　スス付着
	271	土師器	甕	(20.0)　(27.65)　4.4	㊥黄橙・灰褐 ㊧橙・にぶい橙	良好	0.5～3　多量	口縁部　平行タタキ後ナデ 胴部　斜の平行タタキ一部ナテ、タテの平行タタキ	口縁部　ヨコナデ、ナデ 胴部　ナデ	内外面　黒変
	272	土師器	甕	(24.1)	浅黄橙・淡黄	良好	0.5～4	口縁部　斜の平行タタキ後ヨコナデ、斜の平行タタキ 胴部　ヨコの平行タタキ、斜の平行タタキ、ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、指ナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	273	土師器	壺	12.5　29.6	㊥浅黄橙 ㊧黄橙・浅黄橙	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコの平行タタキ後ナデ、斜の平行タタキ、ヨコの平行タタキ後一部ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、斜のナデ、ナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　黒斑
	274	土師器	壺		㊥橙 ㊧橙・淡黄	良好	1～4	ヨコ・斜の平行タタキ、平行タタキ後一部斜のナデ	ヨコ・斜のナデ、タテ・斜のナデ、指押さえ	内外面　黒変
	275	土師器	壺	(13.0)	浅黄橙	良好	0.5～3	口縁部　ナデ 胴部　ヨコ・斜の平行タタキ	ナデ、指押さえ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
10号住居	276	土師器	壺		㊥浅黄・黄灰 ㊧淡橙	良好	0.5～2　多量	ヨコ・斜の平行タタキ、ナデ	指ナデ、斜のナデ、タテ方向のナデ	外面　黒斑
	277	土師器	壺	(12.0)	㊥橙・浅黄橙 ㊧橙・黄橙	良好	0.5～2	口縁部　ヨコナデ、風化 胴部　右上がりのタタキのあと右下がりのタタキ	口縁部　ヨコナデ、風化 胴部　指押さえ、ナデ	
	278	土師器	胴部～底部	3.4	㊥橙・褐灰 ㊧浅黄橙・褐灰	良好	0.5～4	ヨコの平行タタキ、タテの平行タタキ	ナデ、指押さえ	内外面　黒変
	279	土師器	胴部～底部	(4.4)	㊥黄橙・橙 ㊧にぶい黄橙・褐灰	良好	0.5～3	斜の平行タタキの上をナデ	斜のナデ、風化気味	内外面　黒変
	280	土師器	胴部～底部	(5.9)	㊥褐・灰 ㊧浅黄橙	良好	0.5～4　多量	斜の平行タタキ、風化気味	ナデ	
	281	土師器	胴部～底部	(4.5)	㊥浅黄橙 ㊧浅黄橙・灰白	良好	0.5～5　多量	タテの平行タタキ一部風化、平行タタキの上をナデ 底部　ナデ	斜のナデ	外面　黒変 あげ底
	282	土師器	底部	(6.2)	浅黄橙	良好	0.5～2　多量	斜の平行タタキ、風化気味、ヨコの平行タタキ	斜のナデ	
	283	土師器	底部	(5.7)	浅黄	良好	0.5～2　多量	斜の平行タタキ、ナデ	ナデ、ヨコナデ	あげ底
	284	土師器	底部		㊥黄橙・褐灰 ㊧淡黄・灰黄	良好	0.5～4	ヨコ・斜の平行タタキ後ナデ	斜のナデ、指押さえ	内外面　黒変
	285	土師器	壺	13.75	㊥浅黄橙 ㊧にぶい黄橙	良好	0.5～4　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、ヨコ・斜のナデ	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　ナデ、指押さえ	外面　スス付着
	286	土師器	壺	(10.6)	橙	良好	0.5～4　多量	風化	風化	
	287	土師器	壺	12.9	㊥浅黄橙 ㊧橙	良好	0.5～3	口縁部　風化 胴部　斜のナデ	口縁部　風化 胴部　ヨコナデ	外面　黒変
	288	土師器	壺	(9.5)　21.4	浅黄橙・にぶい橙	良好	0.5～3.5	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、風化気味	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	外面　黒変
	289	土師器	壺		橙・にぶい橙	良好	0.5～3　少量	ヨコナデ、ヨコナデ後指ナデ、斜のナデ 風化気味	ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着
	290	土師器	壺	(13.4)	㊥浅黄橙 ㊧浅黄・橙	良好	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	
	291	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～4	ヨコ・斜のナデ	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	外面　黒変
	292	土師器	胴部～底部	(3.6)	浅黄橙	良好	0.5～5　多量	タテ方向のナデ・ナデ	斜のナデ、指押さえ	外面　黒変
	293	土師器	胴部～底部	4.1	橙・明黄褐	良好	0.5～3.5	ナデ	ナデ、風化気味	外面　スス付着 内面　黒変
	294	土師器	胴部～底部	3.4	㊥浅黄橙 ㊧浅黄橙・にぶい黄橙	良好	0.5～5 6～7　少量	ナデ、一部斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	外面　黒変
	295	土師器	壺		橙	良好	微砂粒	ナデ	ナデ	
	296	土師器	壺		㊥浅黄橙 ㊧にぶい黄橙・灰黄褐	良好	1～4	ヨコ、斜のナデ・ナデ	ナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　黒変
	297	土師器	壺		浅黄橙	良好	1～2	ナデ	ナデ	内面　炭化物付着
	298	土師器	壺		㊥黄橙 ㊧橙・黄橙	良好	微砂粒	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ	口縁部　ナデ 胴部　指ナデ、ナデ	外面　黒変
	299	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～3	ナデ	ヨコナデ、ナデ	
	300	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～1　少量	斜のナデ後ナデ	ヨコナデ、ヨコ・斜の指ナデ、斜のナデ	外面　黒斑

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
10号住居	301	土師器	壺		㊥にぶい橙 ㊦橙	良好	細砂粒　少量	口縁部　ナデ、ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	口縁部　斜のナデ 胴部　ヨコナデ	外面　黒斑
	302	土師器	壺		浅黄橙	良好	微砂粒	ヨコナデ、タテ方向のナデ、ナデ	ナデ、指ナデ、斜のナデ	外面　スス付着
	303	土師器	壺	(8.1)　8.35　4.1	橙	良好	0.5～2	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、指押さえ	外面　黒斑 あげ底
	304	土師器	壺	6.8	㊥淡黄 ㊦浅黄橙	良好	0.5～2　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	ナデ、タテ方向のナデ	
	305	土師器	壺	4.1	㊥黄橙 ㊦淡黄橙	良好	1～4	斜のナデ ナデ	ナデ	外面　黒変 あげ底
	306	土師器	壺	4.6	浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコナデ、ナデ	斜のナデ	あげ底
	307	土師器	甕	9.2	㊥橙 ㊦黄橙	良好	0.5～3.5	ナデ	風化	木の葉底
	308	土師器	甕	10.9	㊥褐灰 ㊦浅黄橙	良好	0.5～5 6～7　少量	斜のナデ 指押さえ、指ナデ	ヨコ・斜のナデ 指押さえ、指ナデ	木の葉底
	309	土師器	壺	6.2	㊥橙 ㊦橙・明黄褐	良好	0.5～3.5　多量	ナデ	斜のナデ	あげ底
	310	土師器	底部	6.2	㊥淡黄・褐灰 ㊦黄橙	良好	0.5～4	ナデ	ナデ	内面　黒斑 木の葉底
	311	土師器	壺	5.3	㊥にぶい黄橙 ㊦黄橙・灰黄褐	良好	0.5～3.5	ナデ	斜のナデ、指押さえ	外面　黒変 あげ底
	312	土師器	胴部～底部	5.5	㊥黄橙・灰白 ㊦橙・浅黄橙	良好	0.5～3　多量	ナデ、タテ・ヨコの指ナデ	斜のナデ後ナデ、指押さえ	内外面　黒変
	313	土師器	高杯	17　16.9　16.2	㊥黄橙 ㊦橙	良好	微砂粒	ナデ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ、指押さえ	内面　黒斑
	314	土師器	高杯	22.6　(16.7)　8.9	㊥黄橙・浅黄橙 ㊦浅黄橙・淡橙	良好	微砂粒	杯部　ヨコナデ 脚部　ナデ	杯部　ヨコナデ後ナデ、ナデ、風化気味 脚部　ナデ、風化気味	
	315	土師器	高杯	19.2	㊥浅黄橙 ㊦浅黄橙・にぶい橙	良好	0.5～2	ヨコナデ後一部斜のナデ、風化気味	ヨコナデ	
	316	土師器	高杯		橙・黄橙	良好	0.5～1.5	ヨコナデ、ヨコナデ後タテ方向のナデ	ヨコナデ、ナデ、斜のナデ	内外面　黒変
	317	土師器	高杯	(22.7)	淡黄	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	内面　黒変
	318	土師器	高杯	(19.9)	橙・黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ後斜のナデ	外面　黒変
	319	土師器	高杯	14.1	橙	良好	0.5～1	風化	杯部　風化 脚部　ヨコナデ、ナデ	
	320	土師器	高杯		浅黄橙	良好	細砂粒	杯部　ヨコナデ、斜のナデ 脚部　ヨコナデ　裾部　ナデ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ	
	321	土師器	高杯		㊥浅黄橙 ㊦橙・黄橙	良好	0.5～1.5	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	
	322	土師器	高杯		黄橙	良好	細砂粒　少量	ナデ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ	
	323	土師器	高杯		黄橙	良好	0.5～1	杯部　ヨコ・斜のナデ 脚部　ナデ	杯部　タテ方向のナデ 脚部　ヨコナデ・指押さえ	
	324	土師器	高杯		浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ、指押さえ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ、指押さえ	
	325	土師器	高杯	14.4	㊥浅黄橙 ㊦浅黄橙・橙	良好	細砂粒　少量	脚部　ナデ 裾部　斜のナデ、指押さえ	ヨコナデ	外面　黒変

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
10号住居	326	須恵器	杯	10.1	灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	
	327	須恵器	杯		灰オリーブ	堅緻	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	328	須恵器	杯蓋		灰白	堅緻	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	329	須恵器	杯蓋		にぶい黄	堅緻	細砂粒　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	330	須恵器	杯蓋		灰黄	堅緻	0.5～2	ヨコナデ　ヘラケズリ	ヨコナデ、仕上げナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り
	331	須恵器	甕		㊥灰赤 ㊦灰白	堅緻	0.5～1	ヨコナデ、ナデ 2条の櫛描波状文	ヨコナデ	外面　自然釉
	332	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～2	斜の平行タタキ	同心円タタキ後ナデ	
	333	須恵器	甕		㊥灰黄 ㊦にぶい黄	堅緻	0.5～1　少量	斜の平行タタキ	同心円タタキ	
	334	須恵器	甕		淡黄	堅緻	細砂粒　少量	平行タタキ	同心円タタキ	
	335	須恵器	甕		㊥灰 ㊦灰オリーブ	堅緻	細砂粒	ヨコの平行タタキ	同心円タタキ	外面　自然釉
	336	須恵器	甕		㊥灰 ㊦黄灰	堅緻	0.5～1.5　少量	ヨコの平行タタキの後斜のカキメ	同心円タタキ	
	337	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～1	ナデ	ナデ	
11号住居	338	土師器	甕		㊥灰白 ㊦浅黄橙	良好	0.5～4	ヨコナデ	ヨコナデ、指押さえ	
	339	土師器	甕		㊥黄橙 ㊦橙	良好	0.5～4	ヨコナデ	ヨコナデ	内面　黒変
	340	土師器	甕		浅黄橙	良好	0.5～4	斜のタタキ、一部ナデ 指押さえ	ヨコナデ	
	341	土師器	底部	(5)	㊥灰 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～5　多量	タテ・斜のナデ ナデ	斜のナデ	内面　黒変
	342	土師器	底部	(13)	㊥暗灰黄 ㊦黄橙	良好	0.5～3　多量	ナデ	ナデ 指ナデ	木の葉底
	343	土師器	底部		㊥黄灰 ㊦黄橙	良好	1～3	ヨコ・斜のタタキ ナデ	ナデ	
	344	土師器	底部		㊥暗灰黄 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～2	ヨコ・斜の平行タタキ、一部ナデ	ナデ	
	345	土師器	底部		淡黄・黄灰	良好	0.5～1	タタキ	斜のナデ	
	346	土師器	壺	(12.4)	㊥浅黄橙 ㊦淡橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ナデ	
	347	土師器	壺	(12.6)	浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコナデ ナデ	ナデ	
	348	土師器	壺	(8.4)　9.35　4	にぶい黄橙・褐灰	良好	0.5～2.5	口縁部　ヨコナデ 頭胴　ヨコ・斜のナデ、ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、指押さえ、指ナデ	あげ底
	349	土師器	高杯		浅黄橙	良好	0.5～1.5	ナデ	ナデ	内外面　スス付着
	350	土師器	高杯	(13.3)	黄橙	良好	0.5～2	脚部　ヨコナデ、ヨコナデ後斜のナデ 裾部　ナデ	脚部　ヨコナデ 裾部　ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
11号住居	351	土師器	甑		浅黄橙	良好	0.5～3	タテのナデ	ヨコナデ	底部　面取り
	352	須恵器	杯蓋		㊥灰白 ㊦黒褐・灰白	堅緻	0.5～1　少量	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラ記号 外面　自然釉
	353	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	細砂粒　少量	ヘラケズリ	ヨコナデ	
	354	須恵器	杯	(14.7)	灰	堅緻	0.5～3	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	
	355	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	356	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～5	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	
	357	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～3.5	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	358	須恵器	壺		㊥灰 ㊦黄灰	堅緻	細砂粒　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面　自然釉
	359	須恵器	甕		㊥浅黄 ㊦灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ 櫛描波状文	ヨコナデ	内外面　自然釉
	360	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～2	平行タタキ後カキメ	同心円タタキ	外面　自然釉
	361	須恵器	甕		㊥灰 ㊦褐灰	堅緻	0.5～5	平行タタキ後カキメ	タタキ後ナデ	
	362	須恵器	甕		㊥灰 ㊦褐灰	堅緻	0.5～3	平行タタキ後カキメ	タタキ後ナデ	
12号住居	363	土師器	甕	21.6　28.2	橙・にぶい黄橙	良好	1～4　多量	口縁部　ヨコナデ、ヨコ・斜のナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、格子目タタキ、一部ヘラミガキ、ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ後斜のナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　黒変
	364	土師器	壺	12	㊥橙 ㊦橙・にぶい赤褐	良好	0.5～3	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　ヨコ・斜・タテ方向のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・タテ・斜のナデ、指押さえ	外面　スス付着
	365	土師器	甕	(19.4)	㊥橙 ㊦橙・にぶい褐	良好	0.5～4	ナデ	ナデ	外面　スス付着
	366	土師器	甕		㊥橙 ㊦黄橙・橙	良好	0.5～3.5　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ、指ナデ	ナデ	外面　スス付着
	367	土師器	底部		㊥灰 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1	斜の平行タタキ	ナデ	
	368	土師器	底部		㊥褐灰 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～3	ナデ	ナデ	木の葉底
	369	土師器	胴部		橙	良好	0.5～3.5	格子目タタキ	ナデ	
	370	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～3.5	刻み目突帯 ナデ	ナデ	
	371	土師器	壺		橙	良好	0.5～1.5	刻み目突帯 ナデ	ナデ、指押さえ	
	372	土師器	壺		㊥浅黄橙 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～2	ナデ、斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	373	土師器	壺		㊥にぶい黄橙 ㊦橙	良好	0.5～2	ヨコナデ	ナデ、タテ方向のナデ後指ナデ	
	374	土師器	底部		㊥浅黄橙 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ナデ	外面　スス付着
	375	土師器	椀	(13.2)	橙	良好	0.5～1	ヨコのヘラミガキ、ヨコ・斜のナデ	ヨコナデ後丁寧なヘラミガキ 斜のヘラミガキ	外面　黒斑

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
12号住居	376	土師器	杯	(13.4)	浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	377	土師器	杯		浅黄橙	良好	0.5～3	ヨコナデ 一部ヨコナデ後斜のナデ	ヨコナデ	
	378	土師器	椀	(13.4)	浅黄橙	良好	細砂粒	口縁部　指押さえ後ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	ヨコナデ	外面　黒斑
	379	土師器	椀		橙	良好	細砂粒	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	ヨコナデ	
	380	土師器	椀	(15.6)	橙	良好	細砂粒、0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	
	381	土師器	椀	(13.8)　5.6	橙	良好	細砂粒、0.5～1	風化	風化	
	382	土師器	椀	(14.4)	にぶい橙	良好	0.5～4　多量	ヨコ・斜のナデ後ミガキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のミガキ	
	383	土師器	椀	(14.2)　(6.2)	にぶい橙・褐灰	良好	0.5～5　多量 6～7　少量	口縁部　ナデ 頭部　ヨコナデ後ミガキ、ナデ	ヨコナデ後ミガキ	内外面　黒変
	384	土師器	甑		にぶい橙	良好	0.5～3	タテのナデ ナデ	斜のナデ・ナデ	
	385	須恵器	杯蓋	(12.6)	灰白	堅緻	0.5～3	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉 ロクロ回転時計回りと逆
	386	須恵器	杯蓋	(14.7)	灰	堅緻	0.5～1　多量	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	387	須恵器	杯蓋	(15.2)　(3.65)	灰	堅緻	0.5～1　多量	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ 仕上げナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り
	388	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	0.5～1　多量	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉 ロクロ回転時計回り
	389	須恵器	杯蓋		灰白	堅緻	0.5～1　多量 2～5　少量	ヘラケズリ	ヨコナデ	
	390	須恵器	杯		黄灰	堅緻	0.5～4	ヨコナデ	ヨコナデ	
	391	須恵器	杯		灰オリーブ	堅緻	0.5～1	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	392	須恵器	高杯		内浅黄 外にぶい黄	堅緻	0.5～1	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	
	393	須恵器	口縁		内灰 外褐灰	堅緻	0.5～2　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	394	須恵器	甕		内灰白 外灰	堅緻	0.5～2　少量	ヨコナデ 櫛描波状文	ヨコナデ 指押さえ	内外面　自然釉
	395	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～2	一部カキメの後タテ方向に平行タタキ	ヨコナデ 指押さえ	
	396	須恵器	甕		内黄灰 外にぶい黄	堅緻	0.5～1 2～5　少量	平行タタキ	同心円タタキ後一部ナデ	外面　自然釉
	397	土師器	底部		内黄橙 外浅黄橙・灰黄褐	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	
	398	土師器	底部		内黄橙 外浅黄橙・褐灰	良好	3～6　細砂粒	ナデ	ナデ	外面　黒変
	399	土師器	高杯		黄橙	良好	微砂粒	ナデ	脚部　タテ方向のナデ 裾部　ヨコナデ	
	400	土師器	高杯		橙	良好	細砂粒、3～5	ナデ	杯部　ナデ 脚部　タテ方向のナデ、ヨコナデ、ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
12号住居	401	土師器	高杯		浅黄橙	良好	細砂粒	ナデ	ヨコナデ、ヨコナデ後ナデ・ナデ	
	402	土師器	高杯		淡黄	良好	微砂粒	ナデ、ヨコ・タテ方向のナデ	杯部　ナデ 脚部　ヨコナデ	
	403	土師器	口縁部		㊥浅黄橙・赤橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面　丹塗り
13号住居	404	土師器	甕	25.8	㊥浅黄橙 ㊦橙	良好	0.5～4 5～6　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、ヨコナデ	外面　スス付着
	405	土師器	甕	22.2	橙	良好	0.5～4 5～6　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着
	406	土師器	甕	(18)	㊥橙 ㊦橙・浅黄橙	良好	0.5～4	ヨコ・タテ方向のナデ	ヨコナデ、ヨコナデ後ナデ	外面　黒塗り
	407	土師器	甕	(22.2)	明黄褐・灰黄褐	良好	0.5～1　多量	格子目タタキ	ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着
	408	土師器	脚付甕	(18.6)　(20.8)	橙	良好	0.5～5　多量 6～7　少量	口縁部　ヨコナデ　頸部　指押さえ 胴部　ヨコ・斜の指ナデ　脚部　タテ方向の指ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　指押さえ、ナデ、ナデ後タテ方向のナデ	脚3足
	409	土師器	底部	6.1	橙	良好	0.5～2	ナデ、指押さえ	風化気味、一部指ナデ	内外面　黒変
	410	土師器	底部		褐灰	良好	0.5～1.5　多量	ヨコナデ	タテ方向のナデ後ヨコナデ	
	411	土師器	底部	(6)	にぶい黄橙	良好	微砂粒	タテ方向のナデ	斜のナデ	あげ底
	412	土師器	底部	(7.8)	浅黄橙	良好	0.5～4.5	ナデ	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	木の葉底
	413	土師器	口縁部		浅黄	良好	0.5～5	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　黒塗り
	414	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	斜のナデ	
	415	土師器	椀		橙	良好	微砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
	416	土師器	椀		㊥褐灰 ㊦橙	良好	微砂粒	ミガキ	ヘラミガキ	外面　赤色顔料付着
	417	土師器	甑	(4.5)	橙	良好	0.5～4	ナデ	ナデ	
	418	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～2	刻み目突帯、ナデ	ナデ	
	419	土師器	高杯	(19.5)	㊥橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ、ヨコナデ後斜のナデ	ヨコナデ	
	420	土師器	椀	(10.2)	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	微砂粒	ヨコナデ、斜の指ナデ	斜のナデ、ヨコナデ	外面　黒変 内面　黒斑
	421	土師器	高杯	(13.7)	㊥浅黄橙 ㊦橙	良好	細砂粒	ヘラミガキ	指ナデ	外面　丹塗り
	422	須恵器	杯蓋	(11.4)	㊥灰白・にぶい黄橙 ㊦灰白・明黄褐	堅緻	0.5～1	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	423	須恵器	杯蓋	(12.2)	灰	堅緻	0.5～3	ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	424	須恵器	杯蓋	(12)	灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	425	須恵器	杯蓋		㊥灰黄褐 ㊦黄灰・黄褐	堅緻	0.5～2	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
13号住居	426	須恵器	杯蓋		灰白	堅緻	0.5～2.5	ヨコナデ	ヨコナデ	
	427	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	428	須恵器	高杯		㊥灰白 ㊦灰	堅緻	0.5～2	杯部　ヨコナデ、斜の刻み、カキメ 脚部　カキメ	ヨコナデ、斜の仕上げナデ	
	429	須恵器	甕		黄灰	堅緻	精砂粒	斜の平行タタキ後ナデ	同心円タタキ後ナデ	外面　自然釉
	430	須恵器	甕		灰	堅緻	細砂粒	タテの平行タタキ後カキ目	同心円タタキ後ヨコナデ	
	431	須恵器	甕		灰	堅緻	細砂粒	タテの平行タタキ後カキ目	同心円タタキ後ヨコナデ	
14号住居	432	土師器	甕	20.6　26.2　5.95	㊥橙・褐灰 ㊦橙・灰褐	良好	0.5～5 6～7　少量	口縁部　ヨコ・斜のナデ　・指ナデ 胴部　ヨコ・斜・タテのナデ、ナデ	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	433	土師器	甕	(21.7)	黄橙	良好	0.5～5.5	ヨコナデ、指押さえ	ヨコナデ、ナデ	
	434	土師器	甕	(18.8)	㊥橙 ㊦橙・にぶい赤褐	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ後斜のナデ 胴部　ヨコナデ	ヨコナデ後斜のナデ	
	435	土師器	壺		にぶい黄橙	良好	0.5～3	ヨコ・斜のナデ	ヨコナデ後指押さえ、斜のナデ	外面　スス付着
	436	土師器	壺	(12.2)	黄橙	良好	0.5～3	刻み目突帯、ナデ	ナデ	
	437	土師器	壺	(15.4)	にぶい橙	良好	0.5～3.5	刻み目突帯、ヨコナデ	ナデ	外面　区画線
	438	土師器	底部	(5)	㊥浅黄橙・褐灰 ㊦にぶい橙	良好	0.5～6　多量	ナデ	斜のナデ	内面　黒変
	439	土師器	底部		㊥橙 ㊦にぶい褐	良好	0.5～5	ヨコナデ後斜のナデ、ナデ	ヨコ・斜のナデ	内面　炭化物付着
	440	土師器	底部		㊥明黄褐 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～5	ナデ	指押さえ	内面　黒変
	441	土師器	底部		橙・にぶい橙	良好	0.5～3	ナデ、タテ方向のナデ	ヨコナデ	木の葉底
	442	土師器	底部		にぶい橙	良好	0.5～3	格子目タタキ後ナデ	指ナデ	内外面　黒変
	443	土師器	高杯	12.4	にぶい橙	良好	0.5～1	杯部　ヨコ・斜のナデ、ヨコナデ 脚部　ヨコナデ、指ナデ	杯部　ヨコナデ・ナデ 脚部　ヨコナデ後斜のナデ	内面　黒色物付着
	444	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1	杯部　ナデ、指押さえ 脚部　ヨコナデ後タテ方向のヘラミガキ，ナデ	杯部　ナデ 脚部　タテ方向のナデ	
	445	土師器	高杯	(12)	橙	良好	細砂粒	ヨコナデ、斜のナデ	タテ方向のナデ後ヨコナデ・ナデ	
	446	土師器	高杯		にぶい橙	良好	細砂粒	杯部　ヨコナデ、指押さえ 脚部ヨコナデ後タテ方向のナデ	杯部　ナデ 脚部　ナデ	
	447	須恵器	甕		黄灰	堅緻	精砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面　自然釉
	448	須恵器	杯蓋	(14.6)	灰黄褐	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	
15号住居	449	土師器	甑	(24.9)　25.45　(8.2)	橙	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	外面　黒斑
	450	土師器	甕	(14.6)	㊥淡黄 ㊦淡黄・褐灰	良好	0.5～5	ヨコ・タテ方向のナデ、指ナデ、指押さえ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	外面　黒変

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
15号住居	451	土師器	甕	17.5	淡黄	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ後斜のナデ 胴部　ヨコナデ後タテ方向のナデ	外面スス付着
	452	土師器	甕	15.2　18.8　6.3	内淡黄橙 外淡黄	良好	0.5～5 6～7　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	ナデ、ヨコナデ	
	453	土師器	頸部～胴部		にぶい橙	良好	0.5～5	ヨコナデ後斜のナデ	ヨコナデ後斜のナデ、指ナデ	
	454	土師器	胴部～底部		内淡黄・淡赤橙 外淡黄	良好	0.5～5		斜のナデ	
	455	土師器	底部	(5.5)	内橙 外にぶい橙	良好	0.5～3	ヨコナデ、ナデ	ヨコ・斜のナデ	
	456	土師器	底部		内にぶい黄橙 外にぶい橙	良好	0.5～2	斜のナデ	ナデ後斜のナデ	内面　黒変
	457	土師器	高杯	14.45	にぶい橙	良好	0.5～2	ナデ	風化	内外面　円塗り
	458	須恵器	杯蓋	(13.4)	灰	堅緻	0.5～3	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	459	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	
	460	須恵器	杯蓋		内灰 外灰黄	堅緻	0.5～1.5	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り
	461	須恵器	杯蓋		黄灰	堅緻	0.5～3	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り 内外面　自然釉
	462	須恵器	杯	(11.9)	灰	堅緻	0.5～2.5	ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	463	須恵器	杯	(15.3)	灰	堅緻	0.5～2.5	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	464	須恵器	杯	(11.2)　3.7	内灰 外灰黄・にぶい黄橙	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	465	須恵器	杯	(13.7)	灰	堅緻	0.5～2 3～5	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ・仕上げナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り
	466	須恵器	杯		灰	堅緻	精砂粒	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	
	467	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～1	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	
	468	須恵器	提瓶	(5.7)	内灰白 外黒褐	堅緻	精砂粒	ヨコナデ後斜のナデ	ヨコナデ	
	469	須恵器	提瓶	7.3　(22)	内黄灰 外褐灰・黄灰	堅緻	0.5～1	口縁部　ヨコナデ 肩部　ヨコナデ・平行タタキ後ナデ・平行タタキ後カキメ痕	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、指押さえ	ヘラ記号 外面　鍵状把手 内外面　自然釉
	470	須恵器	甕		内暗黄灰 外黄灰	堅緻	0.5～3	ヨコナデ ヨコ方向の2条突帯の上下に2条の櫛描波状文	ヨコナデ	外面　自然釉
	471	須恵器	甕		内灰白 外褐灰	堅緻	0.5～2.5	擬格子目タタキ	同心円タタキ	
	472	須恵器	甕		内灰 外灰黄	堅緻	0.5～2	斜の平行タタキ	同心円タタキ	
	473	須恵器	甕		内灰 外褐灰	堅緻	0.5～1	擬格子目タタキ ヨコ方向のカキメ	ナデ	
	474	須恵器	甕		内黄灰 外暗灰黄	堅緻	0.5～2	平行タタキ後カキ目	同心円タタキ後ナデ	
	475	須恵器	甕		灰	堅緻	精砂粒	タテ方向の平行タタキ後斜のカキ目	同心円タタキ	外面　自然釉

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
15号住居	476	須恵器	甕		黄灰	堅緻	0.5～2	平行タタキ後カキ目	同心円タタキ後ナデ	
	477	須恵器	甕		㊥灰 ㊦褐灰	堅緻	0.5～2	擬格子目タタキ	ナデ	
	478	須恵器	甕		灰黄	堅緻	0.5～5	タテ方向の平行タタキ	同心円タタキ	
	479	須恵器	甕		灰	堅緻	精砂粒	斜方向の平行タタキ	同心円タタキ	外面　自然釉
	480	須恵器	甕		灰黄褐	堅緻	0.5～2.5 3～8　少量	平行タタキ後ヨコ方向のカキ目	同心円タタキ	
17号住居	481	土師器	甕	(13)　(15.7)	にぶい黄橙	良好	0.5～2	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ、指ナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	482	土師器	甕		にぶい黄橙	良好	0.5～3	指ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	外面　黒変
	483	土師器	甕	(17.8)	淡赤橙 にぶい黄橙	良好	0.5～3	口縁部　ヨコ・斜のナデ、指押さえ後ヨコナデ　胴部　ヨコ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ	内外面　赤変
	484	土師器	甕	19.6　23	浅黄橙	良好	0.5～5	口縁部　指押さえ、ナデ 胴部　ナデ	口縁部　ナデ・斜のナデ 胴部　ナデ・斜のナデ、指ナデ	内外面　赤変 内面　黒斑
	485	土師器	甕	21　29.6	浅黄橙	良好	0.5～3　多量	口縁部　ヨコナデ、指押さえ 胴部　ナデ、指押さえ	指押さえ、ナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	486	土師器	甕	20.5	淡黄	良好	0.5～5	斜の平行タタキ後ヨコナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	487	土師器	甕		㊥浅黄橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ後斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、ナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	488	土師器	胴部～底部	(3.8)	㊥浅黄橙・にぶい褐 ㊦にぶい褐・にぶい黄橙	良好	1～3	斜のナデ、ナデ	ナデ・斜のナデ	内外面　黒変
	489	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～4.5	ナデ、刻み目突帯	ナデ	
	490	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～4　多量	ナデ、刻み目突帯	ナデ	
	491	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～4　多量	ヨコナデ、刻み目突帯	ナデ	
	492	土師器	頸部～胴部		橙	良好	0.5～4 6～9　少量	ヨコナデ・ヨコナデ後斜のナデ	ヨコナデ、ナデ	
	493	土師器	壺	18.4　32.7　(8.1)	㊥にぶい褐 ㊦灰褐・浅黄橙	良好	0.5～3　多量	口縁部　指押さえ、斜のナデ後ヨコナデ、刻み目突帯 胴部　ヨコナデ、斜の指ナデ後ヨコ・斜のナデ、指押さえ	口縁部　指押さえ・斜の指ナデ後ヨコナデ 胴部　斜のナデ、指ナデ	外面　スス付着 内面　黒斑
	494	土師器	胴部～底部		㊥浅黄橙 ㊦にぶい黄褐	良好	0.5～5　多量	斜のナデ	斜のナデ、指押さえ	外面　スス付着
	495	土師器	底部		㊥褐灰 ㊦浅黄橙	良好	0.5～2　多量	タテ方向のナデ後斜のナデ	タテ・斜のナデ	内面　黒斑
	496	土師器	底部		浅黄橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ、ヨコ・斜のナデ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	497	土師器	底部		浅黄橙	良好	0.5～2.5　多量	タテ方向のナデ、ナデ	斜のナデ、ヨコナデ	外面　スス付着
	498	土師器	底部		㊥にぶい黄橙 ㊦褐灰・淡黄	良好	0.5～4　多量	ナデ	ナデ、斜のナデ	
	499	土師器	底部		㊥にぶい黄橙 ㊦にぶい黄褐	良好	0.5～4　多量	ナデ	指ナデ、指押さえ	外面　スス付着 内面　炭化物付着
	500	土師器	底部		㊥淡黄 ㊦にぶい橙	良好	0.5～2.5　多量	ナデ	ナデ、斜のナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
17号住居	501	土師器	底部		㊥灰黄褐 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～6 多量 0.5～1 少量	ナデ	ナデ	内面 黒斑 木の葉底
	502	土師器	鉢	(21.8) 12.6	橙	良好	0.5～4 多量	斜のナデ ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ 斜のナデ、タテ・斜のナデ	外面 黒斑
	503	土師器	底部	4.4	㊥淡黄・淡橙 ㊦浅黄橙・淡橙	良好	0.5～4.5	ナデ 指押さえ	ナデ 斜のナデ	2.5mmの高師小僧を含む
	504	土師器	壺	(13.9)	黄橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ナデ	外面 スス付着 黒塗り
	505	土師器	頸部～胴部		㊥淡黄 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1 少量	ナデ	ナデ、一部指ナデ	
	506	土師器	口縁	(9.5)	浅黄橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ ヨコナデ	
	507	土師器	口縁～頸部		黄灰	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	508	土師器	底部		㊥にぶい黄橙・灰褐 ㊦黄橙、にぶい褐	良好	0.5～1.5	ナデ、ヨコナデ 指押さえ	ナデ、一部指押さえ	
	509	土師器	胴部下位		㊥灰褐 ㊦明褐灰	良好	0.5～2	ヨコナデ後斜のナデ 指ナデ	ヨコナデ後斜のナデ	外面 スス付着
	510	土師器	鉢	(5.6)	㊥浅黄橙 ㊦にぶい黄橙	良好	1～3	指ナデ、ナデ	斜の指ナデ	外面 スス付着
	511	土師器	鉢	3.1 3.5	浅黄橙	良好	0.5～3	指ナデ、ナデ	指ナデ	内面 炭化物付着
	512	土師器	鉢	5.5 2.5 4.4	にぶい黄橙	良好	0.5～1	斜のナデ、指ナデ、指押さえ ナデ	斜の指ナデ	内外面 黒変
	513	土師器	甑	(6.0)	橙	良好	0.5～1.5 微砂粒	タテ・斜のナデ	ヨコ・斜のナデ ヨコナデ ヨコナデ後タテ方向のナデ	
	514	土師器	高杯	13.0	黄橙・浅黄橙	良好	0.5～1.5	杯部 ナデ 脚部 ナデ、指ナデ	杯部 ナデ 脚部 タテ方向のナデ後ナデ、一部ヨコナデ	
	515	土師器	高杯	19.2 14.1 (13.3)	浅黄橙	良好	0.5～1 多量	杯部 ヨコナデ後ナデ 脚部 ヨコナデ後ナデ	杯部 ヨコナデ後ナデ、ナデ 脚部 タテ方向のナデ後回しナデ、ヨコナデ	杯部内面 黒斑
	516	土師器	高杯	(18.5)	㊥浅黄橙・にぶい橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ後斜のナデ、ヨコナデ 沈線	ヨコナデ後一部斜のナデ	内面 黒変
	517	土師器	高杯	(22.8)	浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ後斜のナデ ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ後斜のナデ	内面 黒斑
	518	土師器	高杯	(18.1)	橙	良好	0.5～1 細砂粒	ヨコナデ ヨコナデ後タテ方向のナデ	ヨコナデ	内面 黒変
	519	土師器	高杯	(18.4)	浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコナデ ヨコナデ後斜のナデ	ヨコナデ ヨコナデ後一部斜のナデ	内外面 黒変
	520	土師器	高杯		黄橙	良好	0.5～3	ナデ	ナデ	
	521	土師器	高杯	(15.0)	浅黄橙	良好	0.5～3.5 少量	ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	外面 黒変
	522	土師器	高杯	(18.1)	黄橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ナデ	
	523	土師器	高杯		浅黄橙	良好	0.5～3 少量	ヨコナデ タテ・斜のナデ	タテ方向のナデ ヨコナデ	
	524	土師器	高杯		㊥浅黄橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～1 少量	ヨコナデ後ナデ 指押さえ	ナデ	
	525	土師器	高杯	(11.6)	浅黄橙	良好	0.5～1.5	杯部 ヨコナデ、斜のナデ 脚部 ヨコナデ後タテ方向のナデ、ヨコナデ	杯部 ナデ 脚部 タテ方向の指ナデ、ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
17号住居	526	土師器	高杯	(12.2)	浅黄橙	良好	0.5～2	ナデ、ヨコナデ	杯部　ナデ 脚部　タテ方向のナデ後ナデ、ナデ	
	527	土師器	高杯		黄橙	良好	0.5～2.5	ナデ	杯部　風化 脚部　タテ方向の指押さえ、ヨコナデ	
	528	土師器	高杯	(13.1)	浅黄橙	良好	0.5～1	ヨコナデ 指押さえ	ヨコナデ、斜のナデ	裾部内外面　黒変
	529	土師器	高杯	(12.2)	淡黄	良好	0.5～1	ヨコ・斜のナデ、ヨコナデ後斜のナデ ナデ	ヨコ・斜のナデ ヨコナデ後タテ方向のナデ	
	530	土師器	高杯	(26.2)	浅黄橙	良好	0.5～1　少量	ヨコナデ 指押さえ	ヨコナデ	外面　スス付着
	531	須恵器	杯	(9.7)	内黄灰 外灰	堅緻	0.5～1	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	外面　自然釉
	532	須恵器	甕	8.8　11.55	内灰 外オリーブ黒・淡黄	堅緻	精砂粒	ヨコナデ、ナデ、斜のナデ	口縁部　ナデ	外面　自然釉
	533	須恵器	甕		黄灰	堅緻	0.5～1.5	斜の平行タタキ	同心円タタキ	
	534	須恵器	甕		褐灰	堅緻	0.5～2	タテ方向の平行タタキ、平行タタキ後ナデ ナデ、ヨコナデ	同心円タタキ ナデ、同心円タタキ後ナデ	
	535	須恵器	甕		黄灰	堅緻	0.5～4	タテ・斜の平行タタキ	同心円タタキ、ナデ 一部同心円タタキ後ナデ	
	536	須恵器	甕		内褐灰・灰黄褐 外褐灰	堅緻	0.5～1	斜の平行タタキ 斜の平行タタキ後ナデ	同心円タタキ ナデ	
	537	須恵器	甕		褐灰	堅緻	0.5～2　多量	格子目タタキ	同心円タタキ後ナデ	外面　自然釉
18号住居	538	土師器	甕	17.8	黄橙・橙	良好	0.5～6	口縁部　指押さえ 胴部　ナデ、ヨコ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、斜のナデ、ナデ	外面　スス付着
	539	土師器	甕	19.8	にぶい黄橙 黄灰	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ、指ナデ、タテ方向のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、指ナデ	外面　黒変
	540	土師器	甕	(16.5)　25.5	内橙・明赤褐 外橙・にぶい赤褐	良好	0.5～5　多量 6～9　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　指押さえ、斜のナデ、ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ、斜のナデ	外面　スス付着 内面　黒変
	541	土師器	甕		内橙 外橙・にぶい橙	良好	0.5～5　多量	頸部　ヨコナデ、一部指ナデ 胴部　斜・タテ方向のナデ、タテ方向のナデ	ヨコ・斜のナデ	外面　黒変
	542	土師器	甕	(17.1)	内橙 外黄橙	良好	0.5～5 6～7　少量	口縁部　ヨコナデ後タテ方向のナデ 胴部　タテ方向のナデ	ヨコナデ	
	543	土師器	甕		内にぶい褐・にぶい橙 外橙・黒褐	良好	0.5～5.5	ヨコナデ後タテ方向のナデ タテ方向のナデ	ヨコ・斜のナデ、ナデ 斜のナデ、一部斜の指ナデ	外面　黒変
	544	土師器	甕	(15.7)　21.45　7.5	内浅黄橙 外橙・黒褐	良好	6～10　少量 0.5～3	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ　底部　網代？	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ	
	545	土師器	甕	(15.9)	内にぶい橙 外浅黄橙	良好	0.5～4	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	ヨコナデ	
	546	土師器	甕	(18.1)	内にぶい橙 外橙	良好	0.5～3　多量	ナデ	ヨコナデ	
	547	土師器	口縁～胴部	(15.1)	内淡黄 外浅黄橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	548	土師器	甕	(12.75)	黄橙	良好	0.5～4	ヨコナデ タテ・斜のナデ	タタキ	
	549	土師器	甕		内浅黄橙 外橙	良好	0.5～4 7　少量	ヨコナデ 斜のナデ	ヨコナデ ヨコ・斜のナデ	
	550	土師器	頸部～胴部		内浅黄橙 外浅黄橙・にぶい褐	良好	0.5～3.5	ヨコナデ 斜のナデ、タテ方向のナデ	ヨコナデ、斜のナデ、ナデ 斜のタタキ	外面　スス付着

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
18号住居	551	土師器	胴部～底部		㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～4 多量	タテ、斜のナデ ナデ	ヨコナデ タテ方向のナデ、ナデ	
	552	土師器	底部		㊥褐灰 ㊦浅黄橙	良好	0.5～4.5 6.5 少量	ナデ タテ方向のナデ	ナデ	内面　黒変
	553	土師器	底部	4.4	㊥褐灰 ㊦褐灰・浅黄橙	良好	0.5～4	指押さえ ナデ	ヨコ・斜のナデ	
	554	土師器	底部		㊥浅黄橙 ㊦淡黄	良好	0.5～5 多量 6～8 少量	ナデ	ナデ	内面　黒変
	555	土師器	底部		㊥黒褐 ㊦淡黄	良好	0.5～3 多量	ヨコナデ タテ方向のナデ	ヨコナデ	内外面　黒斑 木の葉底 あげ底
	556	土師器	底部	(10.6)	㊥灰褐 ㊦浅黄橙	良好	0.5～2 少量	ナデ	風化	木の葉底
	557	土師器	底部	(9.9)	㊥にぶい黄橙 ㊦浅黄橙・灰黄褐	良好	0.5～5 多量 6～9 少量	ヨコ・斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	木の葉底
	558	土師器	壺	9.8　18.9	㊥にぶい黄橙 ㊦橙	良好	0.5～3 8 少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ、ヨコ・斜のナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ、ナデ	外面　黒変
	559	土師器	鉢	(17.25)　12.3　(6.6)	にぶい黄橙	良好	0.5～3 多量	口縁部　ヨコナデ　底部　ヨコナデ 胴部　タテ・斜のナデ後指ナデ、指押さえ	ヨコナデ 底部　ナデ後指押さえ	
	560	土師器	杯	(13.6)	橙	良好	0.5～1 少量 微砂粒 多量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	561	土師器	口縁		㊥にぶい橙 ㊦灰褐	良好	0.5～1 少量	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外面　スス付着
	562	土師器	口縁		浅黄橙	良好	0.5～3	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	
	563	土師器	杯	13.1　6.0	橙	良好	0.5～1	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	
	564	土師器	鉢	9.9　6.7　6	㊥にぶい黄橙 ㊦淡黄	良好	0.5～3	ヨコナデ ヨコのヘラミガキ	ヨコナデ、斜のナデ ヨコ・斜のナデ	外面　黒斑
	565	土師器	口縁		㊥浅黄橙 ㊦にぶい褐・浅黄橙	良好	細砂粒　少量	斜のナデ	ヨコナデ ナデ	
	566	土師器	高杯		㊥浅黄橙 ㊦灰褐	良好	細砂粒	ヨコナデ 斜のナデ、ナデ	ヨコナデ	
	567	土師器	高杯		浅黄橙	良好	細砂粒	ヨコ・斜のナデ	ナデ 斜のナデ	
	568	土師器	高杯		橙	良好	0.5～2 多量 0.5～3 少量	斜のヘラミガキ	ヨコナデ	
	569	土師器	高杯	(10.8)	橙	良好	0.5～1 多量	ヨコにヘラミガキ 指押さえ	ナデ ヨコナデ 斜のナデ	
	570	土師器	脚付椀	(14.4)	明赤褐・浅黄橙	良好	0.5～1 少量	ナデ	風化	外面　丹塗り・黒変
	571	土師器	脚付椀	(14.3)　(9.0)　(10.4)	明赤褐・浅黄橙	良好	0.5～1 少量	口縁部　ヨコナデ	ナデ	内外面　丹塗り
	572	土師器	高杯	(11.7)	㊥浅黄橙 ㊦赤褐	良好	細砂粒	タテ方向のミガキ	ヨコナデ	外面　丹塗り
	573	土師器	椀	(8.0)	浅黄橙	良好	0.5～1.5	ヨコナデ	ナデ	外面　丹塗り
	574	土師器	椀		㊥明赤褐 ㊦明赤褐・灰赤	良好	0.5～1 0.5～3 少量	風化	風化	外面　丹塗り・黒変
	575	土師器	高杯		赤褐・浅黄橙	良好	0.5～2	ナデ	風化	外面　丹塗り

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
18号住居	576	土師器	高杯		赤橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	外面　丹塗り
	577	土師器	高杯		黄橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	外面　丹塗り
	578	土師器	鉢	(35.3)	橙・淡黄	良好	0.5～4　多量 5～6　少量	ヨコナデ、斜のナデ タテ方向のナデ	ヨコナデ	内面　黒変、赤変 注ぎ口有
	579	土師器	甑	27.45　6.35	にぶい黄橙	良好	0.5～5　多量	指ナデ、ナデ、ヨコナデ、タテ方向のナデ 底部　ケズリ後ナデ	ヨコナデ ヨコ・タテ・斜のナデ	
	580	土師器	甑	(5.0)	内にぶい黄橙・灰白 外黄橙・橙	良好	0.5～5　多量 6　少量	ヨコ・タテ・斜のナデ 指押さえ	ヨコの指ナデ、斜のナデ 指押さえ	
	581	土師器	甑	(5.0)	内にぶい黄橙・灰白 外橙・にぶい橙	良好	0.5～5	指押さえ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ 指押さえ	内面　黒変
	582	土師器	鉢	(27.0)	浅黄橙	良好	0.5～5 6　少量	ヨコナデ 斜のナデ	ナデ	
	583	土師器	甕	高さ9.1　厚さ5.5	にぶい橙・橙	良好	0.5～5　多量 6　少量	ナデ	ナデ	脚付甕の脚
	584	須恵器	杯蓋	14.2	灰	堅緻	0.5～4　少量	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラ記号 ロクロ回転時計回り
	585	須恵器	杯蓋	13.9	内灰オリーブ 外灰・灰オリーブ	堅緻	0.5～4	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ 仕上げナデ	ロクロ回転時計回り
	586	須恵器	杯蓋	(13.8)	オリーブ灰	堅緻	精砂粒	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	587	須恵器	杯蓋		灰黄	堅緻	0.5～1	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ記号
	588	須恵器	杯		灰白	堅緻	0.5～1	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	589	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～2	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	590	須恵器	杯	(10.2)	灰黄	堅緻	0.5～2	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ記号
	591	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～2.5	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	592	須恵器	杯		灰白	堅緻	0.5～2	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	593	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	
	594	須恵器	甕		内黄灰 外灰	堅緻	0.5～2.5	ヨコナデ 櫛描波状文	ヨコナデ	内面　自然釉
	595	須恵器	甕		褐灰	堅緻	0.5～4	ヨコナデ 櫛描波状文	斜のナデ ナデ	内外面　自然釉
	596	須恵器	甕		内灰白 外灰	堅緻	0.5～3　少量	斜の平行タタキ	ナデ	内面　自然釉
	597	須恵器	壺	(7.1)	黒褐	堅緻	0.5～1　少量	ヨコナデ ヨコナデ後斜のナデ	風化	
	598	須恵器	高杯		明褐灰	堅緻	0.5～2　少量	カキメ ナデ	ナデ ヨコナデ	外面　自然釉
19号住居	599	土師器	甕	(19.4)　22.8	内浅黄橙 外橙	良好	0.5～4	口縁部　ヨコナデ、ヨコナデ後斜のナデ、ナデ 胴部　タテ・斜のナデ、ナデ	ヨコ・斜のナデ 底部　ナデ、ヨコナデ	内外面　黒変
	600	土師器	甕	21.5	内橙 外橙・褐灰	良好	0.5～5　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜・タテ方向のナデ	ヨコナデ タテ方向のナデ	外面　黒変

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
19号住居	601	土師器	壺	5.2	内橙・にぶい黄橙 外橙	良好	1～5 多量 6～8 少量	タテ・斜のナデ	ヨコナデ 指押さえ	
	602	土師器	壺		内浅黄橙 外黄橙	良好	0.5～3.5	ナデ、斜のナデ、タテ方向のナデ ヨコ・斜のヘラミガキ	ヨコナデ ナデ	内外面　黒変
	603	土師器	脚付椀	(10)　7.65　(5.6)	内黄橙・灰黄褐 外黄橙	良好	0.5～4	ミガキ ナデ	ナデ、一部ヨコナデ	
	604	土師器	底部	(8.8)	内黄橙 外橙	良好	0.5～2	ナデ、一部ヨコナデ、指押さえ	ナデ、一部斜のナデ	木の葉底
	605	土師器	底部	(5.55)	灰褐	良好	細砂粒	ナデ 指押さえ	斜のナデ	あげ底
	606	土師器	口縁		内灰黄 外浅黄橙	良好	0.5～5	ナデ	ナデ	
	607	土師器	脚		橙	良好	0.5～6	ナデ、一部ヨコ・斜のナデ ヨコナデ	ヨコナデ後ナデ	
	608	土師器	高杯		浅黄橙	良好	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	609	土師器	高杯		内浅黄橙 外橙	良好	0.5～1　少量	ナデ	ナデ	外面　丹塗り
	610	土師器	高杯		内橙 外淡橙	良好	0.5～1.5　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	611	土師器	杯		内淡橙 外淡橙・浅黄橙	良好	0.5～2	ナデ	ナデ	内外面　丹塗り
	612	土師器	脚		内黄橙 外黄橙・橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	外面　丹塗り
	613	須恵器	杯蓋		内灰 外灰白	堅緻	0.5～1　少量	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
	614	須恵器	甕		灰	堅緻	微砂粒	ナデ カキメ後ナデ	ナデ	
	615	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～3　少量	格子目タタキ 指押さえ	ナデ	
20号住居	616	須恵器	甕		黄灰	堅緻	細砂粒	斜の平行タタキ後斜のカキメ	同心円タタキ	
22号住居	617	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～3	ヨコの平行タタキ	ナデ	
	618	土師器	口縁		内黄灰 外淡黄・灰黄	良好	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	
	619	土師器	壺		浅黄橙	良好	0.5～1	斜のナデ、ナデ	ナデ 斜のナデ	外面　黒斑
土坑1	620	土師器	甕	(22.6)　28	橙	良好	0.5～4　多量 5～6　少量	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　斜のナデ、ナデ、指押さえ	口縁部　ヨコ・斜のナデ 胴部　斜のナデ、一部ヨコナデ	外面　黒斑
	621	土師器	甕	17.4　29.3	橙・黒褐	良好	0.5～6	口縁部　ナデ、ヨコナデ　頸部　格子目タタキ後ナデ 胴部　格子目タタキ、ナデ	口縁部　ナデ、一部ヨコナデ 胴部　斜のナデ、ナデ、指押さえ	外面　スス付着
	622	土師器	高杯		橙	良好	0.5～1.5　少量	ナデ	ナデ	
	623	土師器	高杯	10.2	橙	良好	細砂粒　多量	ヨコナデ	脚部　タテ方向後ヨコナデ 裾部　ヨコナデ、ナデ	
溝12	624	土師器	口縁		にぶい橙	良好	0.5～4	ナデ、一部ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	外面　スス付着
	625	土師器	高杯		内黄橙 外灰黄褐	良好	0.5～2	ナデ	ナデ、斜のナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
溝 13	626	土師器	底部	(9.6)	㊥灰白 ㊧橙	良好	0.5～5 多量	指押さえ	指押さえ	木の葉底
	627	土師器	底部	(7.5)	㊥灰 ㊧浅黄橙	良好	0.5～5 多量	タテ方向のナデ	ヨコナデ	木の葉底
	628	土師器	底部	7.9	橙	良好	0.5～5 多量	斜のナデ ヨコナデ	ナデ	
	629	土師器	底部	(9.4)	㊥浅黄橙 ㊧橙	良好	0.5～6 少量	ナデ		
	630	土師器	椀		橙	良好	微砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	外面 スス付着
	631	土師器	鉢	3.6 3.3	㊥浅黄橙 ㊧浅黄橙・灰黄褐	良好	細砂粒 0.5～1	ヨコナデ、ナデ	ナデ、斜のナデ	あげ底 外面 黒変
	632	土師器	鉢		浅黄橙	良好	0.5～1	ナデ、指ナデ	斜のナデ、指ナデ、指押さえ	
	633	土師器	杯～脚部		橙	良好	0.5～1.5	脚部 ヘラミガキ・風化	杯部 ヘラミガキ 脚部 ナデ	
	634	須恵器	杯蓋	(13.4)	㊥灰 ㊧灰白・黒褐	堅緻	0.5～3	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	外面 自然釉 ロクロ回転時計回り
	635	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	細砂粒 少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	636	須恵器	杯	12.35 4.2	灰	堅緻	0.5～4	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ、仕上げナデ	外面 自然釉 ロクロ回転時計回り
	637	須恵器	杯		黄灰	堅緻	0.5～2	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ、仕上げナデ	ロクロ回転時計回り
	638	須恵器	杯		灰白	堅緻	0.5～2	ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	639	須恵器	杯	(11.4) (3.7)	灰	堅緻	0.5～5 6～7 少量	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	640	須恵器	高杯		灰	堅緻	0.5～2	ナデ、ヨコナデ、2条の沈線	ヨコナデ	2方透かし
	641	須恵器	高杯		灰	堅緻	0.5～2	脚部 ヨコナデ、指押さえ、2条の沈線	杯部 ナデ 脚部 ヨコナデ	2方透かし 外面 自然釉
	642	須恵器	甕		㊥灰 ㊧オリーブ黒	堅緻	0.5～2	ナデ	ナデ	内外面 自然釉
	643	須恵器	甕	(31.0)	淡黄	堅緻	0.5～2	口唇部 ヨコナデ 頸部 ヨコナデ後斜の平行タタキ	ヨコナデ後斜のナデ	
溝 14	644	土師器	口縁		㊥にぶい黄橙 ㊧浅黄橙	良好	0.5～2 多量	タタキ	ヨコナデ	外面 スス付着
	645	土師器	底部	8.1	橙	良好	0.5～6 多量	ナデ、指押さえ	ナデ、タテ方向のナデ	木の葉底 内面 黒斑
	646	土師器	高杯		㊥黄橙・明赤褐 ㊧黄橙	良好	0.5～2.5	ナデ、指押さえ	ヨコナデ	内外面 丹塗り
	647	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～5	斜の格子目タタキ後カキメ	斜のナデ	外面 自然釉
	648	須恵器	甕		㊥灰 ㊧灰白	堅緻	0.5～1.5 少量	斜の平行タタキ、カキメ	同心円タタキ	外面 自然釉
溝 15	649	土師器	甕	(28.0)	橙	良好	0.5～5.5 多量	ヨコナデ後指ナデ、指押さえ	ナデ	
	650	土師器	甕		橙	良好	0.5～5	ヨコナデ ヨコ・斜のナデ	ヨコナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
	651	土師器	甕		㊥淡黄・褐灰 ㊧褐灰	良好	0.5～4	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面　黒変
溝　15	652	土師器	胴部		㊥浅黄橙 ㊧にぶい黄橙	良好	0.5～5	格子目タタキ	斜のナデ	外面　スス付着
	653	土師器	底部		浅黄橙	良好	細砂粒 2～8.5　少量	ナデ、指押さえ	ナデ	木の葉底
	654	土師器	底部		浅黄橙	良好	0.5～2	ナデ	斜のナデ	
	655	土師器	底部	(4.4)	㊥褐灰 ㊧淡黄	良好	0.5～4.5	ナデ	斜のナデ	
	656	土師器	高杯		橙	良好	細砂粒 0.5～1	ナデ	ナデ	
	657	土師器	口縁		橙	良好	細砂粒 0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ	口唇部　黒変
	658	土師器	口縁		橙	良好	0.5～1	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ後タテ方向のナデ	
	659	土師器	杯		橙	良好	微砂粒　少量	ヨコナデ、斜のナデ	ナデ	内外面　丹塗り
溝　17	660	土師器	壺	(13.8)	浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
	661	土師器	口縁		㊥にぶい褐・橙 ㊧にぶい赤褐	良好	1～5 細砂粒	ナデ、ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ、ナデ	
	662	土師器	口縁		㊥にぶい橙 ㊧黒	良好	0.5～4 細砂粒	ヨコナデ、一部斜のナデ	ヨコナデ、斜のナデ	外面　スス付着
	663	須恵器	杯蓋	(15.2)	灰	堅緻	0.5～1.5　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
溝　18	664	土師器	口縁		㊥橙 ㊧にぶい橙	良好	0.5～3	ヨコナデ	ヨコナデ	
	665	土師器	胴部		㊥にぶい黄橙 ㊧黄橙	良好	0.5～1　少量	ナデ	ヨコナデ	外面　線刻
	666	土師器	底部		㊥浅黄橙 ㊧浅黄橙・にぶい橙	良好	0.5～5	タテ方向のナデ ナデ、一部ヨコナデ	斜の指ナデ タテ方向の指ナデ	外面　黒変
	667	須恵器	杯		灰黄	堅緻	0.5～3	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
溝　19	668	土師器	甕	12.8　11.35　3.75	㊥浅黄橙 ㊧にぶい橙	良好	0.5～5	ヨコナデ、タテ方向のナデ、斜のナデ 指ナデ	ヨコナデ、斜のナデ、ナデ	外面　黒変
	669	土師器	甕	(26.8)	㊥橙 ㊧橙・にぶい橙	良好	0.5～5　多量	ヨコナデ、斜のナデ	ヨコナデ、指ナデ後ナデ、斜の指ナデ	外面　黒変、スス付着
	670	土師器	壺		㊥浅黄橙 ㊧黄橙	良好	0.5～5 5～8　少量	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ・斜のナデ	ヨコナデ、指押さえ	
	671	土師器	甑	23.0　26.3　8.5	橙	良好	0.5～5	指押さえ、斜のナデ、ナデ	斜のナデ、指ナデ	外面　スス付着
	672	土師器	甑	(28.25)　24.5　5.75	㊥黄橙 ㊧橙	良好	0.5～5　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜のナデ、ナデ	口縁部　ヨコナデ、ナデ 胴部　斜のナデ、ナデ、指ナデ	外面　スス付着
	673	土師器	鉢	(15.4)	橙	良好	0.5～3.5　多量	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ方向のナデ後ヨコ・斜のヘラミガキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ後斜のヘラミガキ	
	674	土師器	壺		㊥淡黄 ㊧浅黄橙	良好	0.5～2.5	刻み目突帯、ナデ	ナデ	
	675	土師器	脚付椀		㊥明褐灰 ㊧橙・浅黄橙	良好	0.5～3.5　少量	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
溝 19	676	土師器	高杯		橙	良好	微砂粒	脚部　タテ方向のナデ後ナデ、ナデ	杯部　ナデ 脚部　ナデ	
	677	土師器	高杯		淡黄	良好	0.5～2　多量	ヨコナデ、タテ方向の指ナデ	杯部　ナデ 脚部　ナデ	
	678	須恵器	甕		黄灰	堅緻	0.5～1	ナデ 櫛描波状文	ナデ	
	679	須恵器	甕		灰	堅緻	0.5～3	タテに平行タタキ	ナデ	
	680	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	細砂粒　少量	ヘラ削り ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	681	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ 浅い沈線	
	682	須恵器	杯蓋		灰	堅緻	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
	683	須恵器	杯		灰オリーブ	堅緻	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ	
	684	須恵器	杯	(13.2)	灰	堅緻	0.5～3.5	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	外面　自然釉
	685	須恵器	杯	(14.2)	灰	堅緻	0.5～3.5	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回りと逆？
	686	須恵器	杯	(12.4)	灰	堅緻	0.5～4	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	外面　自然釉 ロクロ回転時計回り
	687	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～1.5　多量	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ 仕上げナデ	ロクロ回転時計回り
	688	須恵器	杯		㊥灰オリーブ ㊥にぶい黄灰	堅緻	0.5～3　多量	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
溝 23	689	土師器	甕	(23)	浅黄橙	良好	0.5～5	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	ヨコナデ ヨコナデ後斜のナデ	
	690	土師器	口縁		淡黄	良好	0.5～3	ヨコナデ	ヨコナデ	黒塗り
	691	土師器	杯部		橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	
	692	土師器	底部		にぶい黄橙	良好	0.5～3	斜の平行タタキ	タテ方向のナデ	
	693	土師器	底部		㊥にぶい橙 ㊥にぶい橙・灰褐	良好	0.5～5	斜のナデ	タテ・斜のナデ	
	694	土師器	甑	(9.6)	㊥黄橙 ㊥橙	良好	0.5～2.5	タテ方向のナデ、ナデ、斜のナデ	ナデ	
	695	須恵器	杯	(11.7)	灰	堅緻	0.5～1　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	696	須恵器	杯		㊥灰褐 ㊥黄灰	堅緻	0.5～1　少量	ヘラケズリ	ヨコナデ	ロクロ回転時計回り
	697	土師器	土製品	長さ3.1　厚さ0.4　幅3.7	㊥浅黄橙 ㊥橙	良好	微砂粒	ナデ	ナデ	外面　未貫通穿孔あり
溝 25	698	土師器	甕	(18)	橙・黄橙	良好	0.5～5	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ、タテ方向のナデ	ナデ、斜のナデ	黒塗り
	699	土師器	甕	(13.4)	㊥黄橙 ㊥浅黄橙	良好	0.5～3	ナデ、一部ヨコナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	700	土師器	甕	(16.1)	淡黄	良好	0.5～6	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調 外面	整 内面	備考
溝 25	701	土師器	甕	(16.3)	㊥橙 ㊦橙・にぶい黄橙	良好	0.5～5 多量 6～8 少量	口縁部 ナデ 胴部 タテ・斜のナデ、ナデ	ナデ	外面 スス付着
	702	土師器	甕		㊥にぶい黄橙 ㊦浅黄橙	良好	0.5～4 細砂粒	ナデ	ヨコナデ	外面 スス付着
	703	土師器	甕	(21.7)	㊥淡黄 ㊦黄橙	良好	0.5～5 6～9 少量	ナデ 斜のナデ後ヨコナデ、斜のナデ後一部指ナデ	ヨコナデ	内面 黒変
	704	土師器	甕	(20.2) 23.4	橙・にぶい橙	良好	0.5～4	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ・斜・ヨコのナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコナデ、ナデ	外面 スス付着
	705	土師器	甕	(21.5)	橙	良好	0.5～5.5	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ後指ナデ、タテ方向のナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	外面 スス付着
	706	土師器	胴部		㊥灰 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5 細砂粒	斜のナデ、一部ヨコナデ	ヨコ・斜のナデ	外面 スス付着
	707	土師器	壺	(14.2)	㊥淡黄 ㊦浅黄橙	良好	0.5～3 多量	ヘラミガキ	ヨコナデ	
	708	土師器	胴部～底部		㊥灰 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～6	タテ・斜のナデ、ナデ	ヨコ・斜のナデ、指ナデ	
	709	土師器	壺	15.1 30.3 5	浅黄橙	良好	0.5～5 多量	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜のナデ、タテ方向のナデ	ヨコ・斜のナデ、指押さえ	外面 黒斑
	710	土師器	杯	(5)	㊥橙 ㊦にぶい橙	良好	0.5～3	ナデ、ヨコナデ	ナデ	
	711	土師器	甑	(8.2)	㊥淡黄・灰黄 ㊦淡黄	良好	0.5～5.5	ナデ	ナデ、斜・ヨコの指ナデ	
	712	須恵器	杯蓋		㊥灰オリーブ ㊦黄灰	堅緻	0.5～1	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	
	713	須恵器	甕		黄灰	堅緻	細砂粒	平行タタキ後ヨコのカキメ	同心円タタキ	外面 自然釉
	714	須恵器	壺	(8.2)	灰	堅緻	0.5～3 少量	カキメ、ナデ	ヨコナデ	
溝 29	715	土師器	胴部～底部		㊥にぶい赤褐 ㊦にぶい橙	良好	0.5～5	斜のナデ、一部タテ方向のナデ 指押さえ、ナデ	ヨコナデ後斜のナデ	
溝16・17・19	716	土師器	胴部～底部		㊥浅黄橙 ㊦にぶい黄橙	良好	0.5～5	斜のナデ、ナデ	斜のナデ、指ナデ、タテ方向のナデ	外面 スス付着 内面 黒斑
柱穴	717	土師器	高杯		浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコ・斜のナデ	杯部 ナデ 脚部 ヨコナデ	
	718	土師器	胴部～胴部下位		㊥橙・にぶい黄橙 ㊦橙	良好	0.5～5	斜・ヨコのナデ	斜・ヨコ・タテ方向のナデ	内面 黒斑
包含層	719	須恵器	杯蓋	(13.6)	㊥にぶい黄橙 ㊦灰黄橙	堅緻	0.5～6	ヘラケズリ ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	ロクロ回転時計回り
	720	須恵器	杯蓋	(13.8)	㊥灰黄褐 ㊦暗灰黄	堅緻	1～2	ヘラケズリ ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
	721	須恵器	杯	(12.6)	灰黄	堅緻	0.5～1.5	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	
	722	須恵器	杯		灰黄	堅緻	0.5～2 少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
溝 23	723	須恵器	杯		灰	堅緻	0.5～1 少量	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	
	724	須恵器	甑		灰白	堅緻	0.5～3 少量	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
ピット	725	土師器	椀	(13.2) 3.55 7.7	浅黄橙	良好	細砂粒 0.5～3	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	外面 未貫通穿孔 糸切り底
4号掘立	726	土師器	皿	(7.95) 1.7 (6.75)	黄橙	良好	0.5～1	ナデ	ナデ	糸切り底
	727	土師器	皿	(7.3) 1.25 (6.25)	にぶい黄橙	良好	細砂粒 少量	ナデ	ナデ	糸切り底
	728	土師器	皿	(7.3) 1.6 (6)	内にぶい橙 外にぶい黄橙	良好	0.5～1.5	ナデ	ナデ	糸切り底
	729	土師器	皿	(7.3) 1.6 (5.6)	灰褐	良好	0.5～2	ナデ	ナデ	糸切り底
	730	土師器	皿		にぶい橙	良好	細砂粒 0.5～1.5	ナデ	ナデ	糸きり底
ピット	731	土師器	皿	(8.3) 1.4 (7.5)	橙・黄橙	良好	微砂粒	ナデ	ナデ	口唇部 面取り 糸切り底
4号掘立	732	土師器	皿	(8.1) 1.5 (6.4)	浅黄橙	良好	細砂粒 0.5～1	ナデ	ナデ	糸切り底
	733	土師器	皿	(7.7) 1.3 (5.8)	内にぶい橙 外橙	良好	細砂粒	ナデ	ナデ	糸切り底
	734	土師器	坏	(5.3)	にぶい褐	良好	微砂粒 少量	ナデ	ナデ	
10号住居	735	土師器	皿	7.95 1.3 6.25	浅黄橙	良好	細砂粒 少量	ナデ	ナデ 指押え	糸切り底
	736	土師器	皿	(7.7) 1.55 (6.6)	浅黄橙	良好	微砂粒 少量	ナデ	ナデ	糸切り底
	737	土師器	皿	(8.2) 1.45 (6.6)	浅黄橙	良好	0.5～1.5 少量	ナデ	ナデ 指押え	糸切り底
	738	土師器	皿	(8.25) 1.6 (7)	浅黄橙	良好	0.5～1.5 少量	ナデ	ナデ 指押え	糸切り底
溝 13	739	土師器	坏	(6.5)	坏黄褐	良好	細砂粒	ナデ	ナデ	
	740	瓦質	口縁部		内褐灰 外灰白	良好	0.5～1.5	ナデ、ヨコナデ	口唇部 ナデ、ヨコ・斜のナデ、ナデ	
	741	白磁	口縁部		灰白	堅緻	精砂粒	施釉	施釉	
溝 23	742	須恵器	坏	(12.75) 4 (7)	灰	堅緻	精砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	外面 自然釉薬 内面 黒色物付着
14号住居	743	土師器	甕		明黄褐	良好	細砂粒 0.5～5 6～7	ヨコナデ 頸部 斜・タテ方向の平行タタキ	ヨコナデ	
12号住居	744	土師器	甕		内にぶい黄橙 外にぶい褐	良好	細砂粒 多量 6～13	ヨコナデ、斜のハケ	ヨコナデ	
11号住居	745	土師器	坏	(6.2)	浅黄橙	良好	細砂粒 微砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
12号住居	746	土師器	坏		内にぶい橙 外橙	良好	0.5～3	ナデ、風化気味	タテ、ヨコ方向のナデ	木の葉底 内外面 スス付着
11号住居	747	土師器	高台付椀		灰白	良好	微砂粒 少量	底部 ヘラ切り	ナデ	
3号住居	748	布痕土器	口縁部		内淡橙 外橙	良好	0.5～3.5	ナデ	風化気味、布痕	
	749	布痕土器	胴部		橙	良好	細砂粒	ナデ	布痕	

出土遺構	遺物番号	遺物種別	器種	口径・器高・底径（cm）	色調	焼成	含有砂粒（mm）	調整 外面	調整 内面	備考
10号住居	750	東播系	コネ鉢		㊥灰黄 ㊦灰	堅緻	細砂粒　少量	ヨコナデ	ヨコナデ	
5号住居	751	東播系	コネ鉢		㊥灰白 ㊦灰	堅緻	細砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	
6号住居	752	東播系	コネ鉢		灰白	堅緻	細砂粒 精砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	外面　自然釉
10号住居	753	白磁	椀		灰白	堅緻	精砂粒	施釉	施釉	
包含層	754	土師器	坏	(7)	浅黄橙	良好	0.5～1.5　細砂粒	風化気味、ナデ	風化気味、ナデ	
5号住居	755	土師器	高台付椀	(17.4)　6.85　(10)	橙	良好	0.5～2 細砂粒　多量	ヘラミガキ、ヨコナデ	ヘラミガキ、ヨコナデ	
11号住居	756	弥生土器	甕		㊥にぶい橙 ㊦にぶい褐	良好	0.5～2	ヨコナデ、口唇部に刻み目	ナデ	
溝　25	757	弥生土器	甕		にぶい橙	良好	細砂粒 微砂粒	ヨコナデ、口唇部に刻み目	ナデ、斜のナデ	
18号住居	758	弥生土器	甕		浅黄橙	良好	0.5～1	刻み目突帯、ヨコナデ、タテ方向のナデ	ヨコナデ、ナデ	
5号住居	759	弥生土器	壺		浅黄橙	良好	0.5～2	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	複合口縁
10号住居	760	土師器	小型土器		黄橙	良好	0.5～2	ナデ	ナデ	
	761	土師器	小型土器		にぶい黄橙	良好	0.5～2	ナデ	ヨコ、斜のナデ	
	762	土師器	小型土器	(6.4)　3.4　(3)	浅黄橙	良好	0.5～1	指ナデ、タテ方向のナデ	ナデ、指押え	外面　黒斑

石 器 観 察 表

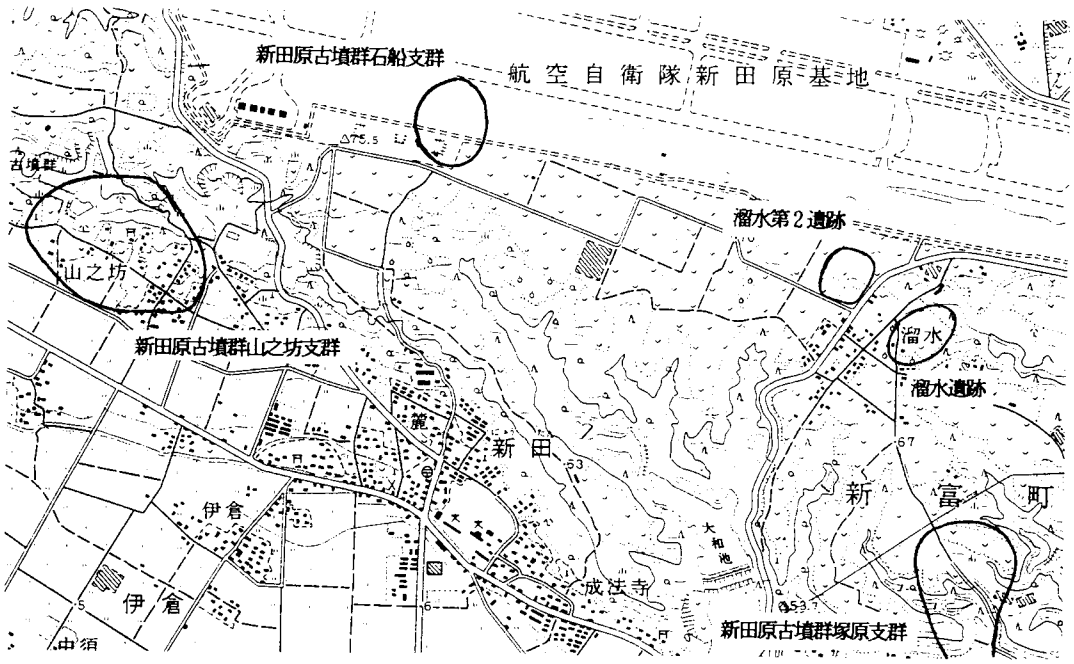
番号	出土区	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
1	2号住居	磨石	(8.9)	(8.0)	4.1	500	砂岩	
2	5号住居	〃	(7.0)	(7.2)	3.0	230	〃	
3	5号住居	〃	(6.5)	(6.6)	4.2	213	〃	
4	5号住居	敲石	16.7	6.5	6.0	910	〃	
5	5号住居	磨石	(8.4)	(4.7)	2.0	102	〃	
6	5号住居	砥石	(10.1)	(3.6)	(1.0)	25	〃	
7	9号住居	〃	(15.8)	(6.9)	2.7	490	〃	
8	9号住居	〃	(8.8)	6.1	4.2	352	〃	
9	9号住居	石斧	(13.1)	8.9	4.5	690	流紋岩	
10	9号住居	磨石	(17.6)	8.4	5.9	1,250	砂岩	
11	9号住居	砥石	7.2	(16.5)	2.2	370	〃	
12	10号住居	磨石	(16.3)	12.3	5.4	1,800	〃	
13	10号住居	砥石	10.8	6.5	5.8	495	〃	
14	15号住居	〃	6.0	5.9	1.8	103	〃	
15	17号住居	敲石	(12.9)	4.4	3.9	410	〃	
16	17号住居	磨石	(12.3)	(4.9)	3.9	350	〃	
17	17号住居	〃	18.3	7.3	5.3	1,070	〃	
18	17号住居	〃	(14.9)	7.9	5.0	850	〃	
19	18号住居	砥石	(6.5)	4.8	2.4	125	〃	
20	18号住居	磨石	(9.4)	6.4	3.0	275	〃	
21	14号溝	〃	(14.7)	(5.9)	3.6	475	〃	
22	2号溝	〃	(14.4)	(7.8)	4.5	810	〃	
23	土坑1	〃	12.2	11.0	5.7	1,180	〃	
24	包含層	〃	7.7	6.5	2.9	202	〃	
25	包含層	〃	(11.1)	6.1	3.7	423	〃	

第４章　溜水第２遺跡

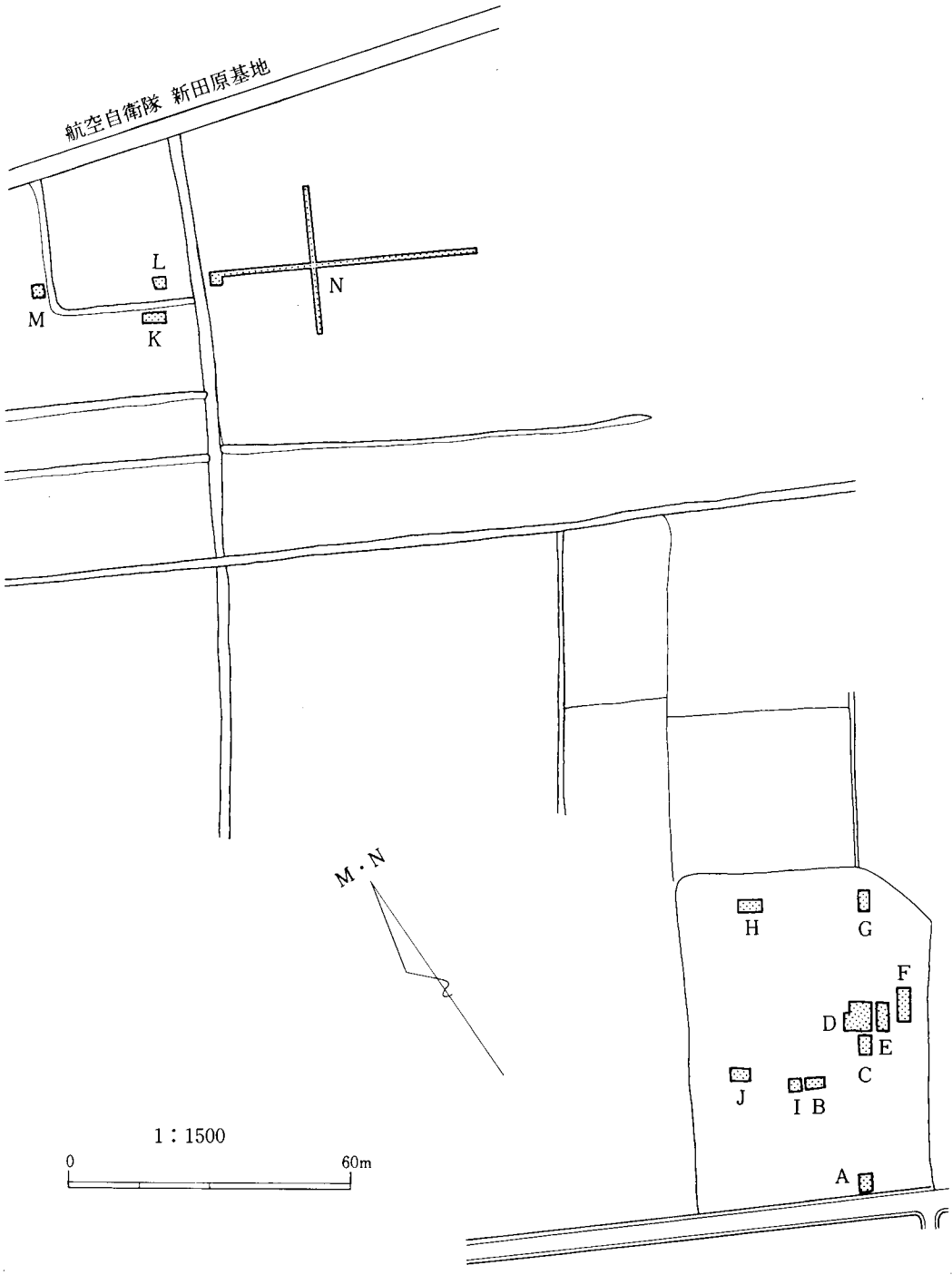
第１節　発掘調査の概要

１．調査に至る経緯

本遺跡は、平成３年６月に宮崎県一ッ瀬土地改良事務所より、大字新田字溜水地区において県営ほ場整備事業の計画の提示があり、これを受けて宮崎県教育庁文化課と新富町教育委員会では、計画地が国指定史跡新田原古墳群の一部が所在する航空自衛隊新田原基地に隣接し、また同地が地区名の溜水が示すように新田原台地を東に開析し始める位置にあたることから関連の遺跡の存在が予想されるが遺物の散布は少ない状態であり、工事の前の試掘調査等で遺構の確認を行ない、調整することとなった。また、現地は第二次大戦中の陸軍飛行場となっており、終戦末期には米軍航空機による爆撃を受け、不発弾の存在も予想され、不発弾探査等の実施等の申し入れた。県教育庁文化課、県一ッ瀬土地改良事務所、一ッ瀬土地改良区、新富町教育委員会、町耕地課と事業予定地内に所在する埋蔵文化財について協議した結果、現地調査は、この試掘調査の実施と不発弾探査の終了をもって面工事に先行する形で行い、遺構の確認された地区については発掘調査を実施することとなった。またその他の地区については計画実施段階から表土の削平・移動が比較的浅く、少ないことから埋蔵遺構に影響を与えないことも考えられ、排水溝の掘削・表土剥ぎの工事を中心に立ち会い、一部面的に表土を剥いで確認することとなった。

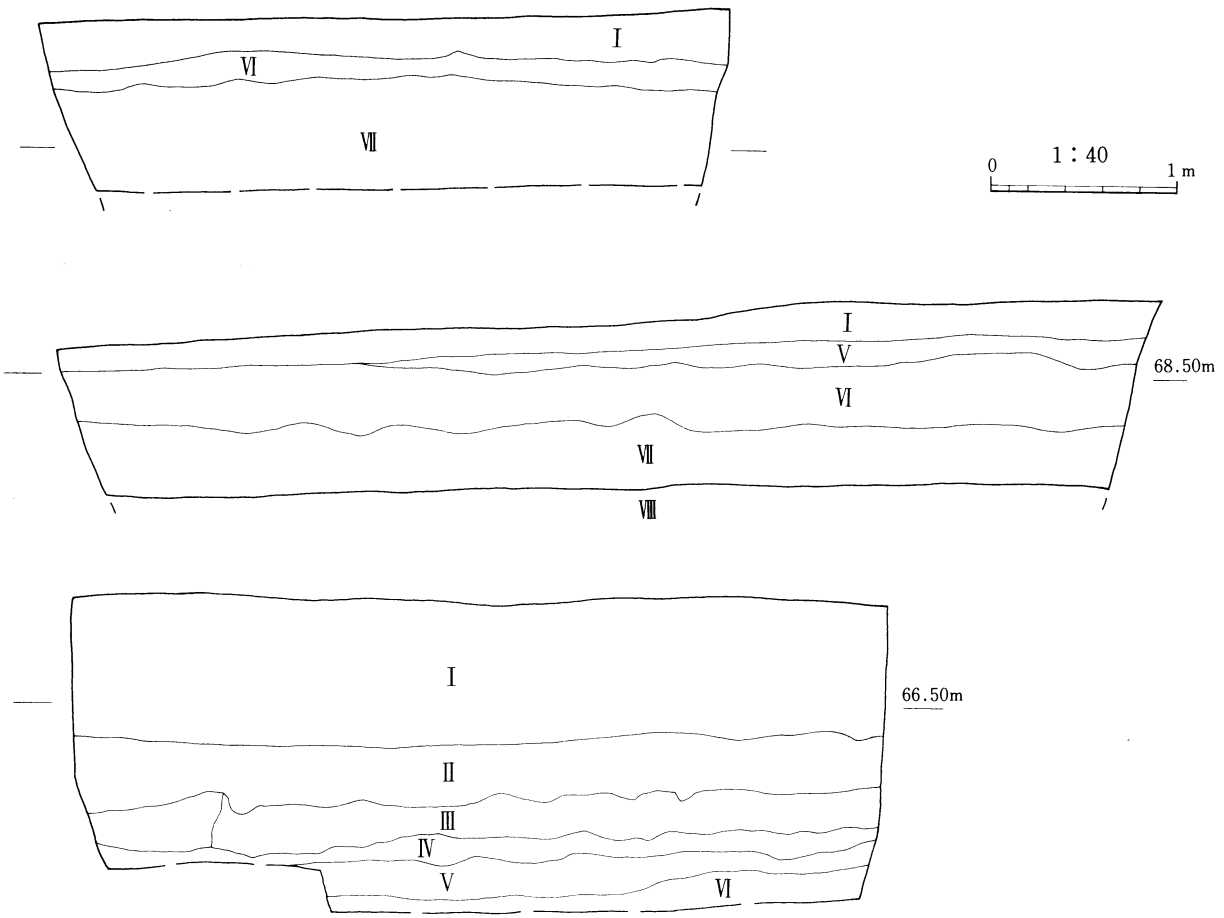


第１図　遺跡の位置



第2図　調査区（トレンチ）配置図

Aトレンチ



Ⅰ　耕作土・客土　土器・焼礫・土器片を若干含む。重機を使用して剝ぐ。

Ⅱ　黒色土　軟質　含有物少ない。

Ⅲ　にぶい黄橙～明黄橙色土　アカホヤ層ところどころ腐植化し濁る。

Ⅳ　灰黄褐色土　オレンジパミスを含む。

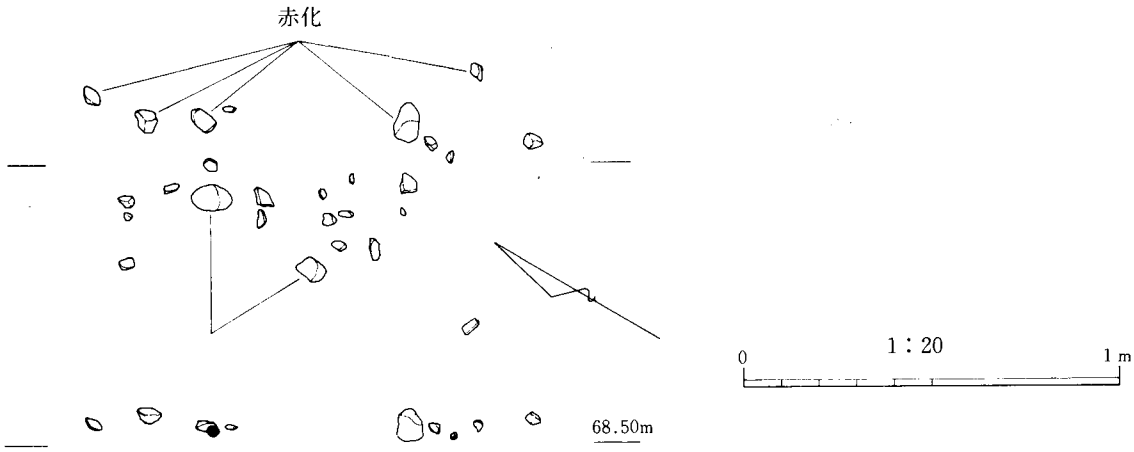
Ⅴ　黒褐色土　かたいまる。

Ⅵ　にぶい黄褐色土　かたくしまる。

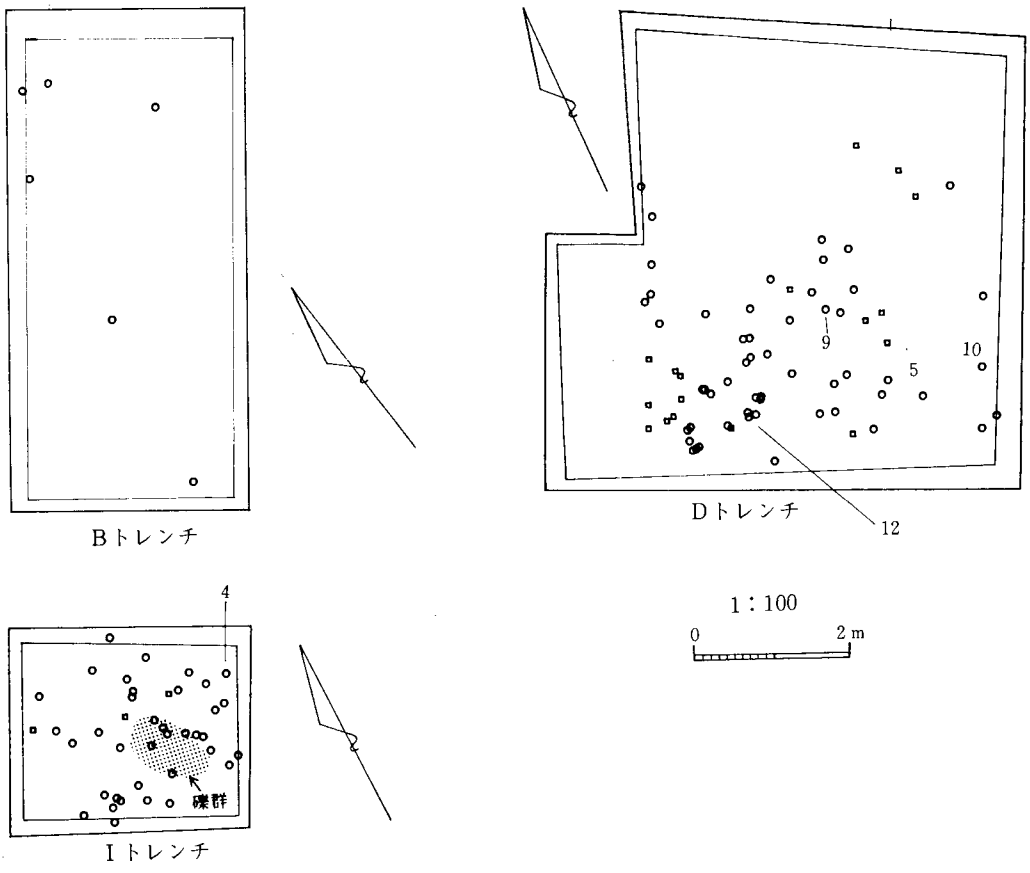
Ⅶ　にぶい黄褐色土　Ⅵより若干明るい　Ⅵ層下部からこの層の上部にかけて遺物が出土。

Ⅷ　黄褐色土　ただしところどころ白味がかったところも。砂質、やわらかい。ＡＴ層か。Ⅶ層との層界は不整合となる。

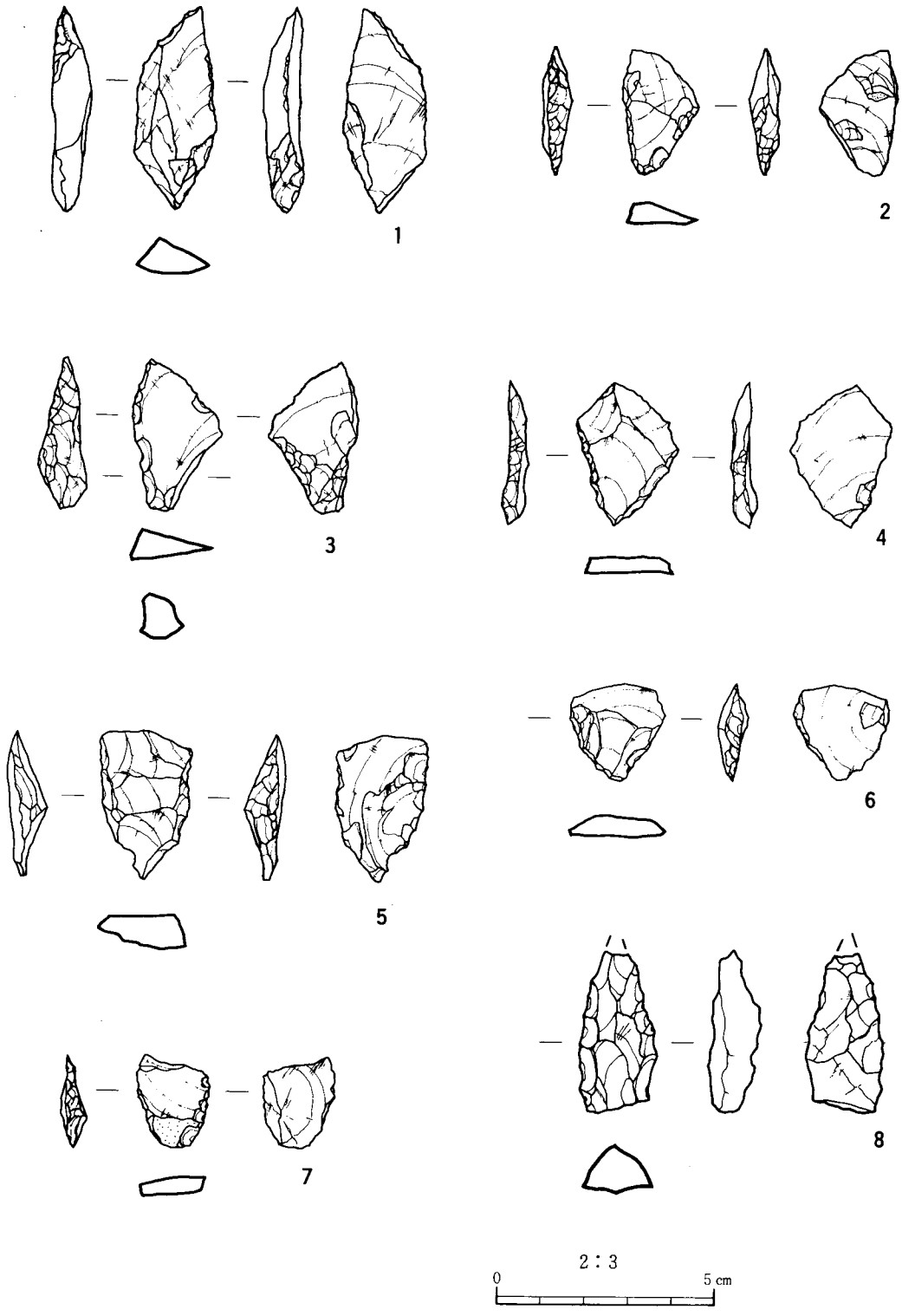
第３図　層位断面図



第4図　礫群実測図



第5図　遺物・礫群平面分布図



第6図　出土石器実測図（1）

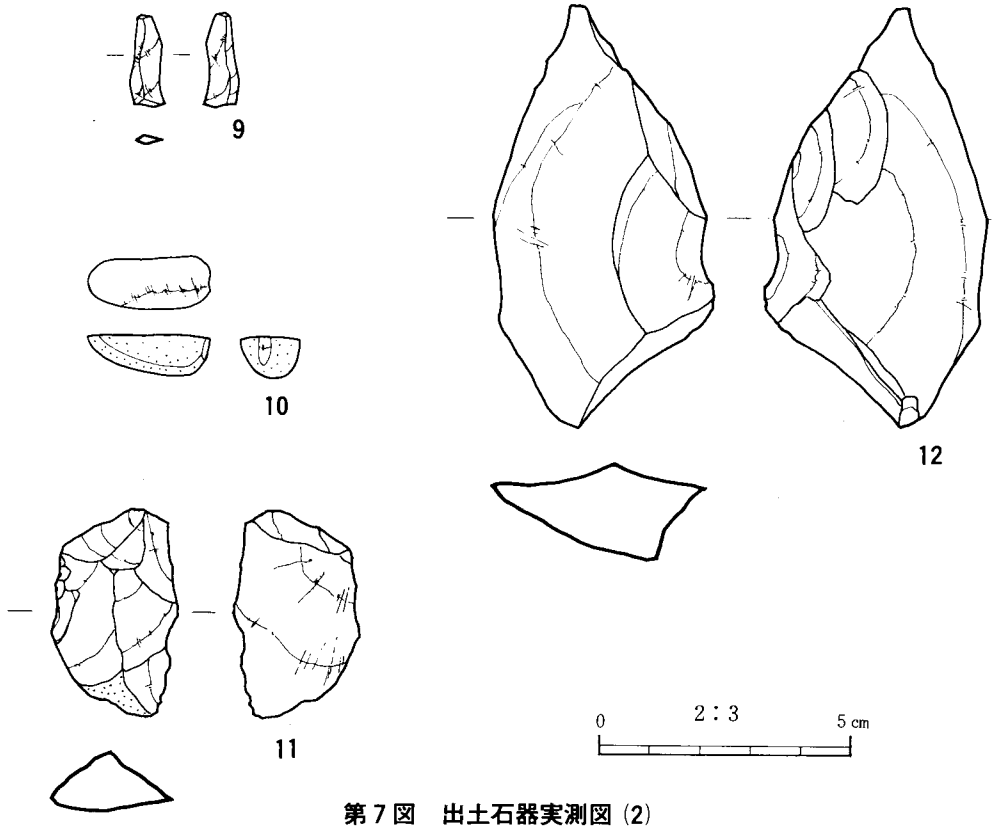
調査については新富町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会文化課から調査員吉本吉典氏の派遣を頂き、工事と同時進行する形で調査を進めることとなった。

2．立地と環境

当地は、先に概説した洪積台地の新田原面にあたり、地名が示すように平坦な典型地形となっているが細かく観ていくと、北側の海抜70～72mの航空自衛隊新田原基地と南西につづく高位面を鬼付女川の小支流が東西に開析し始めた位置にあり、新田原台地より東に派生した二列の丘陵列（弁指丘陵・城元上丘陵）の分岐点となっており、遺跡の西側は緩やかな凹地となっている。

本遺跡は、先の上薗遺跡からほぼ鬼付女川を界し西に約３kmに位置し、東に約１kmには昭和14年に発掘調査された石船塚などの国指定史跡新田原古墳群第42･43･44･45号が所在しており、現在そこは滑走路の一部となっている。また、滑走路を越えて西北西に約２kmには弥生時代後期の集落の新田原遺跡がある。

さらに、第１図にはあらわれていないが、新富町および児湯郡一帯では、大野寅男氏等による精力的な表採活動により、旧石器時代の遺跡が多く確認されている。それらの内容は、今回の調査で発見された遺物との比較により重要性を増してくるものと考えられる。



第７図　出土石器実測図（2）

3. 調査の概要

調査によって確認できた基本層序は第3図に示す通りである。発掘調査に際しては、まずⅠ層を重機使用により除去した。その結果、ほとんどの部分でⅢ層（アカホヤ層。鬼界カルデラ起源の火山灰層）あたりまで削平されており、深いところまではⅤ層まで耕作の影響が及ぶことが確認された。このため、Ⅳ層以下の層について掘り下げを進めたが、当初予定された縄文時代の文化層は存在しないことが確認された。

このため、浅い谷をはさんで相対する台地上にトレンチを入れ、各時代の遺構・遺物の集中区を探す方法をとった。

その結果、B～FトレンチとⅠトレンチのⅥ層下部～Ⅶ上部に旧石器時代の文化層が認められ、遺構として礫群Ⅰ基が検出されている。

一方、Nトレンチなどを中心に、弥生時代の遺構検出を目的とした精査を行ったが、遺構・遺物はなんら認められなかった。

第2節　遺構と遺物

1. 旧石器時代の遺構

前述の通りⅠトレンチで礫群Ⅰ基が検出されている。

100cm×50cm程の範囲に拳大の礫に（赤化礫を含む）が集中しているが、集積度は低い。掘り込み等の下部遺構はみられなかった。

2. 旧石器時代の遺構

剥片類も含めた出土点数は約180点。このうち、定型的な石器を中心に図示している。（第6・7図）。

1～4はナイフ型石器である。1はⅠトレンチⅦ層出土。流紋岩製。左側縁の上部1／4程と右側縁の基部近くに調整剥離を施してある。2も同じくⅠトレンチⅦ層出土のもので、流紋型製。二側縁に調整剥離を施し、刃部は斜めになる。3はEトレンチⅦ層出土。流紋岩製。左側縁と右側縁の下部1／2程の範囲に急斜度の調整剥離を施している。刃部はななめになる。4はⅠトレンチⅦ層出土。これも流紋岩製。二側縁の下部（右側縁は1／2、左側縁は2／3程度）急斜度の調整剥離を施す。

5～7はやや型のくずれた台地石器である。4はDトレンチⅦ層出土。流紋岩製か。6はⅠトレンチⅦ層出土。これも石材は流紋岩と見られる。裏面に素材の剥片の打瘤が残る。4はⅠトレンチⅦ層出土。

8は頁岩製の三稜尖頭器。KトレンチⅦ層出土。断面三角形が台形を呈する肉厚の素材剥片に調整剥離を施している。

9は頁岩製の細石刃である。DトレンチⅦ層出土。10は砂岩の円礫の一側縁に（あまり明瞭ではないが）剥離面が見られる。畦原型細石核の一例であろうか。これもDトレンチⅦ層より出土。

11・12はいずれも剥片である。11はＩトレンチ出土の頁岩製、12はＤトレンチ出土のホルンフェルス製の剥片のものである。

第３節　まとめ

本遺跡の調査では、当初の予測とは異なり、旧石器時代の文化層を確認するという成果を上げることができた。ただし、画的な調査にはもっていけなかったことから、おそらくブロックと考えられるＤトレンチからＩトレンチにかけての遺物集中範囲の全容を捉えることはできなかった。

出土遺物を見わたすと、ある程度の時期差が存在するものと推測される。大きくは、小形のナイフ型石器、台形石器、三稜尖頭器の一群と、細石刃、磯石刃核の一群とまとめることができようが、後者については点数も少なく、また、そもそも確実に定型的な石器であるのかどうかという点についても疑問が残る。出土石器の大部分は、前者の一群に属すると見られ、これはAT上位の石器組成と位置づけることができよう。

最後に、この報告をまとめるにあたっては、重山郁子、日高広人の両氏の多大な協力があったことを記しておきたい。また、該期の遺物に関する理解に乏しいことから、十分な報告とはなっていないことをお詫びしたい。

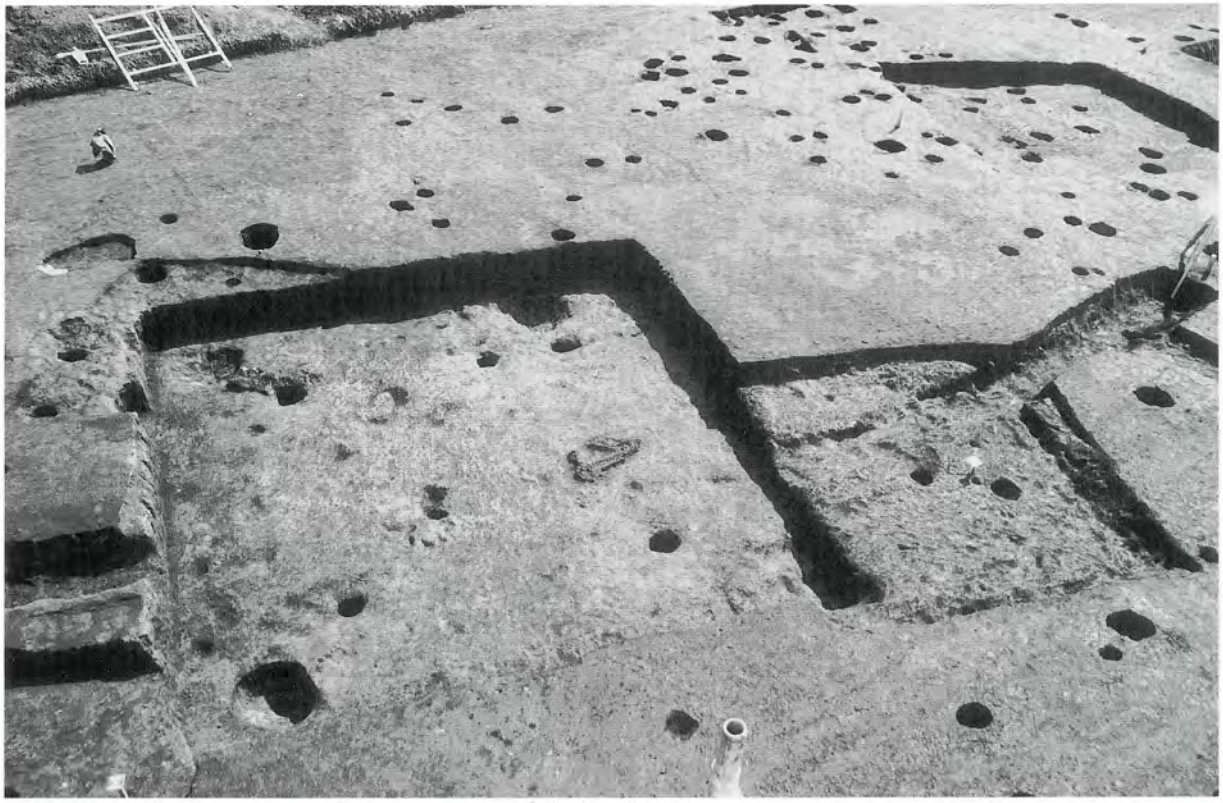
（参考文献）

茂山　護・大野寅夫　1977「児湯郡下の旧石器」『宮崎考古』３　宮崎考古学会

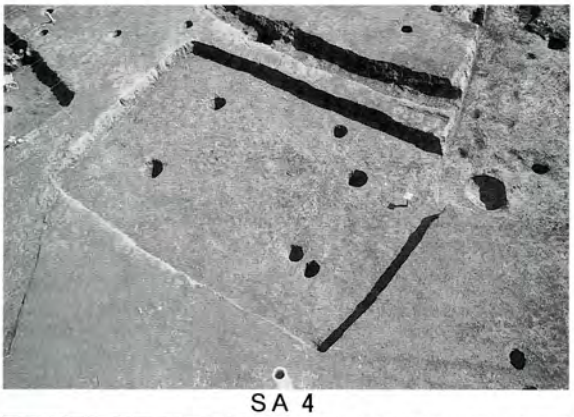
F 地区（北より）

SA 16・18周辺

SA14から南をのぞむ



SA 4～6・23

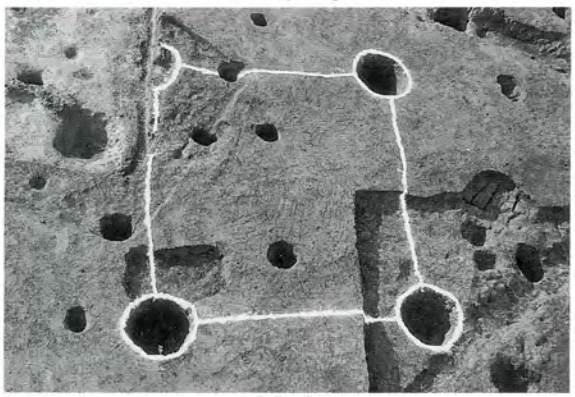


SA 4

SA 12・13

SA 4・5

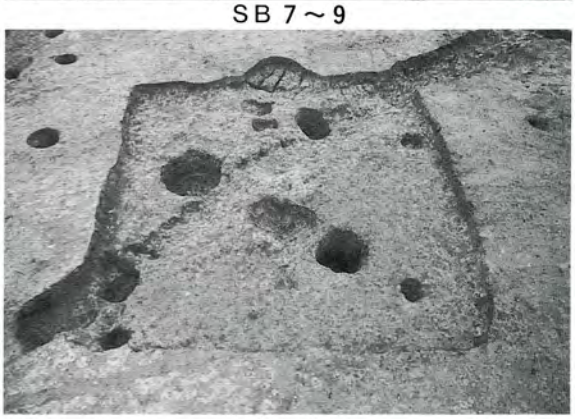
SA 12・13周辺



SB 3

SB 7～9

SA 2カマド土層断面



SA 2

SA 9 遺物出土状況

SA 10遺物出土状況

SA 17遺物出土状況

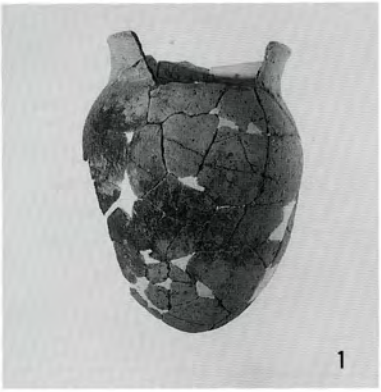
土坑遺物出土状況

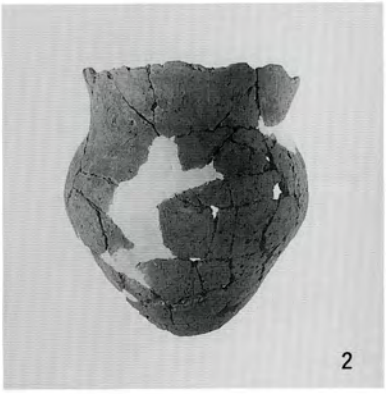
SA 4 埋甕

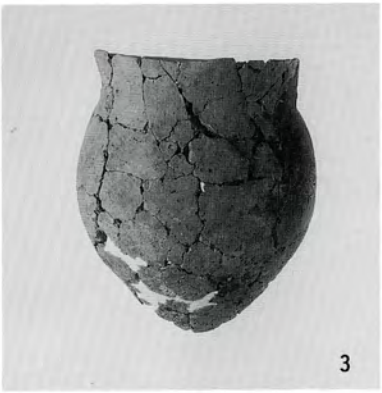
SA 13 埋甕

SA 15 埋甕

SA 18 埋甕


1


2

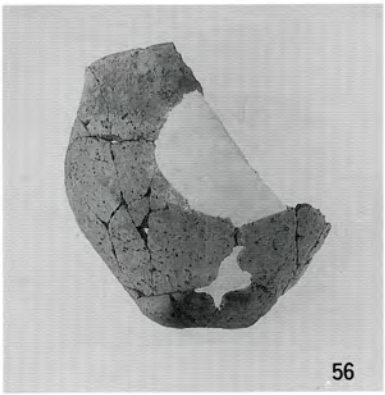

3

7

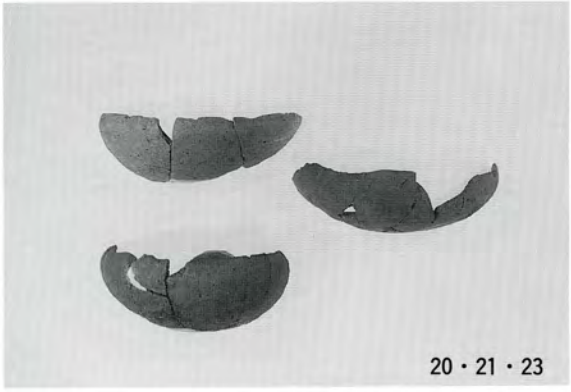
18

16・25・26・27・35

55

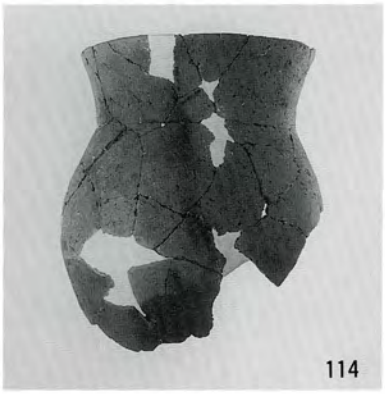

56

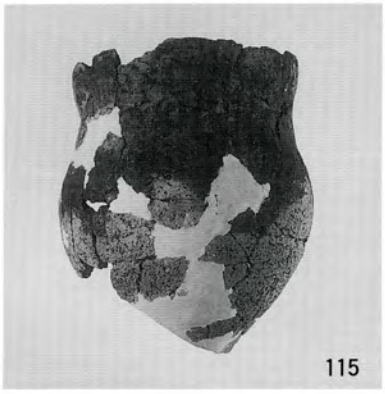
68


20・21・23

65

図版6


114


115

122

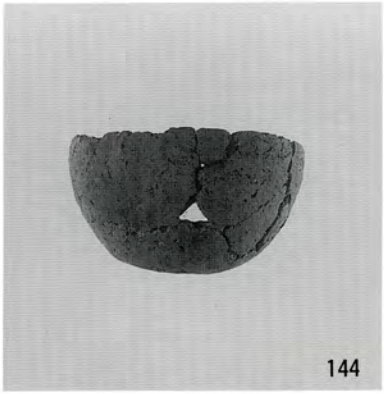
125

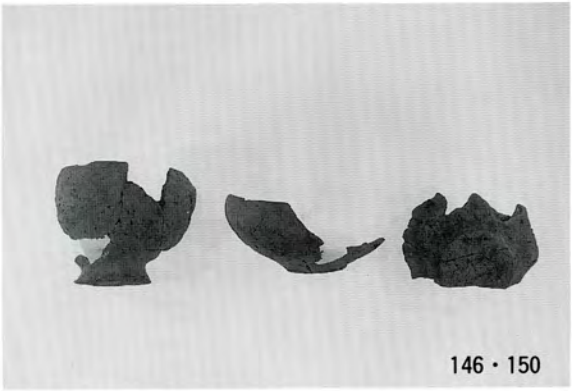
130

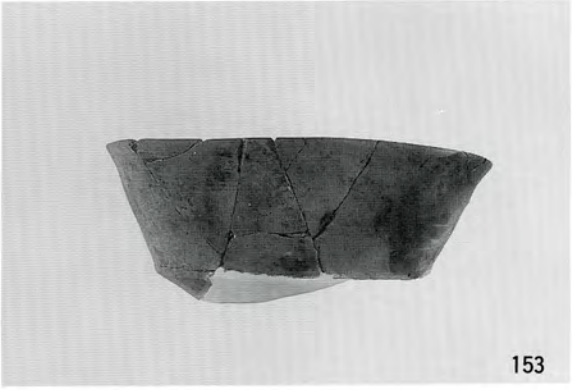
130（内面）

131

137


144

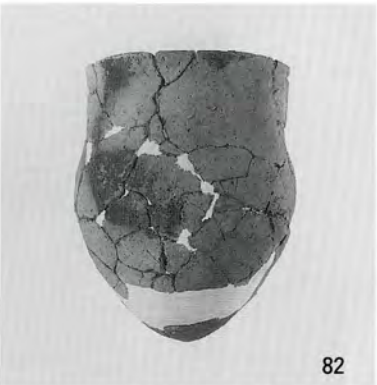

146・150


153

69

75

76


82

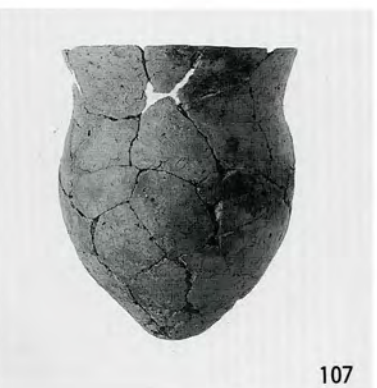
83

84

85

92

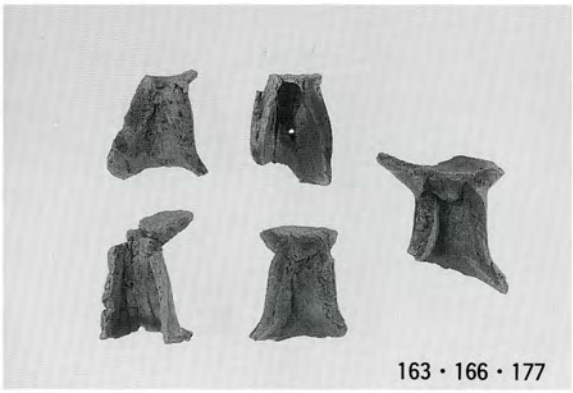
106


107

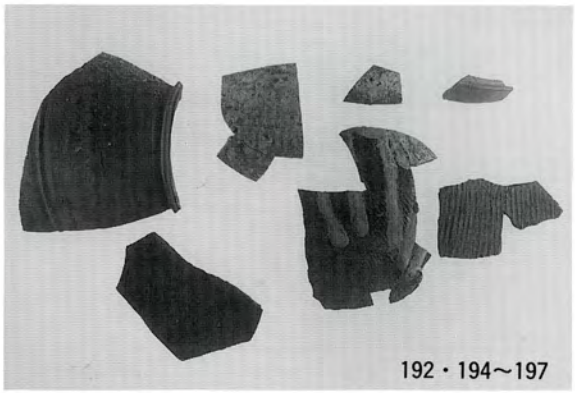
172・183

図版8

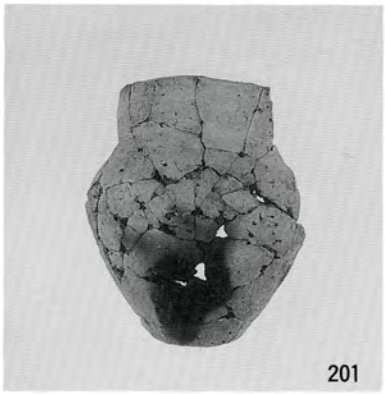
78・79

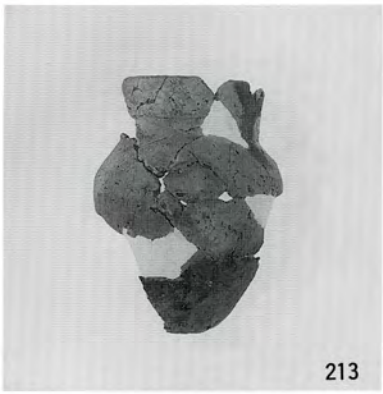

163・166・177

168・169・170・175


192・194～197

172


201

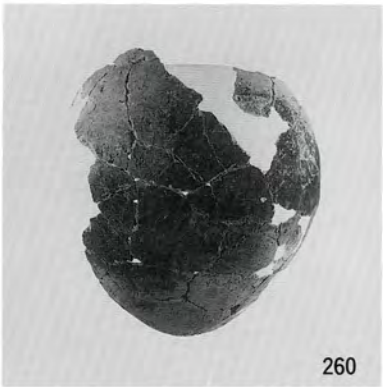

213

214

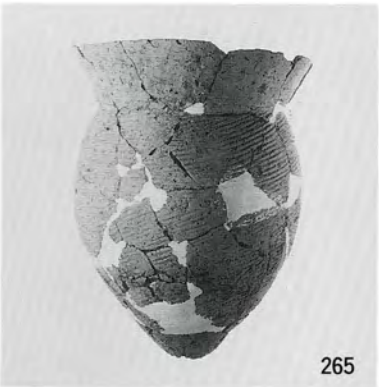
215

219

257


260

261


265

268

272

273

274

276

243・244

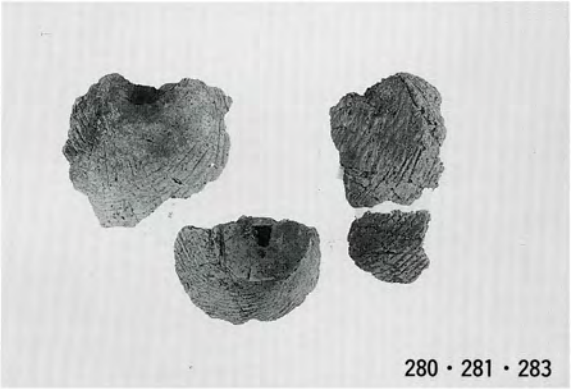
245・246

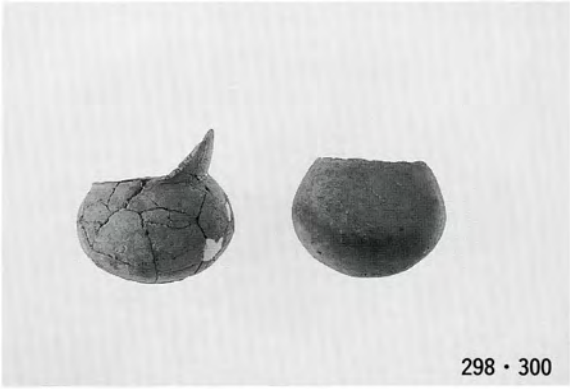
図版10

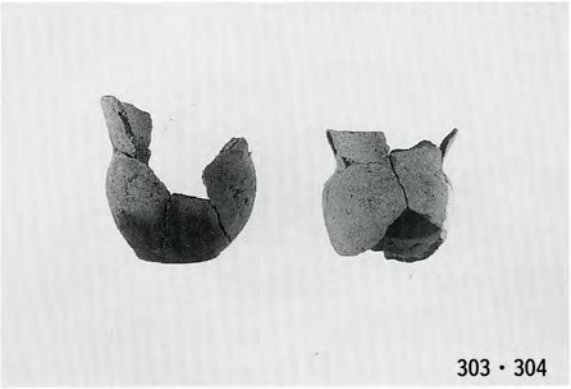
285

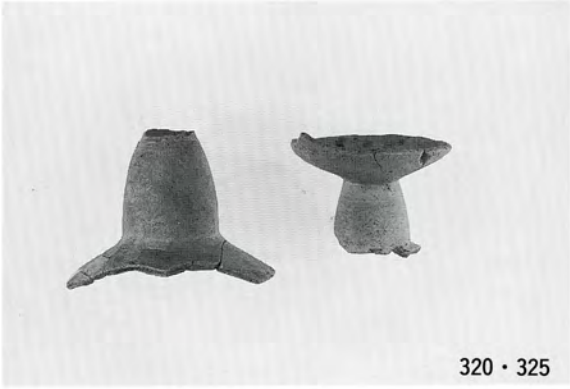
289

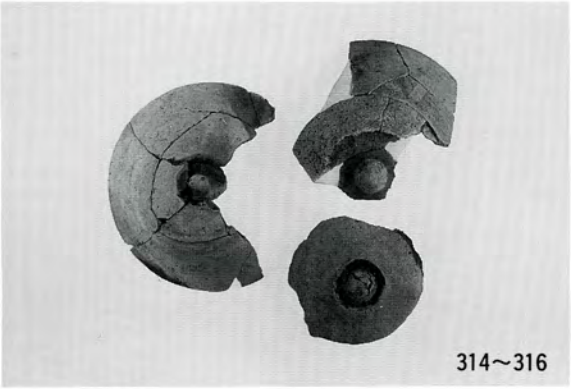
307・308・310


280・281・283


298・300


303・304


320・325


314～316

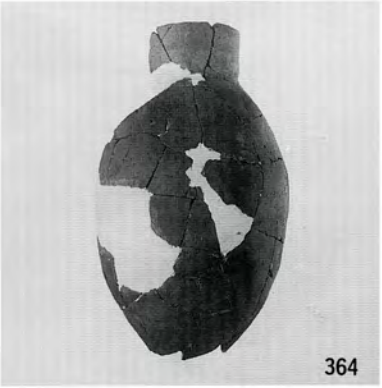
385～388

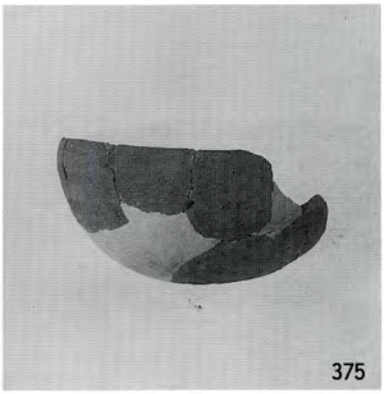
314（坏部）

348

363

315（脚部）


364


375

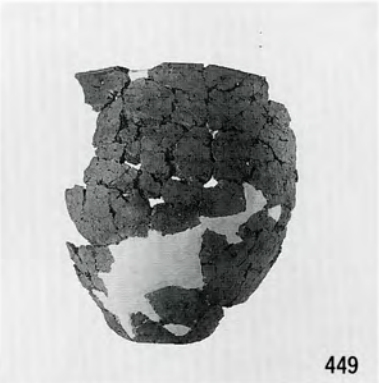
408

404

405

408（下部）

432


449

452

569

469（内面）

457

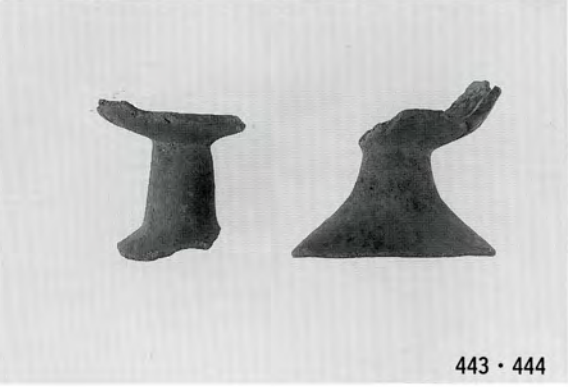
481

486

493

502

532


443・444

514・516・525

538

539

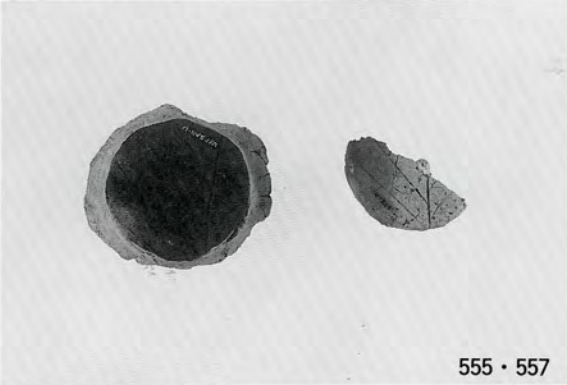
540

544

558

571

578


555・557

584

585

563

564

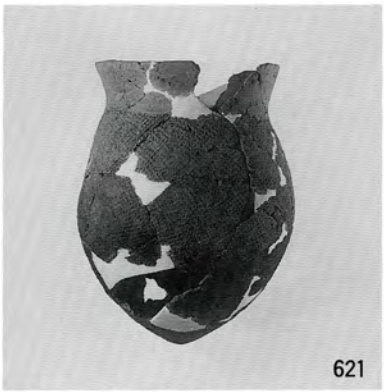
図版14

579

599

600

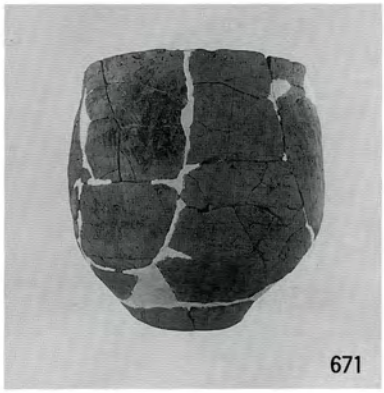
620


621

623

668

669


671

636

641

672

704

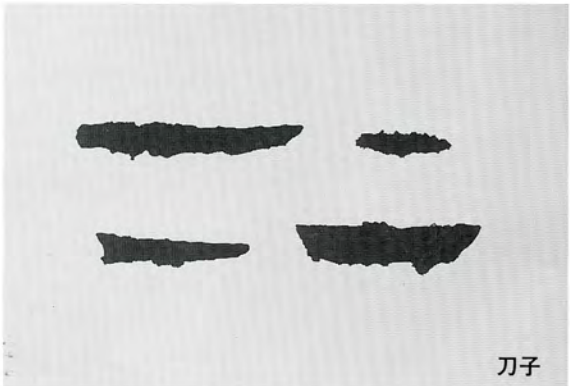
705

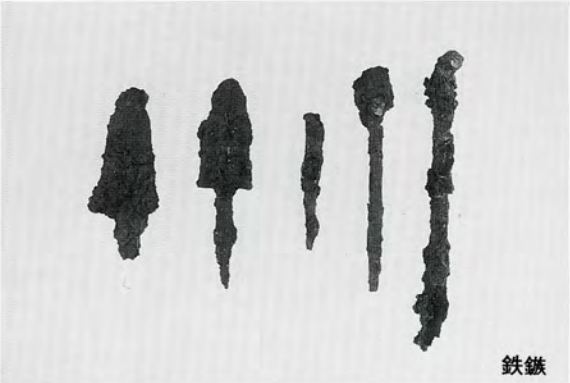
709

724

石器（1）

石器（2）


刀子


鉄鏃

図版16　溜水第2遺跡

溜水第2遺跡全景

作　業　状　況

礫　群

出土石器

新富町文化財調査報告書　第18集

県営農村基盤総合整備パイロット事業（尾鈴Ⅱ期地区
北原牧・溜水工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

北原牧地区遺跡
上　薗　遺　跡　F　地　区

溜水地区遺跡
溜　水　第　2　遺　跡

発行年月日　1　9　9　5　年　3　月
発　　行　宮崎県新富町教育委員会
印　　刷　㈲印刷センタークロダ